

あの頃欲しかった

G-MOOK 200

前田尋之・監修

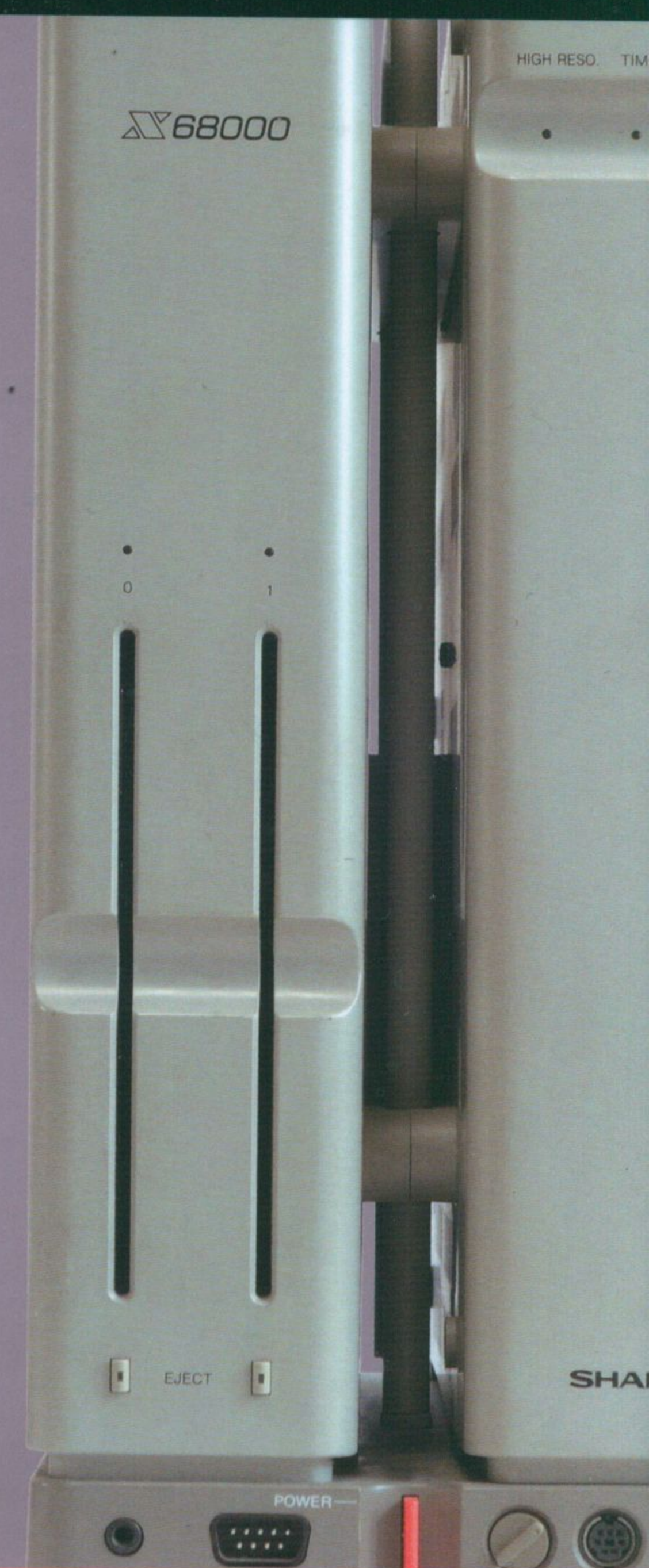
Supervised by Hiroyuki Maeda

ホビーパソコン カタログ

HOBBY
PERSONAL COMPUTER
CATALOGUE

あの頃欲しかった
ホビーパソコンカタログ

HOBBY PERSONAL COMPUTER
CATALOGUE



前田尋之・監修
ジーウォーク

NEC、シャープ、富士通、日立といった古参パソコン御三家+1はもちろん、
家電メーカー系、玩具系メーカー系も含めたホビーパソコン大集合!!

雑誌を眺めて憧れた少年時代の思い出が蘇る

懐かしのホビーパソコンを 目一杯詰め込んだ大カタログ!

巻末に各機種のパフォーマンスが比較できる、スペック一覧表付き



あの頃欲しかった

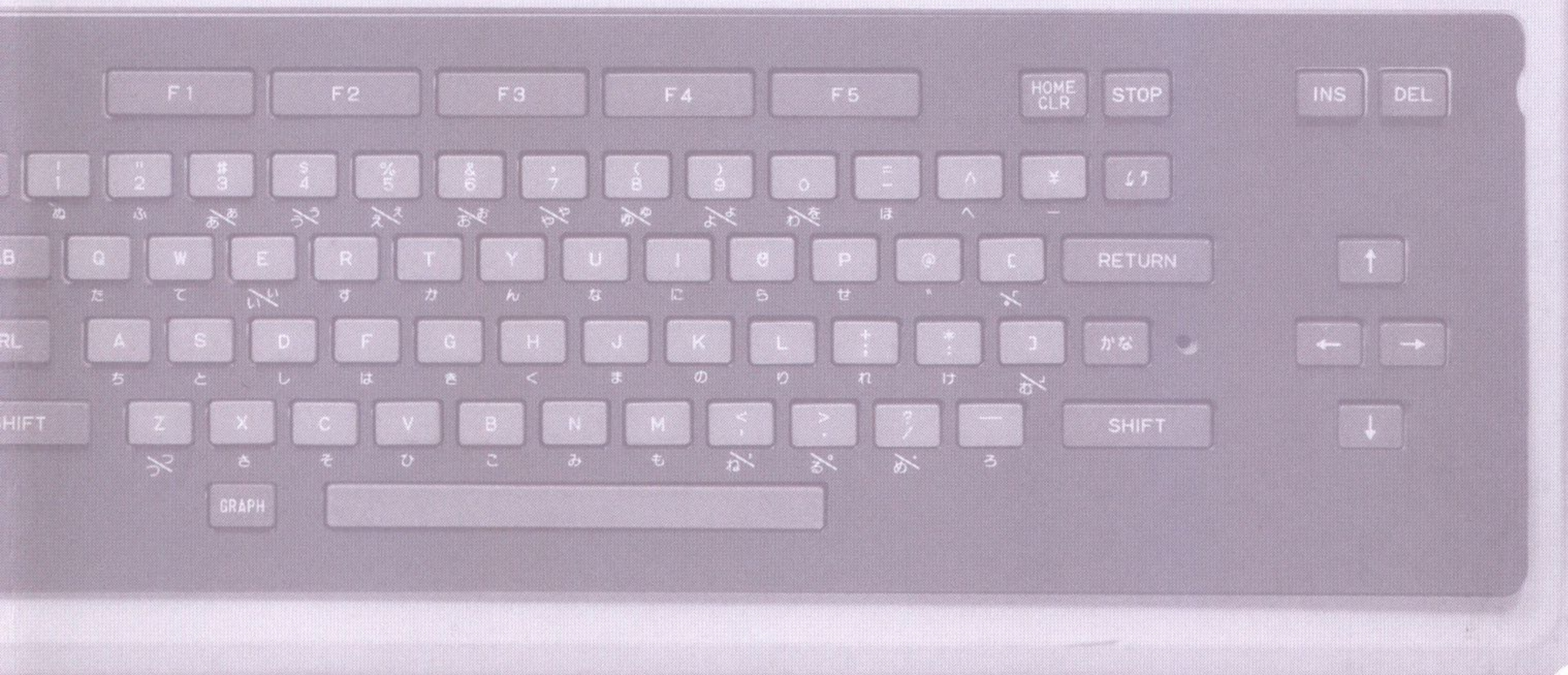
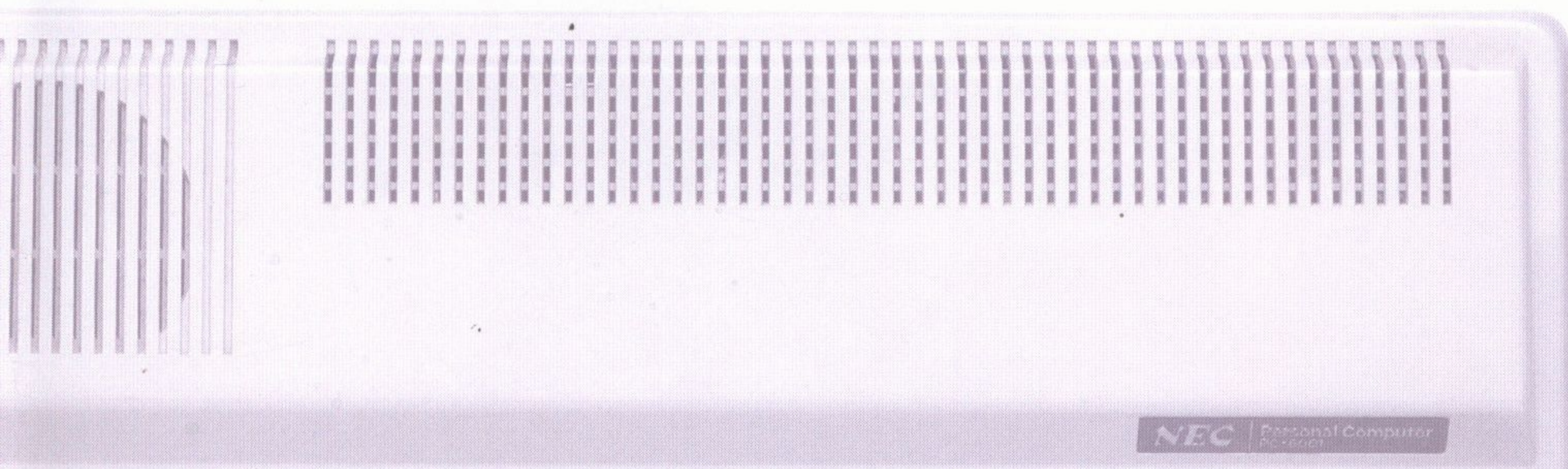
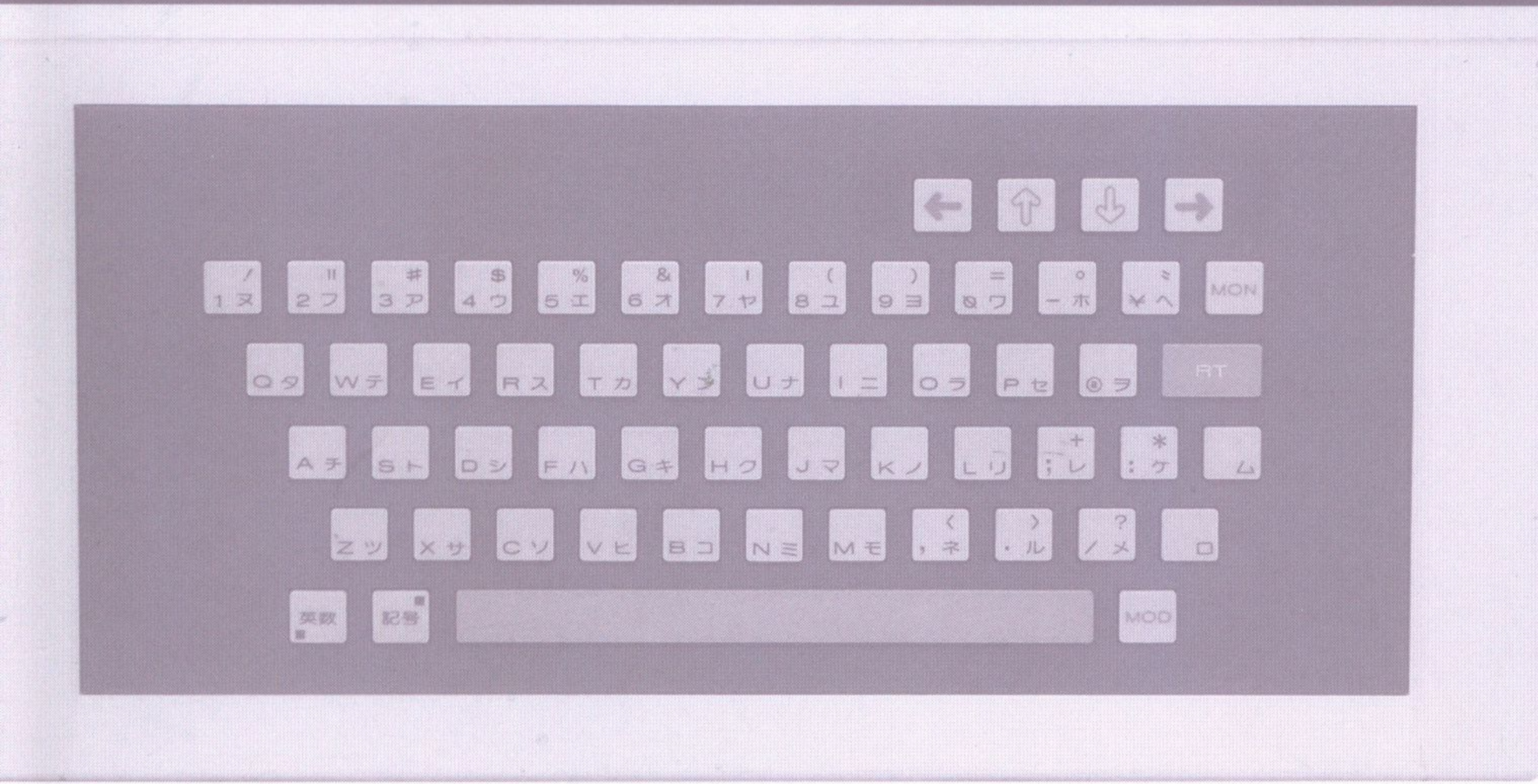
G-MOOK 200

前田尋之・監修

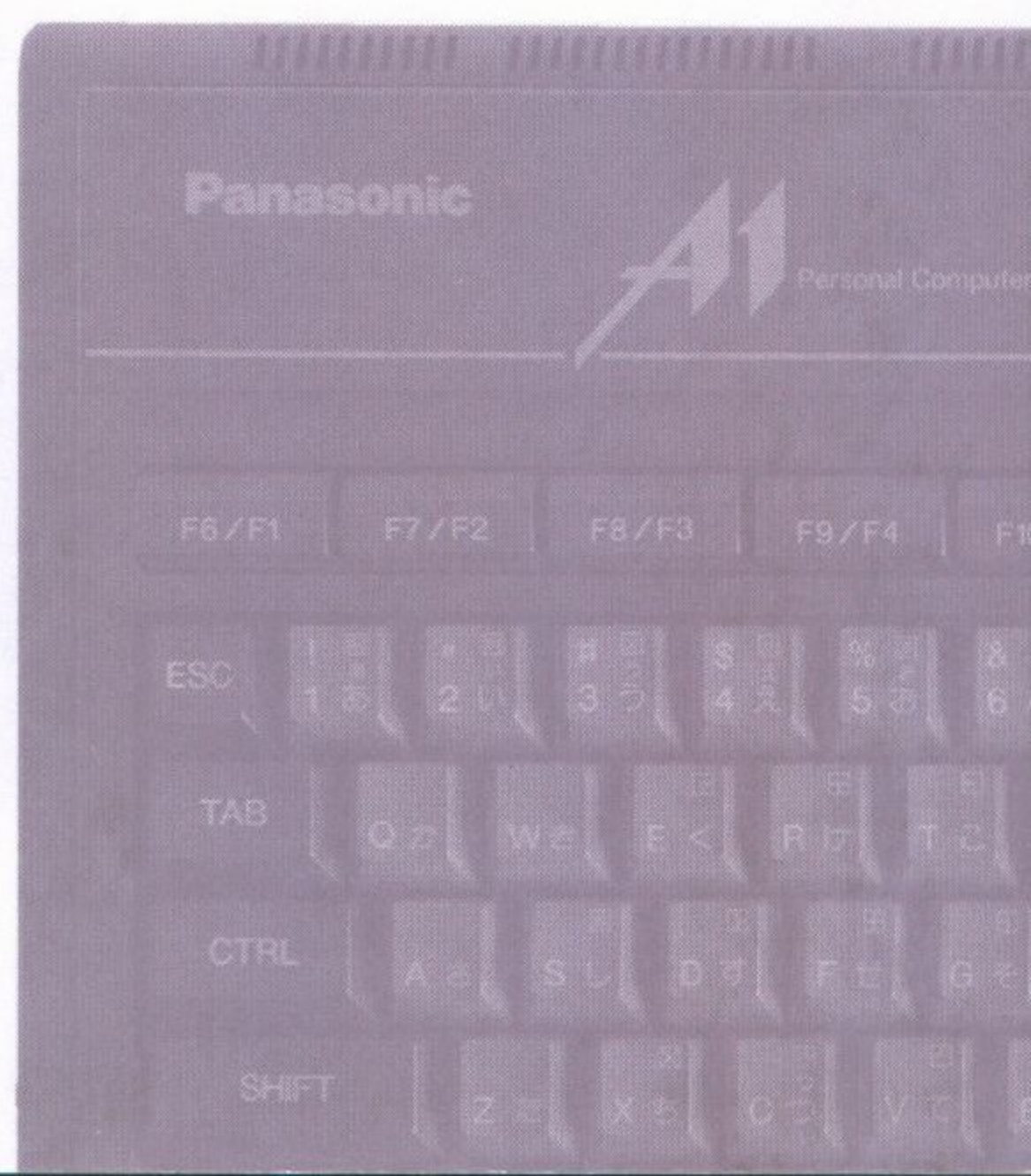
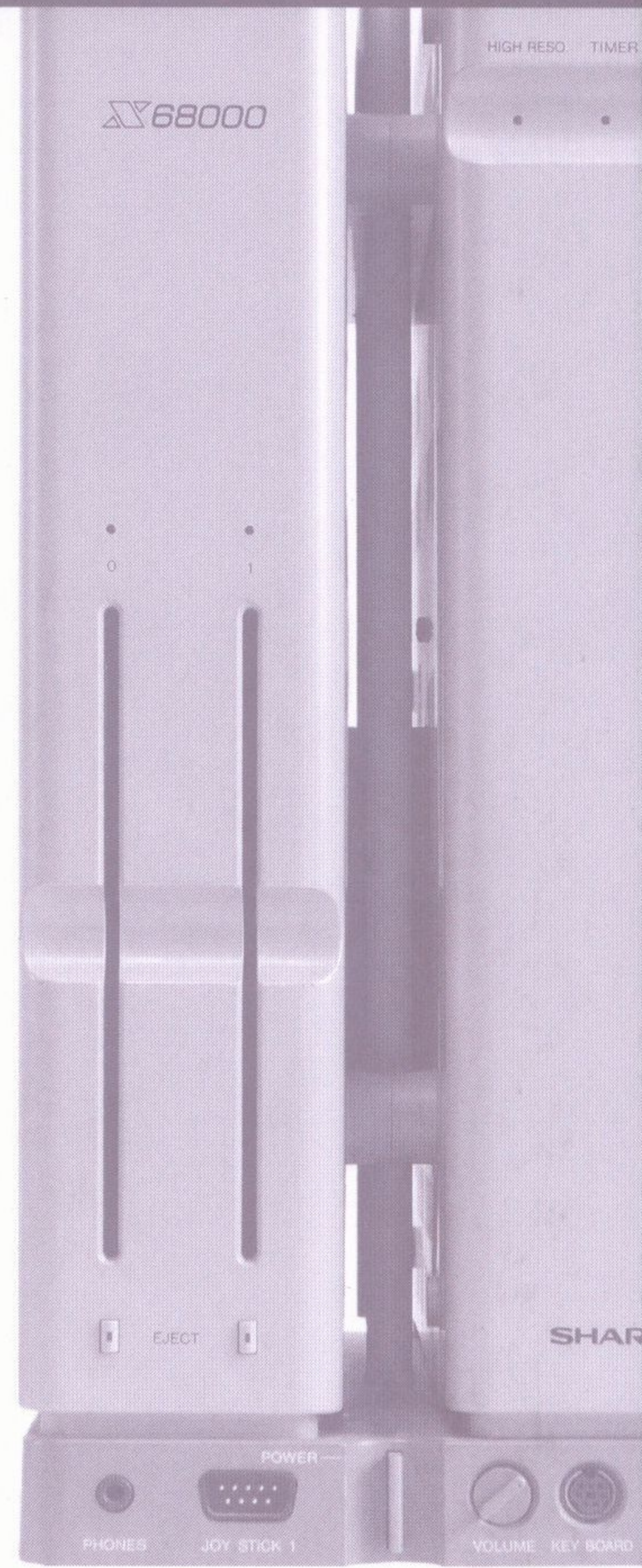
Supervised by Hiroyuki Maeda

ホビーパソコン カタログ

HOBBY
PERSONAL COMPUTER
CATALOGUE



PERSONAL COMPUTER FP-1100 CASIO



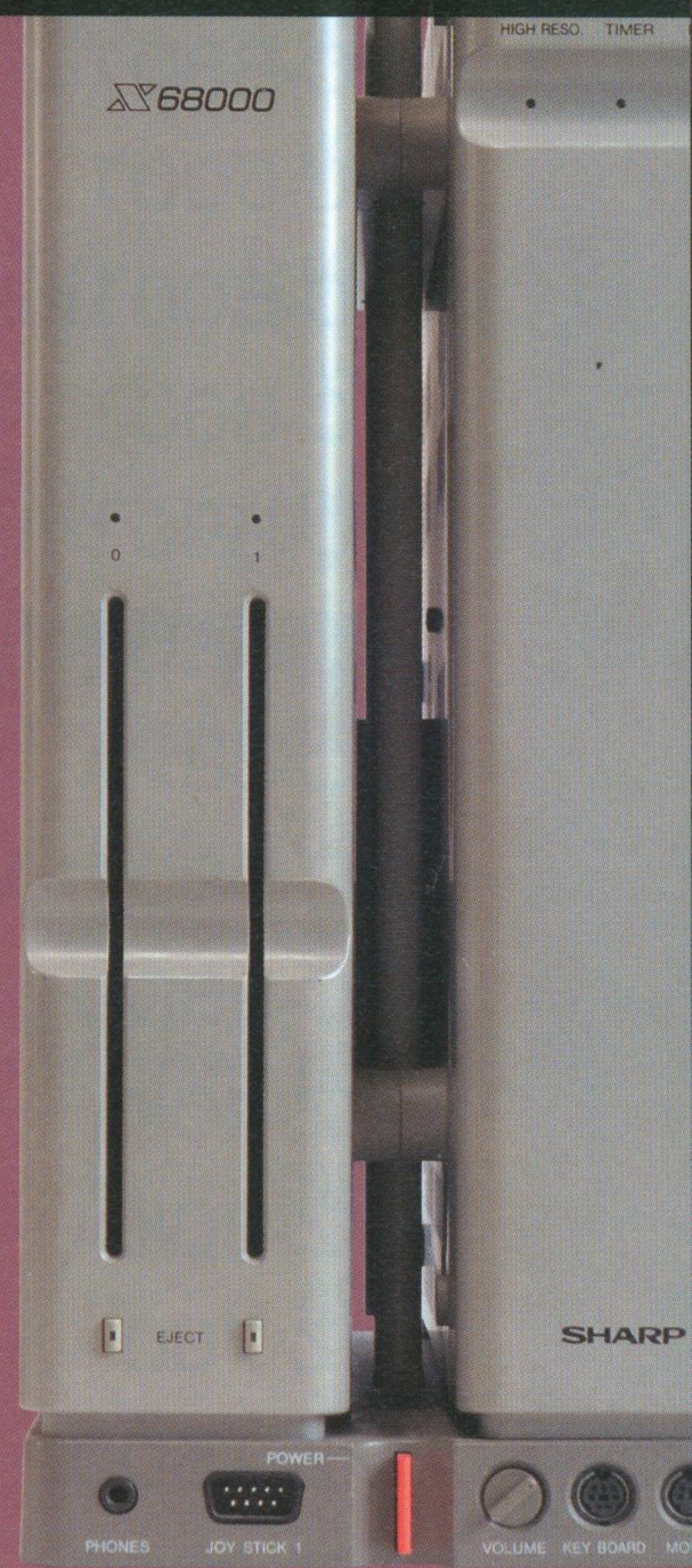
あの頃欲しかった

G-MOOK 200

前田尋之・監修
Supervised by Hiroyuki Maeda

ホビーパソコン カタログ

HOBBY
PERSONAL COMPUTER
CATALOGUE



PERSONAL COMPUTER FP-1100 CASIO

あの頃欲しかった

ホビーパソコンカタログ

もくじ

第1章：パソコン御三家+1編

TK-80	006
PC-8001	008
PC-8801	010
PC-6001	012
PC-6001mkII	014
PC-6601	016
PC-8801mkII	018
PC-8801mkIISR	020
PC-88VA	024
PC-9801VM	026
PC-98DO+	030
MZ-40K	032
MZ-80K	034
MZ-700	036
MZ-1500	038
MZ-2000	040
スーパーMZ	042
X1	044
X1turbo	048
X1turboZ	050

X68000	052
X68030	056
FM-8	058
FM-7	060
FM-77	062
FM77AV	064
FM TOWNS	068
ベーシックマスター	072
ベーシックマスターJr.	074
ベーシックマスターレベル3	076
S1	078
解説：御三家メーカーはどのような経緯でパソコンを作るようになったのか	080

第2章：家電メーカー系ホビーパソコン編

JR-100	082
JR-200	084
PHC-25	086
PASOPIA	088
PASOPIA7	091
MULTI8	094
FP-1000	096
SMC-70	098
SMC-777	101
解説：家電メーカーが揃ってパソコンを作るようになった理由	104

第3章：玩具メーカー系ホビーパソコン編

ぴゅう太	106
M5	109
RX-78	112
PV-2000	114
ファミリーベーシック	116
SC-3000	120
テラドライブ	123
解説：玩具メーカーが目指したパソコンという製品	126

第4章：統一連合結成、MSX編

MSX	128
MSX2	132
MSX2+	136
MSXturboR	138
解説：MSX14社連合による空前のリターンマッチの結末は？	140

付録：ホビーパソコンスペック比較表

ホビーパソコンスペック比較表	142
----------------	-----

- 本書中で取り扱っているゲーム機、ソフト、その他各商品は、TM及び ©、® 表記を省略しておりますが、各種権利は該当各社に帰属しており、各社の商標または登録商標です。
- 本書中で取り扱っているゲーム機、ソフト、その他各商品は、一部を除き現在では販売終了しております。問い合わせ先を掲載している商品を除き、本書の情報を元に各社へのお問い合わせはご遠慮ください。
- 画像写真は著者が撮影したものを除き、当時のカタログ、ウィキメディア・コモンズの画像を使用させていただきました。
http://commons.wikimedia.org/wiki/Main_Page
- 社名および商品名は発売当時のものです。また一部、社名および商品名で正確な表記ではないものがありますが、可読性に配慮したためであり、誤読・誤解の誘発を目的としたものではありません。
- 社名表記には「株式会社」等の表記を省略しております。また、個人名の敬称を省略しております。
- 価格表示は原則として消費税抜きの表記となっておりますが、一部商品で当時の表記に倣って税込み表記になっている場合があります。

第1章

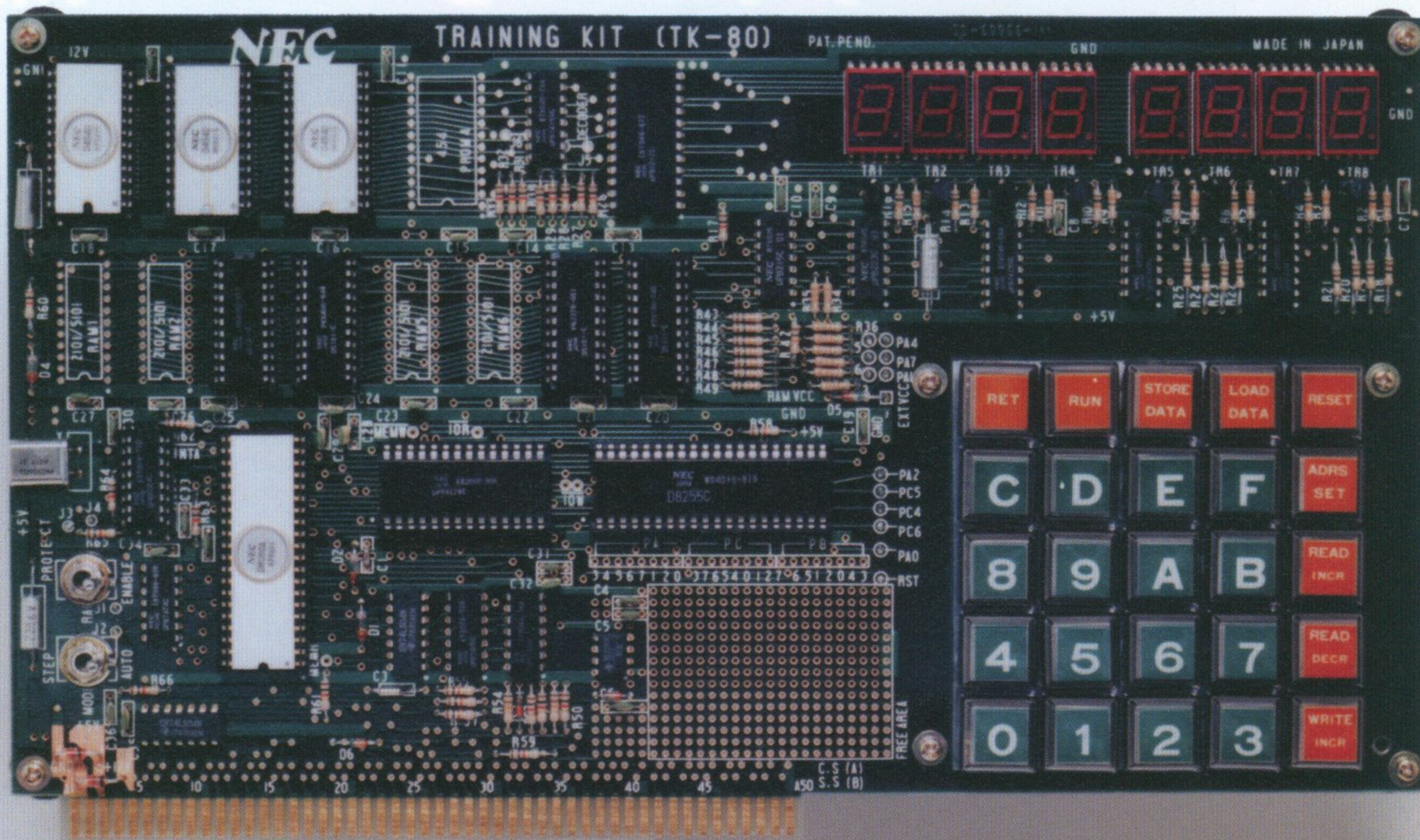
パソコン御三家+1編

HOBBY PERSONAL COMPUTER CATALOGUE CHAPTER 1

プログラムの楽しさを実感できたワンボードマイコン

TK-80

日本電気 1976年8月3日発売 本体価格 88,500 円



本来の用途は トレーニングキット

TK-80はNEC(日本電気)が発売したワンボードマイコンである。基板1枚がむき出しになっており、キーボードも表示装置(LED)も基板に直接付いていた。

本来はマイクロプロセッサ(CPU)というものを説明するために動作原理を実

際に検証できる開発用トレーニングキット(TKの名はこれに由来する)であり、あくまでプロセッサを売るための補助機器という位置づけだった。しかし、高価な端末装置がなくても本機だけでプログラムから結果の表示まで可能だったため、口コミで評判を聞きつけたコンピューターマニアが自己所有できるコンピューターとして遊ぶことを目的に買いに走った。そ

のため、2千台の販売目標を大きく上回り、6万台以上を売り上げるベストセラーとなったのである。

以後、この成功を目の当たりにした他のプロセッサメーカーも同様のトレーニングキットを次々に発売、プチブームへと繋がっていった。

TK-80仕様

CPU	μPD8080A(Intel8080A互換)
ROM	768バイト(最大1Kバイト)
RAM	512バイト(最大1Kバイト)
グラフィック機能	テキスト表示:7セグメントLED 8桁
サウンド出力	なし
インターフェース	シリアル入出力、パラレル入出力



▲TK-80の表示は右上の7セグLEDで行う。

日本パソコン史に残る偉大なるマイルストーン

PC-8001

日本電気 1979年9月28日発売 本体価格 168,000円



高性能路線の 8ビットパソコン

後に日本パソコン史に残る巨大勢力に成長するNECの完成品パソコン第1号。シリーズ出荷台数は25万台に上る、初期の国産ホビーパソコンの代表機である。

国産機としては初めてマイクロソフト

社の基準に準拠したキーボードを採用、基本ソフトウェアに同じくマイクロソフト社のN-BASICを搭載している。さらに独自のコマンドを加えグラフィック命令も強化されており、画面のスクロール範囲の指定や文字の白黒反転、点滅などの命令も多岐に渡って用意されている。

当時存在した他社製品に比べカラー表示とグラフィック画面が用意されてい

ることは大きなアドバンテージであり、さまざまなゲームが開発された。また、これらのタイトルの中には『信長の野望』など、現代も系統が続く名作タイトルも数多く残っており、そうした意味でもパソコンの歴史において大きな影響を与えた機種といっても過言ではない。

PC-8001仕様

CPU	μPD780C-1 (Z80A互換) 4MHz
ROM	24Kバイト(最大32Kバイト)
RAM	16Kバイト(最大32Kバイト)
グラフィック機能	テキスト表示:最大80文字×25行 グラフィック表示:160×100ドット8色表示 グラフィック機能:リバーズ、ブリンク、シークレット
サウンド出力	ピープ音による単音
インターフェース	デジタルRGB、カセットテープ、プリンター



▲PC-8001のパッケージ。



■本体背面



■キーボード

さらに、この頃は『アスキー』『I/O』『P IO』といったパソコン雑誌に投稿された作品が市販化されるケースが多く、雑誌のみならずソフトハウスやパソコンショップでも盛んにプログラムコンテストを

開催、こちらも入賞作品が市販化されている。これらの作品から多数の有名プログラマーが生まれており、そういった土壌を生み出した第1世代のハードこそPC-8001だったのである。

PC-8001 MODEL VARIATION



PC-8001 mkII

1983年3月発売 123,000円

RS-232Cなど各種インターフェースを追加、漢字も使えるようになった。



PC-8001 mkII SR

1985年1月発売 108,000円

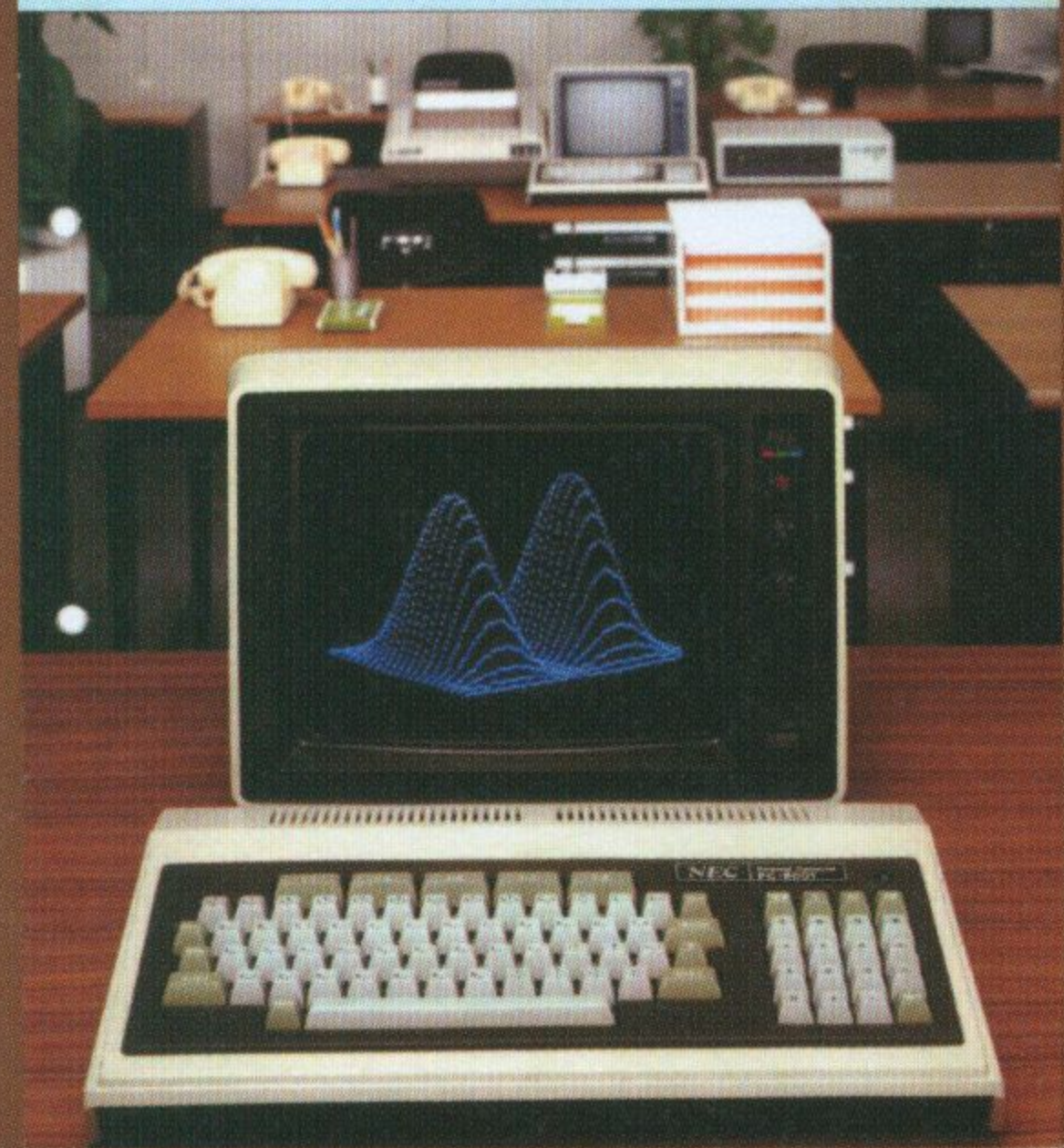
グラフィック画面を2枚、FM音源を搭載などAV面の機能拡張を行った後継機。

CATALOGUE

パーソナルコンピュータ PC-8000 シリーズ

NEC

高性能・低価格化を実現



身近かになったコンピュータ。

あなたのビジョンをひろげる小さな大物。PC-8000シリーズは頼れるプレーンとして新しい可能性を秘めたパーソナルコンピュータです。



PC-8001 価格 168,000円

コンピュータは専門家だけのものという時代はもう終りです。これからは、それぞれが自由に活用する時代。PC-8000シリーズは誰でも気軽に使えるよう、NECの先進の技術から生まれたあなたのコンピュータです。オフィスで、商店で、家庭で、幅広くご利用いただけます。

PC-8001の7つのポイント

- 1.各種インターフェースを内蔵。必要に応じて容易にシステムを拡張することができます。
- 2.本体にカラービデオ・インタフェース、印刷ビデオ・インタフェース、モデム・インターフェイス、ビデオ・プリンター・インタフェースを内蔵。その他、デュアル・ミニディスクユニットや拡張ユニットを接続するための外部バスが用意されています。用途に応じたシステム拡張が可能です。
3. MICROSOFT社のBASICに強力な画面コントロールなど独自のコマンドを追加した高性能DISK BASIC (N-BASIC) を搭載。
4. PC-8001は MICROSOFT社の標準DISK BASICに、独自のコマンドを追加したN-BASICを採用しています。その結果、機能面を大幅に向上させたモジュール化されたROMが搭載されており、メモリなどのコマンドが変更可能で、N-BASIC、NECパーソナルコンピュータ PC-8000 BASICが搭載されています。
5. プログラムウェア・ファンクション・キーボードは標準JISキー、16キー及びファンクションキー（一部）で構成されています。ファンクションキーは5個ありますが、SHIFTキーを使用することによって10種類のファンクション・キーとして使用することができます。そのため、プログラム作成時の効率アップはもちろん、デュアル・ミニディスクユニットからプログラムをロードして実行させるときには、ファンクション・キーを押すだけでプログラムをディスクからロードして実行させることもできます。その後、画面更新などでよく使う画面をあらかじめセットしておくなど幅広い応用が可能です。
6. カラー用ビデオ・インタフェースを内蔵しているため、8色のカラー表示を行うことができます。8色のカラー表示により、複雑なデータでもわかりやすく表示することができます。また、グリーン・モニタが採用されているため、長時間の使用でも目にやさしいです。また、AUTO（自動）調整機能により、画面の歪みや色合いを自動的に調整することができます。
7. 強力なプログラム編集機能をもっているため、プログラムの作成や修正の時間を短縮できます。
8. スタート・アッププログラムを実行している状態で画面の上のプログラムリストを見ながらカーソル制御キー（↑、↓）、INS（インサート）キー、DEL（デリート）キー及びコントロールキーなどによってプログラムの追加・削除が可能です。従来のエディターに比べてカーソルを画面全体で動かすこともできます。また、AUTO（自動）調整機能により、画面の歪みや色合いを自動的に調整することができます。
9. PC-8001は標準として使用する2000ドット×1000ドットの高分解能ディスプレイを採用しています。また、AUTO（自動）調整機能により、画面の歪みや色合いを自動的に調整することができます。

グラフィック能力の高さがホビーパソコンへの道を拓いた名機

PC-8801

日本電気 1981年11月発売 本体価格 228,000 円



高性能路線の 8ビットパソコン

PC-8801はPC-8001を進化させる形でビジネス使用にも耐えうる性能を与えられた派生モデルである。開発中はPC-8001同様キーボード一体型であったが、ビジネス機では本体とキーボードセパレート型が一般的だったため急遽設計変更、そのため他のセパレート型機種と比べ

キーボードに厚みがあるのが特徴である。

ビジネス用途に向けて重視しているのは漢字表示であり、これを実現するために最大 640×400ドットの高解像度表示と高速な画像処理能力を開発のポイントに据えていた。また、オプションながらも漢字ROMが用意されていたために、日本語ワープロソフトが複数発売され、本機存在はPC-9801に先んじてパソコンソフトに「ワープロ」というジャンルを確立する一因となっている。

その一方で、これらの能力アップはPC-8001のグラフィック面で不満を感じていたユーザーに歓迎され、価格設定が高額だったにもかかわらずゲームプログラマーたちがこぞって買いに走る結果となった。そのため、PC-8001以上に高度なグラ

PC-8801仕様

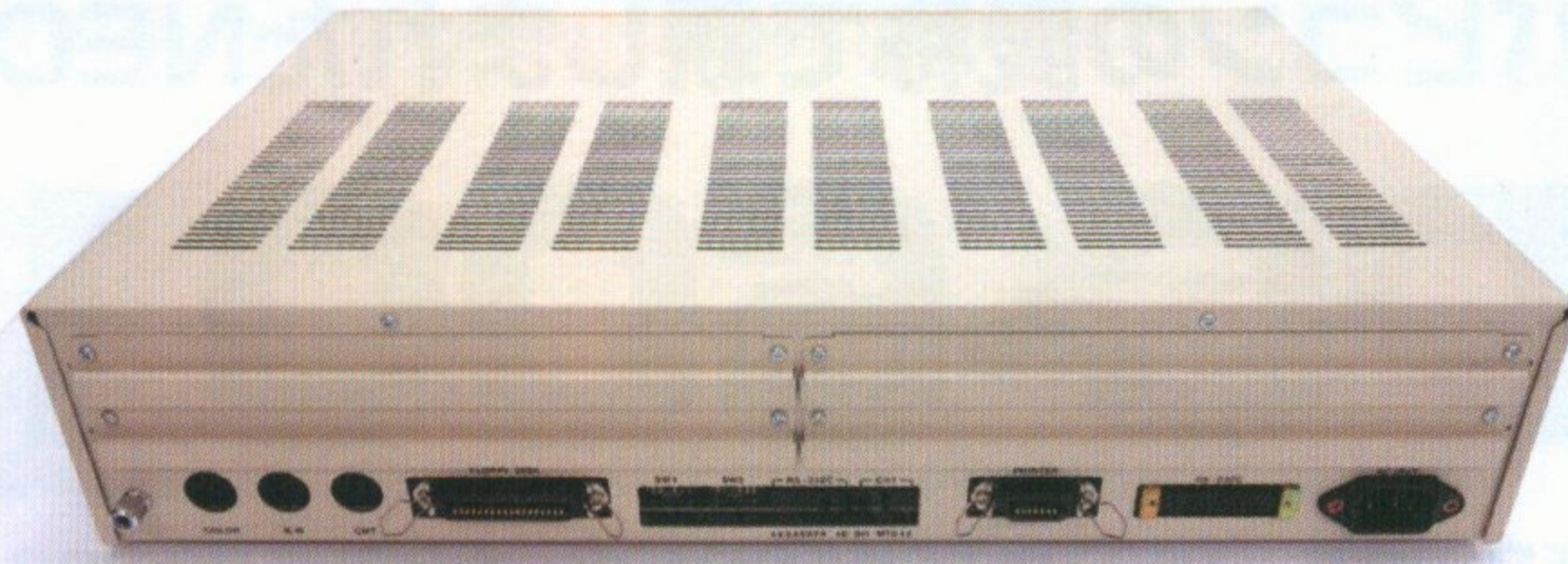
CPU	μPD780C-1(Z80A互換)4MHz
ROM	N-BASICおよびモニタ 32Kバイト、N88-BASIC 40Kバイト
RAM	64Kバイト、VRAM 48Kバイト
グラフィック機能	テキスト表示:最大80字×25行 グラフィック表示:最大640×400ドット-8色
サウンド出力	ピープ音による単音
インターフェース	デジタルRGB、コンポジットビデオ、カセットテープ、フロッピーディスク、プリンター、キーボード、RS-232C



▲PC-8801のパッケージ。



■本体正面



■本体背面

フィックを活かしたゲームが多数生まれることになり、本来NECが求めていた客層ではないホビーユーザーに受け入れられることになった。

画面表示の遅さに四苦八苦する

前述の通り、PC-8801が持つ高解像度表示やグラフィック能力は、本来グラフや漢字混じりの文章を扱うことを前提にしたもので、描画スピードについてはそもそも重要視されていなかった。メーカー自身も描画速度の遅さを認識しており、テキスト表示を無視してグラフィックに特化した「高速モード」をわざわざ用意したほどである。

この事実は単純にグラフィックの表示能力のみを見て飛びついたホビーユーザーを少なからず落胆させることとなるが、逆にそれがプログラム技術を研鑽する場となり、スピードに依存しない思考ゲームに特



■キーボード

化する者や、真正面から高速化にこだわる者など、様々なプログラムスタイルが生まれる土壌となったのである。

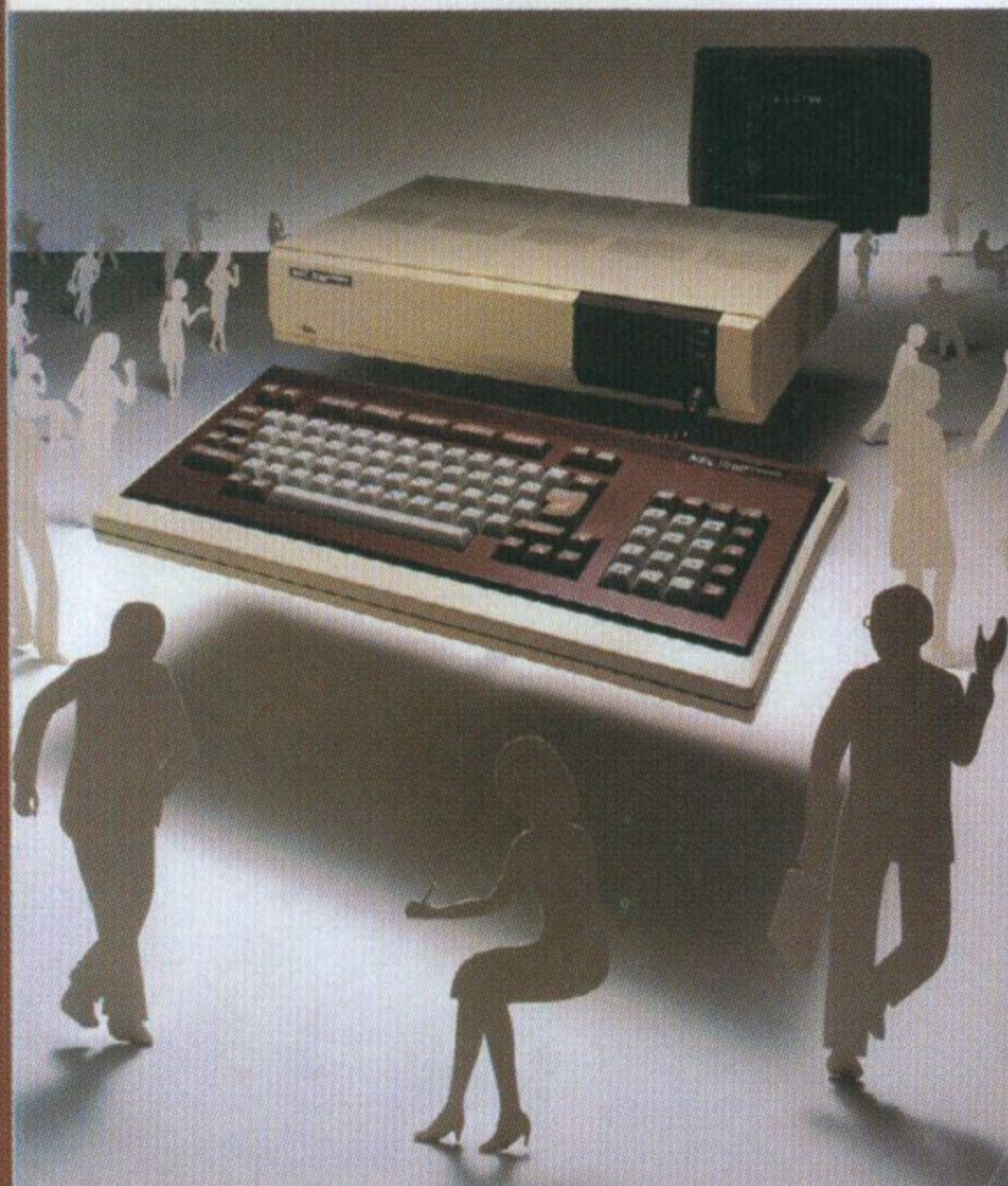
ビジネスユースはPC-9801へ

翌年に16ビットCPUを搭載した本格的

なビジネス用パソコン、PC-9801が発売されたこともあり、PC-8801は販売戦略を転換してホビーパソコン向けにシフトする。この流れはPC-8801mkIIを経てPC-8801mkIIISRで確立され、1980年代8ビットホビーパソコンを制覇する流れに繋がっていった。

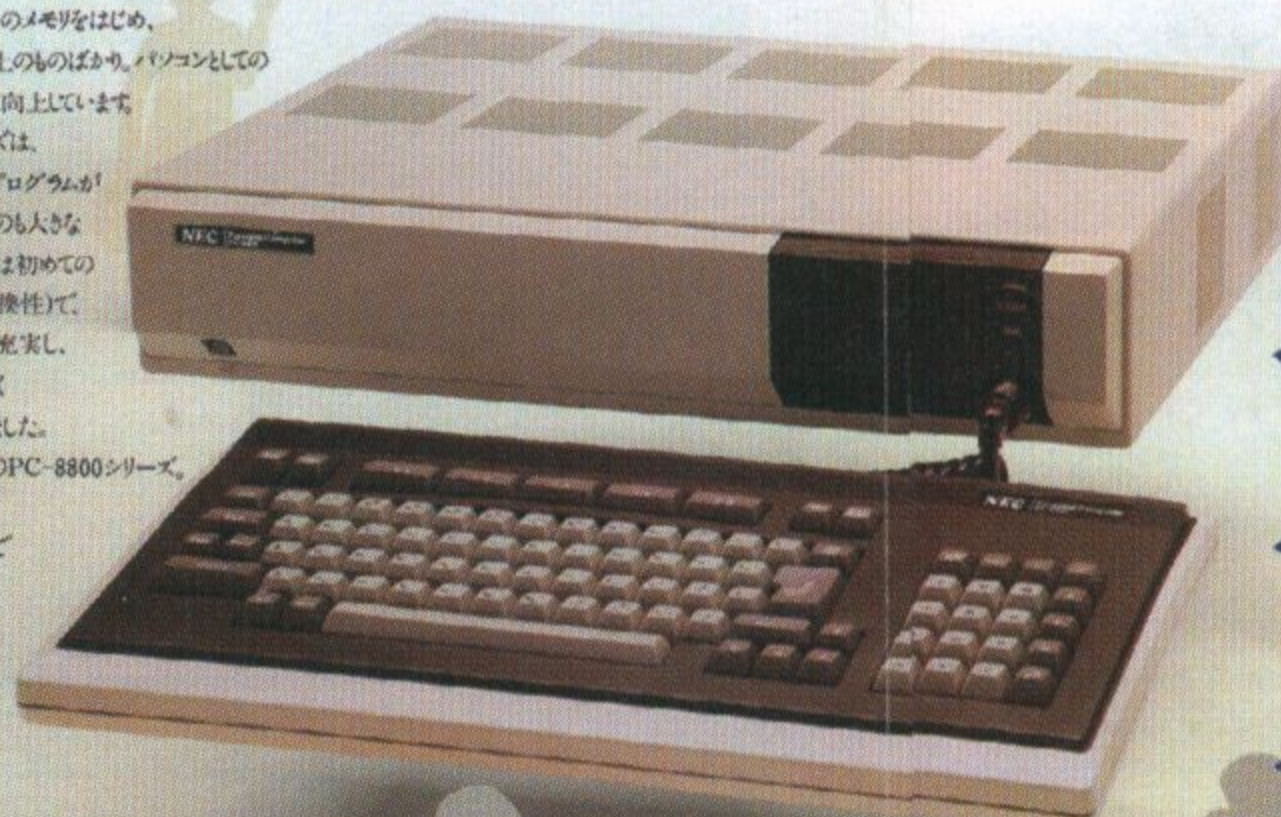
CATALOGUE

NECパーソナルコンピュータ PC-8800シリーズ



より多彩なビジネスに挑むなら、ビッグ・パワーが欲しくなる。

あのベストセラーPC-8800シリーズに加えて、5.25インチグレードアップしたPC-8800シリーズ、いよいよ登場です。世界に誇るNECのC&C技術とLSI技術のすべてがこのシリーズに注ぎ込まれた。標準実装184Kバイトのメモリをはじめ、周辺機器もひとクラス上のものばかり。パソコンとしてのビジネス機能を大幅に向上させています。また、PC-8800シリーズは、PC-8800シリーズのプログラムがそのまま使用できるという大きな特長。パソコンとしては初めてのソフトコンパチブル(互換性)で、NECのパソコンが実用し、社会のニーズに幅広く応じてくれるようになりました。待望のビジネス志向のPC-8800シリーズ、これからはパソコン、目印に合わせた機能で遊ぶ時代です。



- 強力なNo. BASICを搭載。また、PC-8801のソフトウェアもそのまま利用できます。PC-8800シリーズでは、マイクログラムの最大積込容量(BASIC)もBASIC中継、多様なアプリケーションの可搬性をあげました。また、電算の68N-BASICも併用し、搭載PC-8801で開発されたプログラムをそのまま利用することもできます。
- 日本語の文章作成が容易。オフィスでの活躍の場が一段とひろがりました。漢字ROM(オプション)を併用し、漢字16ビットで読み出す日本語で文章が表現できるようになりました。専用CRTディスプレイに印刷用紙2枚分(900文字)を表示できるという充実ぶり。漢字ソフトを接続すれば文章発行も一段と強化され、日本語で書くと日本語で印刷できるという機能は正確でスピーディーな事務処理を実現します。
- PC-8800シリーズの専用周辺機器により、さらに高度な能力を発揮。ビジネスの世界をグッと拡大します。最新の専用8インチフロッピーディスクドライブの搭載が可能になりました。業務現場には高解像度の増大などに、各部も対応しています。また、漢字ソフト、専用印刷用紙のCRTディスプレイ、システム・パワーは、設計グレードアップ。ビジネスの世界で充分に実力を発揮します。
- 標準実装184Kバイトのメモリ。多様な用途に幅広く対応します。PC-8801は、標準実装184Kバイトの大容量を実現しています。ユーザーエリア163Kバイト(No. BASICプログラム、TEXT:32Kバイト、実行プログラム:31Kバイト)、ソフトウェアに活用できるように設計しました。多様な用途・印刷・事務処理が可能です。多様な用途にも対応できる、幅広い分野で活躍します。
- このクラスでは群を抜く最高640×400ピクセルの高解像度。重ね合わせ機能も加わって、業務内容もひと目で。従来のパソコンのディスプレイに比べ、より鮮明で美しい画面表示の多いディスプレイでは、正確で読みやすいことが大きなポイントです。さらに、7セグの桁長は、印刷も重ね合わせ機能。文字の印刷も、ディスプレイの解像度を高くして、印刷も重ね合わせ機能も加わって、業務内容もひと目で。業務内容もひと目で。業務内容もひと目で。業務内容もひと目で。

パピコンの愛称で親しまれたNEC発のホビーパソコン

PC-6001

新日本電気 1981年11月10日発売 本体価格 89,800円



ジャンケンポン! カセットポン!

PC-6001はNEC(日本電気)グループの家電部門である新日本電気(後のNECホームエレクトロニクス)が発売したパソコンである。当初からホビー用途を強く意識しており、「ジャンケンポン、カセットポン」というテレビCMを放送、

家族で使える楽しさをアピールした。10万円を切る価格ながら、グラフィックやサウンドも水準以上のものを備えており、家電メーカー系ホビーパソコンとしては人気を不動のものとしていた。

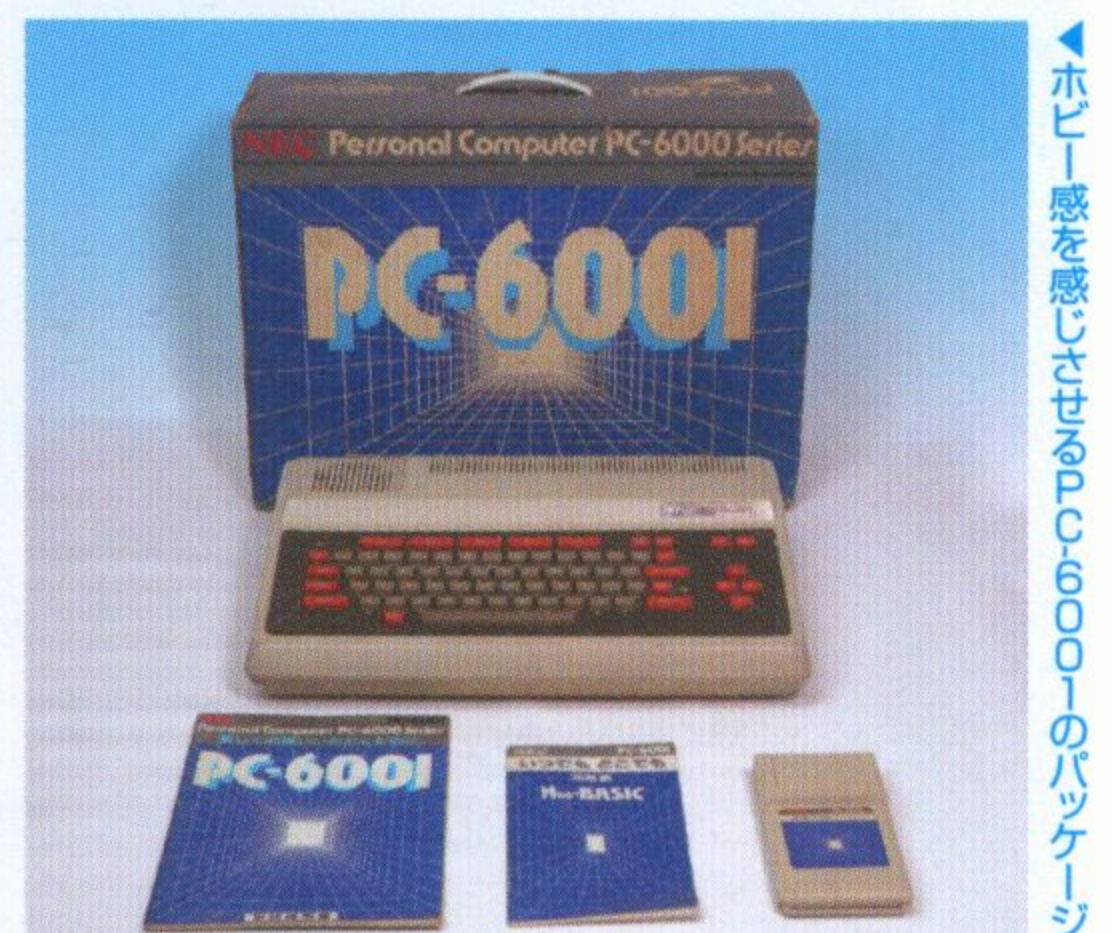
すがやみつるのマンガによる入門書『こんにちはマイコン』の教材として使われたことから、知名度が高い機種でもある。



▲マイコン少年のバイブルとなった、すがやみつるの「こんにちはマイコン」。

PC-6001仕様

CPU	μPD780C-1(Z80A互換)4MHz、μPD8049
ROM	16Kバイト(最大32Kバイト)
RAM	16Kバイト(最大32Kバイト)
グラフィック機能	テキスト表示:32文字×16行 グラフィック表示:最大256×192ドット最大9色セミグラフィック グラフィック機能:スーパーインポーズ
サウンド出力	PSG音源 8オクターブ3重和音(AI-3-8910相当)
インターフェース	RF信号、コンポジットビデオ、カセットテープ、プリンター、カートリッジスロット



▲ホビー感を感じさせるPC-6001のパッケージ。

PC-6001の互換性そのままに大幅にパワーアップ

PC-6001mkII

新日本電気 1983年7月1日発売 本体価格 84,800円



世界初!しゃべる パソコン登場

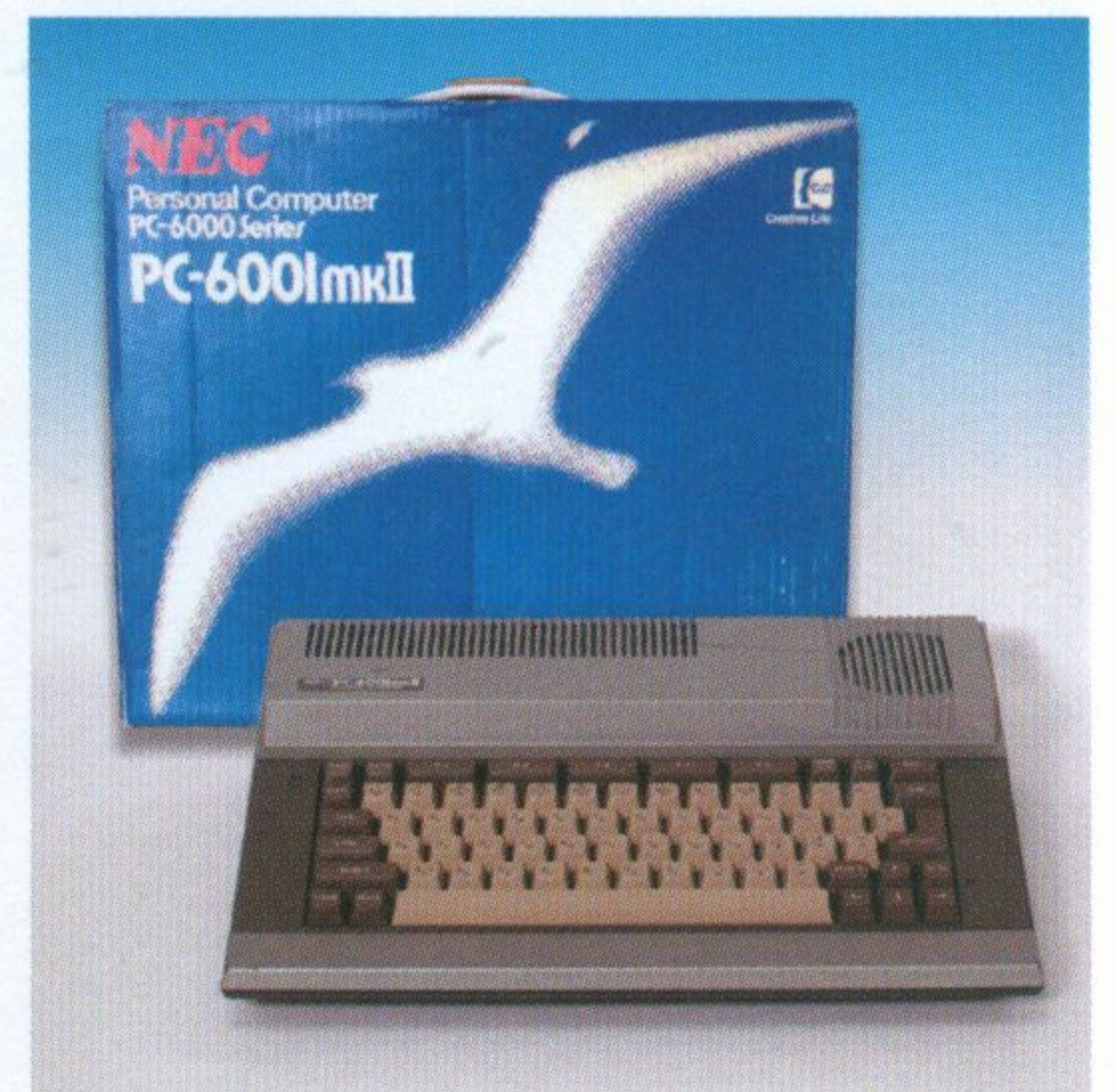
PC-6001mkIIは1981年に発売されたPC-6001 (P.12) の後継機である。パソコン入門向けに人気の高かったモデルの新機種だけに必然的に衆目を集めることとなったが、実際に登場したそれ

は従来機種を遥かに超えるパワーアップを果たしていた。外観は従来のオモチャっぽさが消えてシャープなシルエットとなり、本格的なタイプライター型キーボードが採用された。さらに従来の泣き所であった搭載メモリも一気に4倍まで増え、より高度なソフトを動かすことが可能になったといえる。

また、ボイスシンセサイザーの搭載により音声合成でしゃべることが可能になったのもユニークな進化ポイント。市販ソフトでもこれを活かして“しゃべるゲーム”が多数発売された。

PC-6001mkII仕様

CPU	μPD780C-1 (Z80A互換)4MHz、μPD8049
ROM	96Kバイト
RAM	64Kバイト
グラフィック機能	テキスト表示:40文字×20行 グラフィック表示:最大320×200ドット最大15色グラフィック グラフィック機能:スーパーインポーズ(オプション)
サウンド出力	PSG音源 8オクターブ3重和音(A.Y-3-8910相当)
インターフェース	RF信号、コンポジットビデオ、RGB、カセットテープ、プリンター、カートリッジスロット、フロッピーディスク、スーパーインポーズ端子



▲PC-8801のパッケージ。

PC-6001mkII MODEL VARIATION

PC-6001mkII SR

1984年11月15日発売 89,800円

グラフィックやFM音源など、mkIIからさらにパワーアップした上位機。



漢字ROMや 各種I/Fを標準搭載

PC-6001mkIIで注目されがちなのはボイスシンセサイザーや15色カラー表示、スーパーインポーズユニットのインターフェース搭載といったエンターテインメント寄りな機能だが、JIS第1水準漢字ROMの搭載、RS-232Cやフロッピーディスクインターフェースなど、将来へのシステムアッ



■本体背面



■キーボード

プを見越した地味なパワーアップも抜かりなく行われている点が見逃せない。最初の入り口は子供向けホビーだとしても、

「将来まで安心して使えるマシンに仕上げたい」という開発者の意識が見えてくるような機種といえるだろう。

CATALOGUE

NEC パーソナルコンピュータ PC-6000シリーズ
PC-6001mkII



NECの先進テクノロジーが、

読める、漢字も、カラフル。NECのニュー・パソコンPC-6001mkIIは、知覚領域でやってきた。この豊かな表現力があるのは、最先端テクノロジーの結晶。ゲーミング技術です。大容量、多機能にもかかわらず、コンパクトにまとめあげられたデザインに、その先進性が投影されています。より見やすく、便利に、パソコンライフもあややかに演出するPC-6001mkII。パソコンは、音楽に感動し続け、鋭い感性をもつべき人だ。

●ボイスシンセサイザー内蔵で、パソコンがまた面白くなって。ボイスシンセサイザーは、任意の音声発生を可能にする。漢字の表示や音声発生が、漢字や音声発生を可能にする。漢字の表示や音声発生が、漢字や音声発生を可能にする。

●漢字ROM内蔵で、漢字の表示がもっとも。漢字ROM内蔵で、漢字の表示がもっとも。漢字ROM内蔵で、漢字の表示がもっとも。

●カラフルな画面で、パソコンがまた面白くなって。カラフルな画面で、パソコンがまた面白くなって。カラフルな画面で、パソコンがまた面白くなって。

時代に敏感な人へ、感性鋭いパソコンです。

- 1 パソコンが話すようになった。
[音声合成機能内蔵]
- 2 パソコンが漢字を覚えた。
[1024文字の漢字ROM内蔵]
- 3 パソコンが鋭い色彩感覚をもった。
[ドット単位で15色グラフィックス機能]
- 4 パソコンが音楽を奏でるようになった。
[8オクターブ三重和音、シンセサイザー機能]
- 5 パソコンが素晴らしい記憶力をもった。
[RAM84KBの大容量メモリ]

PC-6001mkII
本体標準価格84,800円

ボーカロイドのご先祖様? 歌うパソコン

PC-6601

新日本電気 1983年11月21日発売 本体価格 143,000 円



すぐに使える 5枚のディスク付き

PC-6601は同社から発売されたPC-6001の上位シリーズとして発売された機種である。記録媒体に3.5インチ1Dタイプのコピーディスクをいち早く標準採用したことが最大の特徴であり、ま

だ一般に普及していなかったフロッピーディスクの大容量をアピールするために、本体に6本のソフトが添付されていた。内容はワープロ、表計算、音声読み上げ機能付き英文ワープロ、歌うミュージックツール、大作オリジナルアドベンチャー『コロニーオデッセイ』といった大盤振る舞いぶりである。

もう一つ、PC-6601のユニークな特徴として挙げられるのは「話して歌うことが可能な音声合成機能」である。PC-6001mkIIにも音声合成機能は搭載されていたが、本機ではそれをさらに強化して音声に音階をつけることが可能

PC-6601仕様

CPU	μPD780C-1 (Z80A互換)4MHz+μPD8049 8MHz
ROM	BASIC・マシン語モニタ32Kバイト、漢字32Kバイト、キャラジェネ16Kバイト、音声データ16Kバイト
RAM	64Kバイト、VRAM 16Kバイト、FD用 1Kバイト
グラフィック機能	テキスト表示:最大40字×24行 グラフィック表示:最大320×200ドット・最大15色セミグラフィック
サウンド出力	FM音源3音+SSG3音(YM2203)
インターフェース	RF信号、コンポジットビデオ、デジタルRGB、モノラル音声、カセットテープ、プリンター



▲PC-6601のパッケージ。



■本体背面



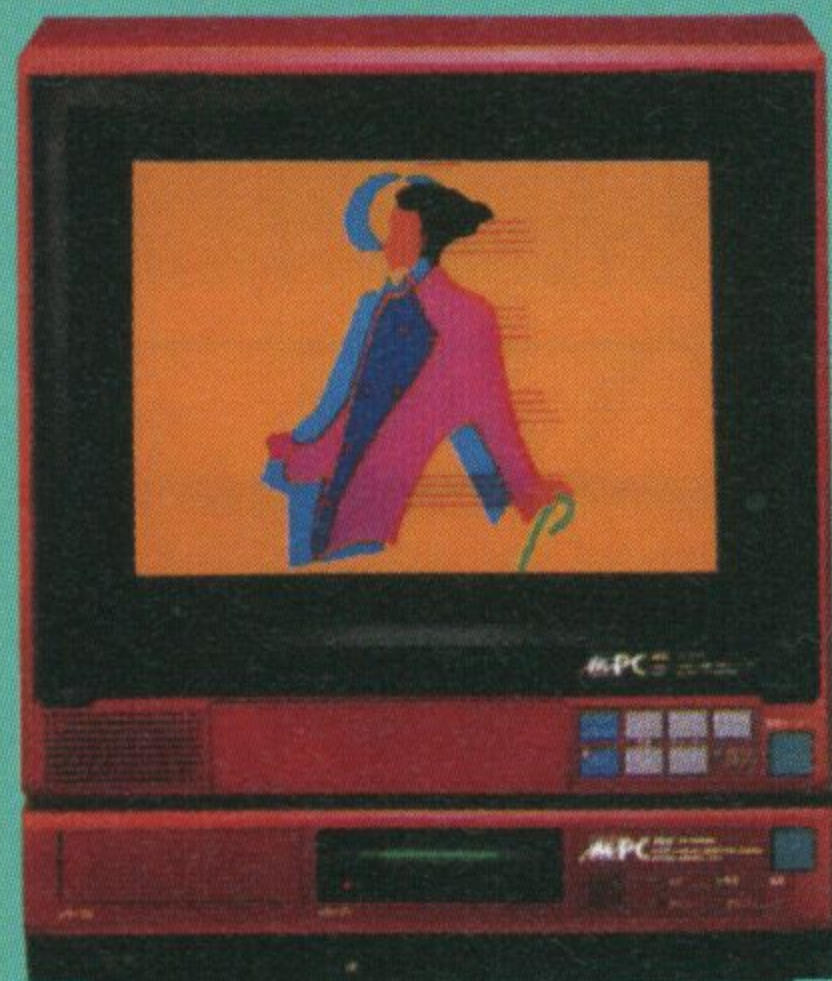
■キーボード

になった。これは今でいう『ボーカロイド』のようなもので、使い方次第では初音ミクのような表現ができるわけで、相当時代の先を進んでいた機能であったといえるだろう。PC-8801の陰に隠れがちだが、触って楽しい愛すべきパソコンといえる。

●すぐに使える5枚のディスクソフトがついています。マイクロフロッピーディスクに納めた本格的ソフトウェアがついています。楽しいゲームはもちろん、実用的なワープロなど買ったその日からすばらしいパソコンライフが始まります。

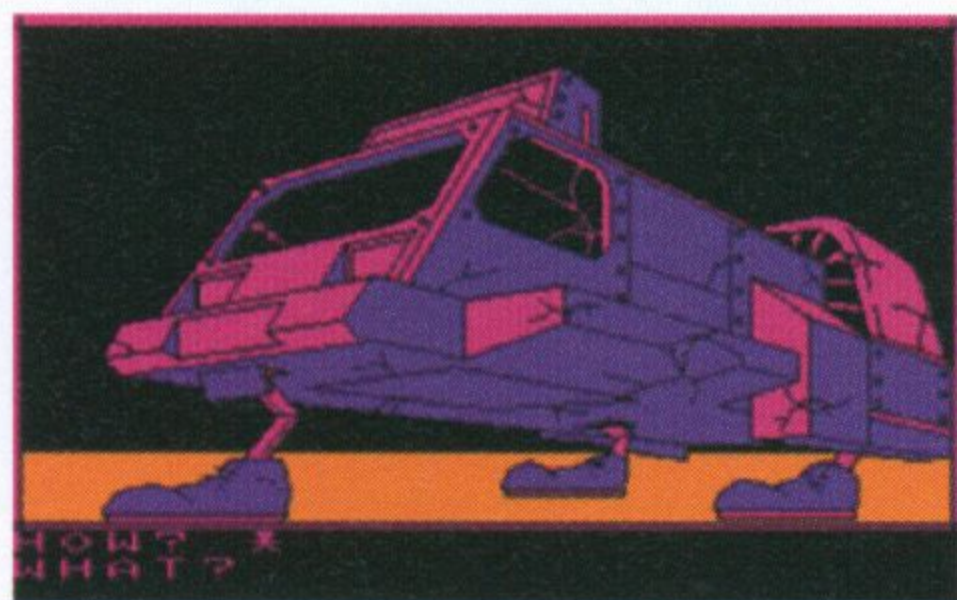


PC-6601
MODEL VARIATION



PC-6601SR(Mr.PC)

1984年11月20日発売 155,000円
TVが見られる&パソコン画面と合成できる専用モニターと、ワイヤレスキーボードというリビングに置くことを想定したAVパソコン。Mr.PCという愛称がある。



小松左京原作の大作AVG、「コロニーオデッセイ冒険編」。

CATALOGUE

NECパーソナルコンピュータ
PC-6600 シリーズ

たちまちホームワプロ、思いをカタチにするパソコン

- 添付ソフトでJIS第一水準の漢字2965文字使用可能
- 余裕の64Kバイト大容量RAM実装
- 合声つき新ボイスシンセサイザ搭載
- 三重和音のミュージックシンセサイザ搭載
- あざやかカラーグラフィック表示

フロッピー内蔵パソコン
PC-6601
本体標準価格 143,000円

NECパーソナルコンピュータ
PC-6600 シリーズ

もう見ましたか？
フロッピー内蔵パソコンの実力を。

フロッピー内蔵パソコン
PC-6601
本体標準価格 143,000円

NEC テレビパソコン
Mr. PC
ミスター PC

先進の、ワイヤレスキーボード&テレビパソコン

六ヶ木パソコン

- ▶実力の日本製ワープロソフト標準搭載。
- ▶320Kバイトドライブの3.5インチFDIドライブ。
- ▶さらに美しくなつた16色鮮やかなグラフィック。
- ▶生の道カ、FM音源シンセ内蔵。

NECテレビパソコン
本体標準価格 155,000円
フロッピー内蔵(PC-TV50) 標準価格 14,000円

縦にも横にも置けるコンパクトボディなPC-8801

PC-8801mkII

日本電気 1983年11月発売 本体価格 model10 : 168,000 円、model20 : 225,000 円、model30 : 275,000 円



真面目にパソコン! 気軽にパソコン!

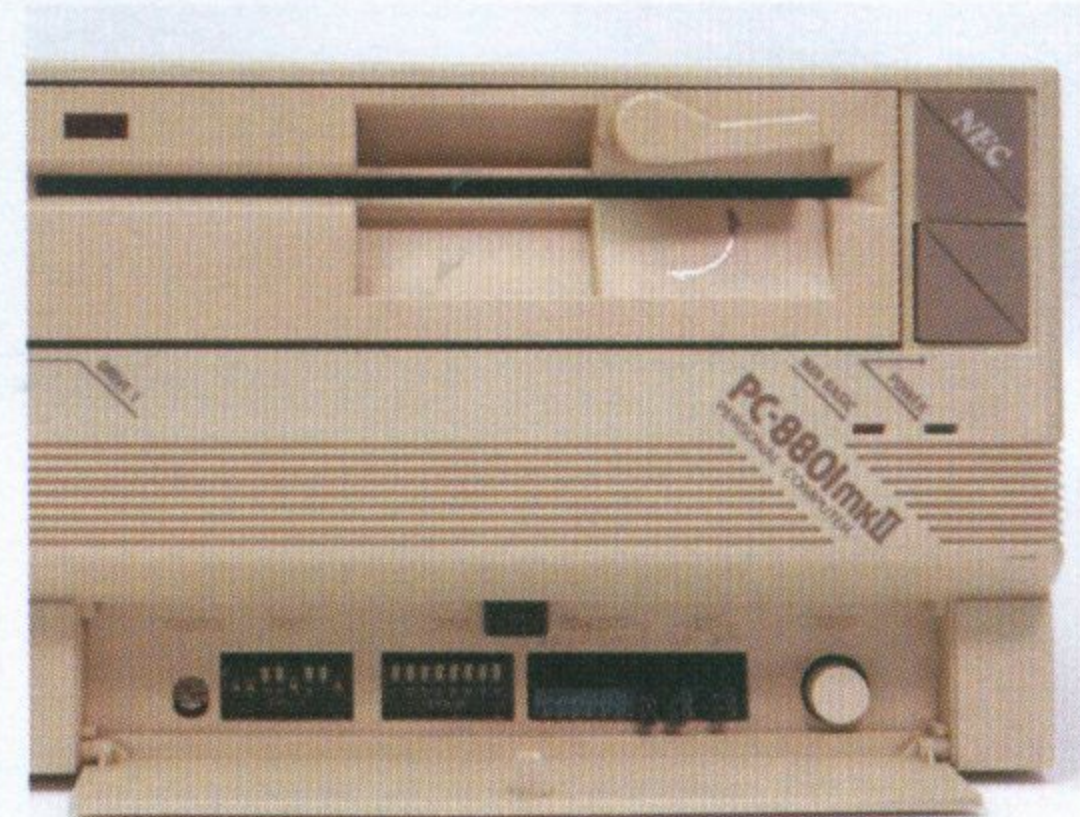
PC-8801mkIIはその名の通り、PC-8801 (P.10) の後継機として1983年に発売された製品である。前モデルに比べて一気に小型化された姿は、

ぱっと見では同系統のパソコンとは思えないほどであった。このコンパクトなボディに5インチフロッピーディスクドライブを2基標準搭載 (model30) し、本機を通じて、本格的にカセットテープからフロッピーディスクへと記録メディアの移り変わりを意図したNECの判断が透け

て見える。なお、本機に搭載されたディスクドライブはそれ単体にCPUとメモリを積んだインテリジェントドライブであり、本体CPUへの負荷を軽減する配慮がなされている点も、本機がディスクありきのハードである証明といえるだろう。

PC-8801mkII仕様

製品名	PC-8801mkIIR model10	PC-8801mkIISR model20	PC-8801mkIISR model30
ディスクドライブ	フロッピードライブなし	フロッピードライブ1基	フロッピードライブ2基
CPU	μPD780C-1 (Z80A互換) 4MHz		
ROM	N88-BASIC ROM 40KB、N-BASICおよびモニタROM 32Kバイト ディスクコントロール用ROM 2Kバイト、JIS第一水準漢字ROM		
RAM	メインメモリ64Kバイト、VRAM 48Kバイト、ディスク入出力バッファ16Kバイト		
グラフィック機能	テキスト表示:最大80字×25行 テキスト機能:リバース、プリンク、シークレット グラフィック表示:最大640×400ドット8色		
インターフェース	モノクロ/デジタルRGB、カセットテープ、フロッピーディスク、プリンター、キーボード、ライトペン、RS-232C		



▲フロントドアの内部。リセットボタンのほかモード変更用ディップスイッチが並ぶ。

『イース』も『テグザー』もこのマシンから生まれた!

PC-8801mkIISR

日本電気 1985年1月発売 本体価格 model10:168,000円、model20:213,000円、model30:258,000円



成功の要因はCPUに負担をかけない設計

PC-8801mkIISRは、PC-8801シリーズの後継機としてPC-8801mkII(P.18)の1年後に発売されたパソコンで

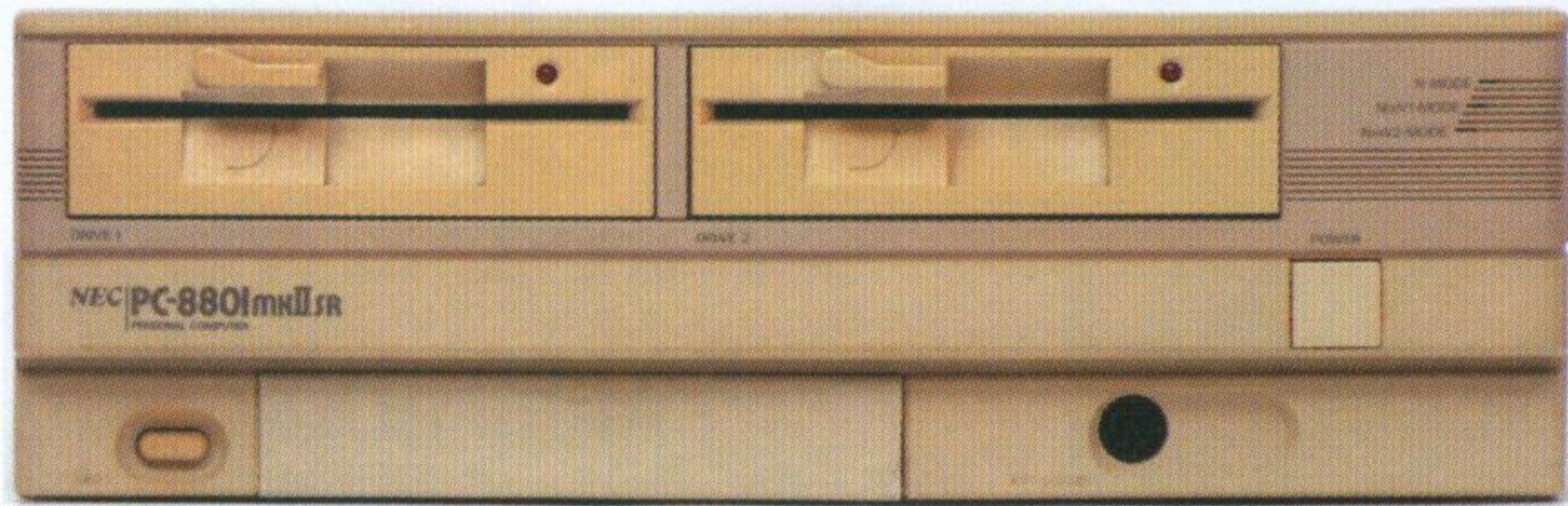
ある。PC-8801初代の頃から問題視されていた処理速度面で不利なZ80を補うために、CPUにできるだけ負担をかけないように、CPUを介さずにメモリへデータ転送できるように設計された。また、PC-8801mkII同様にフロッピーディ

スクにもCPUとメモリを搭載、メインCPUが処理中でも並行してディスクアクセスできる点も特徴だが、SRではこれをディスクアクセス以外にも使用するゲームソフトが多数登場、大いに活用されていた。

この頃はカセットテープからフロッピーディスクにメディアの世代交代が起こっており、グラフィックやサウンド面で優れていたこともさることながら、フロッピーディスクを搭載しつつ比較的安価に価格設定されていたことも本機のアドバンテージに繋がった。安価で高性能なフロッピーディスク搭載パソコンへの買い替え需要が、PC-8801mkIISRの普及の起爆剤となったのである。

PC-8801mkIISR仕様

製品名	PC-8801mkIISR model10	PC-8801mkIISR model20	PC-8801mkIISR model30
ディスクドライブ	フロッピードライブなし	フロッピードライブ1基	フロッピードライブ2基
CPU	μPD780C-1(Z80A互換)4MHz		
ROM	N88-BASIC ROM 40KB、機械語モニタ ROM 8KB N-BASIC ROM 24KB、JIS第一水準漢字ROM		
RAM	メインメモリ64Kバイト、VRAM 48Kバイト		
グラフィック機能	テキスト表示:最大80字×25行 テキスト機能:リバーシ、プリンク、シークレット グラフィック表示:最大640×400ドット-最大512色中8色		
サウンド出力	FM音源3音+SSG3音(YM2203)		
インターフェース	デジタルRGB、アナログRGB、プリンター、カセットテープ、モノラル音声、RS-232C、ジョイスティック×2、キーボード、フロッピーディスク		



■本体正面



■本体背面

多彩な表現力は クリエイターを育てた

PC-8801は価格と表現力のバランスが優れていたパソコンであった。

グラフィックは640×200ドットながら512色中8色の表示が可能で、それまで8色固定のデジタルだった映像表現にアナログRGBを持ち込んだ（PC-8801mkII SRが初ではないが）。

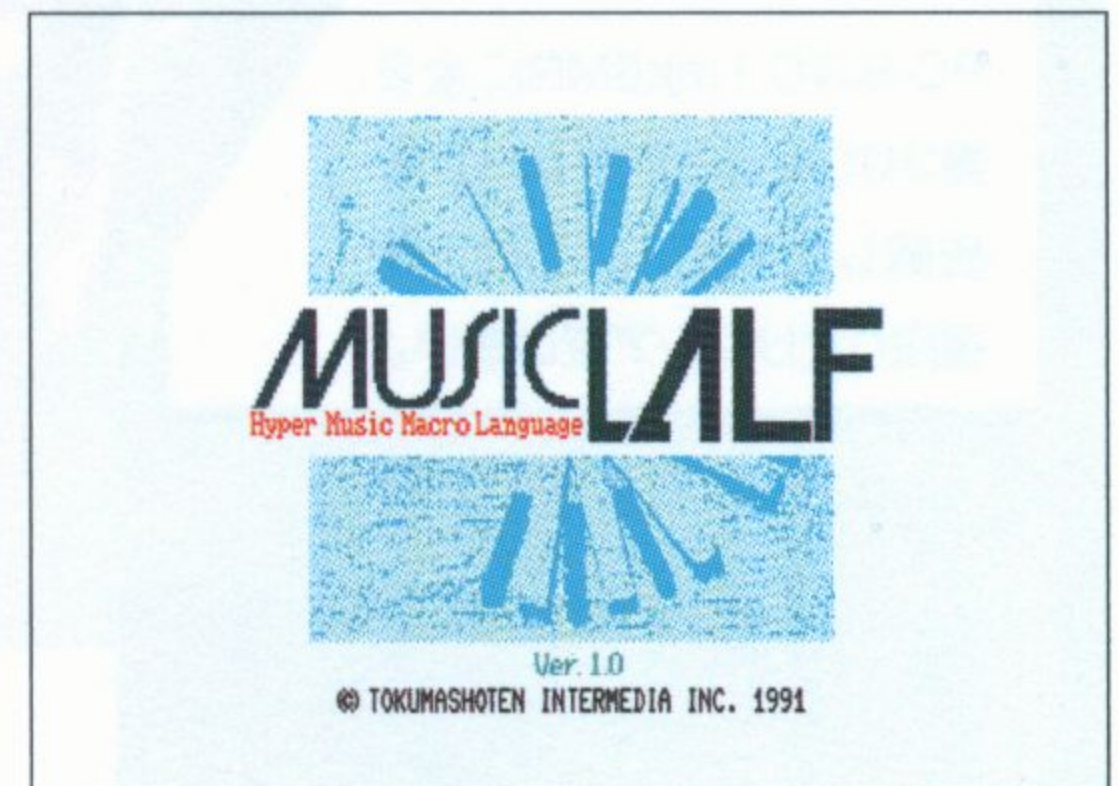
サウンドではヤマハのFM音源（YM2203）を搭載することで、FM音源3音+SSG(PSG)3音を表現できるようになり、一部のアーケードゲーム機に並ぶ音源性能を得たのである。これらはすべて本体内蔵のBASICで制御することができ、しかも高速・大容量のフロッピーディスクを介してやり取りすることができた。そのため、本機の登場によって映



■キーボード

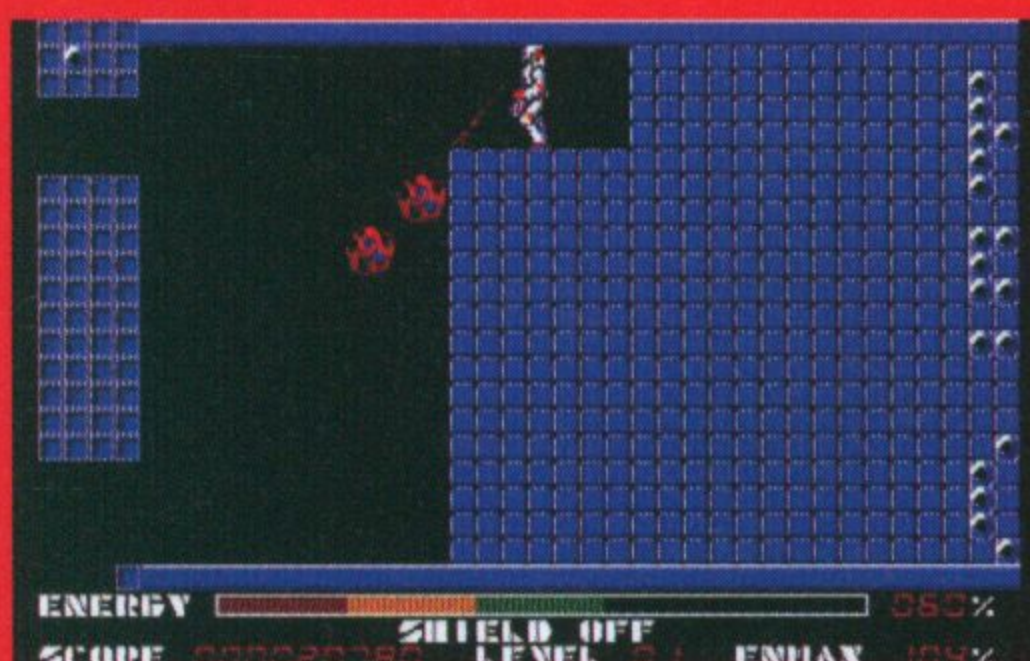
像に、音楽に、クリエイターが生まれる土壌ができたといえる。

そんな中から、『イース』『ザ・スキーム』の作曲者で知られる古代祐三に代表される、才能あるクリエイターが次々と輩出され、PC-8801mkII SRの登場は、コンピューターを使ったクリエイターを多数生み出すこととなった。

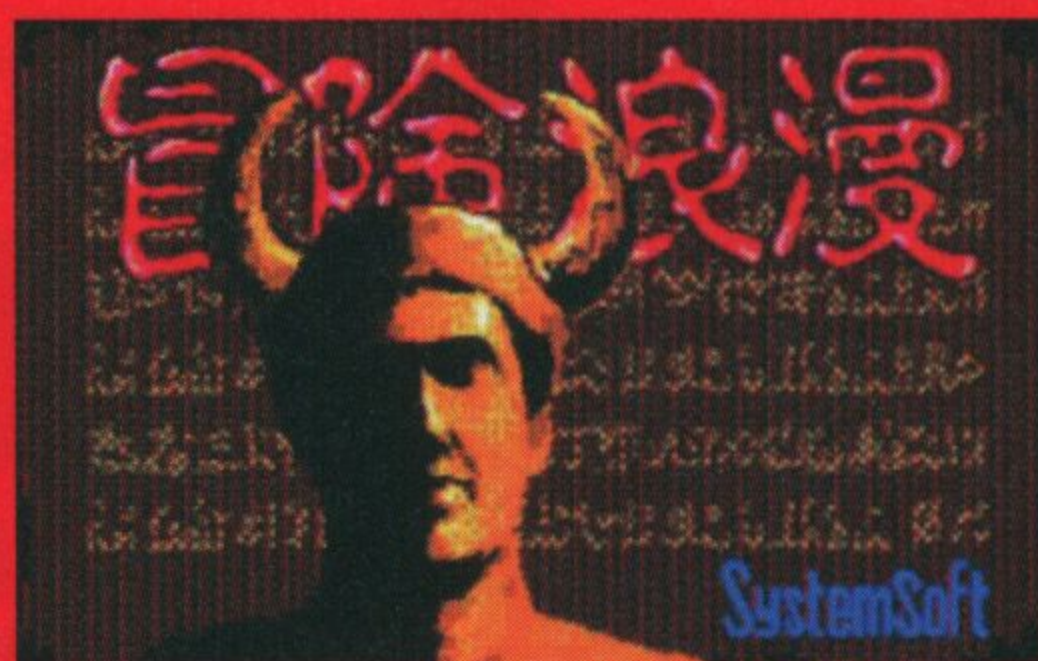


▲古代祐三が作ったミュージックドライバーを製品化した「MUSIC LALF」。

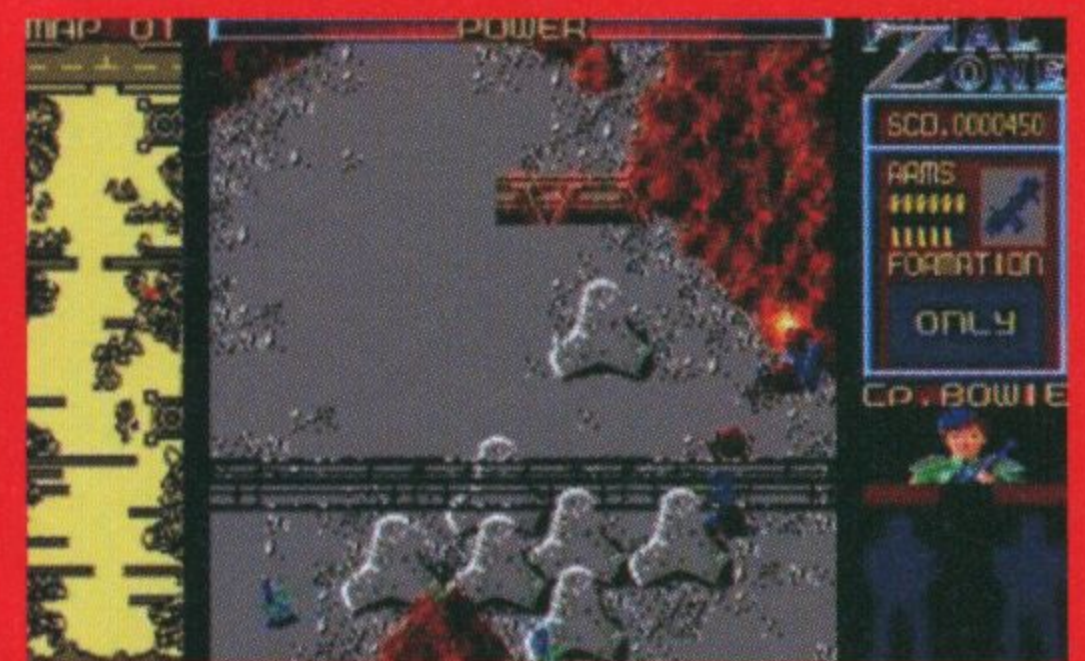
PC-8801mkII SRから生まれた名作ゲームたち



テグザー (ゲームアーツ)



冒険浪漫 (システムソフト)



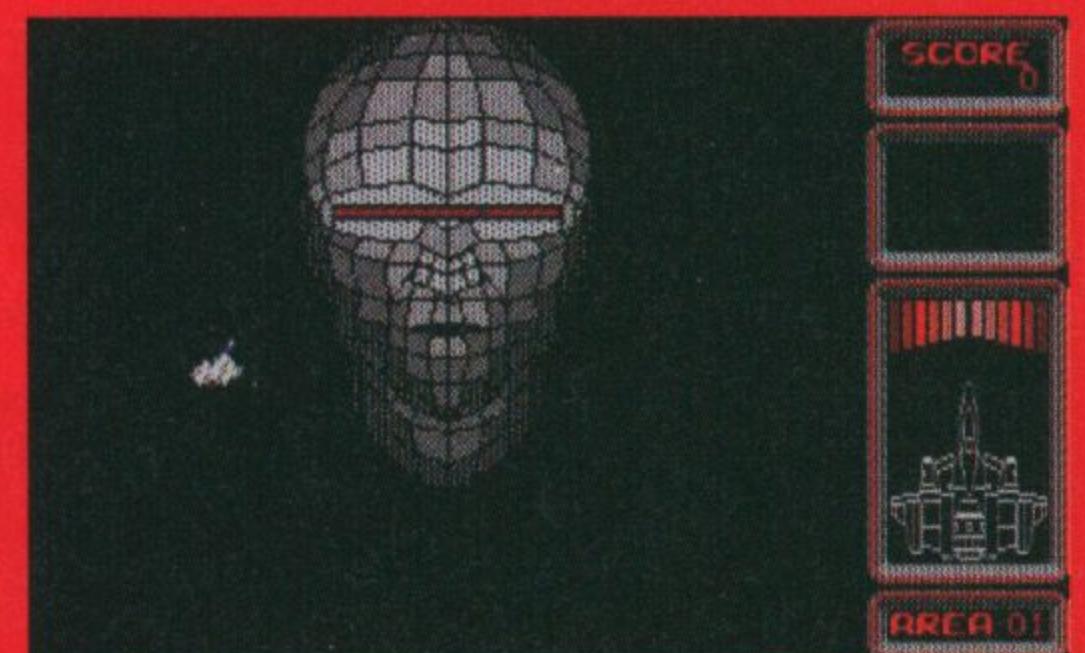
ファイナルゾーン (日本テレネット)



ハイドライド3 (T&Eソフト)



イースII (日本ファルコム)



シルフィード (ゲームアーツ)

PC-8801mkII SRは「文化」を創造した

PC-8801mkII SRの登場が多数のクリエイターを生み出したことは前出の通りだが、その過程で多数の名作ゲームも生まれた。

中には『イース』などのように現在で

もシリーズが継続している人気タイトルもあり、それどころか「パソコンゲームの音楽にサウンドトラックのCDが発売される」という、単なるパソコンゲームの枠を超えた新たなムーブメントもこの頃に発生している。

PC-8801mkII SRは、今までの単なる「ゲームを遊ぶだけ」、「プログラムを

するだけ」程度の役割しか与えられていなかったパソコンが、音楽やグラフィックの創作に耐えうるクリエイティブツールになった初めての例といえるのではないだろうか。そういった観点からも、本機が後世のパソコンの歴史に与えた影響は単なるベストセラー機だけではない、非常に価値のあるものだと思う。

PC-8801mkII SR MODEL VARIATION

PC-8801mkII TR

1985年9月発売
288,000円

PC-8801mkII MRに全2重300bpsのモデムホンを搭載したモデル。この1機種限りだけにレア度は高い。



PC-8801 MA

1987年10月発売
198,000円

PC-8801MHにサウンドボードIIを標準搭載したモデル。メモリウェイトを外してさらなる高速化が可能。



PC-8801 FH

1986年11月発売
98,000円～

PC-8801MHと同時期に発売されたエントリーモデル。シリーズ唯一のブラックモデルが限定でラインナップされた。



PC-8801 MC

1989年11月発売 169,000円～

シリーズ唯一の縦置き専用モデル。上部にCD-ROMドライブを搭載することができる。



PC-8801 FE

1988年10月発売
129,000円

PC-8801FHの廉価版。拡張スロットを廃し、ビデオ出力により家庭用テレビに表示できるコストパフォーマンス重視モデル。



PC-8801 MH

1986年11月発売
208,000円

CPUの8MHz倍速クロックモードを搭載したフラッグシップモデル。2Dのフロッピーに加えて、2HDも読むことができる。



スムーズスクロールにスプライト機能まで備えたハイスペック88

PC-88VA

日本電気 1987年3月発売 本体価格 298,000円



PC-88がついに 16ビットになった

PC-88VAは従来のPC-8801シリーズとは一線を画す、まったく新しいコンセプトで開発された製品である。CPUにNECがインテル8086の上位互換として開

発したV30（PC-9801用にも搭載されていた時期もある）系統のμPD9002を採用、グラフィック周りの周辺プロセッサ類は本機用にすべて新規開発され、単なる「16ビットCPUを搭載したPC-8801」ではない、大きく枠を超えるものとなった。65536色表示のグラフィック、ハード

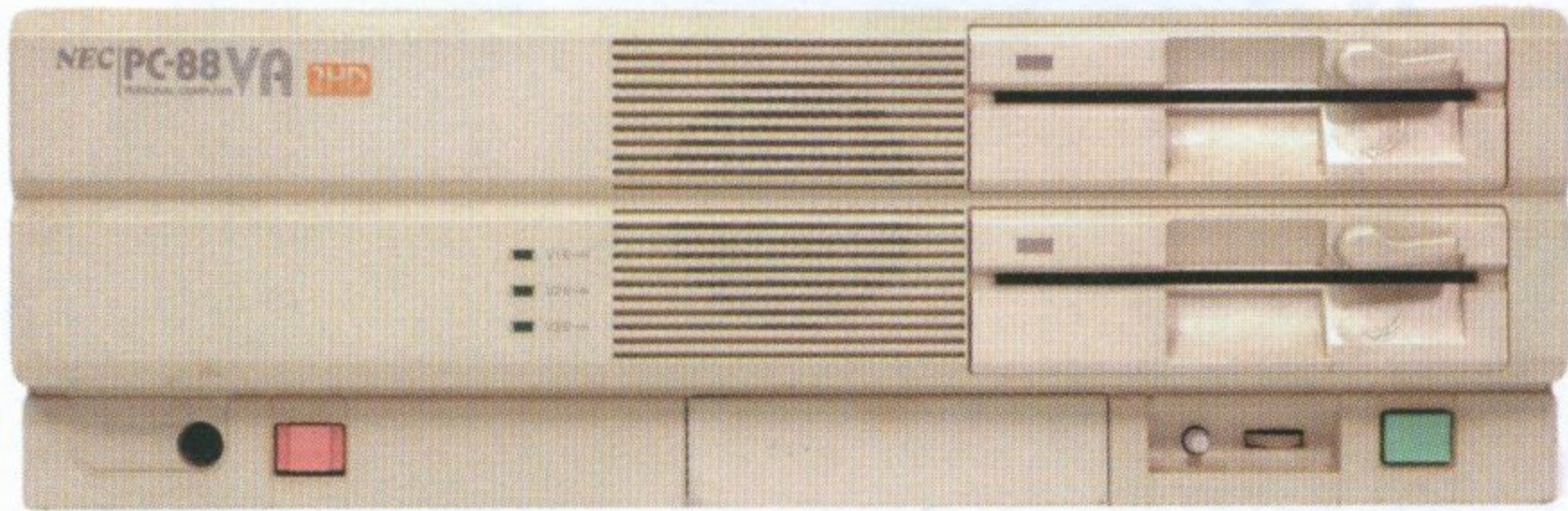
ウェアスクロールやスプライト機能など、同時期に発売されたX68000と比較されることが多かった本機だが、開発自体はX68000の発表（1986年10月）以前から行われており、X68000の後追い企画として投入されたという解釈は誤りである。

PC-88VA仕様

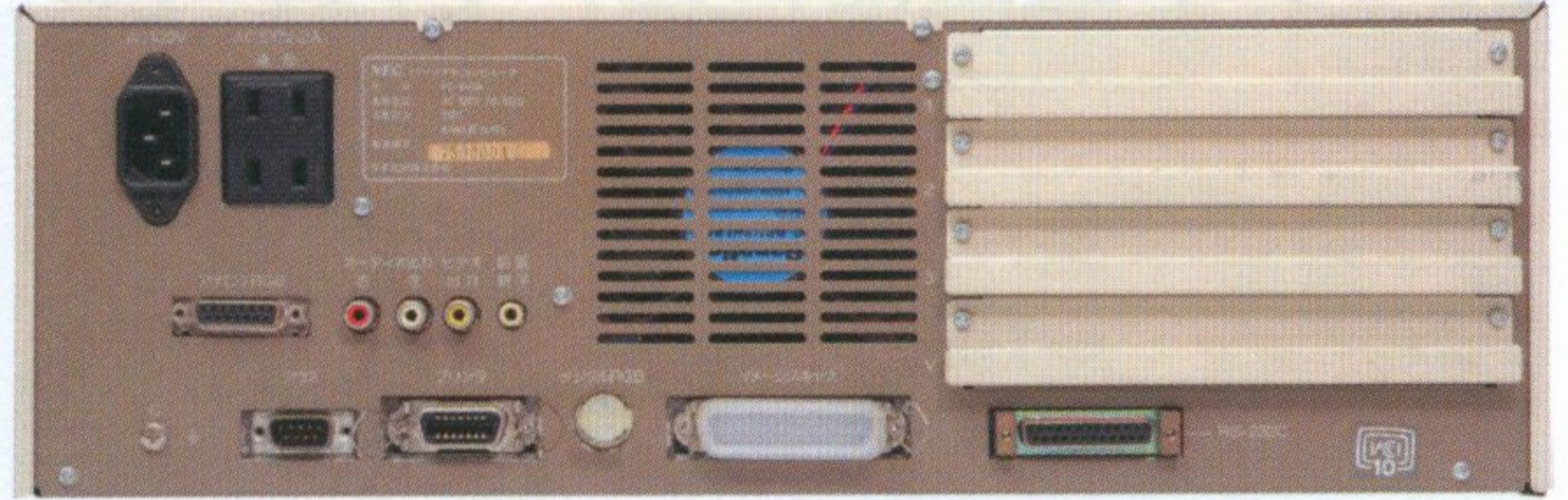
CPU	μPD9002(V30/μPD70008命令コンパチブル) 8MHz
ROM	メイン 768Kバイト(PC-Engine、N88-日本語BASIC V3Iほか) 辞書 512Kバイト(約65,000語、連文節変換対応) 文字フォント 288Kバイト(JIS第1・第2水準漢字、非漢字ほか)
RAM	メイン 512Kバイト、システム 16Kバイト、テキストVRAM 256Kバイト(スプライトパターン領域兼用) グラフィックVRAM 256Kバイト、サウンド 256Kバイト(デジタルサンプリング用)
グラフィック機能	テキスト表示:最大80字×25行 画面水平4分割・水平垂直スムーズスクロール グラフィック表示:最大640×400ドット・最大65,536色 画面水平4分割・水平垂直スムーズスクロール スプライト表示:8×4~256×256ドットドットごとに4096色中16色指定、最大32個表示
サウンド出力	FM音源3音+SSG3音(YM2203) ADPCMによるデジタルサンプリング(4KHz/8KHz/16KHz)
インターフェース	アナログRGB、ビデオコピー、コンポジットビデオ、ライン入出力、ヘッドホン出力、プリンター、キーボード、RS-232C、マウス、パラレルインターフェース



▲PC-8801VA2の正面フロントパネル。各種モード切替スイッチのほか、V3モードのLEDが追加された。



■本体前面



■本体背面

発売直後こそPC-88VA専用ソフトが各社から発売されたものの、その特殊なハード構成があだとなって旧来のソフトが正常に動かないという互換性の問題が発生。有志によるパッチ対応が進められた。しかし、決定的なキラソフトの不在はいかんともし難く、PC-8801からの世代交代は行われることなく、PC-9801へユーザーが流れる形となった。



■キーボード

PC-88VA MODEL VARIATION

PC-88VA2

1988年3月発売 298,000円
FM音源がサウンドボードⅡ相当になった後継モデル。コプロセッサ用ソケットも装備。



PC-88VA3

1988年6月発売 398,000円
PC-88VA2に9.3Mバイト記録可能な3.5インチ2TDドライブを装備したモデル。



◆ CATALOGUE

NECパーソナルコンピュータ PC-8800シリーズ **PC-88VA** NEC

PC-8800シリーズとの互換性を重視し、従来のPC-8800シリーズに比べ、より高度なグラフィック、サウンド、および高速処理能力を実現。また、拡張性も高く、コプロセッサ用ソケットも装備。さらに、3.5インチ2TDドライブもオプションで装着可能。NEC独自のグラフィックチップを採用し、美しい画面表示を実現。また、高速処理能力も向上し、より快適な操作を実現。NEC独自のサウンドチップを採用し、より豊かな音源を実現。また、拡張性も高く、コプロセッサ用ソケットも装備。さらに、3.5インチ2TDドライブもオプションで装着可能。

NECパーソナルコンピュータ PC-8800シリーズ **PC-88VA** NEC

88 EVOLUTION
NEC personal computer has made another step forward towards higher standards. PC-88VA, a new line for performance model in the PC-8800 series, with better graphics reproduction, much higher speed and transfer capacity of operations. Equipped with a newly developed 80486 CPU, it has presented a new dimension of performance while maintaining a high level program compatibility with other members of the family and ensuring the same ease of operation.

C&C Computer and Communications **NEC**

NECパーソナルコンピュータ PC-8800シリーズ **PC-88VA2/VA3**

これは、まっぴらテレビよりも、面白くなる。

「98」を国民機に押し上げたターニングポイント機

PC-9801VM

日本電気 1985年7月発売 本体価格 VM0:295,000円、VM2:415,000円



最初期の98は 売れてなかった!?

PC-9801初代機は1982年に発売されたが、本格的なブレイクを迎えるのはPC-9801VMが登場してからである。VMは高解像度+4096色中最大16色と

いう高度なグラフィック能力を有しており、さらにそのグラフィック能力を最大限引き出せるCPU、V30を搭載していた。本来はビジネス目的で漢字を高速に処理するために用意された性能だったが、高速で複雑な処理に余裕を持って応えるCPUと、表現力の高いグラフィックは

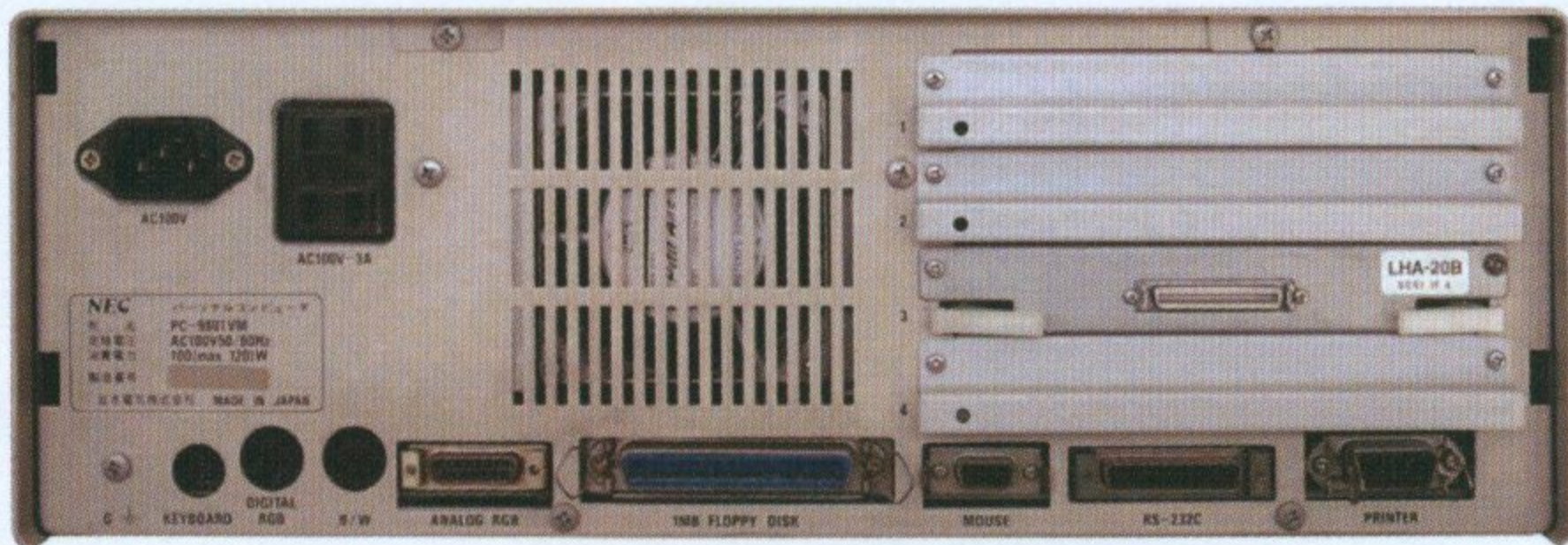
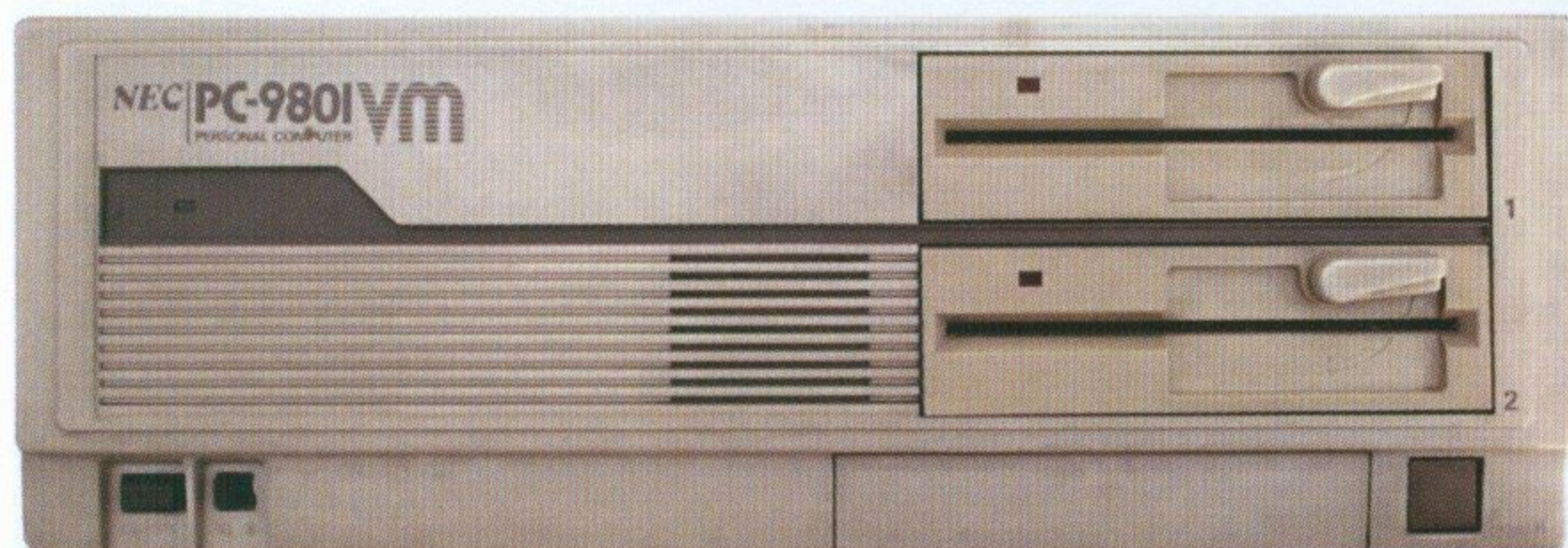
ゲーム用にうってつけだった。

80年代末頃になるとゲームの内容も高度化してゆき、PC-8801シリーズをはじめとした8ビットCPUの処理能力に限界が見えてくるようになった。そのため、次第にパソコンゲームの主流はPC-8801からPC-9801へシフトしていったのである。

PC-9801自体も時代に応じて様々な進化を遂げるようになっていき、Windowsが台頭してくる頃にはPC-9821シリーズをリリース。次第に軸足をWindowsに移すようになった。PC-9801の販売期間は足掛け20年に及び、総販売台数は1830万台に及んだという。

PC-9801VM仕様

製品名	PC-9801VM0	PC-9801VM2
ディスクドライブ	ドライブ無し	5インチ2HDDドライブ2基搭載
CPU	V30(μPD70116-10) 8MHz/10MHz切り替え	
ROM	N88-BASIC(86)及びモニタ96Kバイト	
RAM	384Kバイト	
グラフィック機能	グラフィック表示:640×400ドット・4096色中16色(オプション装着時) テキスト表示:80文字×25行・8色	
サウンド出力	ピープ音による単音	
インターフェース	フロッピーディスク、プリンター、RS-232C、マウス、モノクロRGB、デジタルRGB、アナログRGB	

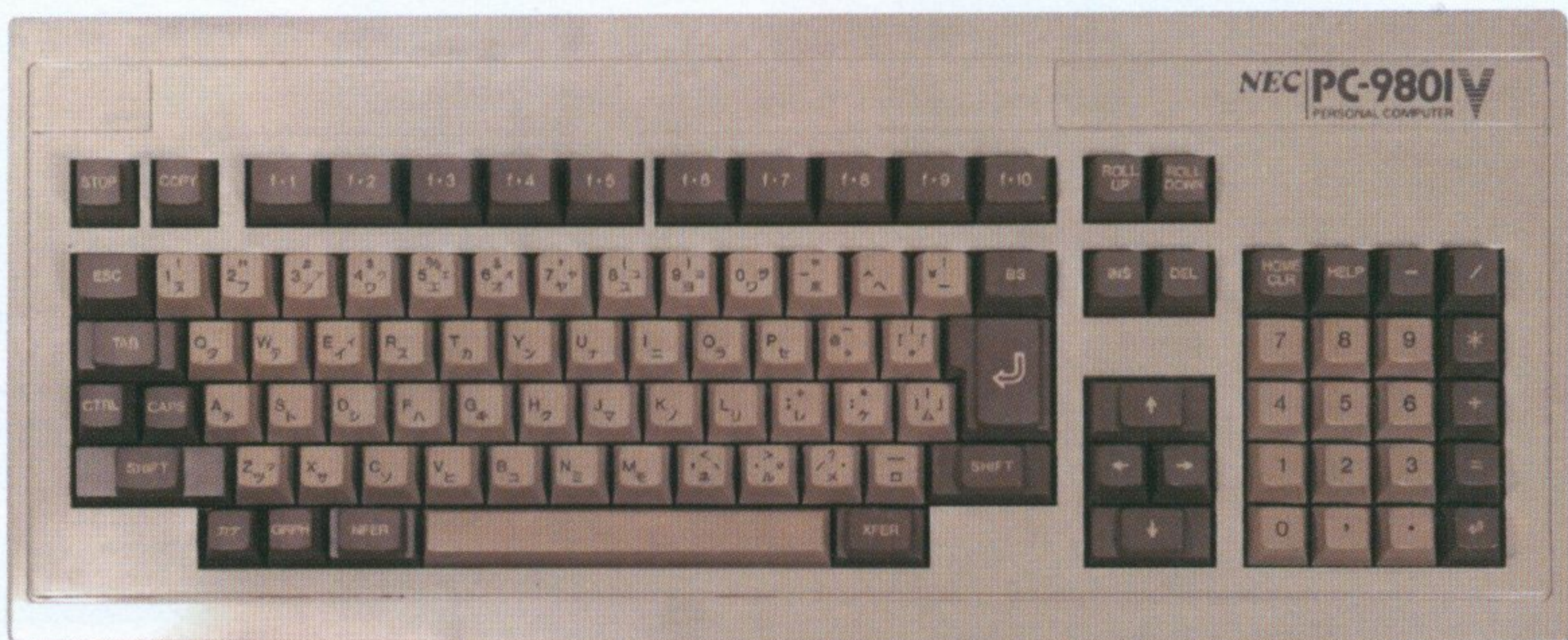


■本体前面

■本体背面

98ソフトの特徴は 思考型ゲーム

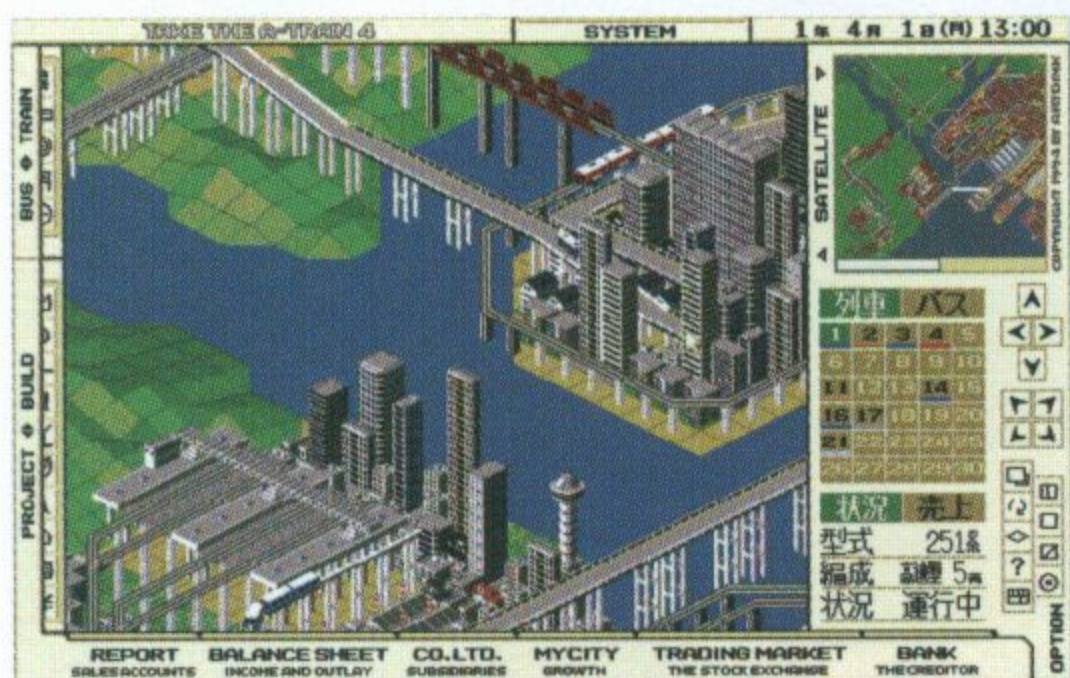
PC-9801のゲームの特徴は、高度な演算処理能力に裏付けられた思考型シミュレーションゲームや4096色中16色の高解像度グラフィックを生かしたアドベンチャーゲームが主流であった。皆無というわけではないがアクションゲームやシューティングゲームは全体の割合の中では数が少なく、この辺はそれらに強いX68000やMSXとマーケットの住み分けが成立していたといえる。



■キーボード

また、とりわけアダルトゲームが多かったのもPC-9801ソフトの特徴で、全発売タイトル数の中でアダルトが占める割

合は実に7割近くに及ぶ。前出のアドベンチャーゲームとは実質的にアダルトゲームを指しているといってもいいだろう。



▲純国産都市開発&鉄道経営シミュレーション「A列車で行こう4」(アートディンク)。



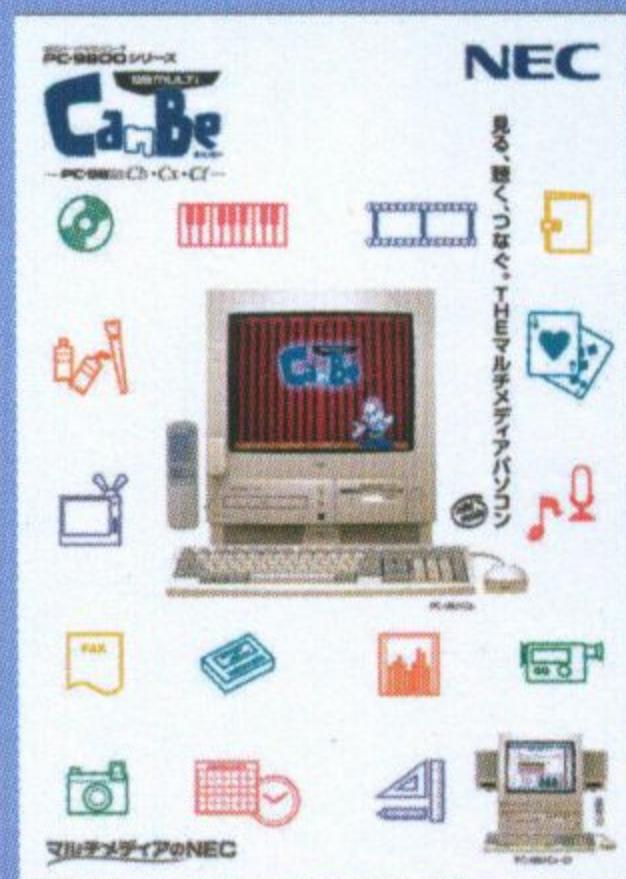
▲育成ゲームの草分けに続編が登場。「プリンセスメーカー2」(ガイナックス)。



▲アダルトながら家庭用ゲーム移植や各種メディア展開を果たした名作「同級生」(エルブ)。

そして世代は9821へ

さすがに他機種に性能面で水をあけられるにつれて、次世代「98」が求められるようになる。そんなニーズから生まれたのがPC-9821だ。



▲Windowsが主流になるにつれてPC-9821がラインナップの中心になっていった。



PC-9801 MODEL VARIATION

**PC-9801VX**

1987年6月発売

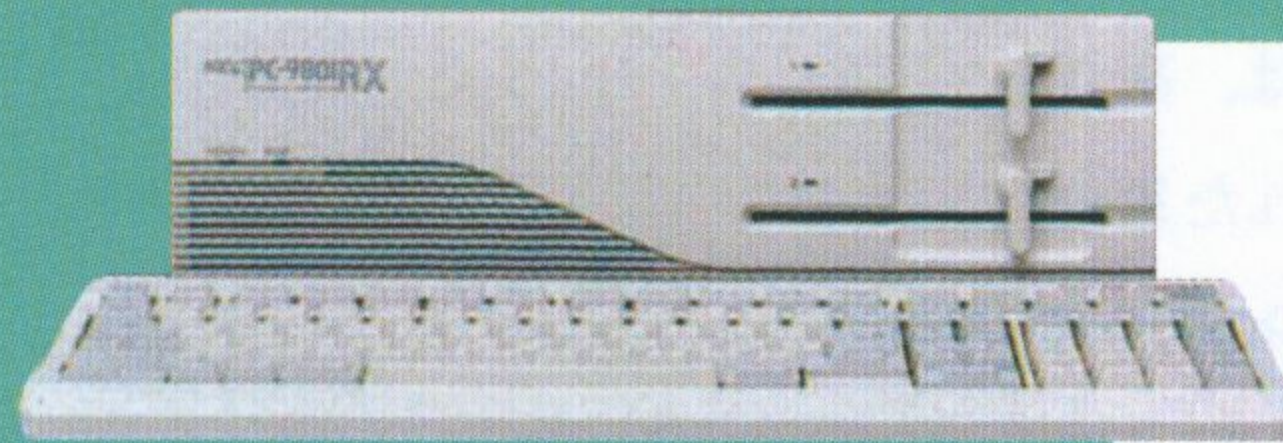
433,000 円～

CPUに80286とV30の両方を搭載したモデル。動作安定性が高く、ゲーム用途に人気が高い。

**PC-98XL²**

1988年10月1日発売 495,000 円～

32ビットCPUを初めて搭載した、歴代98中最大の筐体サイズを誇る機種。

**PC-9801RX**

1988年9月発売

398,000 円～

80286搭載マシンで、比較的 low価格でゲーム用環境を構築できる普及モデル。

**PC-9801UV**

1986年6月発売 318,000 円～

PC-9801VMの3.5インチFDD搭載モデル。

**PC-9801DX**

1990年11月発売 318,000 円～

サウンドボード (FM音源) を内蔵したモデル。ゲームユーザーに支持された。

**PC-9801FA**

1992年1月発売 458,000 円～

前面にファイルスロットを装備し、背面に回らなくても対応周辺機器の装着が可能な機種である。

**PC-9801BX**

1993年1月発売

218,000 円～

98FELLOWという愛称が付けられた、低価格路線の98。シンプルな設計で愛好者も多い。

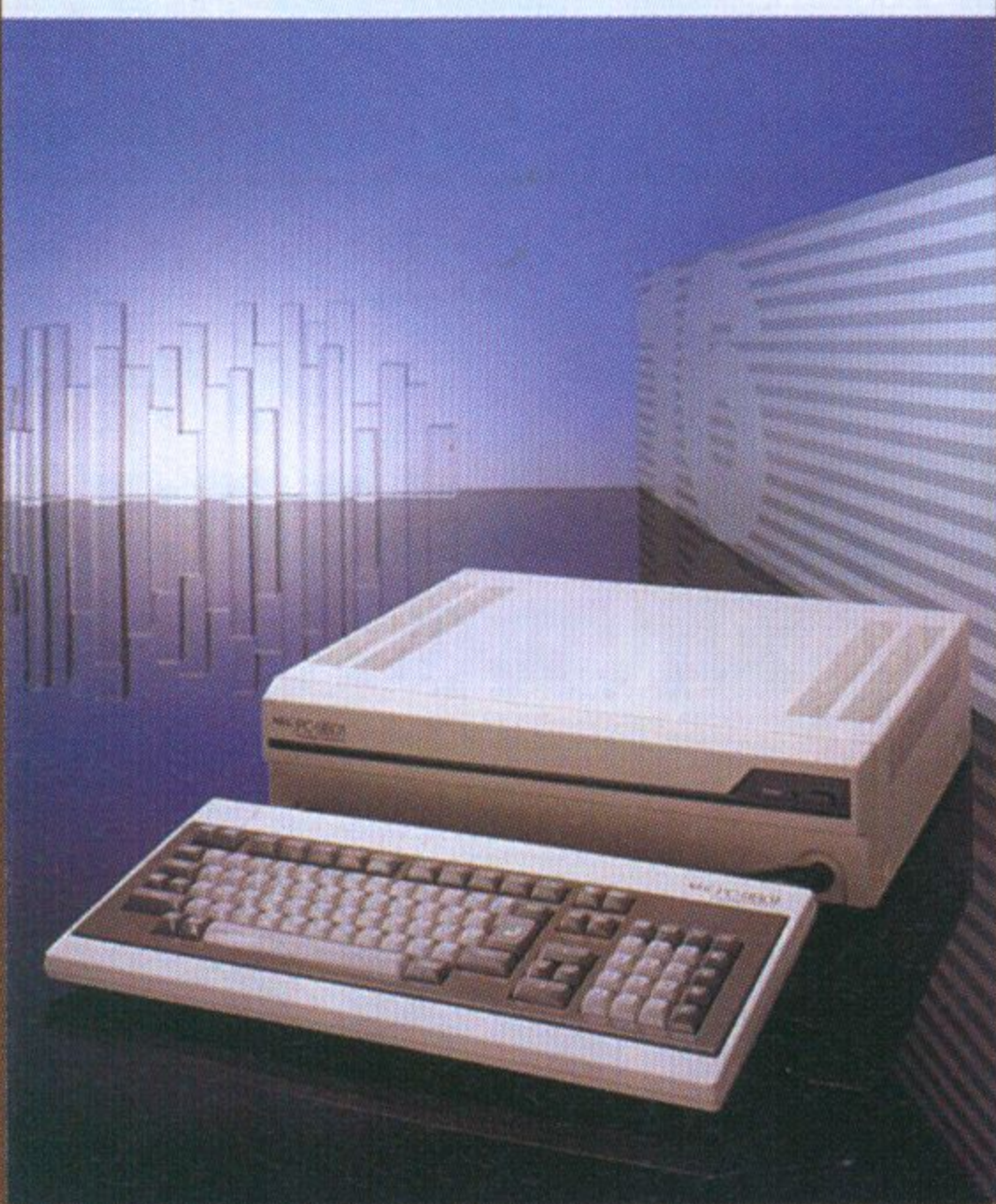
**PC-9801US**

1992年7月発売 248,000 円～

PC-9801シリーズコンパクト路線の最終機種。

CATALOGUE

NEC パーソナルコンピュータ PC-9800シリーズ NEC



NEC パーソナルコンピュータ PC-9800シリーズ NEC PC-9801M2



ビジネスの標準機を不動のものとしたPC-9800シリーズ、そのゆるぎない信頼を受け継いだPC-9801M2、16ビットのプロセッサを内蔵した高いポテンシャルは、新たなビジネスを予感させます。

NEC パーソナルコンピュータ PC-9800シリーズ NEC PC-9801VM0/VM2



ハイパフォーマンスの結実、ビジネスの理想形。PC-9801VM0/VM2。ニューPO 9800シリーズの中核をなすビジネスパソコンの新機軸。PC-9801VM0、PC-9801VM2。そのハイパフォーマンスはまさに16ビットの世界をリードしています。

NEC PC-9801FA advertisement. Includes text: '80286CPU搭載で威力を大幅に強化。活動領域をさらに広げた新世代ビジネスマン。' and technical specifications.

NEC PC-9801FA advertisement. Includes technical diagrams and text: '（最近の16ビットCPUが持つ）' and '（多くの用途に適用可能な）'.

NEC PC-9801FA advertisement. Includes image of the PC-9801FA system and text: '1486™SX搭載、前面ファイルスロット採用であるオフイスユースに対応。'.

NEC PC-9801VM21 advertisement. Large 'VM21' graphic. Text: '確かな実績をさらに強化したパワフル16ビット'.

NEC PC-9801RX2/RX4 advertisement. Text: 'PC-9801RX2 RX4 誕生'. Includes image of the PC-9801RX2 system.

NEC 98FELLOW PC-9801BX advertisement. Text: '98FELLOW PC-9801BX'. Includes image of the PC-9801BX system.

PC-88とPC-98、どちらのソフトも動く合体ハード

PC-98DO+

日本電気 1990年10月発売 本体価格 278,000円



ハイブリッドモデル 第2世代機

PC-98DO+は1989年に発売されたPC-98DOに続くDOシリーズ第2世代機として発売されたモデル。PC-9801とPC-8801のソフトがどちらも動作することがシリーズ最大のセールスポイントで、本体デ

ザインもPC-98のアーラインを取り入れつつ、PC-88のフロッピーディスクドライブ2台横並び配列という、双方のイメージを組み合わせたものとなっている。

型番を見てもわかる通り、「PC-8801のソフトも動作するPC-9801」というコンセプトであり、基本的に周辺機器はPC-9801用のものを使用する。逆にいえば

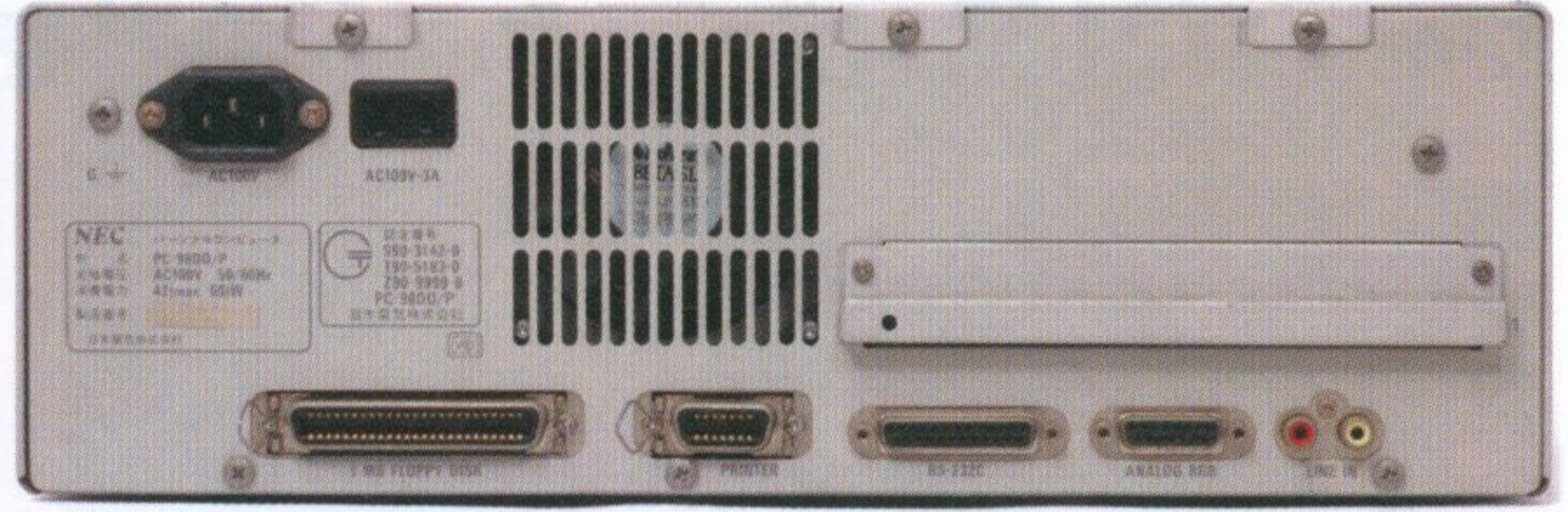
PC-8801用の拡張機器は一切使用することができず、メモリ増設やハードディスク、モデムなどを接続してもPC-9801用の機器として認識するだけでPC-8801側の拡張手段はない。そのため、本機におけるPC-8801部分はあくまで「PC-8801用ソフトが利用できるだけ」と割り切る必要がある。

PC-98DO+仕様

モード	98モード	88モード
CPU	V33A 16MHz	μPD70008AC 4/8MHz切り替え
ROM	N88-BASIC(86)およびモニタ 96Kバイト	N88-BASICほか128Kバイト
RAM	メイン 640Kバイト、テキストVRAM 12Kバイト、グラフィックVRAM 256Kバイト	メイン 192Kバイト、テキストVRAM 4Kバイト、グラフィックVRAM 48Kバイト
グラフィック機能	グラフィック表示:最大640×400ドット・最大4096色中16色 テキスト表示:80文字×25行・8色	グラフィック表示:最大640×400ドット・最大512色中8色 テキスト表示:80文字×25行・8色
サウンド出力	FM音源3音/SSG音源3音	FM音源6音/SSG音源3音/リズム音源8音/ADPCM1音
拡張スロット	1	なし
インターフェース	アナログRGB、フロッピーディスク、プリンター、RS-232C、キーボード、マウス	アナログRGB、ライン入力、プリンター、キーボード



■本体前面



■本体背面

改善された 拡張性の実力は

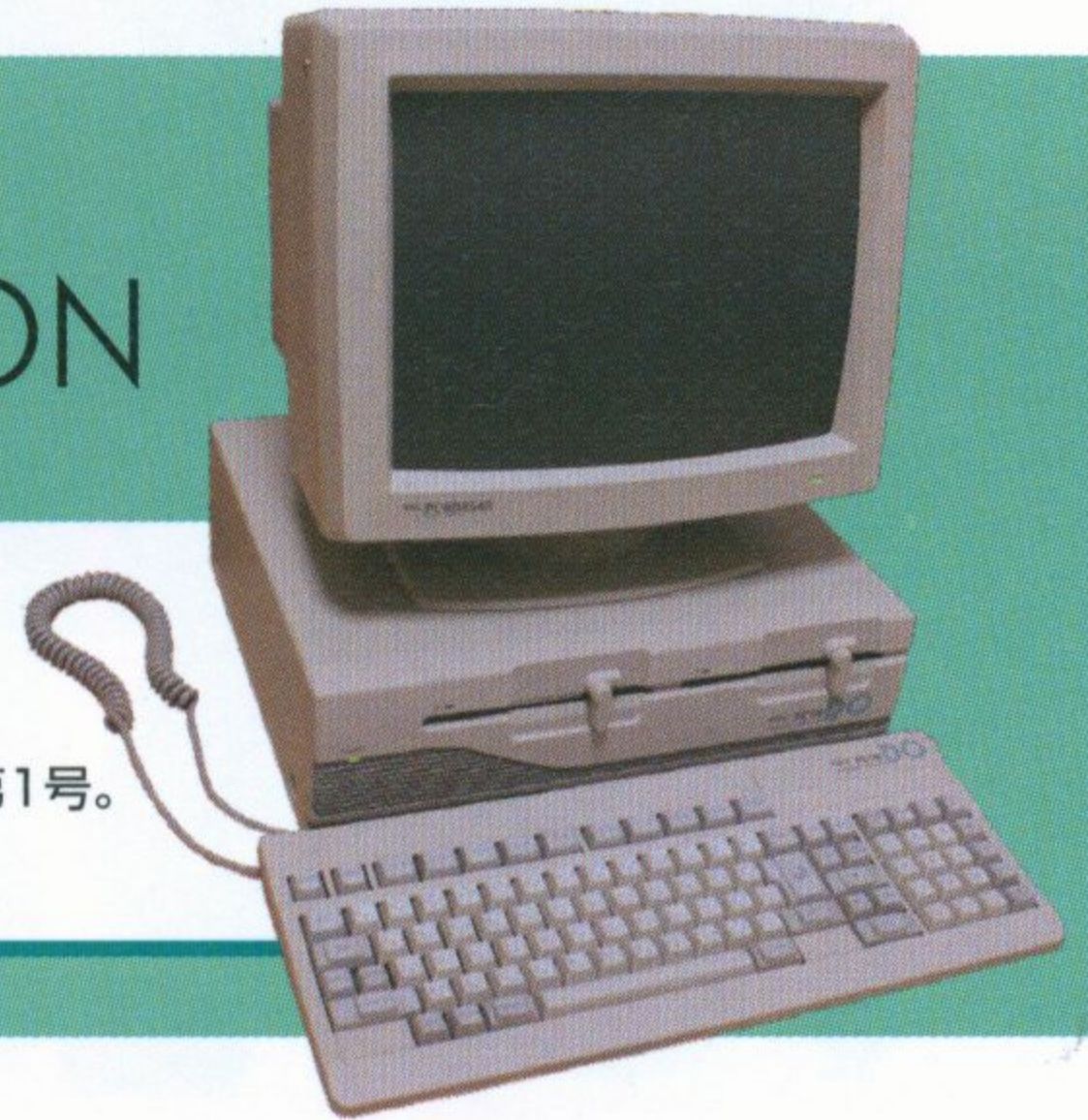
第1世代のPC-98DOはPC-9801用拡張スロットを1つしか持っていなかったため、「メモリとハードディスクを同時に増設」といったことができずに拡張性に大きく難のある製品であった。本機ではその反省から、スロット自体は1つだが増設FDD、内蔵ハードディスク、増設メモリに専用の拡張スロットを設けて、大幅に改善されている。またPC-8801側のサウンド機能もサウンドボードII相当にパワーアップしているため、ゲームを遊ぶくらいの利用目的であればほとんど不便に感じる事がなくなったのは大きな進化といえるだろう。



■キーボード

PC-98DO+ MODEL VARIATION

PC-98DO
1989年6月発売 298,000円
PC-9801とPC-8801のハイブリッド機第1号。
拡張性のなさが泣き所だった。



CATALOGUE

NEC PC-98DO+ NEC

ハートふたつのやさしいパソコン。

C.C. Computers and Communications

NEC PC-98DO誕生 NEC

●アーバンホワイトのコンパクトなボディに、高機能が凝縮されています。
●簡単なスイッチの切り替えで、88モードではPC-8801VMIIをベースにした機能も、88モードではPC-8801MA2をベースにした機能も利用できます。
●日本産ワープロなど約7,000種におよぶPC-8801シリーズ用ソフトに加え、PC-8801シリーズ用の多様なホビーソフトを利用することができます。
●1MBタイプ5インチフロッピーディスクを2台内蔵しています。
●サウンド機能を内蔵しているため、ゲームソフトなどでは迫力満点の効果音を楽しむことができます。
●88モードでは拡張スロットを1スロット利用可能。豊富なPC-8801シリーズ用の拡張ボードを利用することができます。

本体標準価格 298,000円(税別)
ソフト(8801用)

C.C. Computers and Communications

NECのパソコンはいま300万台。

NEC

あなたのできること、
もっと広げたい、
そんな気持ちをも
カタチにしました。

98と88が「兼手」した。ソフトの力で楽しみをつける、PC-98DO(ドゥ)誕生。

188モード PC-8801MA2をベースにした88モード。80000ドット/インチの高精細ディスプレイ、1MBタイプ5インチフロッピーディスクを2台内蔵、サウンド機能を内蔵している。また、88モードでは拡張スロットを1スロット利用可能。豊富なPC-8801シリーズ用の拡張ボードを利用することができます。

98プラス88、マルチで楽しもう。PC-98DO誕生

PC300万台達成感謝キャンペーン
いざNECのパソコンを買おうと、60分でパソコンが身近になる「パソコン体験」のチャンスが待ち受けています。
期間：7月31日まで
抽選で1,500名様に
C&C フェア

日本電気グループ

シャープ製コンピューターへの道を拓いたワンボードマイコンキット

MZ-40K

シャープ 1978年5月発売 本体価格 24,800円



正式な商品名は マイコン博士

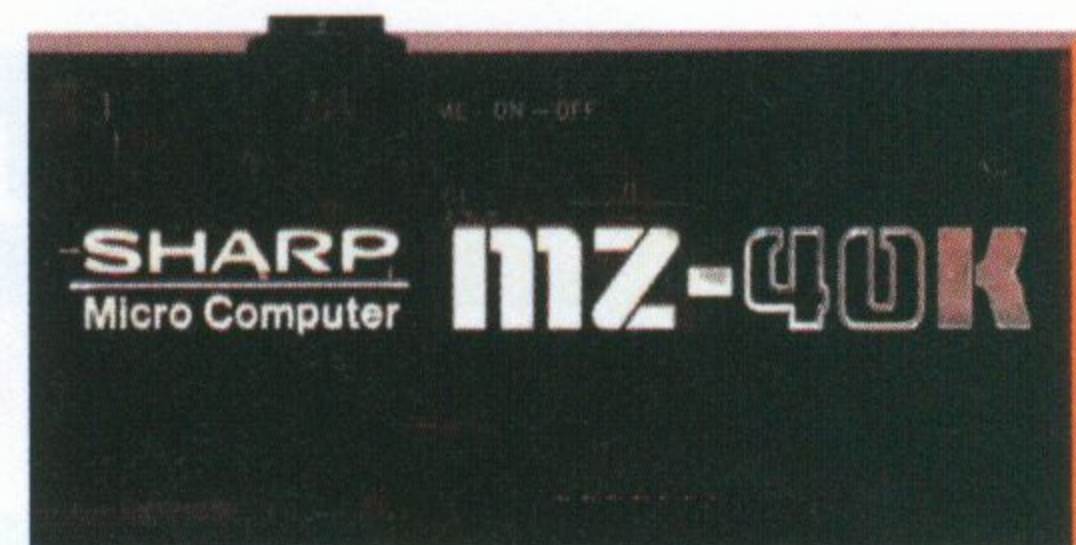
MZ-40Kはシャープが発売したマイコンキットである。NECのTK-80以降のワンボードマイコンキットブームの流れを受けてシャープ部品事業部が企画したもので、他社の類似製品に比べるとプログラム自体を開発することはできないため、厳密な意味でマイコンキットの範

疇ではないという向きもある。ただし、「自分で組み立てた製品が時計やタイマー、電子楽器になる」という楽しさを手軽に味わうことができるという意味で電子回路に親しむ入門向けキットとしては手頃な教材であった。

本製品の成功を受けて同社は本格的なパソコンMZ-80K開発への道を進むこととなり、エレクトロニクスのシャープの源流となった製品といえる。

MZ-40K仕様

CPU	富士通4bit ワンチップマイコン MB8843 1.7897725MHz
ROM	32バイト+256バイト
RAM	メイン 48Kバイト、テキストVRAM 1Kバイト
表示機能	7セグメントLED4桁
サウンド出力	内蔵スピーカーによる単音発声



▲天板に印刷された「MZ-40K」の文字。



▲マイコン博士のパッケージ。

各センサーを使ったいろいろな工夫

プロトセンサー 光センサー

リードスイッチ マイクロスイッチ

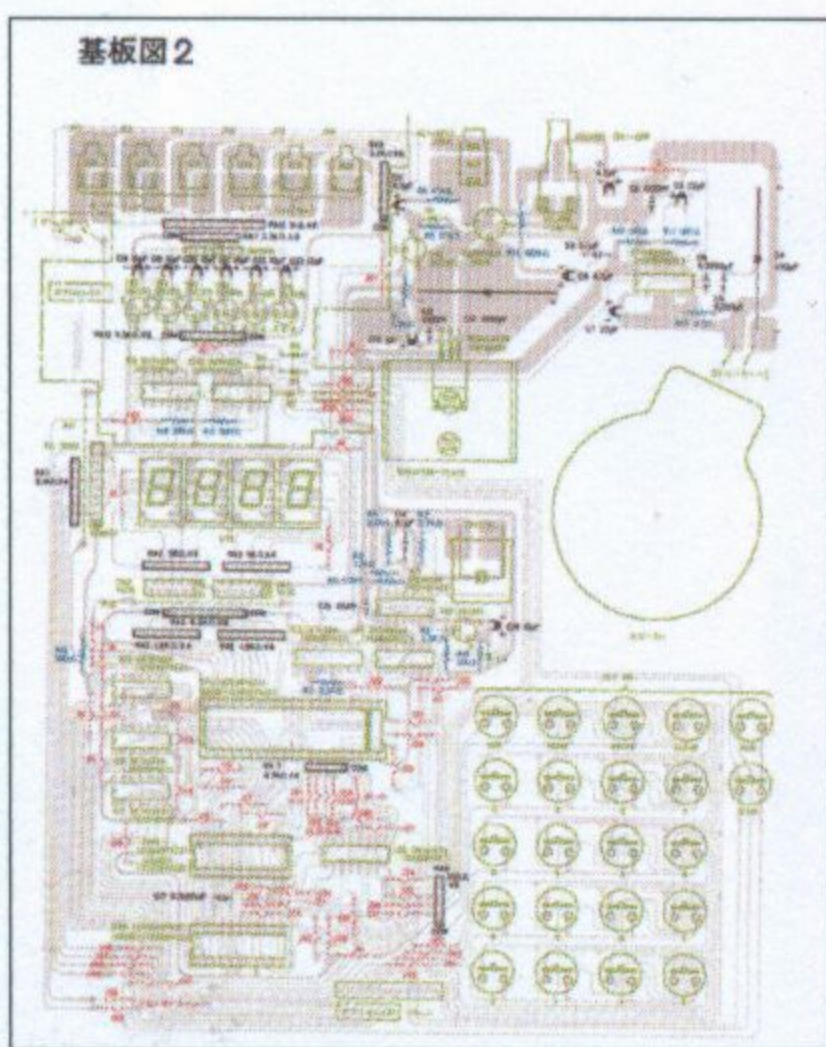
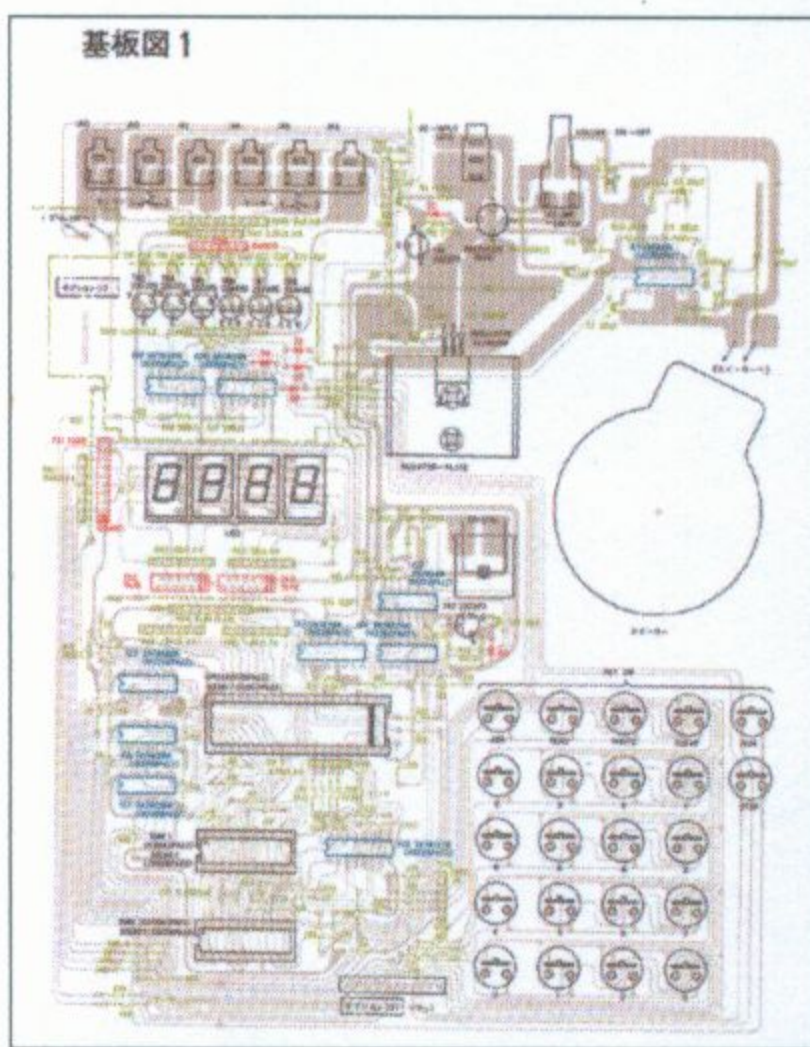
各センサーを使ったいろいろな工夫

プロトセンサー 光センサー

リードスイッチ マイクロスイッチ



■音符入力方法および活用例



■基板図

■本体背面

さまざまなゲームが遊べる

「サイコロ遊び」や「ルーレット」など、アイデア次第で遊べるゲームが入っている。「猛獣狩りゲーム」と「カーレース」はプレイ台紙も付属。

猛獣狩りゲーム

入力しかた

ゲームの進め方

カーレース

PIT PIT

◆ CATALOGUE

組立てから応用まで—
楽しみながらマイコンに強くなる

マイコン博士

いま流行のマイコンに強くなりたい……
というあなたにピッタリのトレーニング
キット——シャープマイコン博士。
マイコン入門に……
詳しい説明書によって、組立て
ながらマイコンの原理がわか
り、デジタル時計はもち
ろ、自動演奏からゲ
ームまでアイデアが
たいて楽しみ方
もいろいろ。

時計
1日時計デジタル表示

電話料金表示
電報を打たずに料金がわかる

自動演奏
電卓のついでに自動演奏も

タイマー
マイコンでタイマーも

キーボード演奏
マイコンとして楽しめる

ゲームコーナー
ゲームはアイデアがいっぱい

あなたのアイデアひとつで
オリジナリティあふれる楽しみ方ができます。

考える楽しさを発見できるマイクロコンピューター

楽しみ方いろいろ
オプション充実。

新発売

開発中

センサーオプション

プロトセンサー

光センサー

リードスイッチ

マイクロスイッチ (3個)

(マイコン博士 部品単体での図)

LED (x4)

CPU 中央処理装置 (MOS 6402)

RAM (x2) 128 x 8 (RAM)

RAM (x2) 128 x 8 (RAM)

IC (x1) 74157

電源

基盤

RAM/ネット

LED (x4)

ピンジャック

スピーカー

電源レギュレーター

CPU/ネット

仕様		電源		外形寸法	
AC100V (50/60Hz)	ATAC11V (TA-2000A)	10W	最大 60W	730φ	120φ

シャープ株式会社

〒100 東京都千代田区千代田 1-4-1 丸の内ビルディング 4F

TEL: 03-3256-1111 (代)

FAX: 03-3256-1112

営業時間: 午前 10:00~午後 6:00 (土曜・日曜・祝日を除く)

マイコン博士 部品単体での図

SHARP

楽しみながら、マイコンに強くなる

マイコン博士

セミキットで発売されたシャープ製パソコン第1号機

MZ-80K

シャープ 1978年12月発売 本体価格 198,000円



すべてが一体型 オールインワン

MZ-80Kはシャープが初めて発売した個人向けパソコンである。完成品ではなくセミキット（半完成品）の状態の販売され、自分で組み立てる必要があった。もっとも、重要なパーツはある程度組み立て済みであり、キットとは言っても高度な技術がなくても組み立て可

能である。日立のベーシックマスター（P.72）と国産パソコン第1号機を競っていたが、データレコーダーの開発に手間取り、ベーシックマスターから遅れること3ヶ月後に発売。惜しくも第1号の座を逃している。

一番の特徴として挙げられるのがモニターやデータレコーダーが一体化された特異な外観であり、これが初期MZシリーズの大きな特徴となっている。キー

ボード右側のスペースは試作段階では電源スイッチがあった場所で、不用意に電源を触る事故を防ぐために電源スイッチは本体背面に移動させたという。

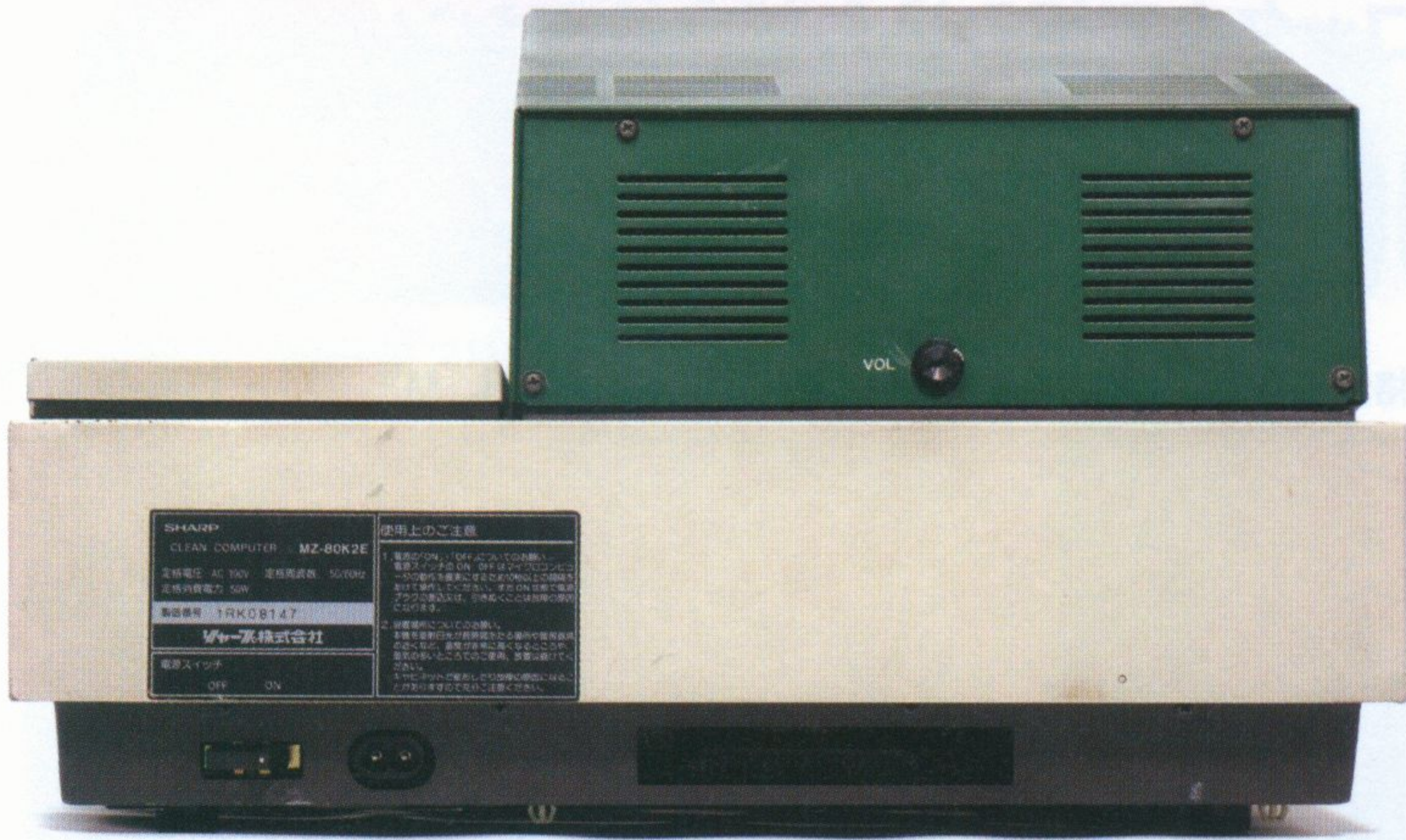
BASICは毎回テープから読み込む必要がある、シャープ製パソコンではおなじみのクリーン設計を第1号機の時点から採用。BASICを使わなければ丸々

MZ-80K仕様

CPU	LH0080A(Z80A互換) 2MHz
ROM	CGROM 2Kバイト、モニタ4Kバイト
RAM	メイン 48Kバイト、テキストVRAM 1Kバイト
グラフィック機能	10型グリーンフェイスCRT内蔵 テキスト表示:40字×25行
サウンド出力	ビーブ音による単音



▲格子状に配置された特徴的なキーボードレイアウト。



■本体背面 (写真はMZ-80K2E)



■キーボード (写真はMZ-80K2E)

フリーエリアとして使用できるなど、開発の自由度が高いことからマニアに支持され、ソフトメーカーだけでなく、個人からも様々なゲームが多数リリースされた。

MZ-80K MODEL VARIATION



MZ-80K2

1983年3月発売 198,000円
完成品として発売されたMZ-80K。



MZ-80B

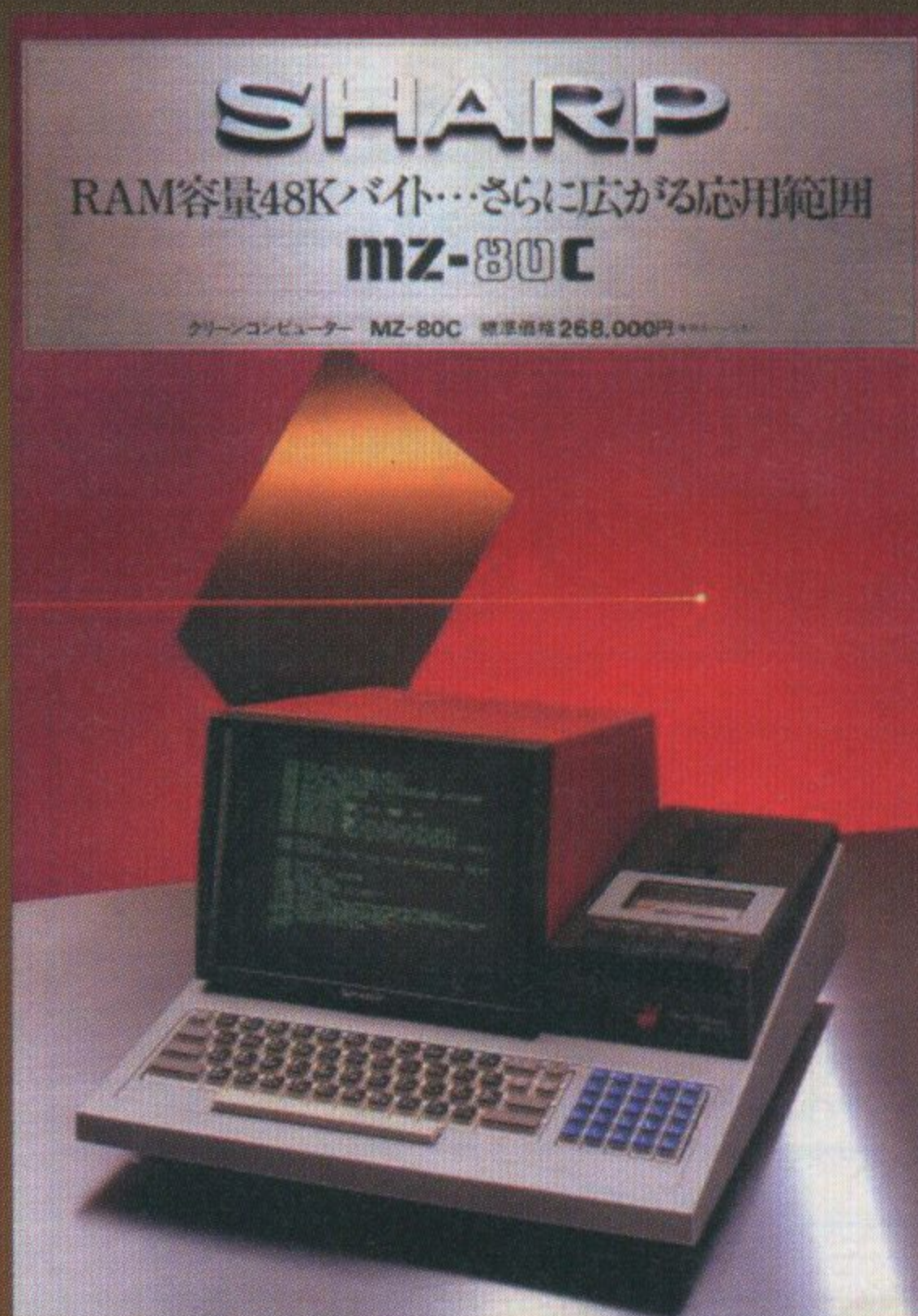
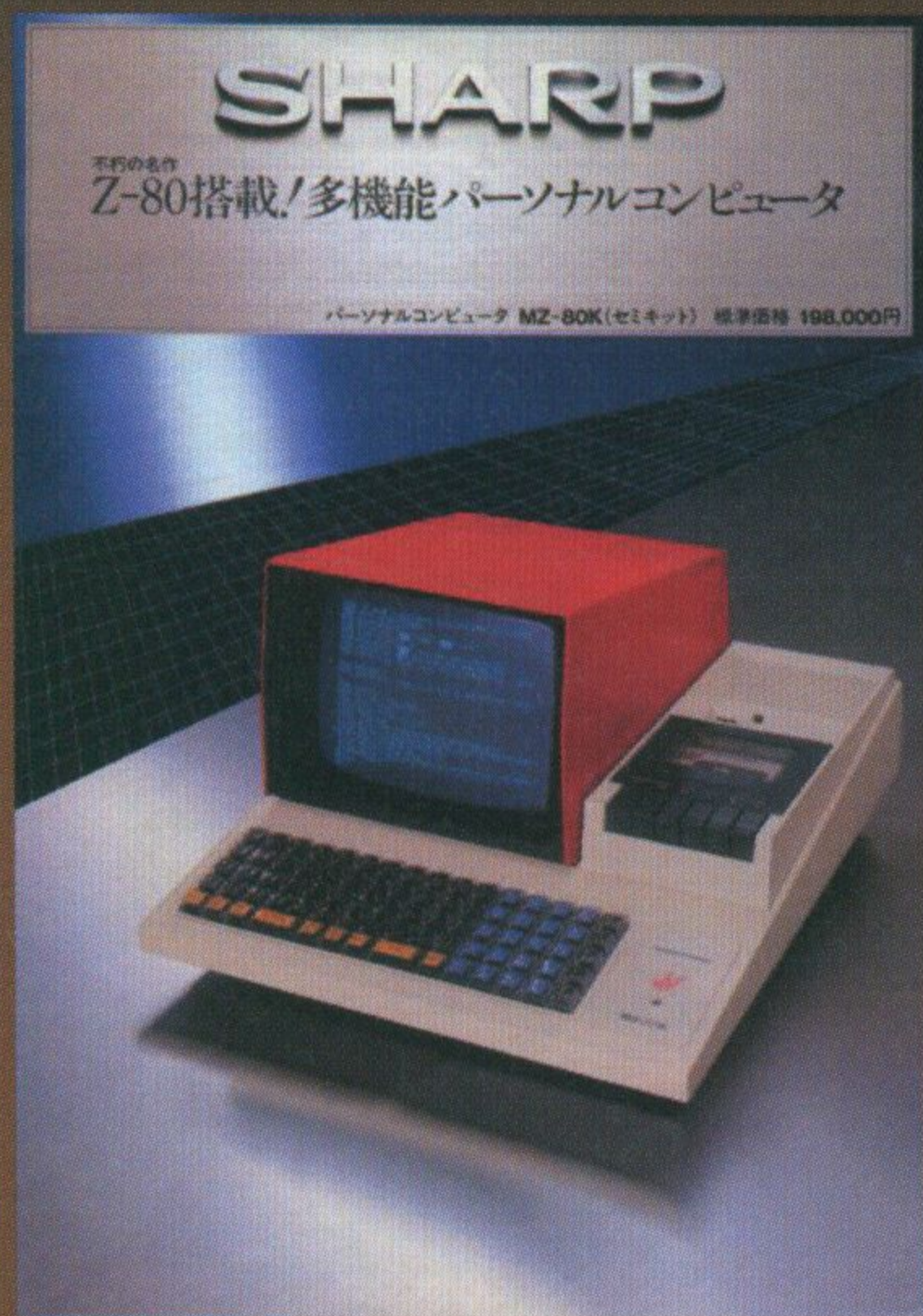
1981年4月発売 278,000円
メモリを64Kバイト搭載し、本体デザインも一新してスタイリッシュになった。



MZ-1200

1982年7月発売 148,000円
海外モデルを日本向けに逆輸入発売したモデル。

◆ CATALOGUE



データレコーダーからプロッタまで組み込んだ合体マシン

MZ-700

シャープ 1982年11月15日発売 本体価格 MZ-711 : 79,800 円、MZ-721 : 89,800 円、MZ-731 : 128,000 円



スタイル一新で 身近になったMZ

MZ-700はシャープのMZシリーズの後継機として発売されたパソコンである。それまでのモニター一体型のデザインから一新して、キーボード一体型の

デザインを採用。モニターは家庭用テレビに接続できるようにして値段を一気に下げている。

従来のソフトはそのまま共通して使えるほか、文字キャラクター1文字に8色中2色の色を割り当てることから、擬似的にグラフィックを表現する

ことができるのが大きな特徴である。この表現手法は当時のパソコンの水準においても決して優れた表示能力とはいえなかったものの、むしろ本機でしか出せない独特の味わい深さを醸し出して

MZ-700仕様

製品名	MZ-711	MZ-721	MZ-731
データレコーダー	オプション		内蔵
カラープロッタプリンタ		オプション	内蔵
CPU	Z80A 3.58MHz		
ROM	CGROM 4Kバイト、モニタ4Kバイト		
RAM	メイン 64Kバイト テキストVRAM及び、アトリビュートVRAM 4Kバイト		
グラフィック機能	テキスト表示:40字×25行8色		
サウンド出力	3オクターブ単音		
インターフェース	デジタルRGB出力、コンポジットビデオ、RF信号、ジョイスティック、カセットテープ、プリンター		



▲MZ-700のパッケージ。



■本体背面 (写真はMZ-721)

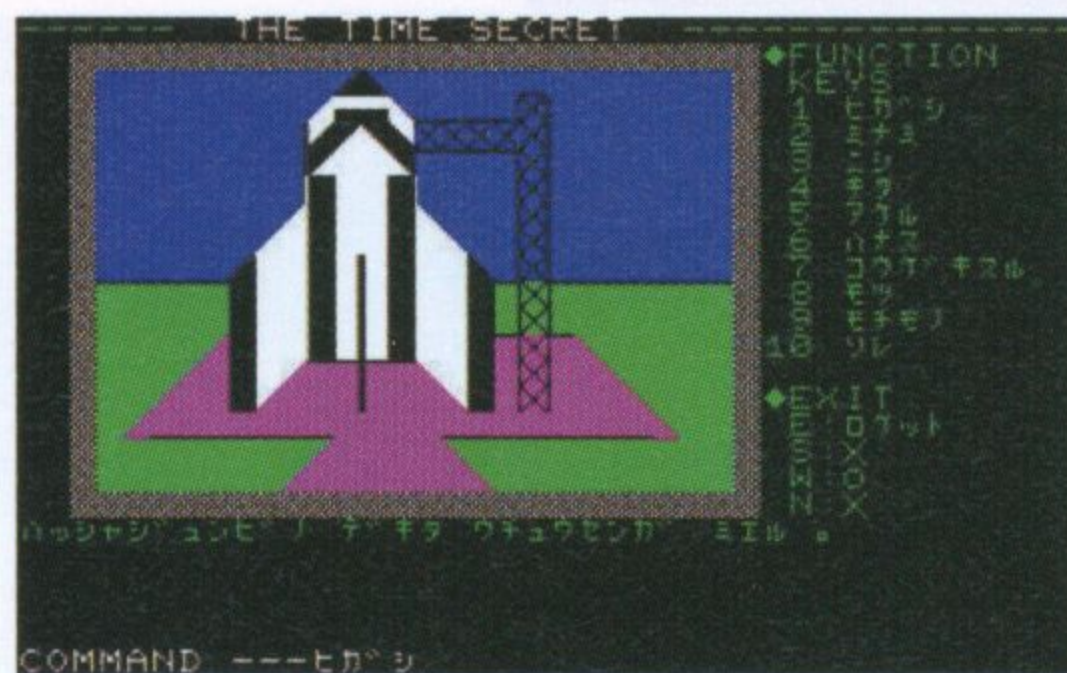


■キーボード (写真はMZ-721)

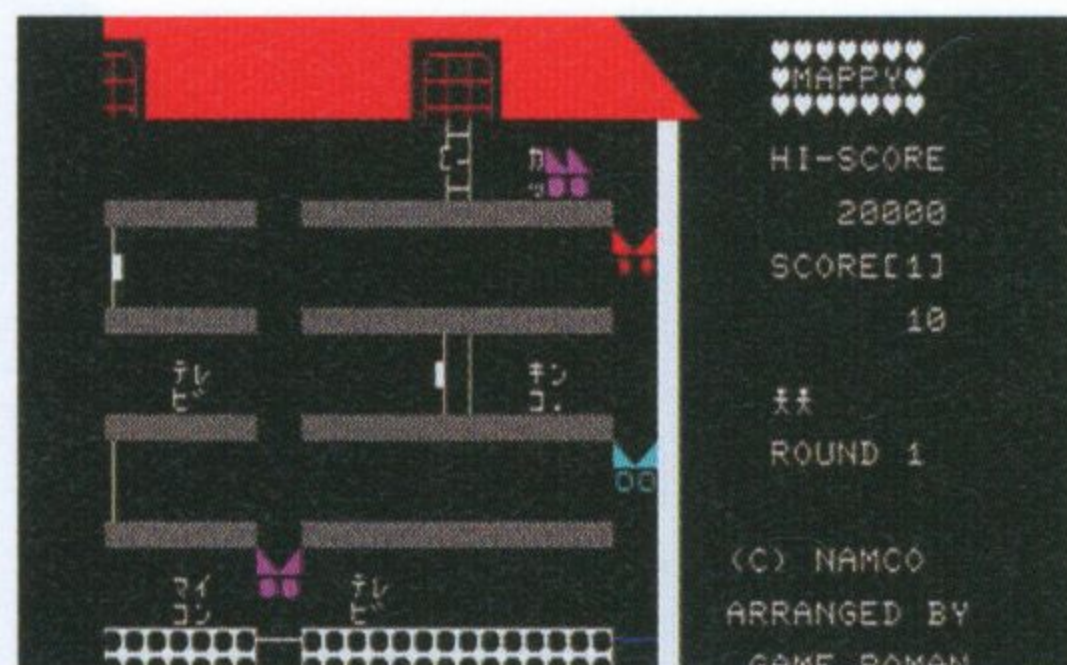
おり、それゆえに逆にMZ-700という機種
の魅力を際立たせることとなったのか
もしれない。

後続機種が発売されシャープ自身が
発売終了した後もMZ-700は熱心な

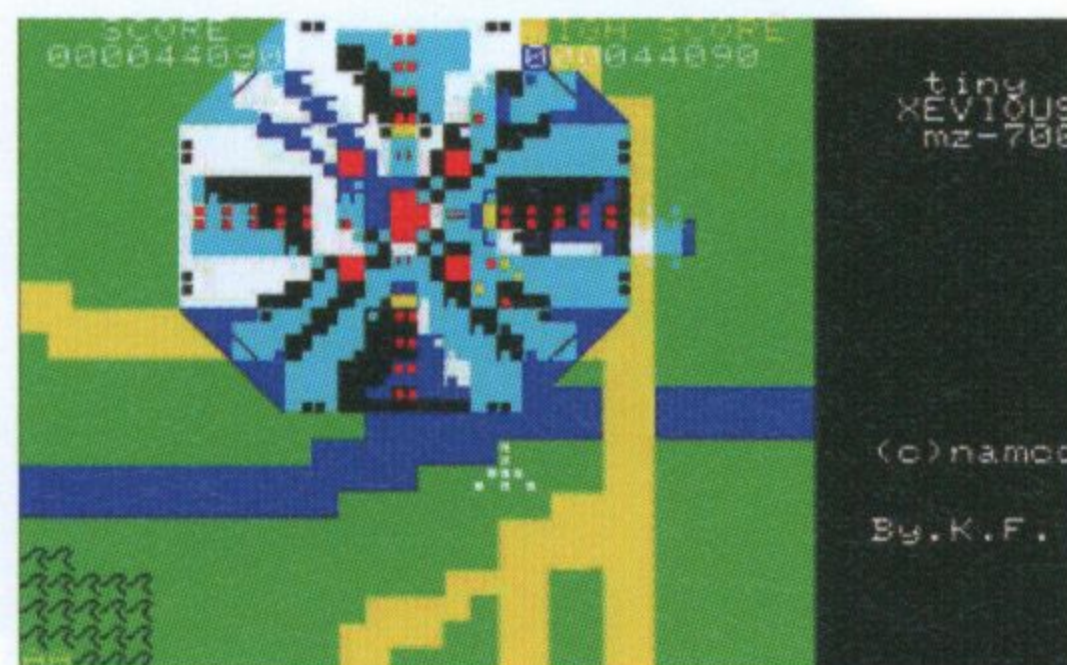
ユーザーに支えられ、専門誌『Oh!MZ』
では読者を驚かせるようなプログラムが
多数掲載されていた。それらの完成度
の高さから「MZ-700に不可能はない」
という言葉まで生まれ、草の根活動の



▲「タイムシークレット」(ポンドソフト)。ダナーク人から地球を
護ることが目的の本格SFアドベンチャーゲーム。



▲「マッピー」(電波新聞社)。盗品を文字で表現する大胆
な移植に脱帽。PCGを搭載すると見栄えは格段に良くなる。



▲Oh!MZに掲載された個人移植の「ゼビウス」。「MZ-700
に不可能はない」を体現したような出来栄であった。

底力を感じさせるエピソードとして語り継
がれることとなった。

CATALOGUE

SHARP
大なる発展性を秘めて、優れたコストパフォーマンス。

● 標準搭載の高性能CPU Z8013 (8MHz) 搭載
● メインメモリが16KB (RAM) 搭載
● 標準搭載の高速ディスクドライブ (5.25インチ) 搭載
● 標準搭載の高速ディスクドライブ (5.25インチ) 搭載
● 標準搭載の高速ディスクドライブ (5.25インチ) 搭載

システムにすると本格的
違いがわかる MZ-700

本体は399円
自由に選べる
標準搭載のカラーディスプレイ
標準搭載のハードディスク
標準搭載のプリンター

標準搭載のハードディスク
標準搭載のプリンター

標準搭載のハードディスク
標準搭載のプリンター

標準搭載のハードディスク
標準搭載のプリンター

クイックディスクを搭載したホビー志向MZの進化形

MZ-1500

シャープ 1984年6月1日発売 本体価格 89,800 円



画面を埋め尽くす 強力なPCG

MZ-700の後継機として開発されたMZ-1500はグラフィック面やサウンドを大幅に強化したホビーパソコンである。

画面を敷き詰められるほどの強力なPCGは、厳密な意味でグラフィックではな

いがドット単位での絵を描けるほどの能力を持ち、DCSGながら6重和音ステレオを実現したサウンド機能も強力といえる。

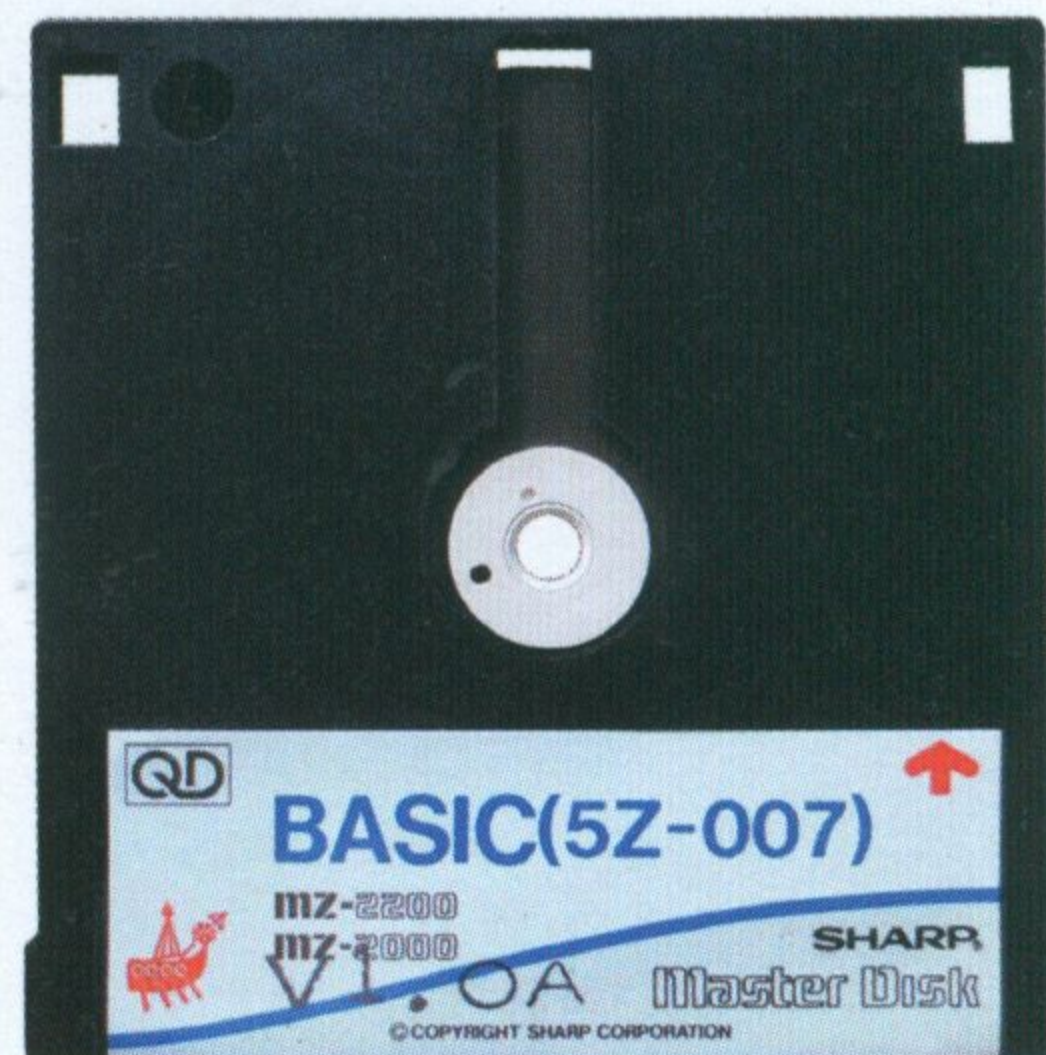
また、カセットテープに代わって採用したクイックディスクによって、大容量を手軽に扱えるようになった点も大きな特徴である。クイックディスクはフロッピーディスクに比べて読み書きの速度は遅く、ランダ

ムアクセスができないという欠点があるものの、ドライブもディスクも安価なためホビー用途としては非常に適したメディアであった。

アクションゲームに強く、対応ソフトも

MZ-1500仕様

CPU	Z80A 3.58MHz
ROM	CGROM 4Kバイト、モニタ12Kバイト
RAM	メイン 64Kバイト テキストVRAM及び、アトリビュートVRAM 4Kバイト グラフィック(PCG)VRAM 24Kバイト
グラフィック機能	テキスト表示:40字×25行・8色 グラフィック(PCG)表示:320×240ドット・8色
サウンド出力	DCSG音源 6重和音+ノイズ2(SN76489×2)ステレオ
インターフェース	デジタルRGB出力、コンポジットビデオ、RF信号、ジョイスティック×2、カセットテープ、プリンター



▲クイックディスクは大きさこそ3.5インチフロッピーディスクに近いが、シャッターがなく磁性面がむき出しである。



■本体背面



■キーボード

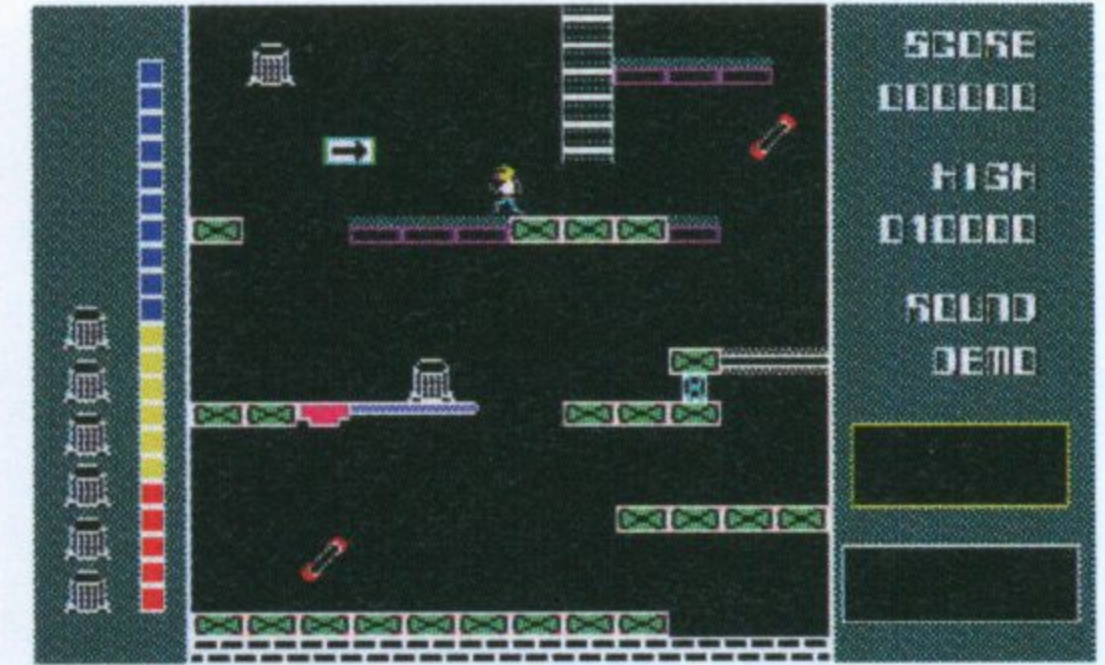
多数リリースされた。広告でもカラフルなグラフィックや対応ソフトの多さを強調しており、自分でプログラムを作るユーザーではなく、ソフトを楽しむユーザーを狙っ

た展開といえる。まさに「使っていて楽しいパソコン」といえるだろう。

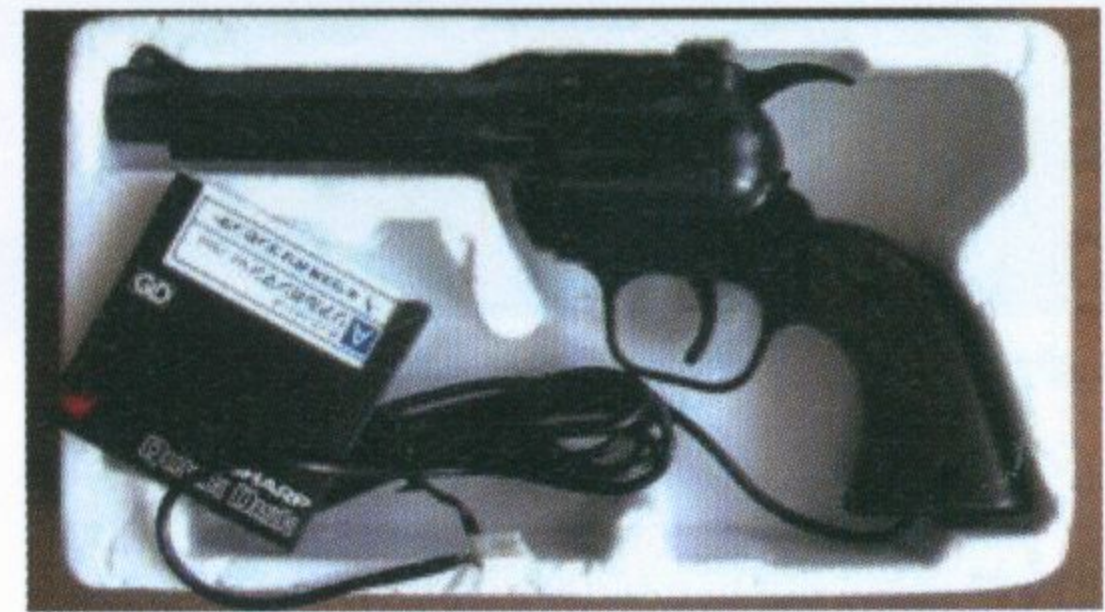
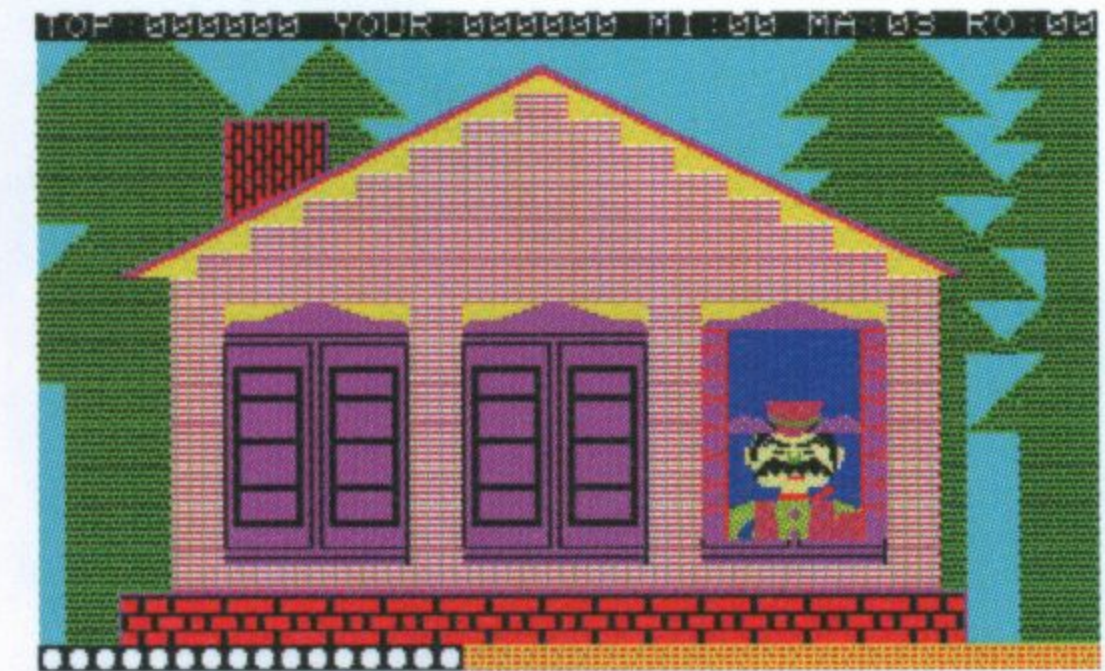
▶「リアルガンマセット」(ウスキパソコンセンター)。パソコンでは珍しいガンシュー。拳銃は任天堂のOEMだった。



▲「ホピンス」(電波新聞社)。「ホッピングマッピー」を彷彿させるアイテム回収型のアクションゲーム。



▲「マジックファクトリー」(コムパック)。エネルギーを全部取ると脱出できるロードランナーライクなゲーム。



CATALOGUE

SHARP

本気で取り組みたい人に、新開発。
新しい発展力を持ったトライアングル設計。

パーソナルコンピュータ **mz-1500** 標準価格 89,800円

SHARP

“走りの違いで夢中にさせる。高速QD搭載。”
クリーン設計、RAMファイル、新しい発展力を持ったトライアングルMZ。

パーソナルコンピュータ **mz-1500** 標準価格 89,800円

SHARP

7つのソフトがパックになって新登場

JOY JOY PACK

これなら家族で使えるネ。

みんな

SHARP 株式会社

mz-1500

カラーグラフィックまで手に入れた究極のオールインワン

MZ-2000

シャープ 1982年発売 本体価格 218,000円



MZ-80Bを踏襲 した精悍な外観

MZ-2000はシャープのパソコン、MZシリーズの伝統的なオールインワンボディを踏襲した製品である。MZ-80B(P.35)の後継機種として発売された流れから本体デザインもMZ-80Bの兄弟機であることを感じさせる。データレコーダーが縦向

きに配置されている点が本機のデザイン上の特徴となっており、これによって本体サイズの小型化に成功した。なお、本機の型番である「2000」は内蔵データレコーダーの読み込み速度である2000ボートに由来しており、シャープの自社技術に対する自信が伺える。

本機の性能面での特徴としては、シャープ純正による本格的なカラーグラ

フィックスへの対応が挙げられる。オプションのグラフィックボードおよび追加のグラフィックRAMが必要という条件こそつくものの、640×200ドットの解像度でドット単位8色カラー表示が可能という、当時

MZ-2000仕様

CPU	LH0080A(Z80A互換) 4MHz
ROM	CGROM 4Kバイト、モニタ4Kバイト
RAM	メイン 64Kバイト、テキストVRAM 2Kバイト、グラフィックVRAM 48Kバイト(オプション)
グラフィック機能	10型グリーンフェイスCRT内蔵 テキスト表示:最大80字×25行 グラフィック表示(オプション):最大640×200ドット・8色
サウンド出力	ピープ音による単音
インターフェース	オプションの拡張I/Oポートを介して、各種周辺機器、計測機器の接続が可能



▲MZ-2000のパッケージ。

MZシリーズの究極進化形

スーパーMZ

シャープ 1985年10月発売 本体価格 MZ-2511 : 168,000円、MZ-2521 : 198,000円



究極の8ビット パソコンが登場

スーパーMZ (MZ-2500シリーズ) は、前ページで紹介したMZ-2000・2200の後継機種として発売されたパソコンで

ある。それまでのオールインワンボディから一転、本体とキーボードを分離したセパレートデザインを採用し、従来のMZシリーズから大きく印象が変わった製品となった。モード切り替えによってMZ-80Bのソフト資産まで扱えるようになっ

ており、その一方で当時の他社8ビットパソコンを凌ぐ性能から、「究極の8ビットマシン」と表現された。

最大256色+スクロール機能を持ったグラフィック画面とFM音源、他機種からのソフト移植がしやすいように配慮

スーパーMZ仕様

製品名	MZ-2511	MZ-2521
ディスクドライブ	フロッピードライブ1基	フロッピードライブ2基
CPU	Z80B 6MHz	
ROM	システム32Kバイト、JIS第一・第二水準漢字ROM256Kバイト	
RAM	メモリ128Kバイト(最大256Kバイト) グラフィック用VRAM 64Kバイト(最大128Kバイト) PCG他 14Kバイト	
グラフィック機能	テキスト表示:最大80字×25行・最大64色 テキスト機能:最大1024個のPCG定義可能 グラフィック表示:最大640×400ドット・最大256色 グラフィック機能:ハードウェアスクロール、パレット機能	
サウンド出力	FM音源3音+SSG3音(YM2203)	
インターフェース	アナログRGB出力、コンポジットビデオ、モノラル音声、プリンター、ジョイスティック×2、RS-232C×2、フロッピーディスク、マウス、キーボード	



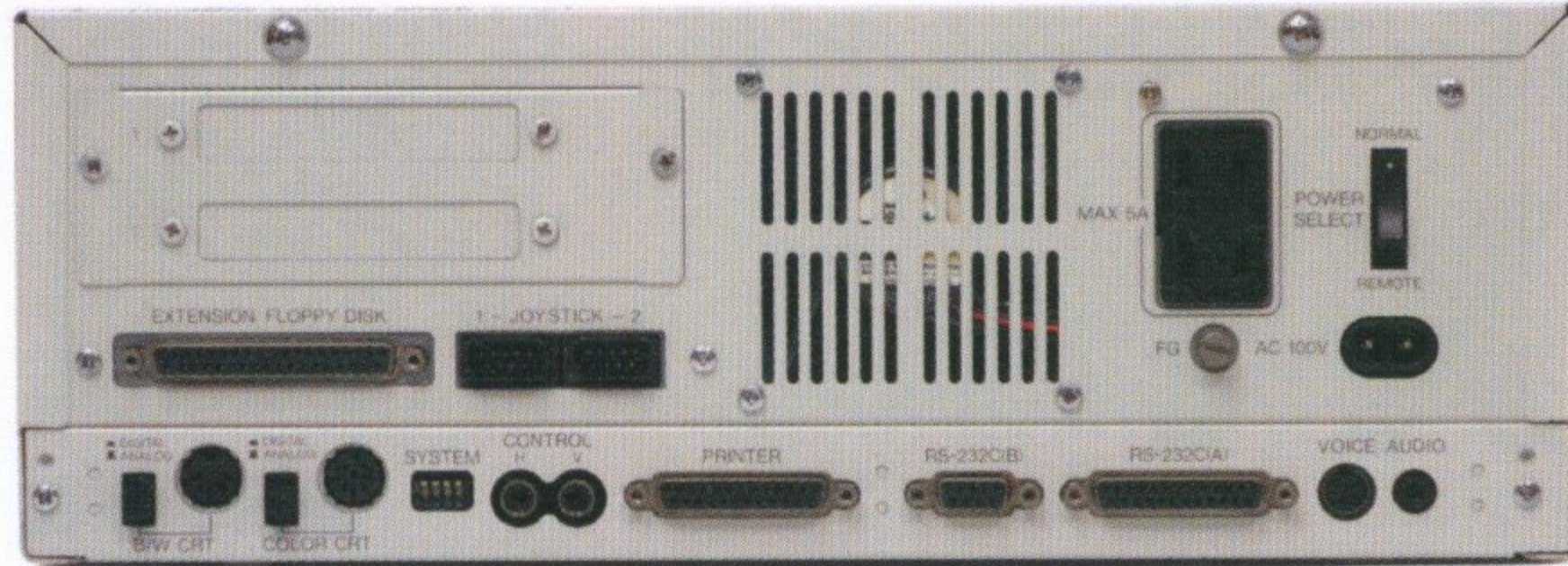
▲天板に印刷された「MZ-2500」のロゴがかっこいい。



■本体前面

された強力なメモリ管理機能を搭載。さらにテキストで漢字が扱える漢字テキストVRAMまで装備し、まさに隙がないスペックといえる。

しかし、他機種から移植しやすいハードということは、言葉を返せばソフトラインナップが他機種からの移植頼りになっていたのも事実であり、スーパーMZの性能を生かした専用ソフトは電波新聞社など一部のメーカーからの供給にとどまった。



■本体背面



■キーボード



▲MZ-2500版「ゼビウス」(電波新聞社)。スムーズスクロールやメタリックなグラフィックで人々を驚かせた。



▲付属のテープから肉声を再生させた「ムーンチャイルド」(HOT-B)。MZ-2500版の特性を生かしたRPGだ。

CATALOGUE

SHARP パソコン MZ-2500シリーズ

通信機能を搭載し、ニューメディアに対応。衝撃のハイパフォーマンス、「スーパーMZ」誕生。
パーソナルコンピュータ MZ-2500シリーズ Model 2500-2511-1511-1512-1513-1514-1515-1516-1517-1518-1519-1520-1521-1522-1523-1524-1525-1526-1527-1528-1529-1530-1531-1532-1533-1534-1535-1536-1537-1538-1539-1540-1541-1542-1543-1544-1545-1546-1547-1548-1549-1550-1551-1552-1553-1554-1555-1556-1557-1558-1559-1560-1561-1562-1563-1564-1565-1566-1567-1568-1569-1570-1571-1572-1573-1574-1575-1576-1577-1578-1579-1580-1581-1582-1583-1584-1585-1586-1587-1588-1589-1590-1591-1592-1593-1594-1595-1596-1597-1598-1599-1600

SHARP パソコン MZ-2500

通信機能も、日本語処理機能も、さらに強化……いま、未踏の領域へ「スーパーMZ」V2出現。
パーソナルコンピュータ MZ-2531 標準価格199,800円

SUPER MZ MODEL VARIATION

MZ-2520
1986年12月発売 159,800円
各種端子や周辺機器への対応を省き、低コスト化を実現した廉価モデル。

MZ-2531
1986年10月発売 199,800円
MZ-2521でオプションだったメインメモリやVRAMを標準搭載し、音声通信などの機能を搭載したモデル。

パソコンとテレビが一体になった! AVパソコンのはしり

X1

シャープ 1982年11月発売 本体価格 155,000円



家電的な視点で 作られたパソコン

X1はシャープのテレビ事業部が開発したパソコンである。既に同社にはMZシリーズが存在していたが、テレビ事業部ならではの独自のAV志向が強く反

映され、「家電のようなパソコン」というテレビの活用先にありきのスタンスで開発が進められた。本体カラーに3色のカラーバリエーション展開を持たせるなど、従来のパソコンにない概念が多数持ち込まれている。

特徴的なのが世界初のスーパーイン

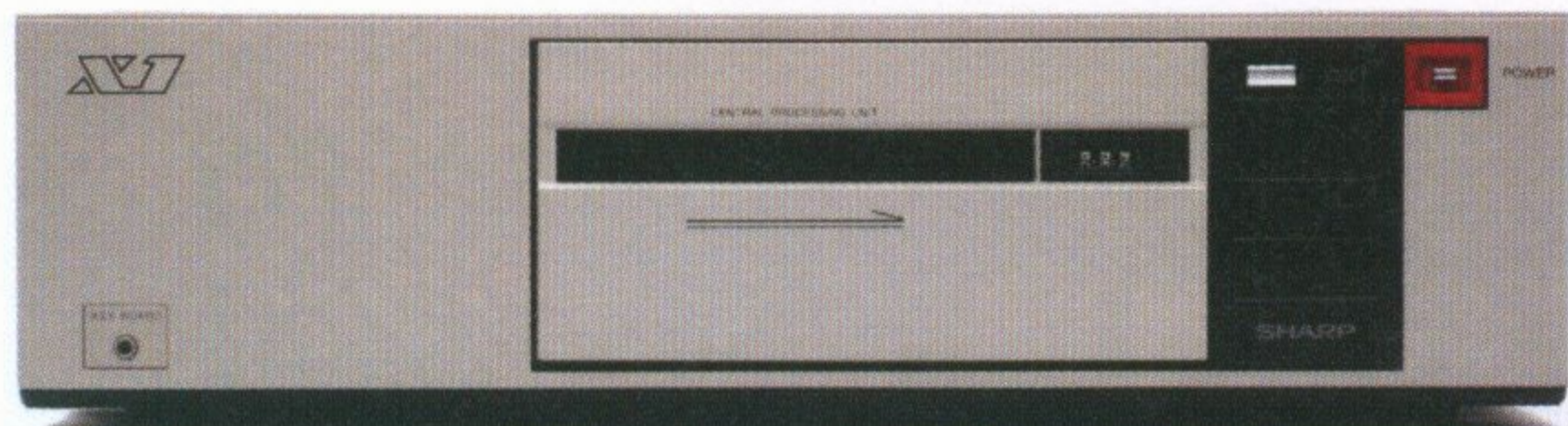
ポーズ機能と、TVチューナーを内蔵した専用モニターの存在であり、専用モニターとパソコン本体、キーボードの横

X1仕様

CPU	LH0080A(Z80A互換)4MHz、80C48、80C49
ROM	IPL用ROM 4Kバイト、CG-ROM 2Kバイト
RAM	メモリ 64Kバイト、VRAM 4Kバイト(最大52Kバイト)、PCG用RAM 6Kバイト
グラフィック機能	テキスト表示:最大80字×25字・8色 テキスト機能:反転文字、点滅文字、縦・横・縦横2倍文字可能 グラフィック表示:最大640×200ドット・8色(オプションのグラフィックRAMが必要)
サウンド出力	PSG音源 8オクターブ3重和音(AY-3-8910相当)
インターフェース	デジタルRGB、テレビコントロール、モノラル音声、プリンター、キーボード、ジョイスティック×2



▲X1のパッケージ。



■本体前面

幅サイズがすべて同じというこだわりようであった。セットにしたときのスタイリッシュな外観も好評で、それまで割と外観デザインに無頓着だった各社のパソコンにおいて、大きな影響を与えている。

PCGによる高速なゲームが嬉しい

X1はテキストとグラフィックが同時に使える上に重ね合わせの優先順位を自在に変えられるという、アクションゲームのように動作速度が要求されるゲームに有利な設計。ドット単位で色指定できる強力なPCG機能のおかげもあって、アーケードゲームの移植はもちろんオリジナルのアクションゲームやシューティングゲームも多数リリースされた。なお、それらの開発においてはスクロールする背景にPCG、キャラクターなどにグラフィックという構成が一般的で、『サンダー



■本体背面



■キーボード

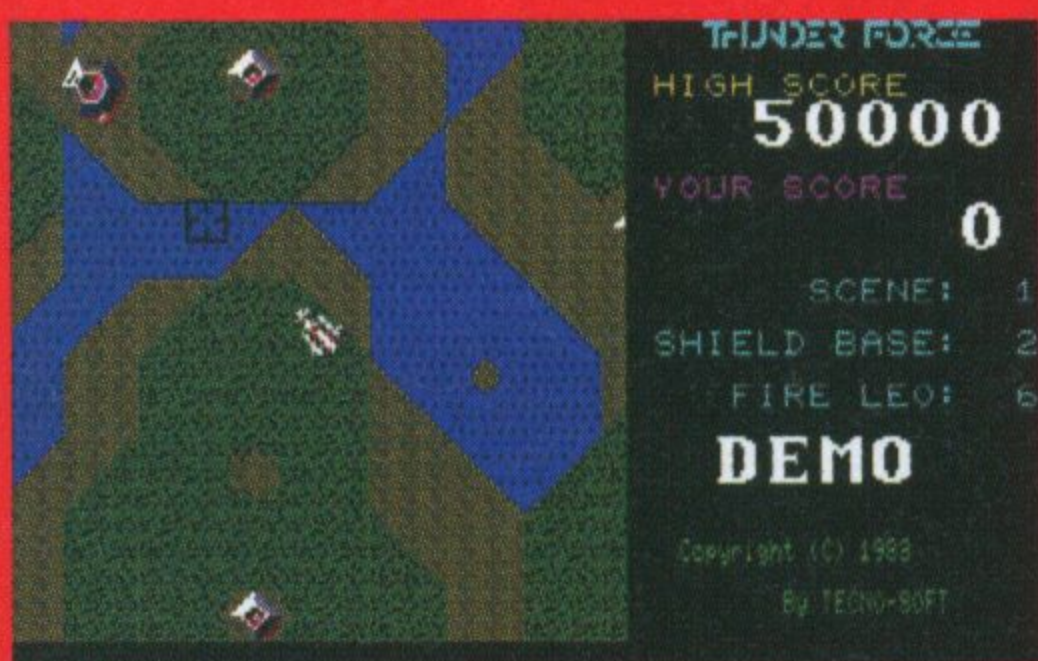
フォース』の他機種を圧倒するスクロール速度は語りぐさとなっている。

強力なステレオ8重和音のFM音源

サウンド機能は長らく標準のPSG3音のみという凡庸なスペックだったが、1986年に発売されたFM音源ボードはナ

ムコやコナミ、セガなど名だたる当時のアーケードゲームが採用していたものと同じYM2151を搭載しており、強力な音楽表現を可能にした。そのため、FM音源ボード発売以降のほとんどのゲームソフトは当然のように対応。X1ユーザーにとってFM音源ボードは実質的なマストアイテムとなった。

X1で発売された名作ゲームたち



サンダーフォース (テクノソフト)



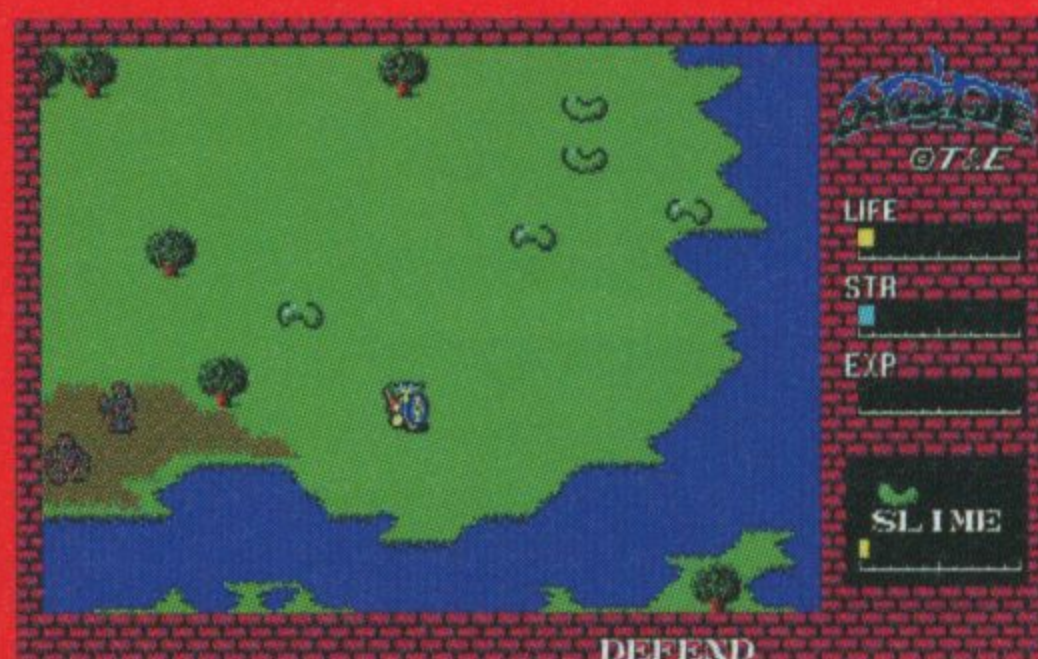
ブレインブレイカー (エニックス)



ゼビウス (電波新聞社)



アスピックススペシャル (クリスタルソフト)



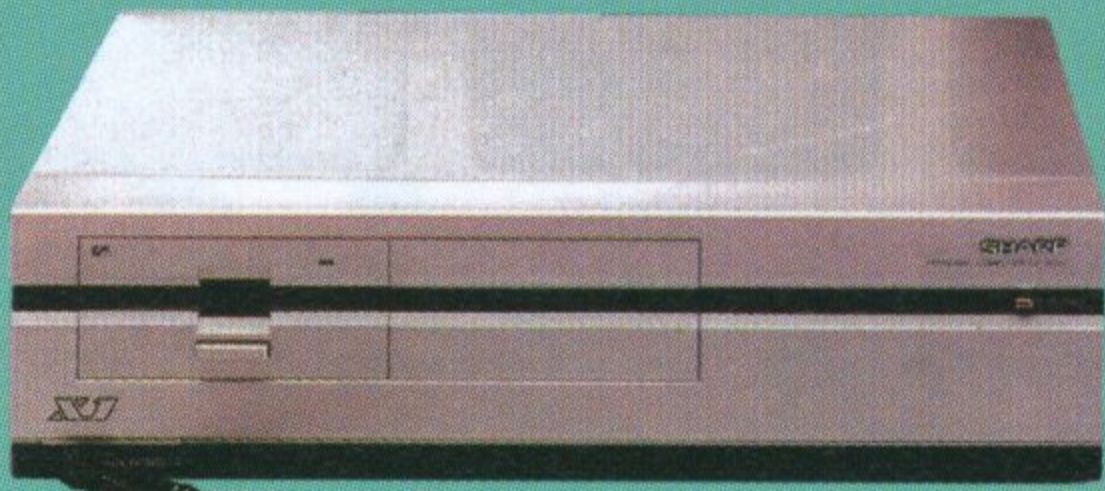
ハイドライド (T&Eソフト)



ユーフォリー (システムサコム)

X1 MODEL VARIATION

SHARP



X1C

1983年10月発売 155,000円
本体とキーボードを一体化した省コスト、省スペースモデル。



X1D

1983年10月発売 198,000円

3インチフロッピーディスクドライブを1基内蔵したモデル。



X1G

1986年7月発売 69,800円~

シリーズ唯一の縦横両置きが可能な機種。家庭用テレビへの接続やジョイパッド標準装備など、ゲームに最適な機種といえる。



X1Cs

1984年7月発売
119,800円

X1Cに拡張I/Oポートを標準装備して拡張性を重視したモデル。

X1Ck

1984年7月発売
139,800円

X1CsにJIS第1水準漢字ROMを標準装備して漢字表示を可能にしたモデル。



X1twain

1987年12月発売 99,800円

家庭用ゲーム機HEシステム（PCエンジン）を内蔵したX1の5周年記念モデル。



X1F

1985年7月発売
139,800円

グラフィックの描画速度を大幅に高速化したNEW BASICを搭載。



CATALOGUE

SHARP
ゲームの迫力が凄く、魅力のC.G.が素晴らしい。
グラフィック能力で選ばれる、話題のベストセラー機。



いま、コンピュータ映像のクロスオーバー！
世界初。

パソコンテレビ X1F

パナソニック・コンピュータキーボード CZ-800C 標準価格 188,000円
パナソニック・15インチディスプレイ CZ-800D 標準価格 113,000円
CZ-800C/D 標準価格 301,000円

これこそ究極の8ビットパソコン
ビギナーからエキスパートまですべてを魅了する柔軟設計。

シャープの8ビットパソコンは、パーソナルコンピュータの発展的システムを実現。パソコンとしての機能を拡大し、テレビの能力を一気に高め、テレビとして楽しむこともできる。しかも、テレビとして楽しむこともできる。しかも、テレビとして楽しむこともできる。

動きがからかう、表現力がからかう。グラフィックはまさに最先端。

SHARP-HUBASIC
SHARP-HUBASICは、8ビットパソコンの中で最も柔軟な設計を採用。しかも、テレビの能力を一気に高め、テレビとして楽しむこともできる。しかも、テレビとして楽しむこともできる。

機種	CPU	ROM	RAM	ディスプレイ	キーボード	標準価格
Model 10	Z8000	256	128	15インチ	標準	188,000円
Model 20	Z8000	256	128	15インチ	標準	188,000円
Model 30	Z8000	256	128	15インチ	標準	188,000円

シャープ株式会社

SHARP
X1は、成長が楽しみです。
パソコンテレビ X1Fシリーズ



キミは、もう、驚異のグラフィックスに
コンピュータとテレビ・ビデオ・ビデオディスクのエキサイティングな結合。

触れよ！

SHARP-HUBASICは、8ビットパソコンの中で最も柔軟な設計を採用。しかも、テレビの能力を一気に高め、テレビとして楽しむこともできる。しかも、テレビとして楽しむこともできる。

SHARP-HUBASICは、8ビットパソコンの中で最も柔軟な設計を採用。しかも、テレビの能力を一気に高め、テレビとして楽しむこともできる。しかも、テレビとして楽しむこともできる。

SHARP-HUBASICは、8ビットパソコンの中で最も柔軟な設計を採用。しかも、テレビの能力を一気に高め、テレビとして楽しむこともできる。しかも、テレビとして楽しむこともできる。

SHARP パソコンテレビ X1G

コンピュータ画面をビデオ録画できる初のマルチビジュアル端子搭載。
X1G、速く2モデル3ソリューションで新登場。

Model 10 パナソニック・コンピュータキーボード CZ-800C 標準価格 69,800円
Model 30 パナソニック・コンピュータキーボード CZ-800C 標準価格 118,000円
15インチディスプレイ CZ-820B 標準価格 79,800円
15インチディスプレイ CZ-820C 標準価格 49,800円



SHARP 新製品ニュース

パソコンテレビ X1F

Model 10 パナソニック・コンピュータキーボード CZ-800C 標準価格 69,800円
Model 30 パナソニック・コンピュータキーボード CZ-800C 標準価格 118,000円
15インチディスプレイ CZ-820B 標準価格 79,800円
15インチディスプレイ CZ-820C 標準価格 49,800円

名機X1の血統を引けついで、いま、NEW BASICを搭載。
X1F、Model 10、20の2タイプで新登場。



1. 高速グラフィック
従来のグラフィック機能に高速度、ペイント機能18000ドット/秒、中間色再現も行うことで
2. 思いきり使えるメモリ空間
Model 20で最大31K-16K、Model 10では最大32K-16Kまで拡大
3. 漢字ユーティリティ
一文字、音読検索で手軽に漢字入力できる漢字辞書

Model 10 標準価格 188,000円
Model 20 標準価格 188,000円

SHARP 新製品ニュース

パソコンテレビ X1G

Model 10 パナソニック・コンピュータキーボード CZ-800C 標準価格 69,800円
Model 30 パナソニック・コンピュータキーボード CZ-800C 標準価格 118,000円
15インチディスプレイ CZ-820B 標準価格 79,800円
15インチディスプレイ CZ-820C 標準価格 49,800円

ついにビデオまで巻き込んだ、X1G新登場。
目的に合わせて速く2モデル3ソリューション。



名機X1がさらに身近になった、楽しかった。

1. 初のマルチビジュアル端子搭載
2. ジョイスティック標準装備
3. タッチパネルタイプ
4. 先進機能にもうれしい対応

Model 10 標準価格 188,000円
Model 30 標準価格 188,000円

SHARP 新製品ニュース X1 twin

パソコンテレビ X1 twin

これがX1誕生5年目の解答です。



Model 10 標準価格 188,000円
Model 30 標準価格 188,000円

完全上位互換を維持しつつもすべてが強力なもうひとつのX1シリーズ

X1 turbo

シャープ 1984年10月発売 本体価格 model10 : 168,000 円、model20 : 248,000 円、model30 : 278,000 円、model40 : 258,000 円



究極の8ビット パソコンが登場

X1turboはX1から派生した上位シリーズである。他社でありがちなモード切り替えを必要とせずに、X1との完全

上位互換を実現した。

大きな変更点としてはテキストレベルで漢字混在の文字入力を可能とした漢字BASICの搭載と、640×400ドット（400ライン）の高解像度表示。これを実現するために専用の400ラインディスプレイ

テレビを開発、もちろんX1シリーズの特徴であるスーパーインポーズもできる。しかも、スーパーインポーズでビデオとコンピューター画面を合成した映像をビデオ録画できるデジタルテロップ機能を内蔵（model10、model40を除く）

X1 turbo仕様

製品名	model10	model20	model30	model40
外部記憶装置	データレコーダー	フロッピードライブ1基		フロッピードライブ2基
CPU	LH0080A(Z80A互換)4MHz、80C48、80C49			
ROM	BIOS用ROM 32Kバイト、CG-ROM 8Kバイト、漢字ROM 128Kバイト(最大256Kバイト)			
RAM	メモリ 64Kバイト、VRAM 96Kバイト(model10のみ48Kバイト)、PCG用RAM 6Kバイト、アトリビュート用VRAM 2Kバイト			
グラフィック機能	テキスト表示:最大80字×25字・8色 テキスト機能:反転文字、点滅文字、縦・横・縦横2倍文字可能			
	グラフィック表示:最大640×200ドット・8色		グラフィック表示:最大640×400ドット・8色	
デジタルテロップ機能	オプション		搭載	オプション
サウンド出力	PSG音源 8オクターブ3重和音(AI-3-8910相当)			
インターフェース	デジタルRGB、テレビコントロール、モノラル音声、プリンター、キーボード、ジョイスティック×2			
	オプション	コンポジット出力(model20、30のみ)、フロッピーディスク、RS-232C、マウス、データレコーダー		



■本体正面 (写真はX1turboII)



■本体背面 (写真はX1turboII)

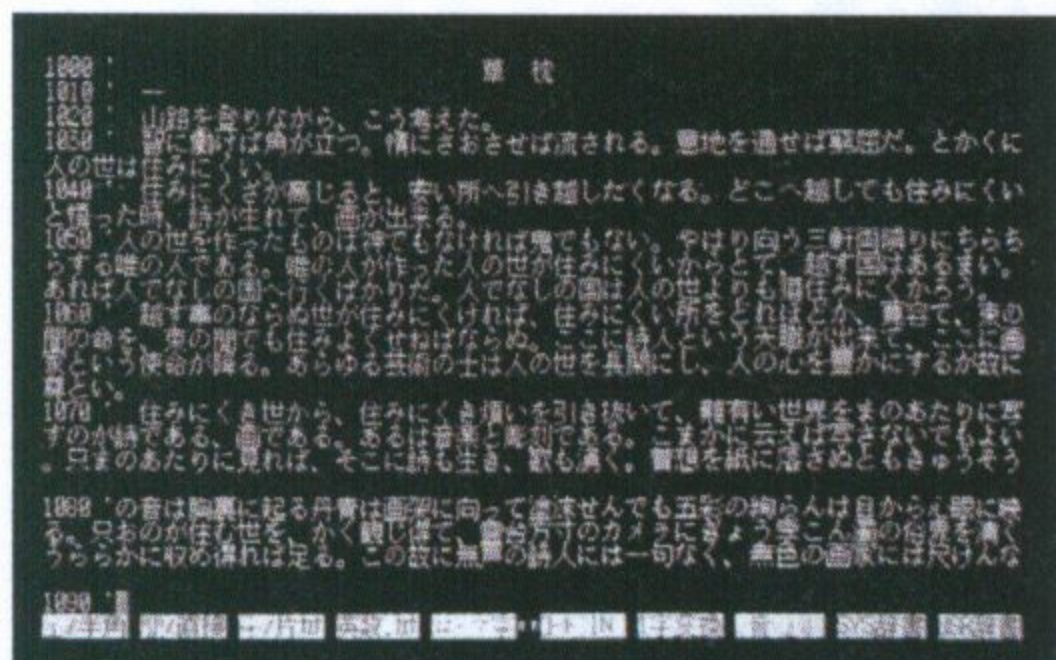
している。

また当初のX1設計段階では搭載が見送られていたZ80 CTCやZ80 SIOといった通称「Z80ファミリー」と呼ばれる周辺LSIも搭載、DMAによる高速メモリアクセスも可能になったことから特にゲームを開発する上で重宝された。

なお、X1turboIIでX1発売3周年を記念したブラックモデルを発売、これが好評だったことから以後の製品には黒がラインナップされることとなった。



■キーボード (写真はX1turboII)



▲漢字混在の記述が可能な漢字BASIC。日本語処理をグラフィックに頼っていた当時において画期的だった。



▲ステレオFM音源6音+PSG3音のBGMが素晴らしい、X1turbo専用「ソーサリアン」(日本ファルコム)。

CATALOGUE

SHARP パソコン用 新製品レポート

限界を超えた手ごたえ

高速・高濃度 X1turboシリーズ

Model 10, 20, 30の3タイプで新登場

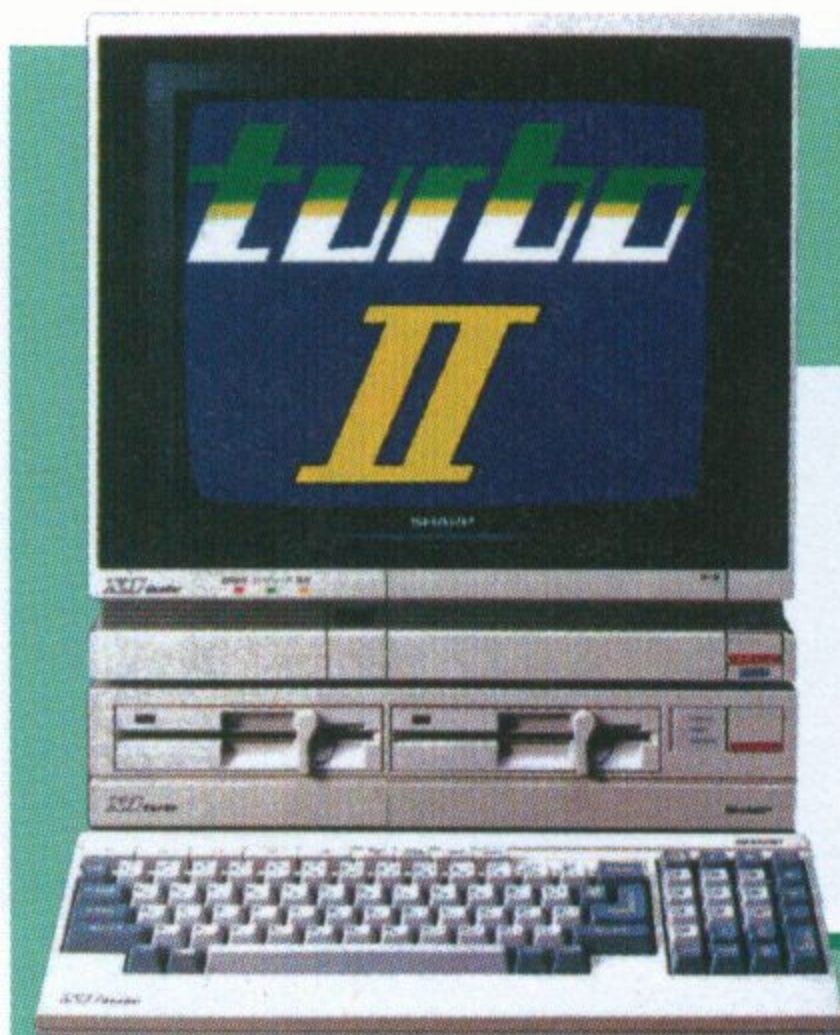
SHARP 新製品ニュース

X1turbo III

C2-8700B/F7702/E7703/F7704...標準価格168,000円
C2-8700B/F7702/E7703/F7704...標準価格109,800円

ターボの系譜を引けついでさらに実力アップ
ターボIII登場。

1. 1Mバイトの5 FDDを2基搭載。
2. JIS第2水準漢字ROM標準装備。
3. 充実のシステム・ユーザー辞書搭載。



X1turbo MODEL VARIATION

X1turboII

1985年11月発売 178,000円

日本語百科ワードパワーとターボ博士レキシコンを同梱。前モデルから一気に10万円も安くなった。

X1turboIII

1986年11月発売 168,000円

FDDが2HD/2D両対応になり、大容量のファイルに対応できるようになった。JIS第2水準漢字ROMを搭載。



究極形の“Z”を冠した、X1 turboの最上位モデル

X1 turboZ

シャープ 1986年12月発売 本体価格 218,000 円



カラーは一気に 4096色へ

X1 turboZはX1 turboと入れ替わる形で発表されたX1シリーズの最上位・最終シリーズである。それまで長らく据え置きだったグラフィック周りに大きく手が

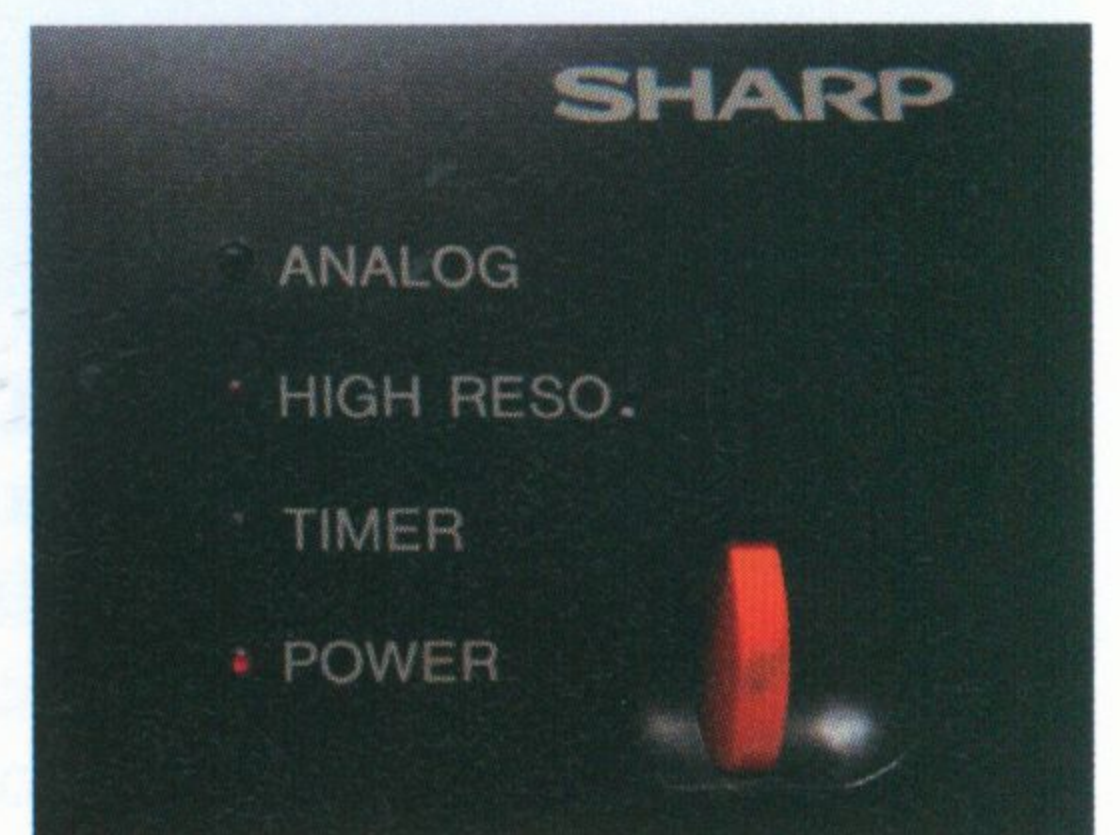
入っており、デジタル8色表示からアナログ4096色へと一気にカラフルになった。また、従来機種ではオプションだったFM音源ボードとマウスが標準装備されるようになり、遅まきながらも他社製品の水準に比肩しうるスペックになったといえる。もっとも、初代X1 turboZではこ

れらの拡張機能をBASICから制御できず、正式なサポートはX1 turboZIIと同時に発表されたNEW Z-BASICの発売まで待たなければならなかった。

性能面では十分なパワーアップを果

X1 turboZ仕様

CPU	LH0080A(Z80A互換)4MHz、80C48、80C49
ROM	BIOS用ROM 32Kバイト、CG-ROM 8Kバイト、漢字ROM 256Kバイト
RAM	メモリ 64Kバイト、VRAM 96Kバイト、PCG用RAM 6Kバイト、アトリビュート用VRAM 2Kバイト
グラフィック機能	テキスト表示:最大80字×25字・8色 テキスト機能:反転文字、点滅文字、縦・横・縦横2倍文字可能 グラフィック表示:最大640×400ドット・最大4,096色
サウンド出力	PSG音源 8オクターブ3重和音(A.Y-3-8910相当) FM音源 ステレオ8オクターブ8重和音(YM2151)
インターフェース	アナログRGB、テレビコントロール、ステレオ音声、プリンター、キーボード、ジョイスティック×2、コンポジット出力、フロッピーディスク、RS-232C、マウス



▲本体正面のインジケータに「ANALOG」が追加されている。これこそアナログRGB搭載の証。



■本体正面



■本体背面

たした本機だが、かねてから噂されていた次世代Xシリーズ、X68000と同時に発表された点が不幸であった。『グラフィウス』のほぼ寸分たがわぬ移植で見る人すべてを驚かせたX68000のインパクトの前に霞んでしまったのである。実際にはX1turboZのスペックを活かしたソフトが十分に発売されていたとは言い難く、本機の性能を使いこなした新たな再評価の動きが起こってほしいと切に願うばかりである。



■キーボード

CATALOGUE

SHARP 新製品ニュース
New-Life People

X1turboZ
CZ-8400B: フロッピーディスク標準価格278,000円
CZ-6000B: フロッピーディスク標準価格129,800円

リアルな映像と音が創造力をかきたてる。
"アートスタジオ・Turbo Z"登場。

テレビビデオの映像を最大1,000色の770x562で取り込める

1. アナログカラーイメージボード内蔵
770x562ピクセルカラーモードが楽しめる
2. 8重和音ステレオFM音源搭載
真鍮人力風車に操作できる
3. マウス標準装備

SHARP 新製品ニュース
New-Life People

新製品ニュース
X1turbo Z II

あふれるクリエイティブマインド—NEW Z-BASIC搭載。

ADVANCED TURBO

X1turbo Z II

SHARP 新製品ニュース
New-Life People

新製品ニュース
X1turbo Z III

名画の2/3プロシミュレーションエディターを標準搭載。

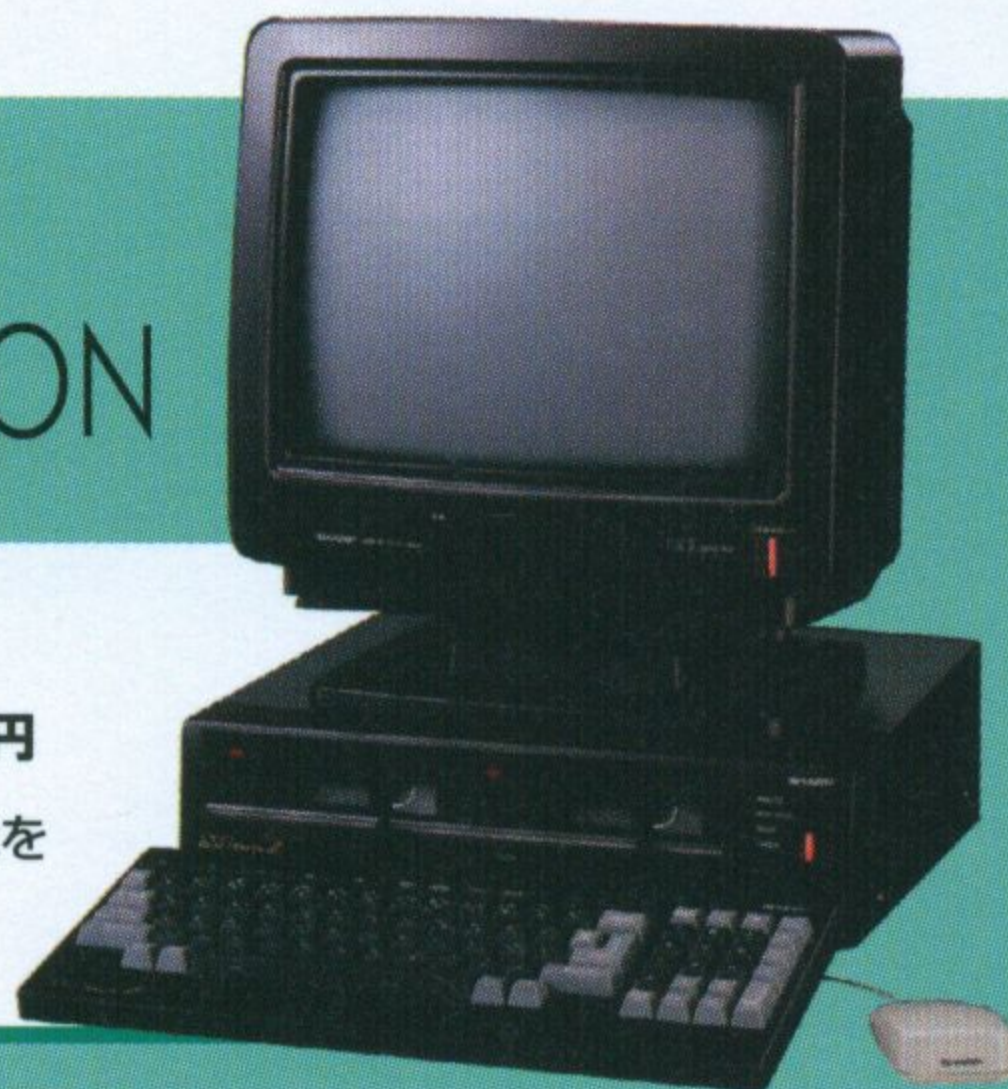
ADVANCED TURBO

X1turbo Z III

X1turboZ
MODEL VARIATION

X1turboZ II

1987年12月発売 179,800円
FM音源や4096色表示などの機能を制御できるNEW Z-BASIC。



X1turboZ III

1988年12月発売
169,800円
外付けFDD、データレコーダー端子など不要と思われる端子を省いてコストカットを図った、シリーズ最終モデル。



当時、誰もが憧れた!! パーソナルワークステーション

X68000

シャープ 1987年3月28日発売 本体価格 369,000 円



夢を超えた バケモノマシン

X68000は同社のX1シリーズの後継機種として発売されたパーソナルワー

クステーションである。パーソナルワークステーションとはシャープによる造語で、「個人で使えるワークステーション（業務用の高性能コンピューター）」という意味であり、同機に搭載されている16

ビットCPU、MC68000がワークステーションに搭載されていたものであることから名付けられたものである。また、X68000という商品名も同CPUの名称に由来している。

後継機種とはいえX1とは一切の互換性がなく、発売された時点でソフトウェア資産がゼロであった。初代機にはコナミのアーケードゲーム『グラディウス』が付属しており、ある程度ソフトが出揃うまで『グラディウス』専用機だったユーザーも多かったのではないだろうか。

X68000の特徴としてまず挙げられるのはその特異な外観である。マンハッタンシェイプと名付けられたツインタワー型の筐体には当時考えうる限りのあらゆる技術が投入され、オートロード・オー

X68000仕様

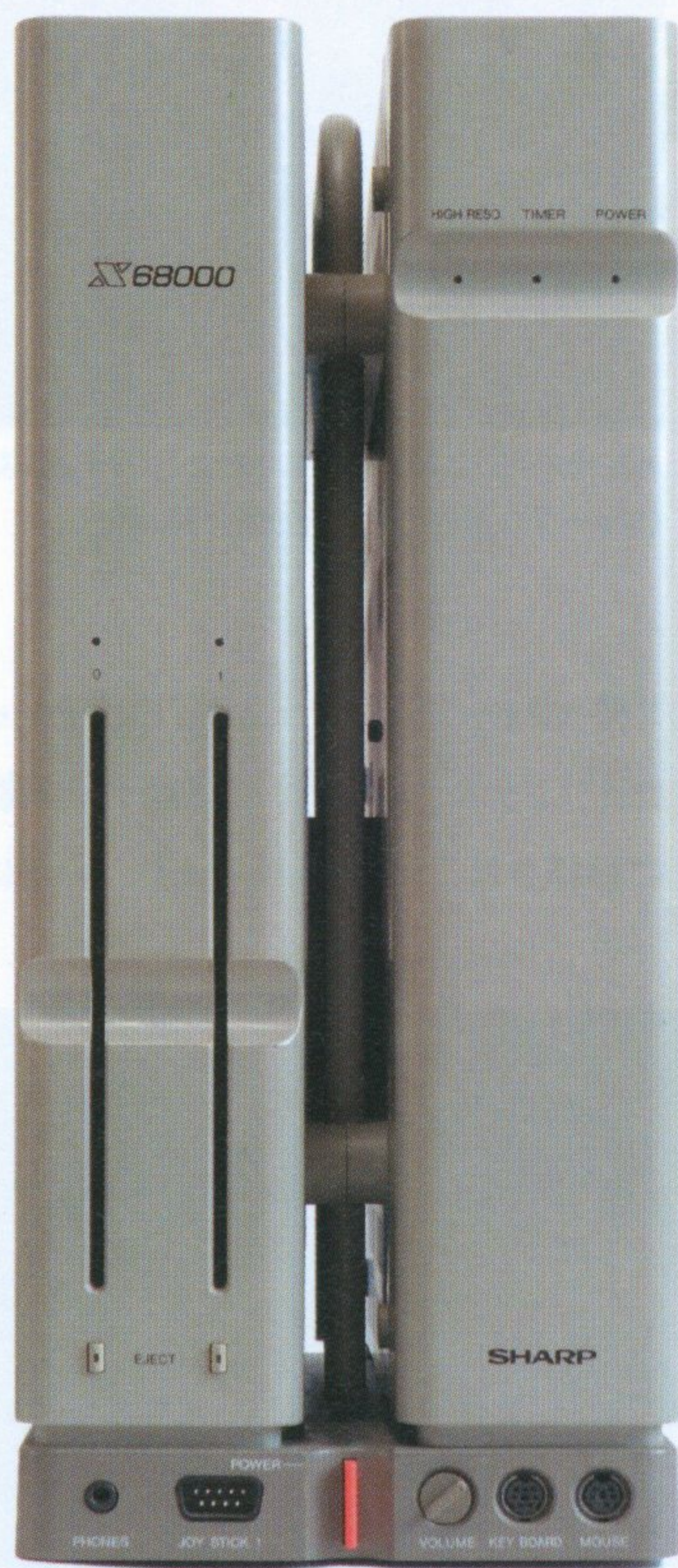
CPU	HD68HC000(MC68000互換) 10MHz, 80C51
ROM	IPL, BIOS 128Kバイト, CG-ROM 768Kバイト
RAM	メモリ1Mバイト(最大12Mバイト)、テキスト用VRAM 512Kバイト グラフィック用VRAM 512Kバイト、スプライト用VRAM 32Kバイト スタティックRAM 16Kバイト
グラフィック機能	テキスト表示:実画面エリア 1,024×1,024ドット時 最大768×512ドット・65,536色中16色 グラフィック表示: 実画面エリア1,024×1,024ドット時最大768×512ドット・65,536色中16色 実画面エリア512×512ドット時最大512×512ドット・最大65,536同時発色 スプライト表示: 512×512ドット(バックグラウンド1面)・256×256ドット(バックグラウンド2面) 表示制限128スプライト/画面、32スプライト/ライン グラフィック機能:ハードウェアスクロール、特殊画面制御、プライオリティ、 パレット、半透明、スーパーインポーズ
サウンド出力	FM音源 8オクターブ8重和音ステレオ(YM2151) 音声合成 ADPCM1音
インターフェース	アナログRGB出力、音声入出力、プリンター、ジョイスティック×2、立体視端子、RS-232C、 フロッピーディスク、マウス、キーボード、イメージ入力、SASI



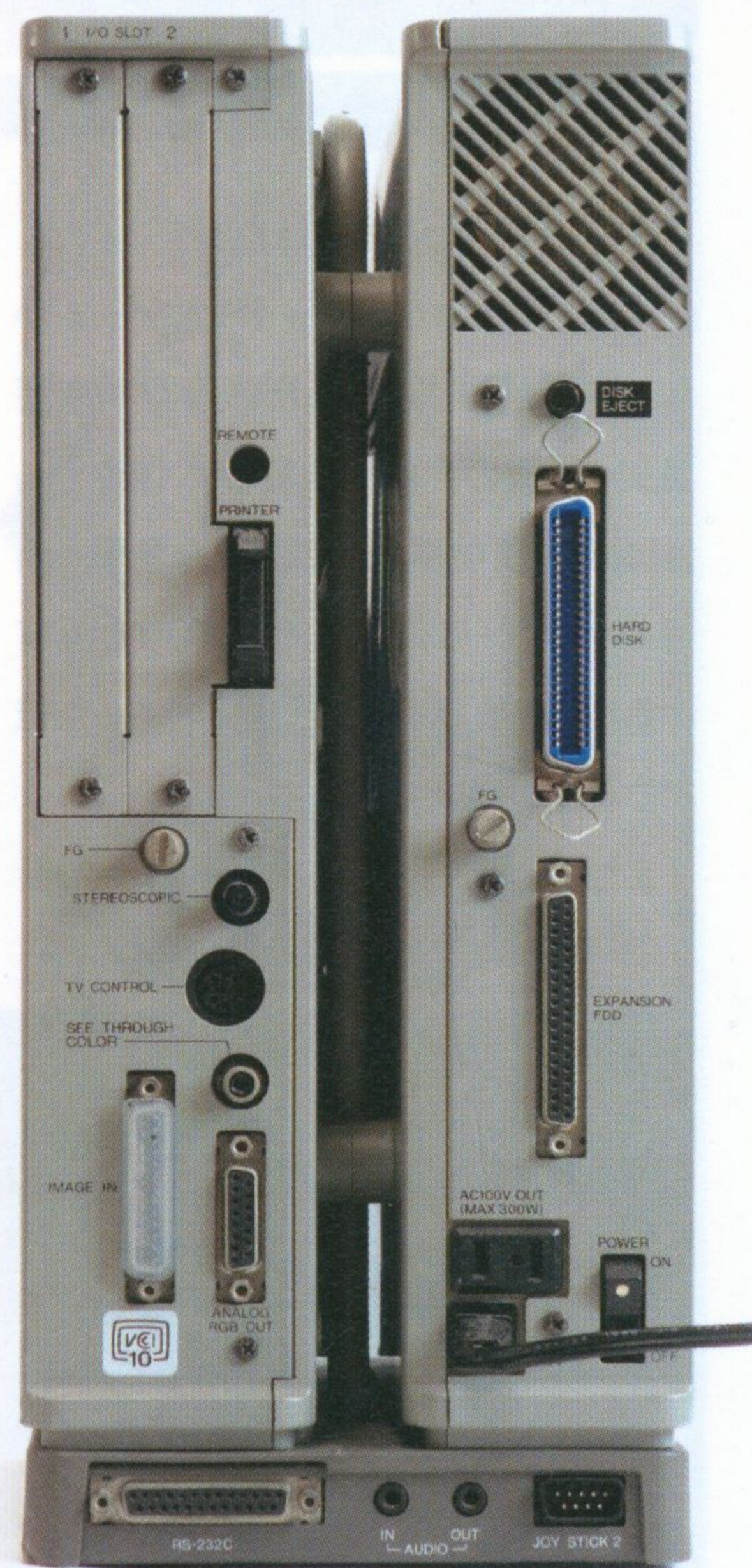
▶押しと飛び出すキャリングハンドル。



▶マウス・トラックボール。



■本体前面



■本体背面



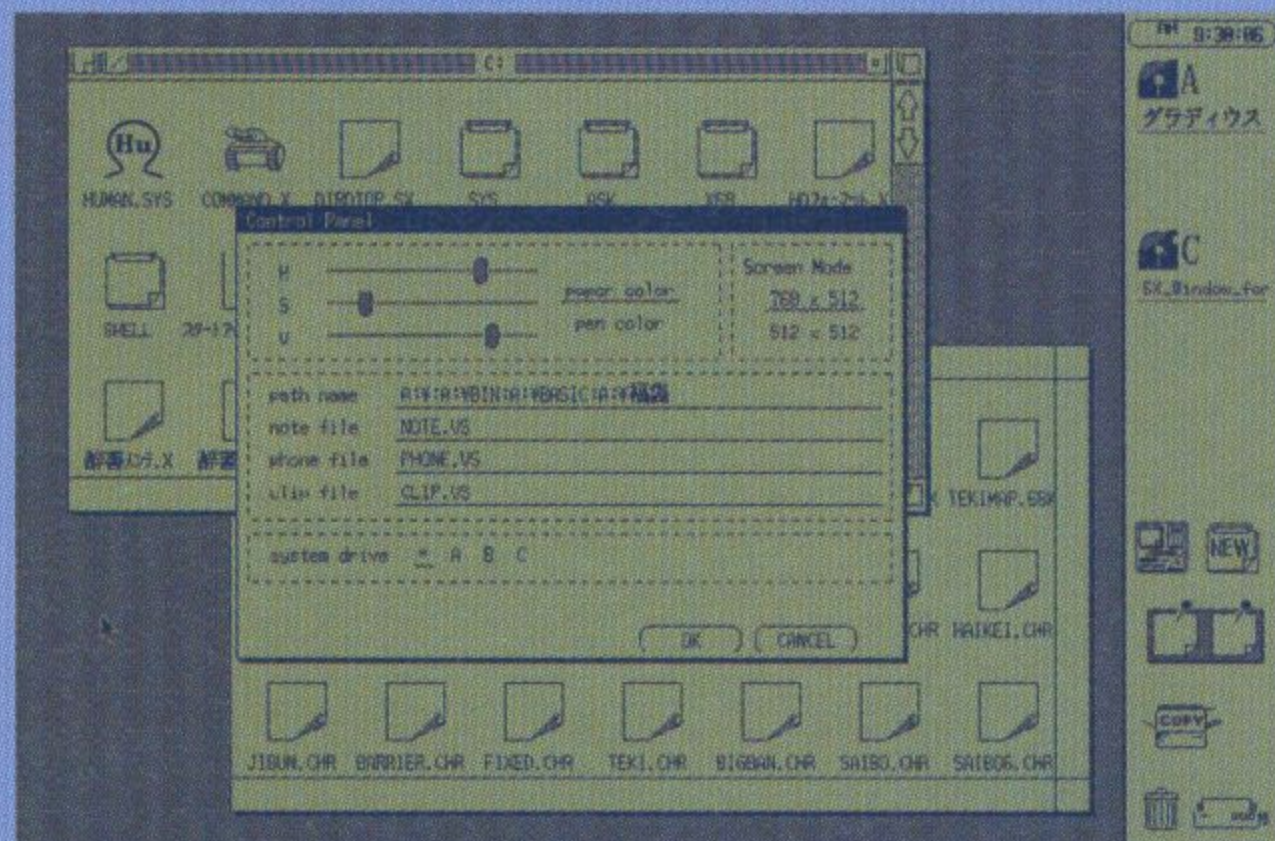
■キーボード

トジェクトするフロッピーディスクドライブ、ひっくり返すとトラックボールになるマウス・トラックボールなど、枚挙に暇がないほどである。

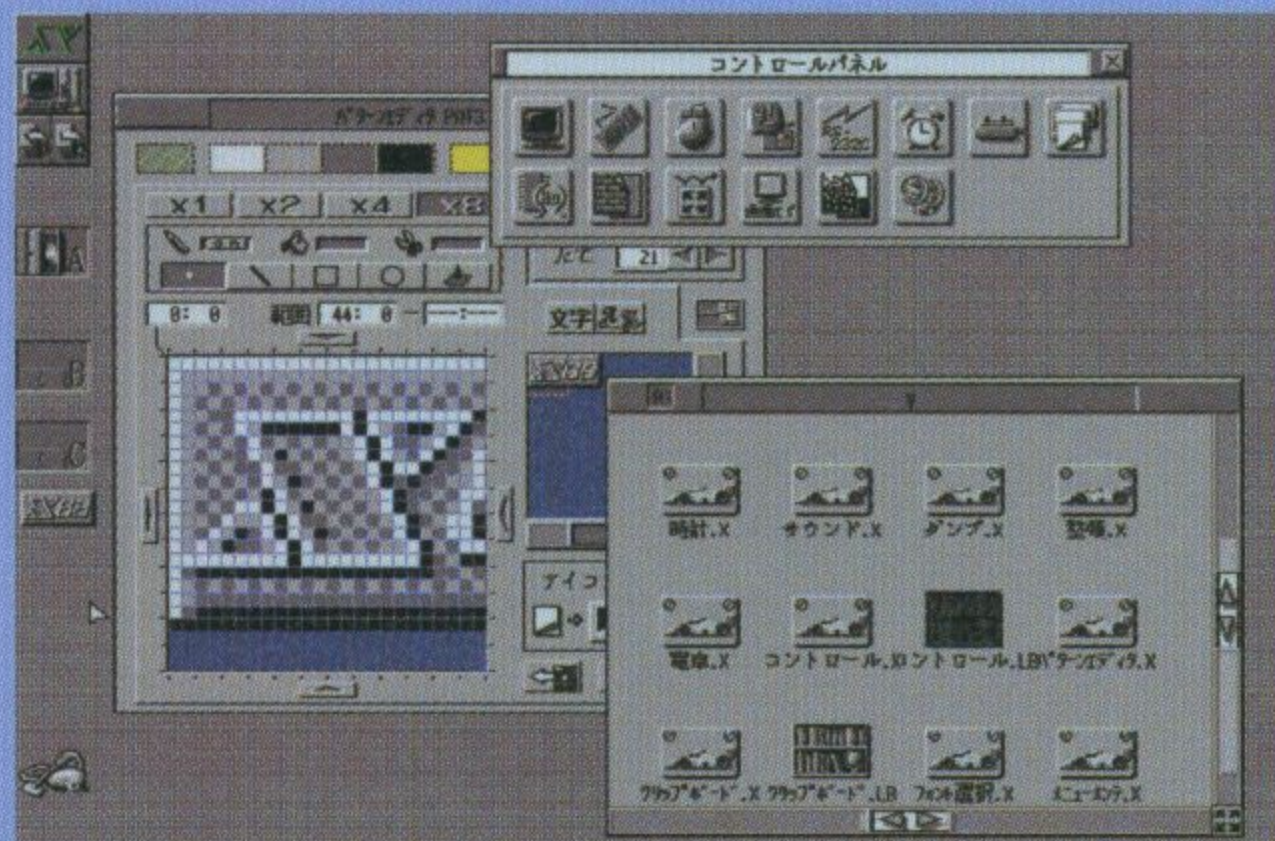
性能面においても当時のパソコンのレベルをはるかに凌駕しており、一線級のアーケードゲームをそのまま移植できるだけの強力なスプライトや65536色同時表示可能なグラフィック、ステレオFM音源によるサウンド機能を備えていた。OSもマウスでの使用を前提としたオリジナルのビジュアルシェルやSX-WINDOWが付属し、「国内のパソコンは最初から眼中にない」と言わんばかりのバケモノぶりであった。

GUIを志向したシステムソフトウェア

X68000はマウスが標準で付属しており、これを使って基本処理をさせるGUI(グラフィカル・ユーザー・インターフェース)志向を持っていた。特にSX-WINDOWは純国産ウィンドウシステムとして記憶にとどめたい。



初代~EXPERT/PROまで添付されたビジュアルシェルはMacライク。MS-DOSライクなコマンドシェルもある。



EXPERTII/PROII以降に採用されたオリジナルウィンドウシステム、SX-WINDOW。対応ソフトも多数発売された。

充実したゲームの ラインナップ

X68000はずば抜けたグラフィック、サウンド機能のためアーケードゲームからの移植が特に多かった。当時の家庭用ゲーム機の性能では望むべくもなかったほぼ完璧な移植が次々となされ、当時のゲーマーにとってX68000を所有することは最高のステータスであったほどである。

また、X68000用に発売された『サ



▲初代X68000にバンドルされた「グラディウス」(シャープ)。誰もがこの完成度に驚いた!



▲X68000オリジナルのアクションゲーム「ジェノサイド2」(ズーム)。家庭用へ移植された。

ンダーフォースII』『ジェノサイド2』といったオリジナルタイトルが家庭用ゲーム機に移植されるケースも多々あり、いかに

それらのゲームの完成度が家庭用ゲーム機に比べて遜色なかったかが伺えるエピソードといえるだろう。

X68000 MODEL VARIATION



X68000ACE

1988年3月発売
319,800円～

設計を見直し低コスト化を目指したモデル。同時に、初めてハードディスク内蔵モデルをラインナップした。



X68000XVI

1991年5月発売
368,000円～

CPUのクロックを従来の10MHzから16MHzに引き上げ高速化したモデル。XVIIはローマ数字の16を指し、「エクシヴィ」と読む。



X68000SUPER

1991年1月発売 348,000円～

ハードディスクのインターフェースにSCSIを採用したモデル。CD-ROMや光磁気ディスクドライブが接続できるようになった。

X68000Compact

1992年2月発売 298,000円

フロッピーディスクを5インチから3.5インチにして小型化を図ったモデル。キーボードもテンキー無しのものであり、こちらも小型化している。



X68000PRO

1989年3月発売 298,000円～

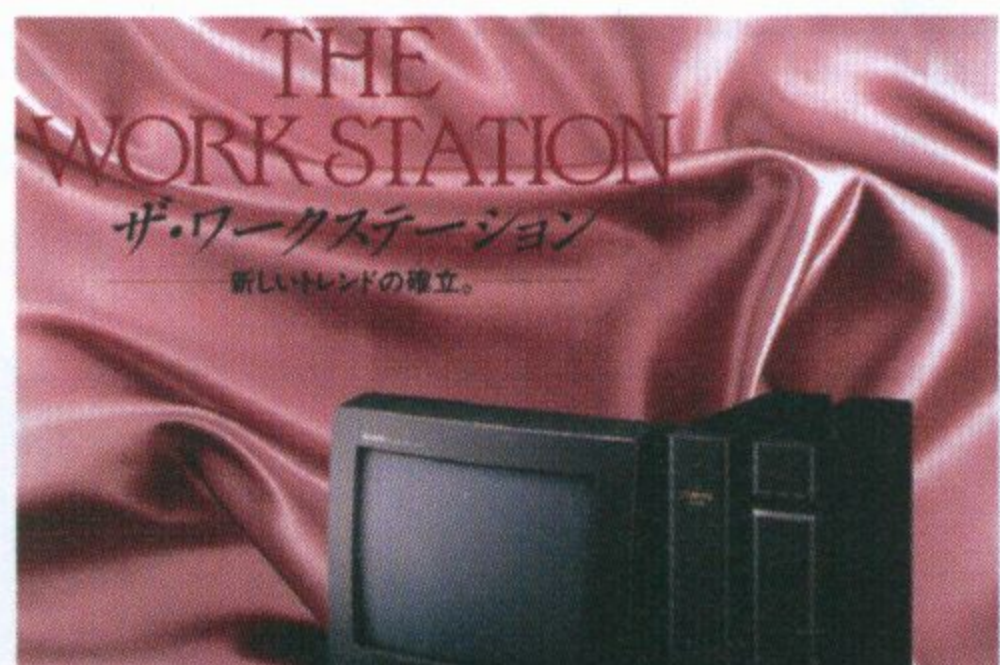
横置きにしてコストダウンを図ったモデル。背面の拡張スロットは倍の4スロット装備している。



CATALOGUE

SHARP
新製品ニュース

パーソナルワークステーション
'90-12 X68000 SUPER



X68000
PERSONAL WORKSTATION
SUPER

製品名 X68000 SUPER (モニター別) 型式 X68000 SUPER (モニター別) 価格 299,800円 (モニター別) 送料別

※本誌ニュースに掲載している商品写真は、実際とは多少異なる場合があります。ご購入の際は、必ず実物を確認してください。

近年に高機能なワークステーションとして、X68000が注目されています。その中でも「ザ・ワークステーション」は、その性能の高さ、信頼性の高さ、そして拡張性の高さから、ワークステーションとして注目を集めています。このワークステーションは、最新のハードウェアとソフトウェアを組み合わせ、高性能なワークステーションを実現しています。また、拡張性の高さから、将来的な発展も期待されています。



夢工房への勧誘。
リアルな機能美がクリエーターを魅了する。手振りを抑えた、こだわりのX68000。

X68000
PERSONAL WORKSTATION
EXPERT-EXPERT II

製品名 X68000 EXPERT-EXPERT II (モニター別) 型式 X68000 EXPERT-EXPERT II (モニター別) 価格 399,800円 (モニター別) 送料別

※この価格に消費税の金額は別添付資料にてお示ししております。

※価格には消費税は含まれておりません。

仕事だけのパソコンや、アツロみしたいパソコンは、いらない。
父のパソコンを超える。

瞬速16MHz、エクシヴ登場。

SHARP
人にもっと深く。

パーソナルワークステーション
X68000総合カタログ

本カタログに掲載してあります 各商品の価格には、消費税は含まれておりません。ご購入の際は、消費税額を別途お支払いください。

1989年4月 発行

X68000
PERSONAL WORKSTATION
EXPERT-PRO

SHARP
新製品ニュース

パーソナルワークステーション
X68000 PRO IIシリーズ

本カタログに掲載してあります各商品及び価格の価格には、消費税は含まれておりません。ご購入の際は、消費税額を別途お支払いください。

1990年3月 発行

ザクリエーションの、新しいワークステーション

X68000
PERSONAL WORKSTATION
PRO II-PRO II II

製品名 X68000 PRO II-PRO II II (モニター別) 型式 X68000 PRO II-PRO II II (モニター別) 価格 399,800円 (モニター別) 送料別

THE POWERSTATION
さらなる成熟へ、68kエクスプレスの登場。

X68000
PERSONAL WORKSTATION
XVI
エクスプレ

X68000
PERSONAL WORKSTATION
XVI

製品名 X68000 XVI (モニター別) 型式 X68000 XVI (モニター別) 価格 499,800円 (モニター別) 送料別

X68000がついに32ビット化を果たした

X68030

シャープ 1993年3月発売 本体価格 X68030 : 388,000 円、X68030HD : 488,000 円



黒字に赤は 「力」の象徴

X68030はユーザーが長く待ち焦が

れていた、純然たる32ビットCPUを搭載したX680x0シリーズの最上位機種であり、同時にシリーズ最終モデルとなったマシンである。CPUの処理速度は

キャッシュオン時で10MHz機の4.3倍、16MHz機比で2.4倍まで引き上げられており、SX-WINDOWをより快適に活用できるようになった。標準搭載メモリは4Mバイトに拡張された上に高速メモリアクセスを確保するため、XVI同様に専用のメモリソケットを設け、数値演算コプロセッサも安価なMacintosh用を流用できるようにPLCCパッケージソケットが採用されている。

X68030に搭載されたCPUはモトローラ製の68EC030で、68030からMMU(メモリ管理ユニット)を削除した廉価版。Human68KはMMUに対応していないため特に問題はないが、16Mバイト以上のアドレス空間を利用する増設メモリやNetBSDなどシャープ純正品

X68030仕様

製品名	X68030	X68030HD
CPU	MC68EC030 25MHz, 80C51	
RAM	IPL, BIOS 256Kバイト, CG-ROM 768Kバイト	
RAM	メモリ1Mバイト(最大12Mバイト)、テキスト用VRAM 512Kバイト グラフィック用VRAM 512Kバイト、スプライト用VRAM 32Kバイト スタティックRAM 16Kバイト	
グラフィック	テキスト表示:実画面エリア 1,024×1,024ドット時 最大768×512ドット・65,536色中16色 グラフィック表示: 実画面エリア1,024×1,024ドット時最大768×512ドット・65,536色中16色 実画面エリア512×512ドット時最大512×512ドット・最大65,536同時発色 スプライト表示: 512×512ドット(バックグラウンド1面)・256×256ドット(バックグラウンド2面) 表示制限128スプライト/画面、32スプライト/ライン グラフィック機能:ハードウェアスクロール、特殊画面制御、プライオリティ、 パレット、半透明、スーパーインポーズ	
サウンド	FM音源 : 8オクターブ8重和音ステレオ(YM2151) 音声合成 : ADPCM1音	
ハードディスク	80Mバイトハードディスクドライブ1基内蔵可能(オプション)	80Mバイトハードディスクドライブ1基内蔵
インターフェース	アナログRGB出力、音声入出力、プリンター、ジョイスティック×2、RS-232C、フロッピーディスク、 増設RAMソケット、数値演算プロセッサソケット、マウス、キーボード、イメージ入力、SCSI、拡張I/Oポート	

X68030 MODEL VARIATION

X68030 Compact

1993年5月発売 388,000円～
X68030のコンパクトタイプ。X68000
のときにはなかったハードディスク内蔵
モデルが用意された。



■本体前面



■本体背面

以外のハードやソフトを活用する際に必要であり、自分で68030へCPU換装するユーザーも多かった。

グラフィックやサウンドなどCPU周りを除いたスペックは従来モデルと同じだが、CPUの違いに起因する不具合で動作しないソフトも多く、それらを動作させるためにX68030対応のパッチプログラムをユーザーメイドで作成する者も現れた。



■キーボード

◆ CATALOGUE

SHARP
新製品ニュース

パーソナルワークステーション
32bit X68030シリーズ

夢の頂へ

X68030
32bit PERSONAL WORKSTATION

演算速度4.3倍(当社10MHz機比)/2.4倍(当社XVI比)、動画ウィンドウに見る新創造次元。
選ばれた人だけが持つ感性によってX68030の扉はひらかれる。

32bit X68030

X68030
32bit PERSONAL WORKSTATION

X68030
32bit PERSONAL WORKSTATION
Compact

32bit X68030

NEW X68030を
実体験しよう!!

32bit X68030

32bit X68030

富士通初めてのパソコンは高性能でありながら苦戦した

FM-8

富士通 1981年5月20日発売 本体価格 218,000 円



手軽にキャラクター PCG機能

FUJITSU MICRO8（以降は略称のFM-8で呼称）は富士通から初めて発売されたパソコン。今でも同社のパソコンブランドFMVにその名前の名残が残っている「FM」は本機の略称に由来する。日立、シャープ、NECと各社が民生品パ

ソコン相次いで発売する中、一足遅れての参入となる同社がとった戦略は「一足飛びに同業他社を突き放せる高性能機を目指す」であり、当時の水準において最強と呼ぶにふさわしい製品となった。

FM-8は「高級ホビーからビジネスまでの多彩パソコン」と銘打ち、幅広いユーザー層を想定して発売したものの、ホビーパソコンとしてのユーザーの食いつきは

決して良いものではなかった。テキストをグラフィック画面に書くという仕様のため、BASICレベルでのレスポンスは良いとは言えず、またCPUがZ80ではなかったことから発売初期は混乱するユーザーも多く、高額な価格設定も手伝ってホビー用途には向かなかったといえる。

FM-8仕様

CPU	MBL68A09(MC6809互換) 1.2MHz, 6809 1MHz
ROM	44Kバイト
RAM	メイン64Kバイト、サブ5Kバイト、VRAM48Kバイト
グラフィック機能	テキスト表示:最大80字×25行 グラフィック表示:640×200ドット8色 モノクロ3プレーンまたはカラー1プレーン
サウンド出力	PSG音源 8オクターブ3重和音(AIY-3-8910相当)
インターフェース	デジタルRGB、カセットテープ、プリンター、モノラル音声



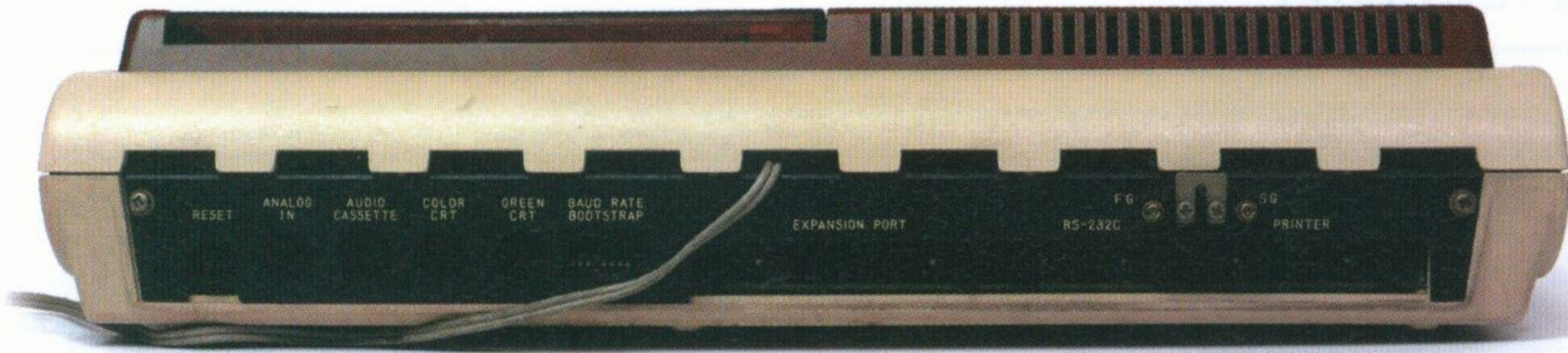
▲右上のソケットに装着された、2個のバブルメモリ。当時の富士通はこれを記録媒体の本命として推していた。

ユーザー層を再定義 仕切り直しへ

本機種の失敗を教訓に富士通はター

ゲットとするユーザー層を明確に設定し、ホビーユースのFM-7、ビジネスユースのFM-11という2路線へと戦略転換を図る。特にFM-7ではコマーシャルタ

レントの起用、機能とコストの見直しを大胆に行うことによって大ヒット、この成功はマーケティングモデルとして他の後発メーカーが参考するまでになった。



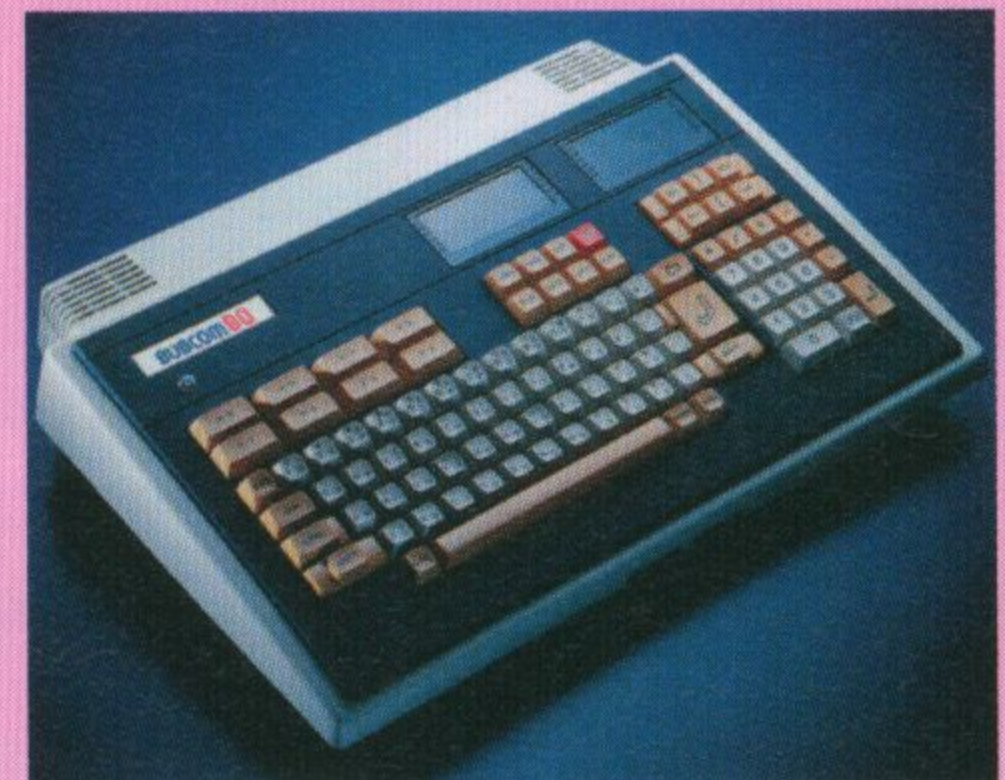
■本体背面



■キーボード

FM-8の兄弟機 BUBCOM80

FM-8には富士通のOEMによるBUBCOM80という兄弟機があった。こちらはCPUにZ80を搭載しており、外観が似ていてバブルメモリが使える以外は別物であった。出回り数が少なかったこともあり、ほとんど現物を目にする機会もなく謎の多いパソコンのひとつといえる。



BUBCOM80
システムズフォーミュレート
1981年9月発売 168,000円

◆ CATALOGUE

ハイキャリティアユースのパーソナルコンピュータ

FM-8

高級ホビーからビジネスまでの多用途パソコン

デジタル分野で躍進を遂げたFM-8は、用途によって使い分けができてきた。29万6千円という高価格帯に、ホームオートメーションに設定されたFM-8は、学習にも、音楽にも活用できる。FM-8は汎用性の高いパーソナルコンピュータとして、自分自身のスキルに合わせた使い方をしたい。自身の趣味のアプリケーションで楽しんでいる。趣味だけでなく、仕事にも活用することで、目的が達成しやすくなる。業務にも使い、使っていくことで、業務も楽になる。

富士通

128KB

Main memory 64KB, Video RAM 40KB, I/O buffer 4KB, ROM: BASIC 32KB, Monitor 2KB, Video controller 8KB, Character generator 128KB.

64KBのRAMと128KBのROMの4倍の容量を実現された半導体メモリが、FUJITSU MICRO 8の卓越した性能を支えています。

富士通の先端技術がホビーユースからビジネスユースまで幅広く応えます

多彩なパーソナルユースに対応できる。FM-8は日本市場で最初に登場した、16ビットの1世代を越えて多機能、多用途用途に対応できる。優れた性能を実現。価格も、驚くべき低価格。

価格も、驚くべき低価格を実現。FM-8は日本市場で最初に登場した、16ビットの1世代を越えて多機能、多用途用途に対応できる。優れた性能を実現。価格も、驚くべき低価格。

各種の用途OSに適合するBASIC。FM-8は日本市場で最初に登場した、16ビットの1世代を越えて多機能、多用途用途に対応できる。優れた性能を実現。価格も、驚くべき低価格。

より身近に使いこなせる標準表示。FM-8は日本市場で最初に登場した、16ビットの1世代を越えて多機能、多用途用途に対応できる。優れた性能を実現。価格も、驚くべき低価格。

多機能のCPUを搭載しています。FM-8は日本市場で最初に登場した、16ビットの1世代を越えて多機能、多用途用途に対応できる。優れた性能を実現。価格も、驚くべき低価格。

豊富なカスタムアプリが豊富に揃います。FM-8は日本市場で最初に登場した、16ビットの1世代を越えて多機能、多用途用途に対応できる。優れた性能を実現。価格も、驚くべき低価格。

¥218,000 (本体¥182,500)

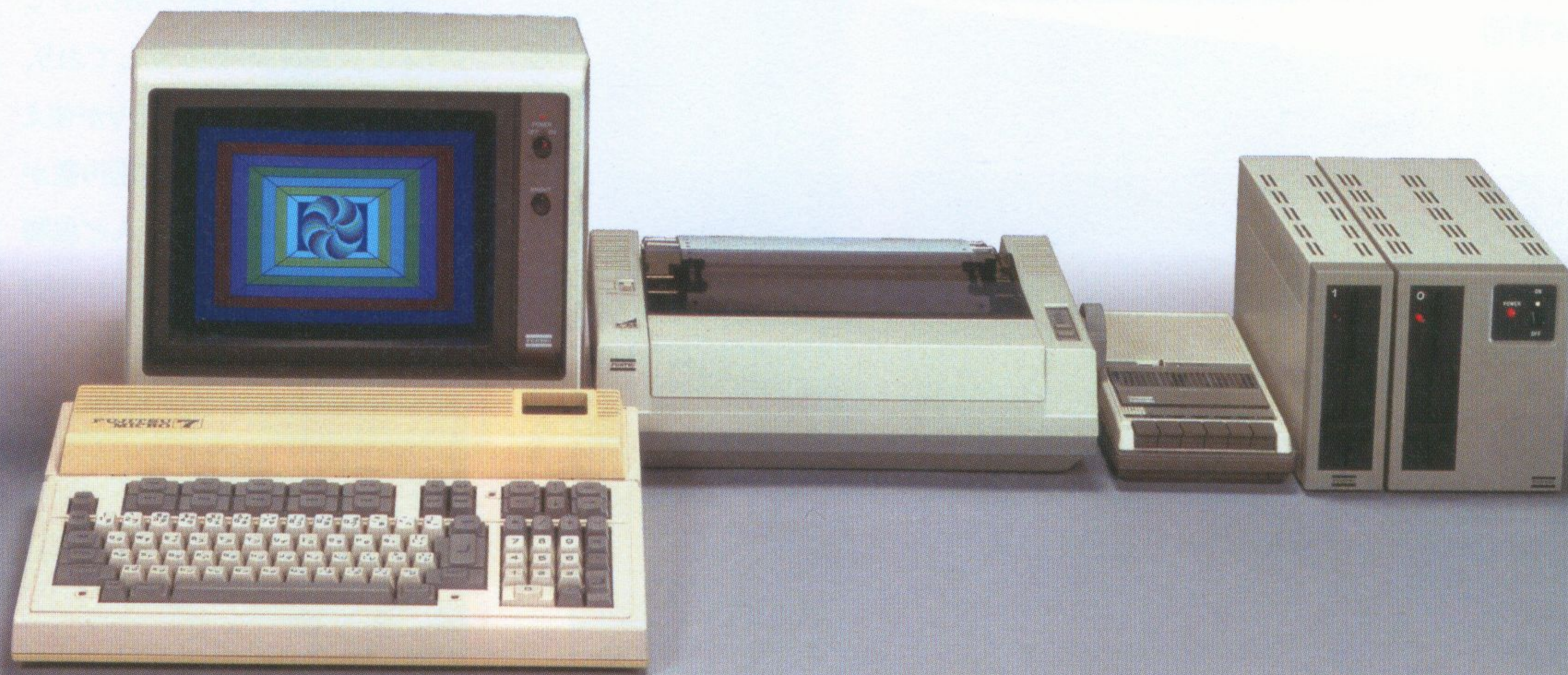
FM-8の主な仕様	主な特徴
CPU: Z80 (10MHz)	標準搭載のBASIC
メモリ: 64KB (最大128KB)	標準搭載のBASIC
ROM: 32KB (BASIC)	標準搭載のBASIC
ディスプレイ: 29cm (11.4インチ)	標準搭載のBASIC
キーボード: 標準搭載	標準搭載のBASIC
電源: ACアダプタ	標準搭載のBASIC
拡張性: 拡張スロットあり	標準搭載のBASIC
価格: ¥218,000 (本体¥182,500)	標準搭載のBASIC

富士通株式会社
富士通マイコンクラブ

富士通をパソコン御三家の座まで押し上げた立役者

FM-7

富士通 1982年11月8日発売 本体価格 126,000円



ホビー路線に転換 成功したパソコン

FM-7は高額ゆえに商業的に振るわなかったFM-8の反省をもとに投入された後継機である。ターゲットをホビーユースに絞り、バブルメモリを廃止してサウンド機能を充実させた上、当時のライバル機種PC-8001やPC-8801よりも安

価な価格に設定した。またソフトメーカーやユーザーに積極的に技術情報を公開したことから、性能の高さが知れ渡るにつれて一気にブレイク。もともと演算などの基本性能が高いFM-8をベースにしていたために、単一モデルだけで22万台を売り上げる大ヒットとなった。FM-7の商業的成功によって、東芝のPASOPIA7やソニーのSMC-777など、他

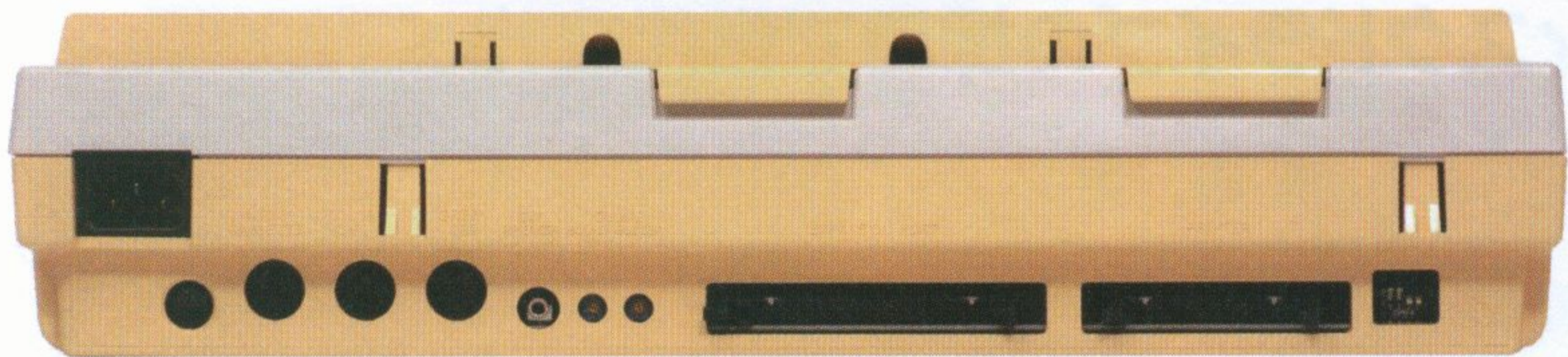
の家電メーカーもビジネス機からホビー用途に方針転換を図るようになり、スペックだけでなく価格やマーケティング手法に至るまで、FM-7が与えた影響は大きいといえる。

FM-7仕様

CPU	MBL68B09(MC6809互換)4.9/8MHz、MC6809 4/8MHz
ROM	44Kバイト
RAM	メイン64Kバイト、サブ5Kバイト、VRAM48Kバイト
グラフィック機能	テキスト表示:最大80字×25行 グラフィック表示:640×200ドット8色 モノクロ3プレーンまたはカラー1プレーン
サウンド出力	PSG音源 8オクターブ3重和音(A.Y-3-8910相当)
インターフェース	デジタルRGB、カセットテープ、プリンター、モノラル音声



▲FM-NEW7のパッケージ。



■本体背面 (写真は FM-NEW7)



■キーボード (写真は FM-NEW7)

FM-7 MODEL VARIATION

FM-NEW7

1984年5月10日発売 99,800円

大ヒットモデル、FM-7の廉価版。内部設計の見直しによって3万円近いコストダウンを実現した。



シューティング、アドベンチャーにRPGと当時の主要ジャンルはほぼ発売されていたといえる。

その一方で「キーを押すことは認識できても、キーを離したことを認識できない」というハードウェア上の仕様から、キーを離してもキャラクターが止まらないというアクションゲームには極めて不利な機種でもあった。そのため、「2」「4」「6」「8」キーで移動した後に「5」キーを押して停止という、特殊なプレイスタイルがFM-7の標準となった。

「5」キーを押して 停止という作法

FM-7はCPUに当時主流であったZ80ではなく6809を採用するというハンデ

があったにもかかわらず、前述の技術情報の公開もあってPC-8801mkIISRが8ビット市場を制するまではゲームソフトのタイトル数で他社を圧倒していた。発売されるゲームジャンルもアクションや

◆ CATALOGUE

マルチライクなパーソナルコンピュータ

FM-7

簡易言語ソフト付

青少年は興奮する。

先端技術が夢にさせる興奮パソコン

高性能のマイクロプロセッサに、2メガバイトのRAM、2メガバイトのROMを搭載し、多彩なソフトが楽しめる。FM-7の先進技術を活かした豊富な最新機能、多彩なソフト、簡易言語ソフト付だから、購入したその日から、家庭や各種データの管理など幅広い用途に活躍して、あなたの能力を伸ばして、FM-7、あなたの人生に新登場。

富士通

富士通パーソナルコンピュータ

FM-NEW7

新発売

ハイコストパフォーマンスを実現した興奮パソコン。

あの名作FM-7がFM-NEW7として生まれ変わった。豊富なソフト資産をそっくりそのまま継承しながら、コストパフォーマンスを徹底的に追求。先進の機能満載でマルチユース。しかもお求めやすさは格段の進歩です。

富士通

FMシリーズで動く

「アームロボ」プレゼント

オリジナル
期間 8/15~10/31

興奮手つかみ、わしつかみ!

1 オリジナルアームロボ

2 オリジナルトレーナー

今、日本で大人気の富士通のパソコンFMシリーズもお楽しみになると、抽選により、1等オリジナルアームロボが200名様に、2等オリジナルトレーナーがなんと2,000名の方に当たります。この貴重なビッグチャンス、にがすきはありません! 開催

※抽選 8/15(土)~10/31(日)の毎日抽選。抽選結果は、抽選結果発表ページに掲載いたします。抽選結果発表ページは、抽選結果発表後、必ずご確認ください。

FM-7 ¥120,000 (税別)

FM-8 ¥128,000 (税別)

FM-11 ¥138,000 (税別)

富士通

3.5インチフロッピーディスクドライブの採用で世代交代へ

FM-77

富士通 1984年5月10日発売 本体価格 FM-77D1 : 198,000 円、FM-77D2 : 228,000 円



カセットテープから フロッピーディスクへ

FM-77は1984年に富士通から発売されたFM-7の後継モデルである。価格を下げた廉価モデルだったFM-NEW7と違い、本体のデザインから一新。

キーボードが分離したセパレートモデルとなった。

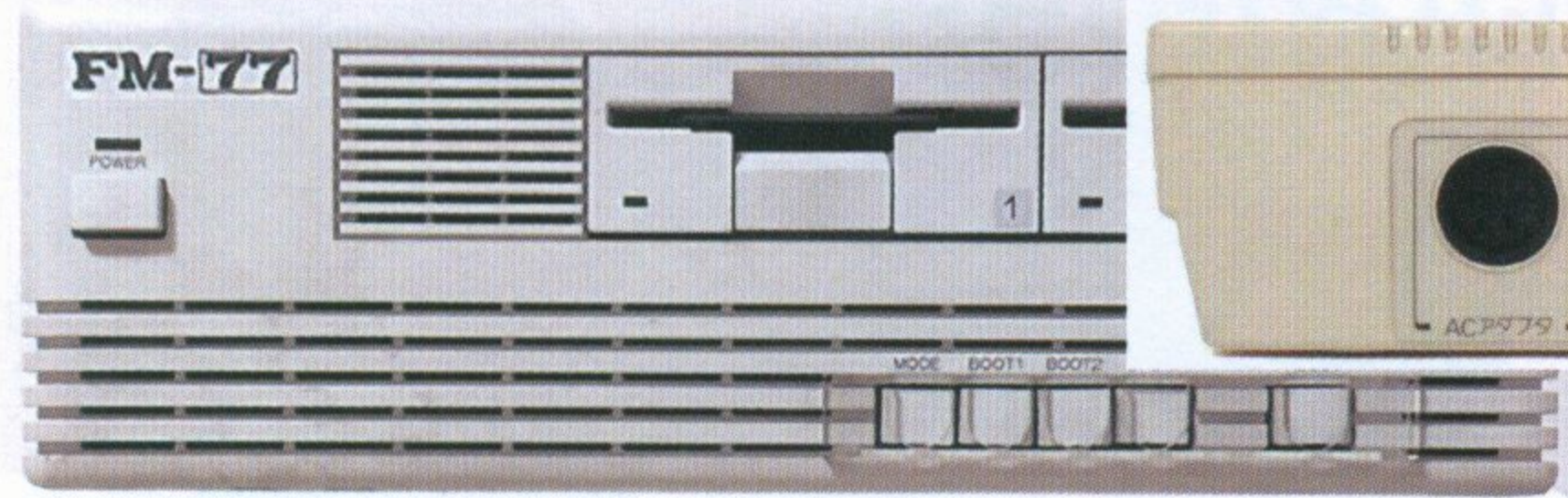
大きな変更箇所は3.5インチのフロッピーディスクをメインの記録メディアへと据えた点。カセットテープは安価な反面、容量や読み込み速度に難がある上、ランダムアクセス（好きな場所へ書き込ま

れたファイルをいつでも読み書きできる）ができないことから、将来的に大容量のデータを扱う上で不利が指摘されていた。他社も次々にフロッピーディスクに媒体を移している中で、富士通もその流れに乗った格好といえる。

またFM-8の頃からの懸念事項であった画像処理の高速化を実現、同時に漢字を使った日本語処理に対応するべく漢字ROMの内蔵と400ライン表示をするための400ラインセットをオプションで用意した。FM-7からのソフト資産をすべて継承しつつもFM77AVへと繋がる、富士通8ビットパソコンの重要なロードマップの転回を果たした偉大な機種といえるだろう。

FM-8仕様

製品名	FM-77D1	FM-77D2
ディスクドライブ	フロッピードライブ1基	フロッピードライブ2基
CPU	MBL68B09(MC6809互換)8MHz、MC6809 2MHz	
ROM	44Kバイト	
RAM	メイン64Kバイト(最大256Kバイト)、サブ5Kバイト、VRAM48Kバイト	
グラフィック機能	テキスト表示:最大80字×25行 グラフィック表示:640×200ドット8色 モノクロ3プレーンまたはカラー1プレーン	
サウンド出力	PSG音源 8オクターブ3重和音(AY-3-8910相当)	
インターフェース	デジタルRGB、カセットテープ、プリンター、スーパーインポーズインターフェース	



■本体前面



■本体背面



▲FM-77D1はドライブ1基内蔵、FM-77D2は2基内蔵している。ハードディスクがまだ一般的でない当時は高額でも2ドライブを購入する人が一般的だった。



■キーボード

FM-77 MODEL VARIATION

FM-77L2
1985年5月発売
193,000円
FM音源やジョイスティックを装備するなど、ホビー色の強い後継モデル。

FM-77L4
1985年2月発売
238,000円
400ライン表示を標準で搭載して日本語処理に長けた、ビジネス・実務色の強い後継モデル。

CATALOGUE

富士通パーソナルコンピュータ

FM-77

セブン セブン

新発売

ディスクとソフトで差をつける先進パソコン。

あの富士通から、天才肌の新鋭FM-77登場。
3.5インチマイクロロビティディスク2ドライブ内蔵。
JIS第1水準の漢字ROM標準実装。しかも豊富なソフトはそっくり継承。
もう想像力に負けない3.5インチ-セラメキの連続です。

3.5インチ時代のホビーパソコン

FM-77L2

エルツー

新発売

3.5インチ時代の400ラインパソコン

FM-77L4

エルフォー

イメージカラーを黒に一新! AV特化仕様パソコン

FM77AV

富士通 1985年5月10日発売 本体価格 FM77AV-1 : 128,000 円、FM77AV-2 : 158,000 円

FUJITSU



オフィスカラーから 黒モノ家電色へ

FM77AVはFM-77L2 (P.63) をベー

スにしつつも従来のFM-7シリーズのイメージを一新したホビーパソコンである。

従来の本体色は富士通自身が生粋のコンピューターメーカーだけにオフィスグ

レーを基調にしたものであったが、FM77 AVではテレビやステレオなどのAV機器（これらを洗濯機や冷蔵庫を白物家電と呼ぶことに対して、黒物家電という）で一般的な黒を基本色にしている。それに伴って広告やコマーシャルも徹底したAV志向でアピールした。

大胆なイメージチェンジを果たした同機だが、FM-7からの互換性は確保しており、FM-77のフロッピーディスク版ソフトも含めて（データレコーダーの接続端子が用意されている）全て動作するのは見事というほかない。

FM77AV仕様

製品名	FM77AV-1	FM77AV-2
ディスクドライブ	フロッピードライブ1基	フロッピードライブ2基
CPU	MBL68B09E(MC6809互換)2MHz×2	
ROM	F-BASIC 32KB、イニシエータ 8KB、サブシステムモニタ 28KB、キャラクタ 4KB、JIS第一水準漢字 128KB	
RAM	メインメモリ128Kバイト(最大192Kバイト) グラフィックVRAM 96Kバイト	
グラフィック機能	テキスト表示:最大80字×25行 グラフィック表示:最大640×200ドット	
サウンド出力	FM音源3音+SSG3音(YM2203)	
インターフェース	デジタルRGB、アナログRGB、プリンター、カセットテープ、モノラル音声、ジョイスティック×2、キーボード、フロッピーディスク	



■本体前面



■本体背面

AVパソコンとしての表現能力は?

FM77AVの一番の特徴といえば4096同時発色のグラフィック性能。しかも複数の画面の重ね合わせやハードウェアスクロールが可能であったことから、アクションゲームやシューティングゲームに適したハードといえる。

さらに、FM77AV40/EX/SXに至っては262,144色を発色できるようになった(ただし、画面の表示ドット数を発色数が上回ってしまうため「同時発色」という表現は使っていない)。この26万色というスペックを標準で越えたパソコンは、当時の国内パソコンではFM77AV40から遅れること5年後に発売



■キーボード

されたNECのPC-98GS(1991年発売)くらいしかなく、同じ富士通の後継機種FM TOWNSですら32768色にとどまっている。

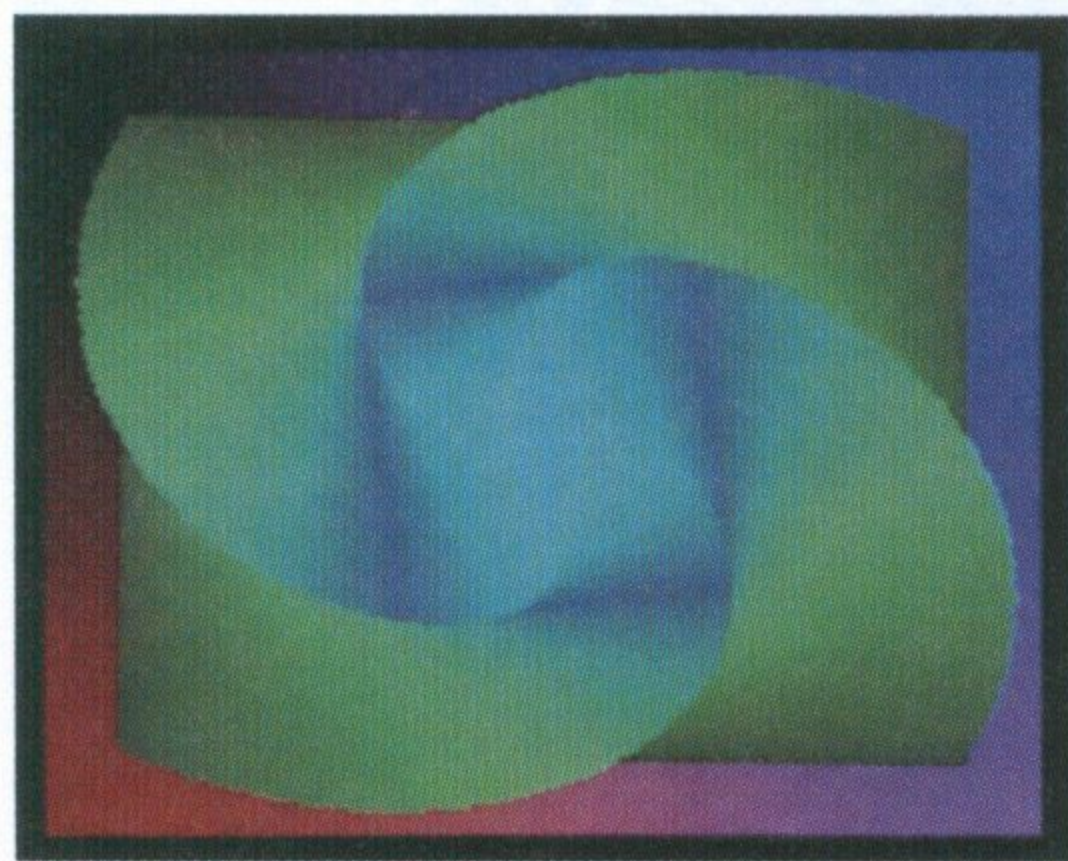
これらの多色発色を活かし、ビデオ映像とのスーパーインポーズ機能を標準搭載。コンピュータに映像を取り込むビデオデジタルボードも発売された。

サウンド面についてはPC-8801mkII SRに搭載されたものと同じヤマハのYM2203が搭載され、さらにオプションではあるがMIDI機器との接続でシーケンサーとしての使用も可能になっているなど、FM-7やFM-77に比べて格段に高度な音楽表現ができるようになった。

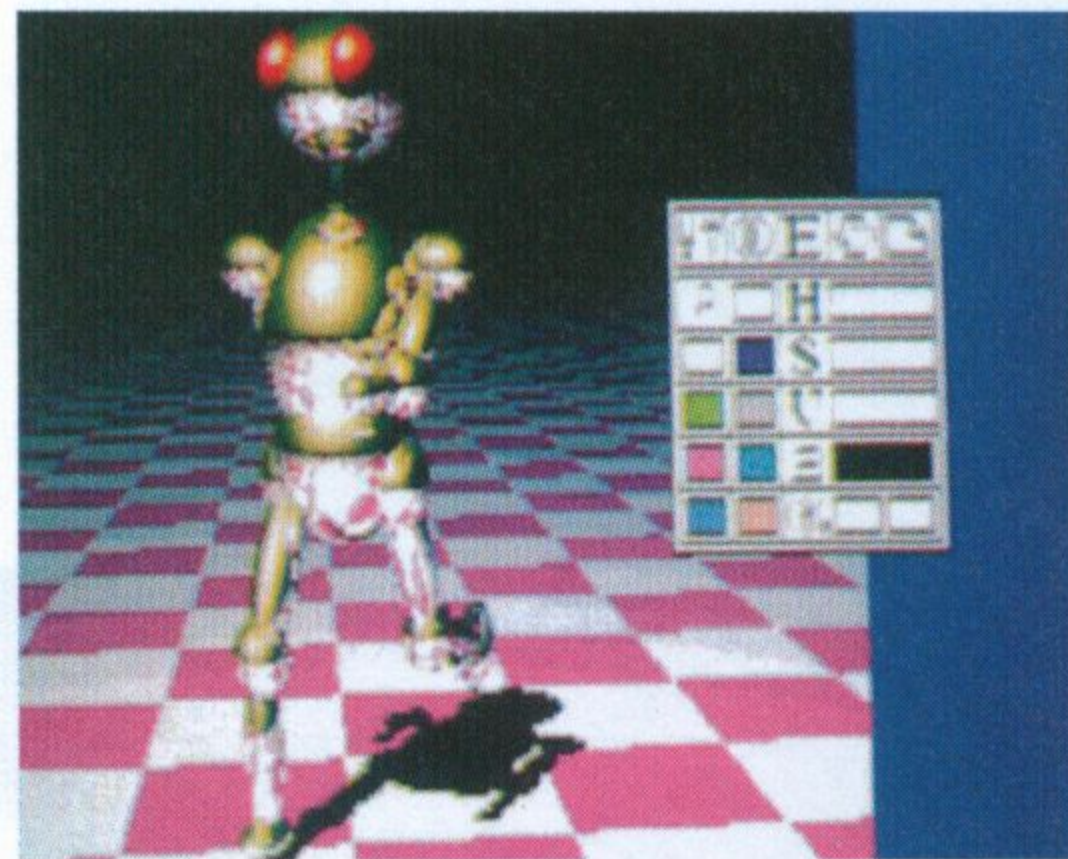


▲キーボードは赤外線によるワイヤレス接続。ケーブル接続するためのモジュラー端子も備えている。

時代が16ビットから、32ビットに移行する上で後継機であるFM TOWNSに後進を譲るかたちでシリーズの終焉を迎えたが、FM-77AVは名前負けしないまさに「AVパソコン」であったといえる。



▲FM77AV40による26万色表示のデモンストレーション。息を呑むような色の洪水が展開される。



▲FM77AVの強力なグラフィック機能を活用できる「FMグラフィックエディタ」。



▲楽譜ワープロスタイルで音楽制作。「FMミュージックエディタ」。



▲FM音源の音色を自分でエディットできる「FMサウンドエディタ」。

パワーアップ移植が 嬉しいFM77AV版

1980年代半ば以降になるとゲームソフトのボリュームも大きくなってきたため、じっくり遊ぶスタイルが定着するようになった。PC-8801mkIISRあたりから移植されるケースが多かったが、『ルクソー

ル』『琥珀色の遺言』などのように、FM77AVならではの高品質グラフィックにアレンジしてくれるメーカーもあり、ユーザーを喜ばせたものである。

なお、FM-7の仕様上の問題点だったキーボード入力だが、FM77AVから改良されて押し離しが普通に検出できるようになった。



▲FM77AVならではの美しいグラフィックでパワーアップを果たした『琥珀色の遺言』（リバーヒルソフト）。

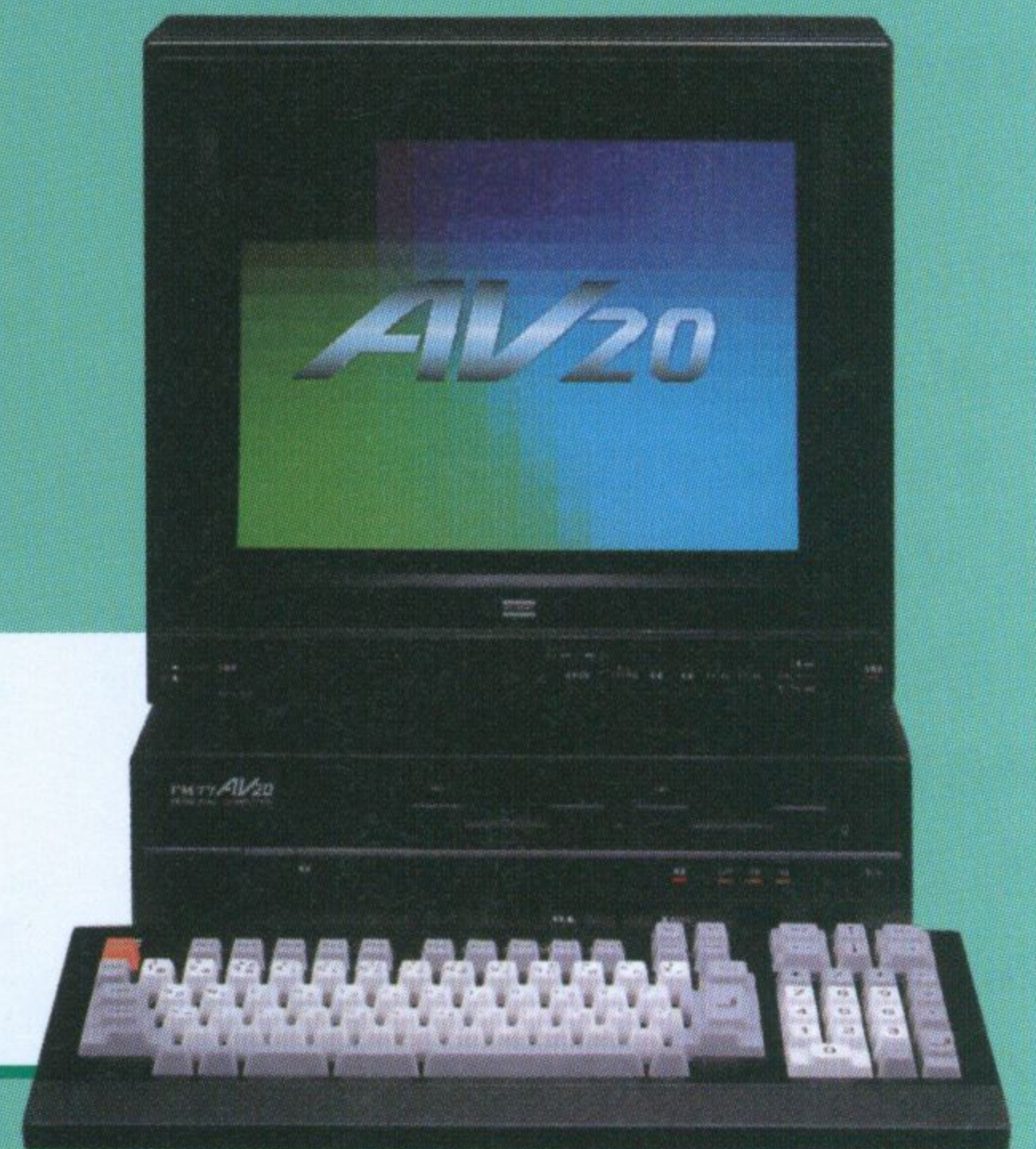
FM77AV MODEL VARIATION



FM77AV40

1986年10月発売 228,000円

262,144色表示可能になった上位モデル。また、フロッピーディスクドライブが2Dだけでなく2DDにも対応した。



FM77AV20

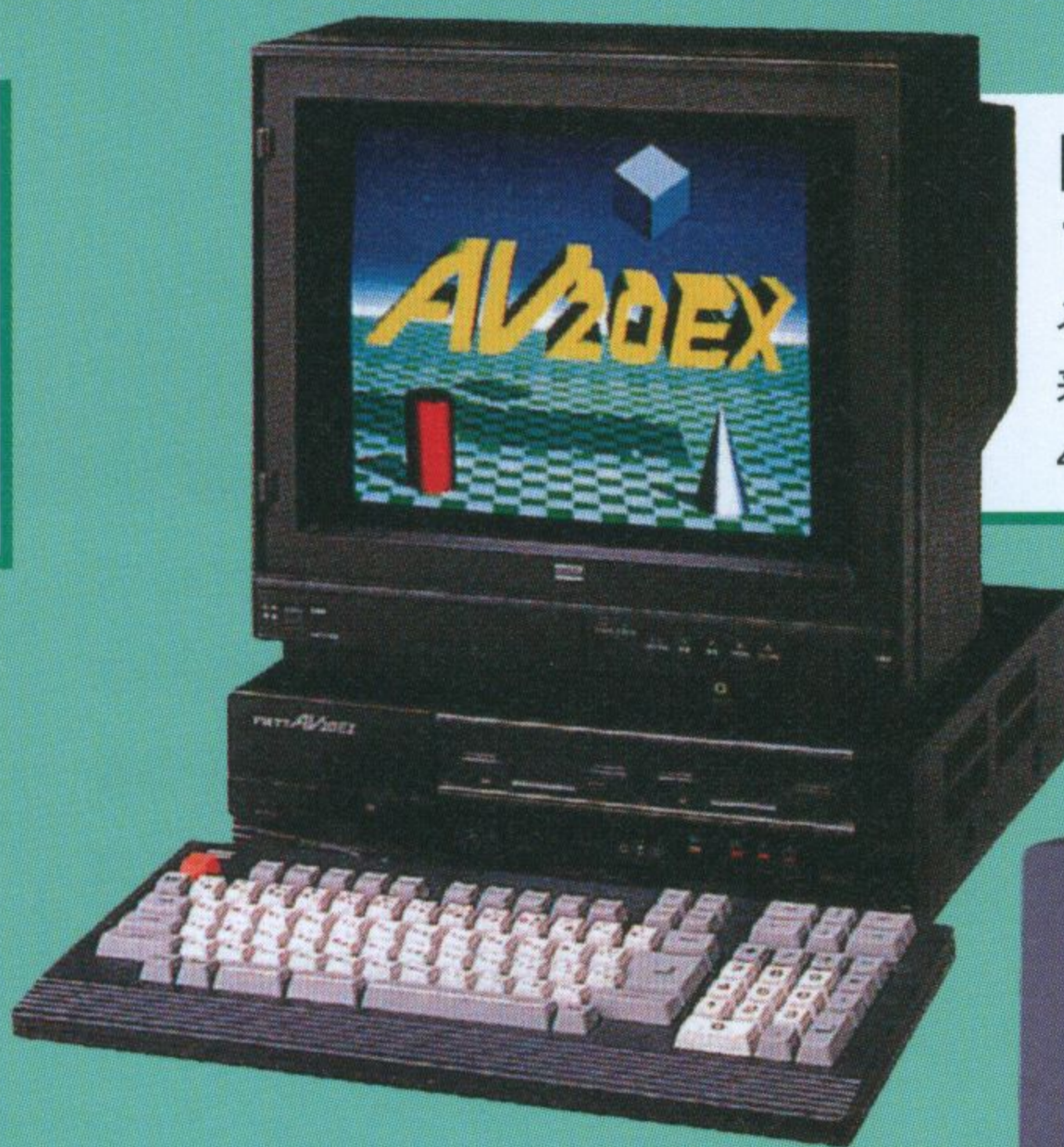
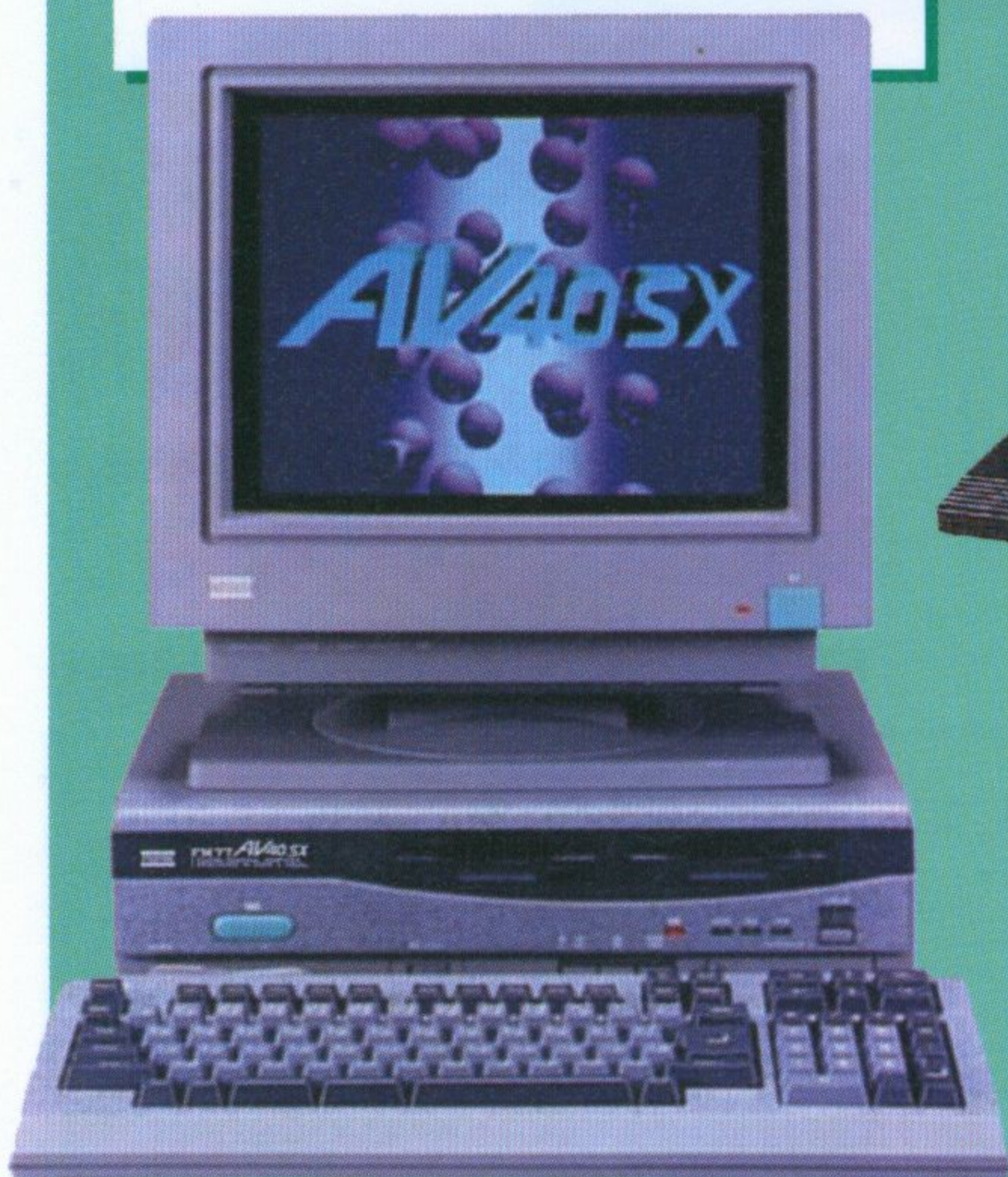
1986年12月発売 138,000円～

FM77AVを低価格化に成功したコストダウンモデル。FM77AV40同様、フロッピーディスクが2DDに対応した。

FM77AV40SX

1988年11月15日発売 178,000円

オプションだったビデオデジタル化カードを標準搭載した、FM77AVシリーズの最終モデル。



FM77AV20EX

1987年11月4日発売 128,000円

メモリアクセスのノーウェイト化によって、従来機より処理速度が25%アップしたモデル。4,096色表示。

FM77AV40EX


1987年11月4日発売 168,000円

メモリアクセスのノーウェイト化によって、従来機より処理速度が25%アップしたモデル。262,144色表示。



CATALOGUE

天然色パソコン
FM77AV
AUDIO & VISUAL
新・発・売



4096
同時発色

このパソコンは、色彩がやわらかく、鮮明で、同時発色 CRT が、色の再現性に優れている。さらに、256色まで発色可能な FM77AV は、257万色以上の色を、パソコンの電源を切らずに再現できる。しかも、自然な白黒の再現性も優れている。FM77AV、富士通の新しいカラーパソコン。

富士通

マルチクリエイティブパソコン
FM77AV20
ひびけん族。



サウンドに個性を響かせたい、グラフィックで、斬新な表現を感嘆したい、パソコン遊びでは、ハードも多彩に、低価格で楽しむ楽しみを味わいたい、オーディオ・ビデオ・コミュニケーションのすべてに、自由なクリエイティブを、

活用する人びとへ、最新、最上級のニューデザイン——設立、FM77AV20、ハイレベルのパソコンとされた高機能、最新のコストパフォーマンス、これは、従来のパソコンと、異なるといえるパソコンだ。

富士通

マルチクリエイティブパソコン
FM77AV40
ここに、夢実現ツール。



可能性を求めると、異なるといえるために、異なるといえるために、人はそのために、さまざまな道具を必要とした。そして、パソコンは最も先進的な道具の一つである。そして、FM77AV40、

ここに、コミュニケーション、情報、夢を実現する。FM77AV40、すべての道具、すべての道具に高機能に置き換えた。富士通のニューデザイン——ここに、夢を実現する。ここに、手紙したい。

富士通

FM77AV40EX-20EX
磨きかけたね、こんどのAV・EX。
いっそう強化された基本性能に、高度なオーディオ・ビジュアル機能を標準装備。さらに、ソフト&ハードウェアも充実して、トータルにパワーアップ。

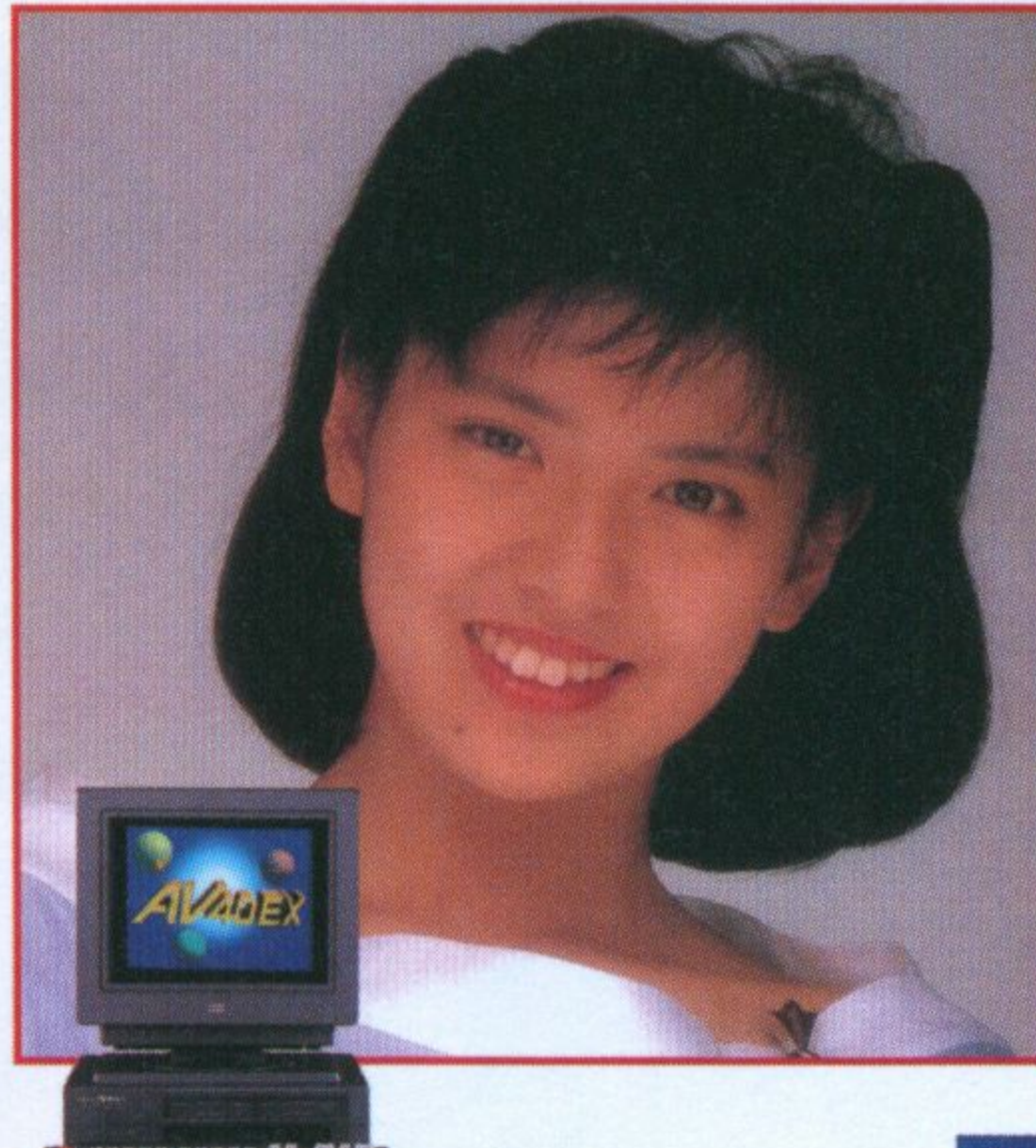


使える！きれいで進化した基本機能。
最新の、4096色、高機能な標準装備。AVEXは、目に映るやわらかく、鮮明で、同時発色 CRT が、色の再現性に優れている。さらに、256色まで発色可能な FM77AV40EX-20EX は、257万色以上の色を、パソコンの電源を切らずに再現できる。しかも、自然な白黒の再現性も優れている。FM77AV40EX-20EX、富士通の新しいカラーパソコン。

新しい、広がる。豊富なソフトウェア。
最新のソフトウェア——設立、FM77AV40EX-20EX、ハイレベルのパソコンとされた高機能、最新のソフトウェア、これは、従来のパソコンと、異なるといえるパソコンだ。

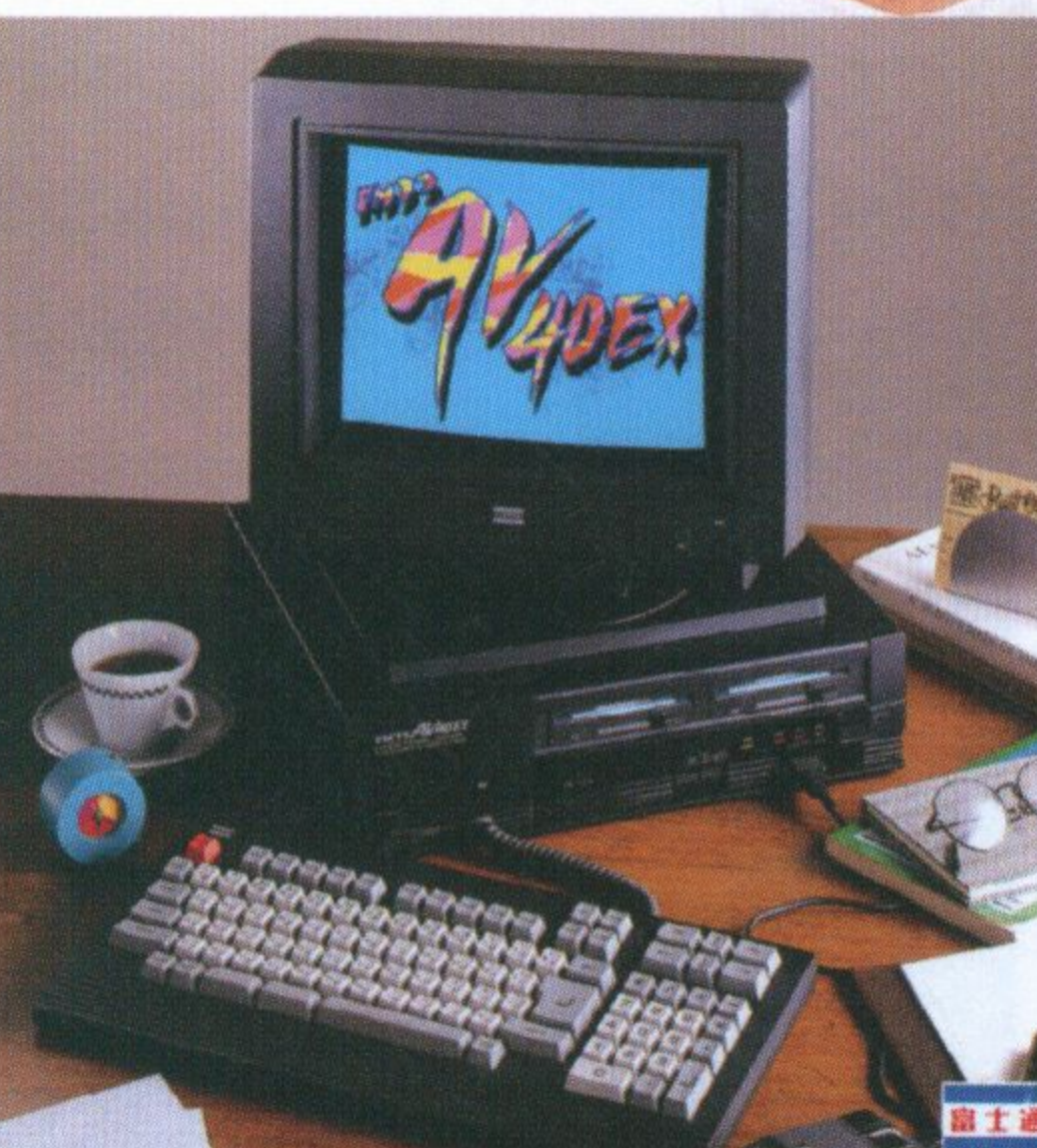
富士通

スーパークリエイティブパソコン
FM77AV40EX 20EX



富士通

スーパークリエイティブパソコン
FM77AV40EX 20EX



富士通

マルチクリエイティブパソコン 新発売
FM77AV40/20




コミュニケーション族へ
オーディオ族へ
ビジュアル族へ
26万色の追カ！
パーソナルコンピュータ族へ

楽しいソフトも盛りだくさん(別売ソフト)

富士通株式会社
〒100 東京都千代田区千代田 1-1-1
詳しくは当社へご連絡下さい。 OA-05

富士通

マルチクリエイティブパソコン
FM77AV40/20



富士通

マルチメディア普及の役割を担ったハイパーメディアパソコン

FM TOWNS

富士通 1989年2月28日発売 本体価格 モデル1：338,000円、モデル2：398,000円

FUJITSU



マルチメディアPC 規格に準拠

FM TOWNSは富士通がFM77AVの後継機種として世に送り出した32ビットパソコンである。CPUにはPC-9801な

どで既に採用実績のあった米インテル社のi386を採用、この当時のインテルCPUを搭載した32ビットパソコンは単なる「高速な16ビットCPU」としか使っておらず、FM TOWNSは「32ビットの性能を引き出すポテンシャルを持ったパソ

コンを作る」というスタンスで開発をスタートした。

グラフィックやサウンド能力は、当時話題になりつつあった「マルチメディア」に対応できる性能を基準に仕様が決められた。なお、CD-ROMドライブ搭載も含めてTOWNSの仕様策定には当時アスキーの社長だった西和彦の意向が反映されたものだったという。

初期こそメモリウェイトがあったために処理が遅かったが、モデルチェンジを繰り返すにしたがって性能は磨かれていき、1997年に最終モデル FMV TOWNS モデル H20が発売されるまでの9年間に100機種以上の製品が発売された。

FM TOWNS仕様

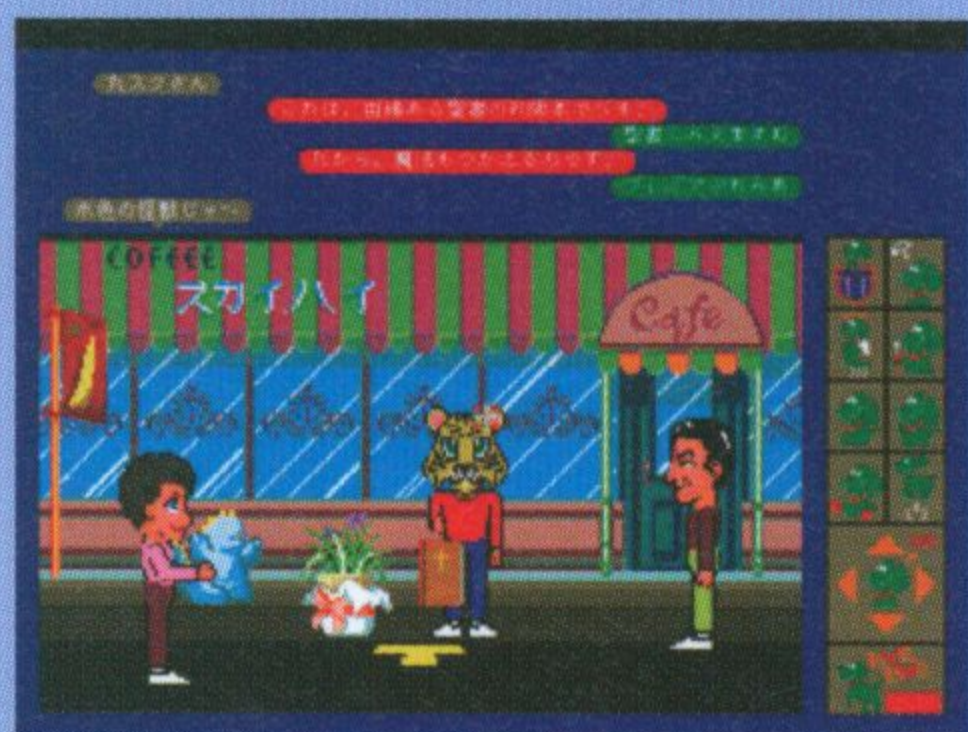
製品名	FM TOWNS モデル1	FM TOWNS モデル2
CPU	80386 16MHz	
ROM	日本語ROM:JIS第1,第2水準漢字ROM、辞書ROM 512KB	
RAM	メモリ 1Mバイト(最大6Mバイト) グラフィックVRAM 512Kバイト スプライトRAM 128Kバイト	メモリ 2Mバイト(最大6Mバイト) グラフィックVRAM 512Kバイト スプライトRAM 128Kバイト
グラフィック機能	グラフィック表示:最大640×480ドット・1677万色中256色 スプライト表示:16×16ドット/パターン、最大表示数:1024個・32768色 グラフィック機能:ハードウェアスクロール(円筒/球面)、プライオリティ	
サウンド出力	PCM音源 8ビット8チャンネルステレオ FM音源 6チャンネルステレオ(YM2612)、CD-DA(音楽CD)	
インターフェース	アナログRGB、ステレオ音声、フロッピーディスク、RS-232C、プリンター、 拡張スロット、ICカード、キーボード・ジョイスティック(マウス兼用)×2	

教育、通信など さまざまな展開へ

FM TOWNSは富士通が全社を挙げて販促活動をしたため、教育機関や通信端末、ビジネス用途と、多岐に渡る採用実績があった。特に児童教育用のソフト展開は力を入れていた。



▲架空の生物フィンフィンとコミュニケーションする『TEO -もうひとつの地球-』。



▲アバターによる架空ネット社会サービス『ハビタット』。

後期はFM TOWNS用の Windows まで発売され、結果的にDOS/V (Windows) に吸収されたわけだが、長きに渡って現役でいられたのは初代機的设计思想が正しかったことを証明しているといえるだろう。



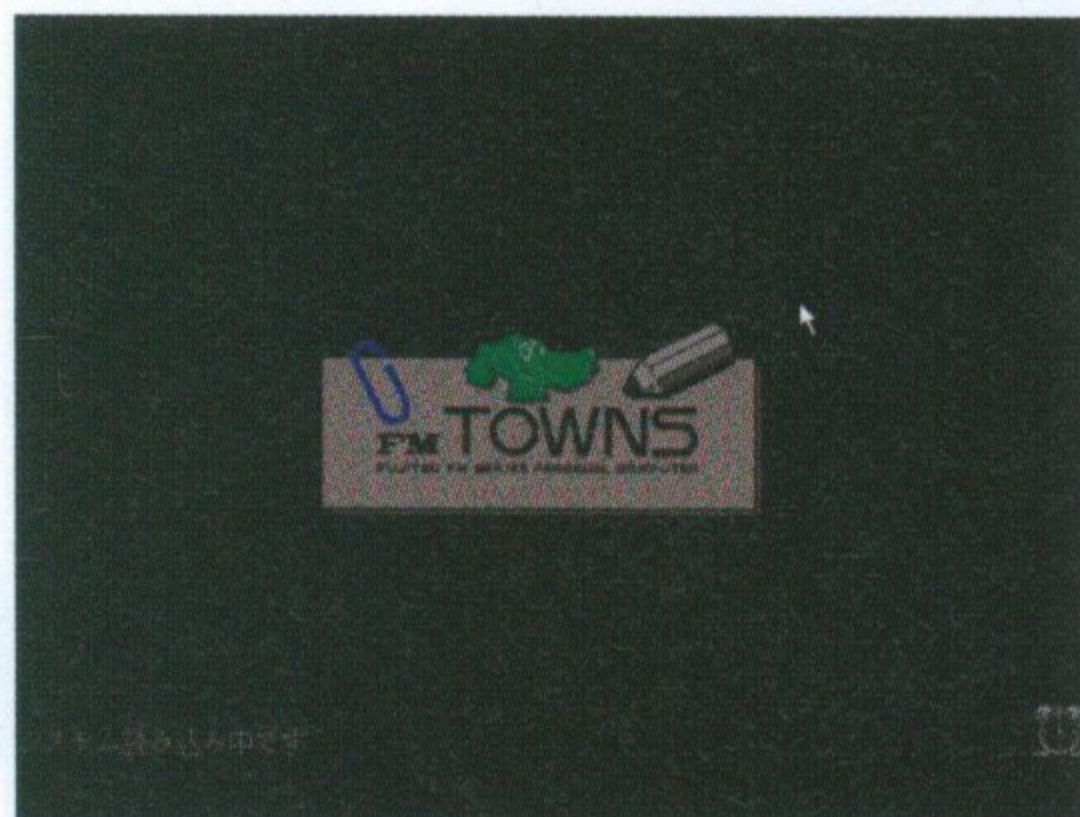
■本体前面 (写真はモデル20F)



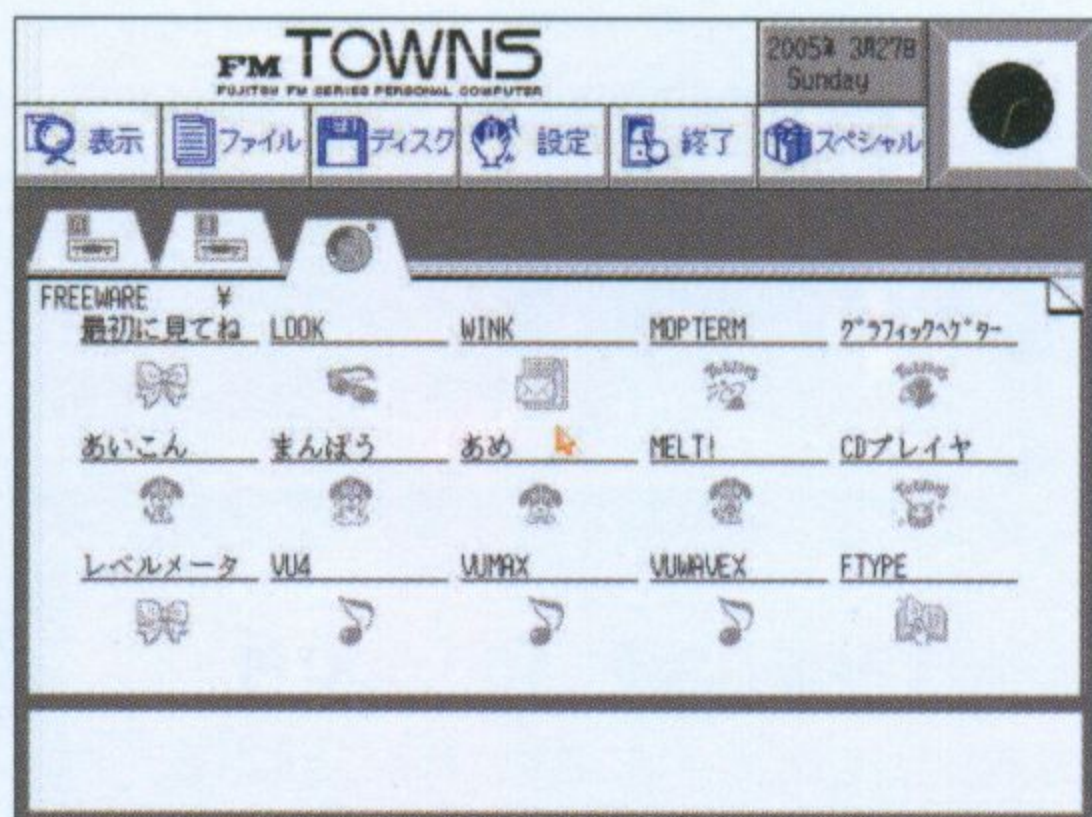
■本体背面 (写真はモデル20F)



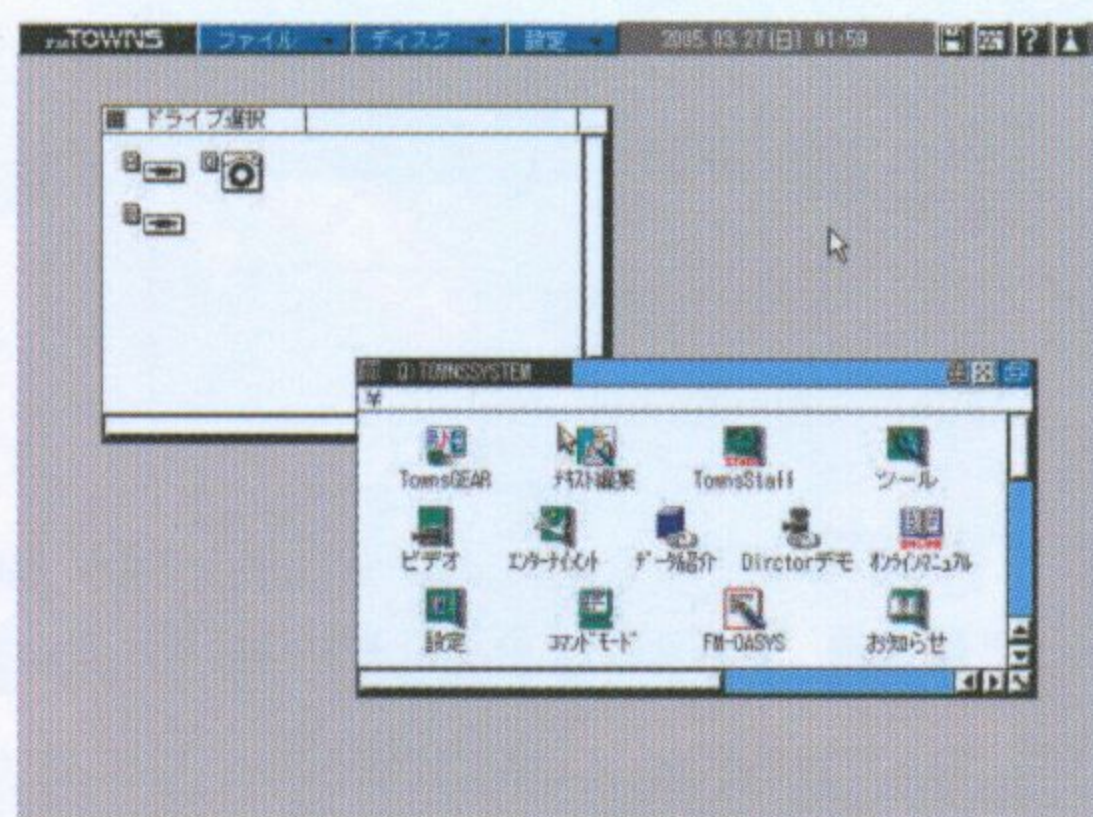
■キーボード (写真はJISキーボード)



▲起動画面



▲Towns システムソフトウェア V1.1



▲Towns システムソフトウェア V2.1

大容量と音声が大 CD-ROMの魅力

CD-ROMの特性を活かした大容量・音声再生に対応したソフトが多い。また、教育機関へのセールスが積極的だったため、『EMIT』といった英語学習ができるゲームなんてものもあった。



▲CD-ROM3枚組の大ボリュームでボイス入りを実現したFM TOWNS版『ふしぎの海のナディア』（ガイナックス）。



▲DAPSと名付けられたアニメーションエンジンで動画を表現した『オルゴール』（データウエスト）。

FM TOWNS MODEL VARIATION



FM TOWNSII モデル UX

1991年11月5日発売
263,000円～
10インチのトリニオンブラウン管を内蔵した、モニター一体型モデル。本体形状の都合から、CD-ROMドライブがフロントローディングになっている。

FM TOWNSII モデル HR

1992年11月4日発売
328,000円～
FM TOWNS初の横置きモデル。CPUもi486SXが搭載され、一気にパワーアップした。



FM TOWNSII Fresh・TV

1994年6月18日発売 388,000円
TVチューナーを搭載し、モニターとセット販売をしたモデル。



FM TOWNS マーティ

1993年2月16日発売 98,000円
キーボードを廃し、モニターも家庭用テレビに繋ぐといった割り切った仕様のTOWNS。



FMV TOWNS Fresh・GS

1995年11月発売 358,000円
同社のFMV DESKPOWERにTOWNSの機能を合体させたモデル。以後はFMVが主力に。



FM TOWNSII モデル SN

1995年2月10日発売 528,000円
FM TOWNS唯一のノートパソコンモデル。教育機関向けに発売された「文教モデル」で、一般市販されていない。



FM TOWNSII モデル HC 1995年2月8日発売 488,000円

FM TOWNSとしては最後のモデル。これ以降はFMV TOWNSとしてDOS/Vに集約されることになる。



CATALOGUE

富士通

4/17まで
発売キャンペーン実施中
お買い上げの時に、おまけのCD-ROMがプレゼント。

ハイパーメディア・パソコン
FM TOWNS

FM TOWNSを体験しよう!
富士通プレゼンテーション「電腦遊園地」

個人用資料
名古屋3 28X-28X 28X-28X 28X-28X 28X-28X
大 阪4 28X-28X MIDシスター 札 幌4 28X-28X 28X-28X

パソコンが変わる。FM TOWNSが変える。

見る、聴く、遊ぶ、創る、仕事する。
そんな賢大な声に込めるFM TOWNS。
スタイリッシュフォルムに、いままでのパソコンの
レベルを超える性能を凝縮。
気ままにつきあえる一台です。



FM TOWNSは、
「見る、聴く、遊ぶ、創る、仕事する」
の5つの機能を、
一つのパソコンで実現しています。

ずっと、つくりだされたパソコンです。
私たちは、今までのパソコンには不満でした。AV対応といっ
てもその程度に満足できなかった。CD-ROMといっっても、CD-ROM
ワークがうまくいかなくて悩んだ。でも、パソコンで楽しむ楽し
みであるはずだと。私たちは、自分の生活で、パソコンを
楽しみたい。音楽もアートもグラフィックも、パソコンワー
クも、全部楽しみたい。だから、デュアル機能力と、ひろが
る使い方のできるパソコンがほしい。それが、FM TOWNS。美
しく、使いやすい。CD-ROMのアプリケーションを、つぎ
あいやすい1台として、人間に近いレベルで仕上げました。こ
こに、FM TOWNS 私たちの近くにいることのできるパソコンです。

きみが関係するFM TOWNS。全身クリエイティブメディアです。

FUJITSU

FM TOWNS
FUJITSU FM SERIES PERSONAL COMPUTER

93.11
総合カタログ

FUJITSU

FM TOWNS II
モデルMX モデルMA モデルME モデルLR

FUJITSU

FM TOWNS
FUJITSU FM SERIES PERSONAL COMPUTER

新生、FM TOWNS II。作る楽しさと使う楽しさを満載した、マルチメディアのリーディングマシン。

FM TOWNS II モデルHG
マルチメディアアプリケーションを得意に動作させる。
高性能の386SX CPU(20MHz)を搭載。
2FDドライブモデル。40MB/100MBハードディスク
大容量モデルもラインアップ。使いに合わせた。
機種選択が可能。スタンダードマシンです。

FM TOWNS II モデルLG
高機能ディスプレイを標準装備した。
コンピュータ一体型。
CPUには、
高性能の386SX CPU(20MHz)を搭載。
1FD/2FDドライブモデル。
40MB/80MBハードディスク容量モデル。
以上の4モデルもラインアップ。
ご自分の用途に合わせて選択可能。
あるため「ワークステーション」で呼ばれるにふさわしいマシンです。
*1FDモデルの、FDDの搭載はできません。

FM TOWNS II モデルLR
CPU... 高性能の
486SX CPU(20MHz)。5倍速のドライブモデル。
CD-ROMドライブ。ハードディスク 500MB。
高機能のグラフィックアダプタ。
アプリケーションも得意に動作します。
2FDドライブモデル。100MB/200MB
ハードディスク容量モデルもラインアップ。
*ハードディスク容量モデルは、ハードディスクの
フォーマットが必要です。

FM TOWNS II モデルUR
コンパクトなボディに、
高性能の386SX CPU(20MHz)を搭載。
CPUは5倍速。
*486モデルのハードディスクは、
コンパクトなボディに搭載できません。
2FDドライブモデル。
40MB/80MBハードディスク容量モデルの
3ドライブラインアップ。
各種アプリケーションも、多岐に
わたってご自分の用途に合わせて動作します。

富士通 電脳冬祭り
11月18日 - 11月15日

あなたのFM TOWNS
お友達にプレゼント

パソコン・ワープロ・テレビホンを販売店でお買上げの方に
3人が選んだ
オリジナル **CD3枚セット**
が抽選で1,000名様に当たります。

抽選でFM TOWNSを販売店でお買上げの方に
豪華な**CDクロック**
をプレゼント

FM TOWNS
OARYSシリーズ

FUJITSU

日本初のパーソナルコンピューター

ベーシックマスター

日立製作所 1978年9月発売 本体価格 188,000 円

HITACHI



まさに ベーシックマスター BASIC学習機

ベーシックマスターは日立製作所が日本で初めて発売したパソコンである。開発は同社のテレビ事業部が行っており、「家庭用テレビで使える手軽なコンピューター」という、後のホビーパソコンのコンセプトをそのまま体現した製品といえる。もっとも、当時は「パソコン」

という機械に市場性があるかどうかも未知数だったため、製品開発、マーケティング、アフターサポートなどすべてが手探りの状態で行われていた。

ベーシックマスターの名前通り、記述言語はBASICが内蔵されているほか、マシン語モニタから直接制御も可能。キー入力で直接レジスタに値を書き込むといった、後の他機種にも実装されていない機能があったりする。

ハード自体もパソコン史最初期の製品だけに、のちの各社の製品に比べて全体的に荒削りで「こなれていない感」が各所に見える。バックスペースキーが「後退」、エンターキーが「復改」と書かれているなど、今見るとかえって味わい深い。

ベーシックマスター仕様

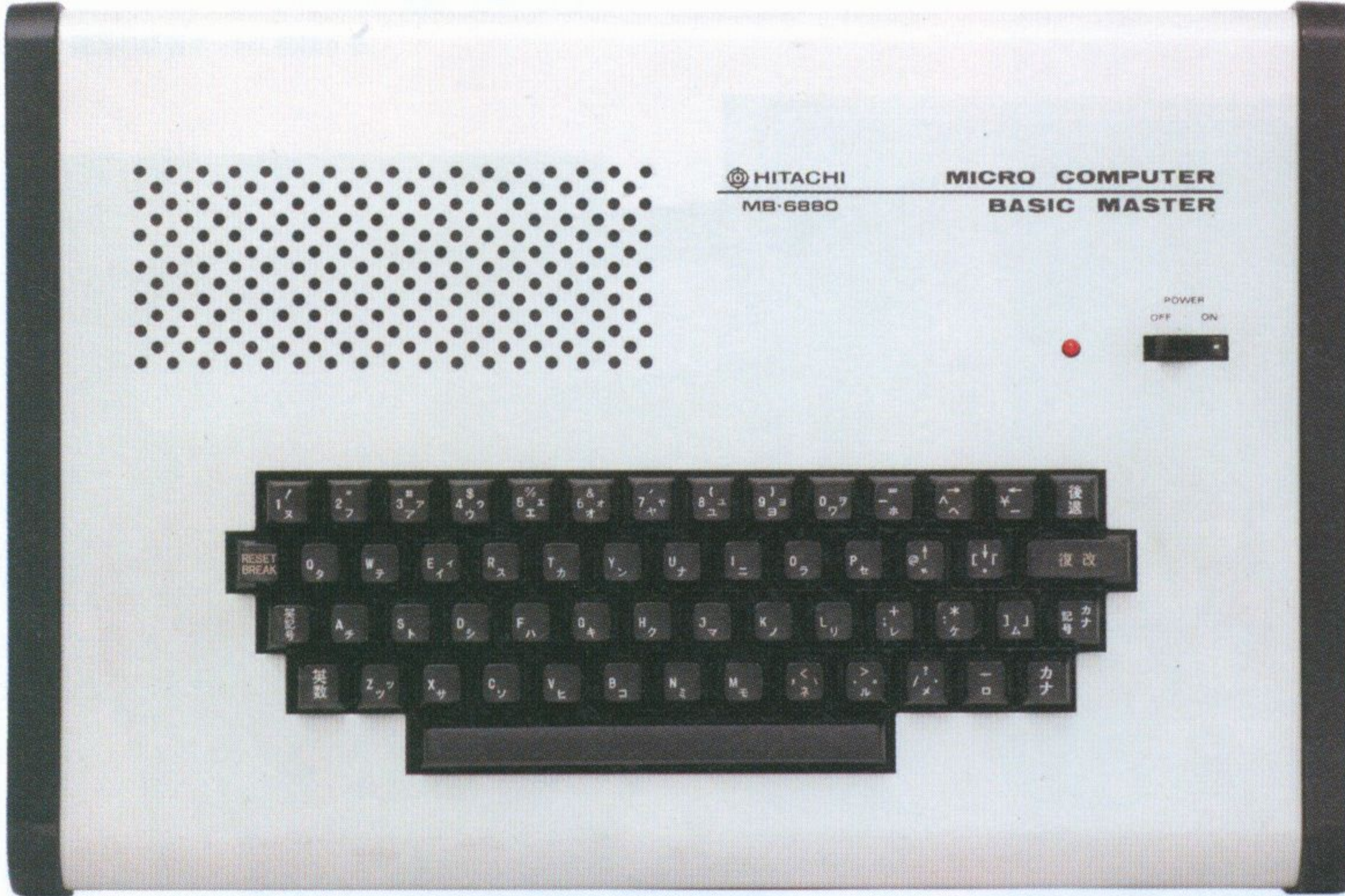
CPU	HD46800(MC6800互換) 750KHz
ROM	8Kバイト
RAM	4Kバイト(最大32Kバイト)、テキストVRAM 1Kバイト
グラフィック機能	テキスト表示:32字×24行・モノクロ
サウンド出力	5ビットD/A変換信号のスピーカー再生
インターフェース	RF信号、コンポジットビデオ、カセットテープ



▲ロゴ周辺。電源スイッチとLEDのみとシンプルな極み。



■本体背面



■キーボード

市販ゲームはまだほとんどなかった

本格的にゲームがリリースされるようになったのはレベル2以降で、無印は

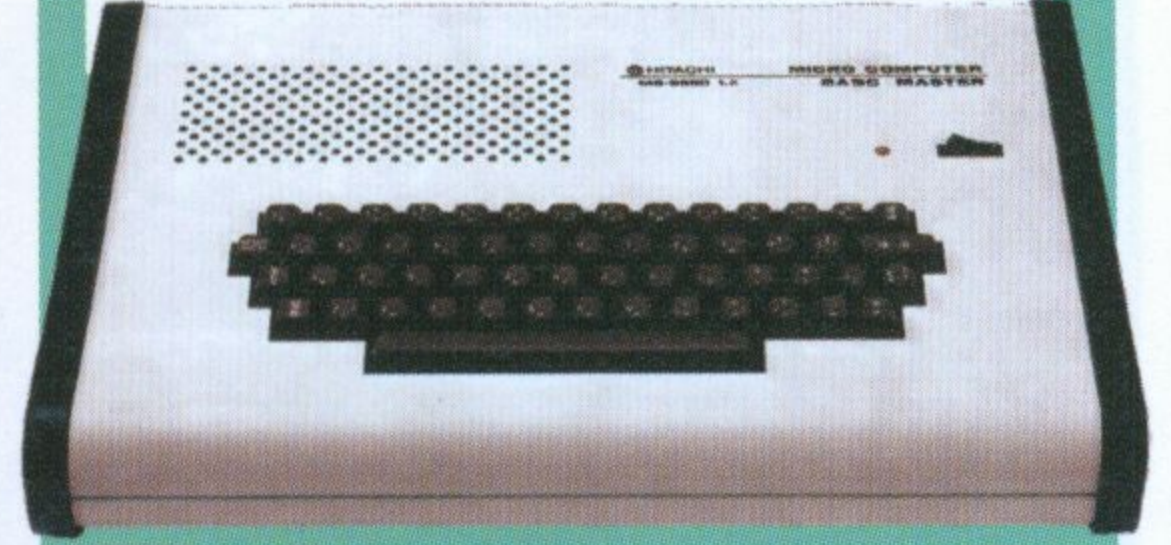
基本的にユーザーが自分でプログラムを打ち込んでゲームを作るというスタイルが一般的だった。そのため、当時のユーザーはBASICでプログラムをすることは必須科目のようなもので、「ベーシックマ

BASICMASTER MODEL VARIATION

ベーシックマスターレベル2

1979年2月発売 228,000円

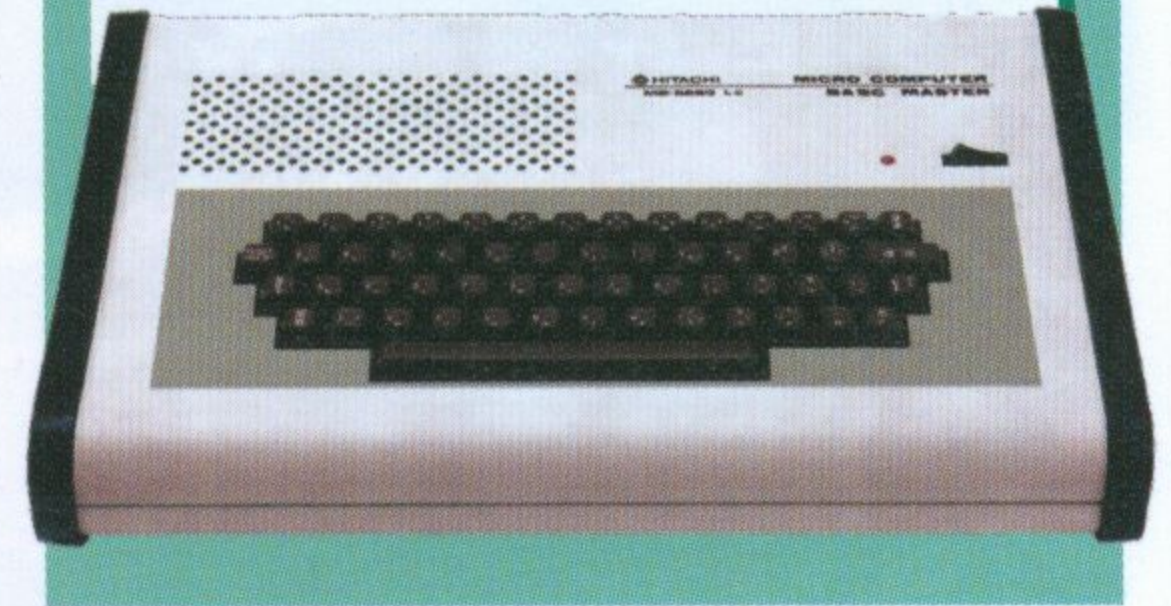
浮動小数点や高精度計算が可能になったほか、サウンド機能も追加されて音楽を奏でることが可能になった。



ベーシックマスターレベル2II

1980年発売 148,000円

メモリが増強され、価格も安価になった新モデル。キー周辺に色付きプレートが設けられているのが大きな特徴。



スター」という商品名はぴったりの名前だったといえる。

◆CATALOGUE



ベーシックマスター MB-6880L2 ¥228,000

拡張プリンター MP 1010 ¥138,000

キャラクタディスプレイ K12-2050G ¥49,800

豊富な関数群を内蔵。

数学計算から技術計算まで応用多彩。



ベーシックマスターは、高性能・高精度設計の完成品マイクロコンピュータ。大きな特長は、関数群を豊富に用意していることで、三角関数、自然対数、平方根などの各種算数関数、および文字列の検索・置換などの文字取扱い機能の多彩な関数群を内蔵。このため応用範囲が広く、主簿・簿記・建築の計算から物理計算、数学計算、乃至は基礎的な三角関数の計算から、複雑な行列式や微分方程式の解まで、自由に活用でき、さらに、技術の進歩から実現できた便利な関数機能でも

ベーシックマスターの特色
 ■各種関数群を豊富に内蔵――三角関数、平方根関数や対数関数、自然対数関数、平方根関数、三角関数、平方根関数など多彩な関数群を内蔵。また、文字列の検索・置換などの文字取扱い機能の多彩な関数群を内蔵。このため応用範囲が広く、主簿・簿記・建築の計算から物理計算、数学計算、乃至は基礎的な三角関数の計算から、複雑な行列式や微分方程式の解まで、自由に活用でき、さらに、技術の進歩から実現できた便利な関数機能でも

ベーシックマスターの応用例
 ●教育／学習 ●家庭利用 ●事務利用 ●ゲームなど
 ●設計 ●生産 ●研究 ●趣味

マイコン周辺の機器
 ●キャラクタディスプレイ(K12-2050G) ¥49,800
 ●拡張プリンター(MP 1010) ¥138,000
 ●拡張モニター(780-050) ¥22,800
 ●データディスクドライブ(D780-050) ¥22,800
 ●電源ユニット(780-050) ¥22,800
 ●キーボード(780-050) ¥22,800

HITACHI
日立マイクロコンピューター
 上手に使うが上手に販売

ホビーからビジネスまで...多彩な機能で応える日立マイクロコンピューターシステム。



値段が安くなってさらに入門向けになった

ベーシックマスター Jr.

日立製作所 1981年発売 本体価格 89,800円



低価格な入門用 ベーシックマスター

ベーシックマスターJr. はP.76で紹介したベーシックマスターレベル3の弟分として発売されたホビーパソコンである。レベル3が高性能・高価格な機種となったため、価格を抑えた入門機という位置づけで発売された。

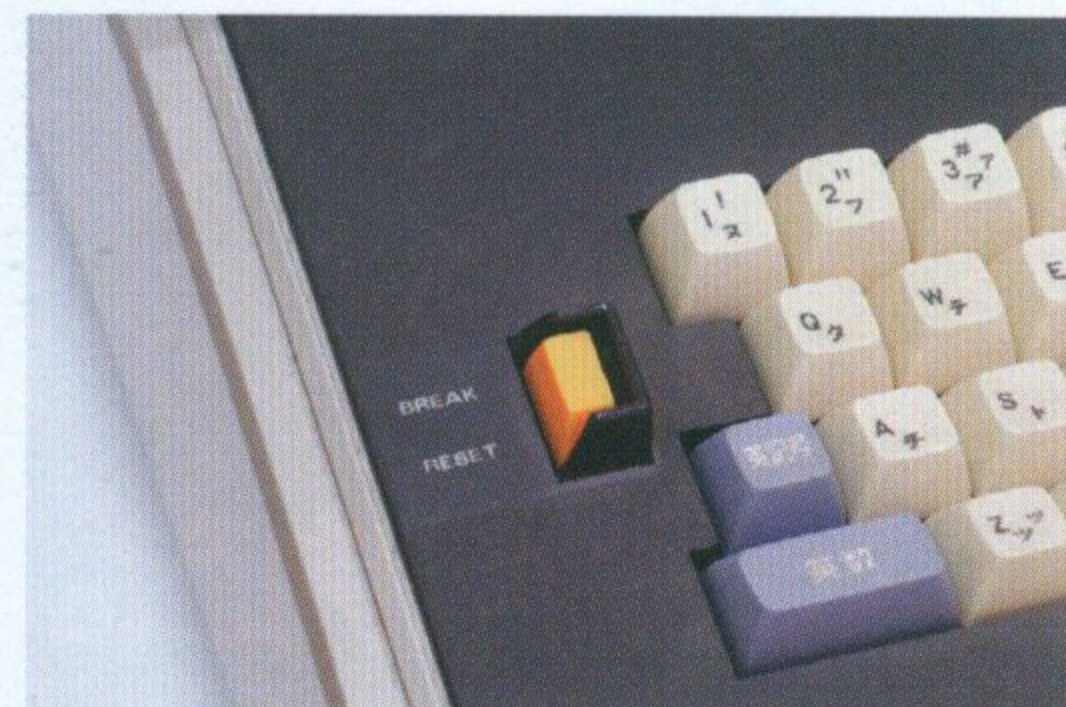
基本性能はベーシックマスターレベル2Ⅱがベースとなっており、初代ベーシックマスターおよびレベル2用ソフトをそのまま動作させることができる。一方、レベル3とは互換性がなく、初代ベーシックマスターの直接の血統といえる製品となった。

ボディカラーは同社の製品としては初めてシルバーと黒を導入、89,800円と

いう安価な価格設定も手伝って、ビジネスユースのイメージが強かったベーシックマスターをホビー用途に強くアピールすることに成功している。同時期に発売され、価格も同額だったPC-6001 (P.12) が競合機種となりライバル関係にあった。

ベーシックマスターJr.仕様

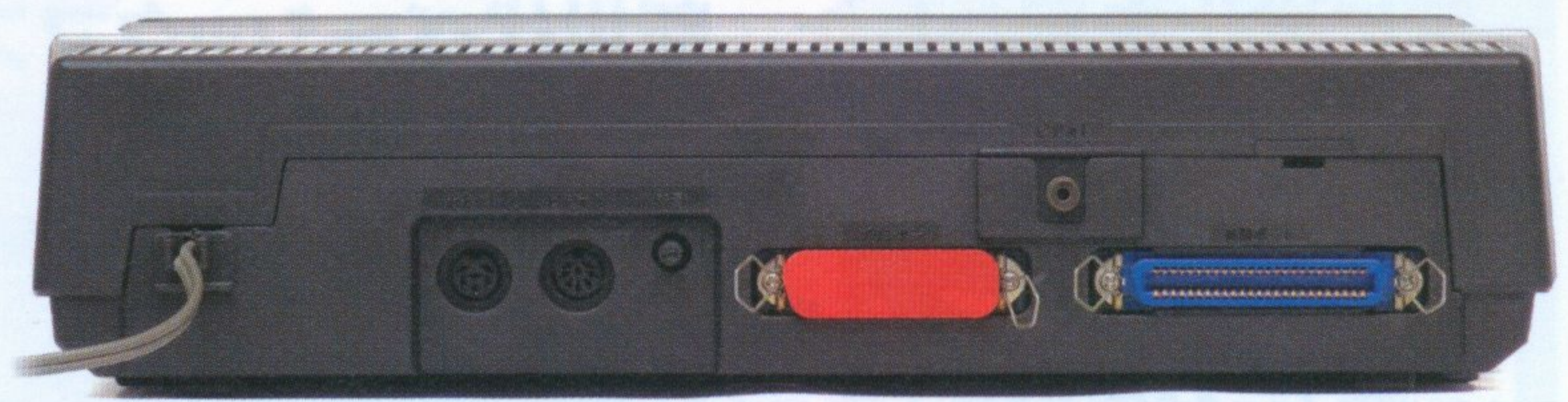
CPU	HD46800(MC6800互換) 750KHz
ROM	16Kバイト
RAM	16Kバイト(最大63.5Kバイト)
グラフィック機能	テキスト表示:32字×24行・モノクロ グラフィック表示:最大256×192ドット・モノクロ
サウンド出力	5ビットD/A変換信号のスピーカー再生
インターフェース	RF信号、コンポジットビデオ、カセットテープ、プリンター、拡張ポート



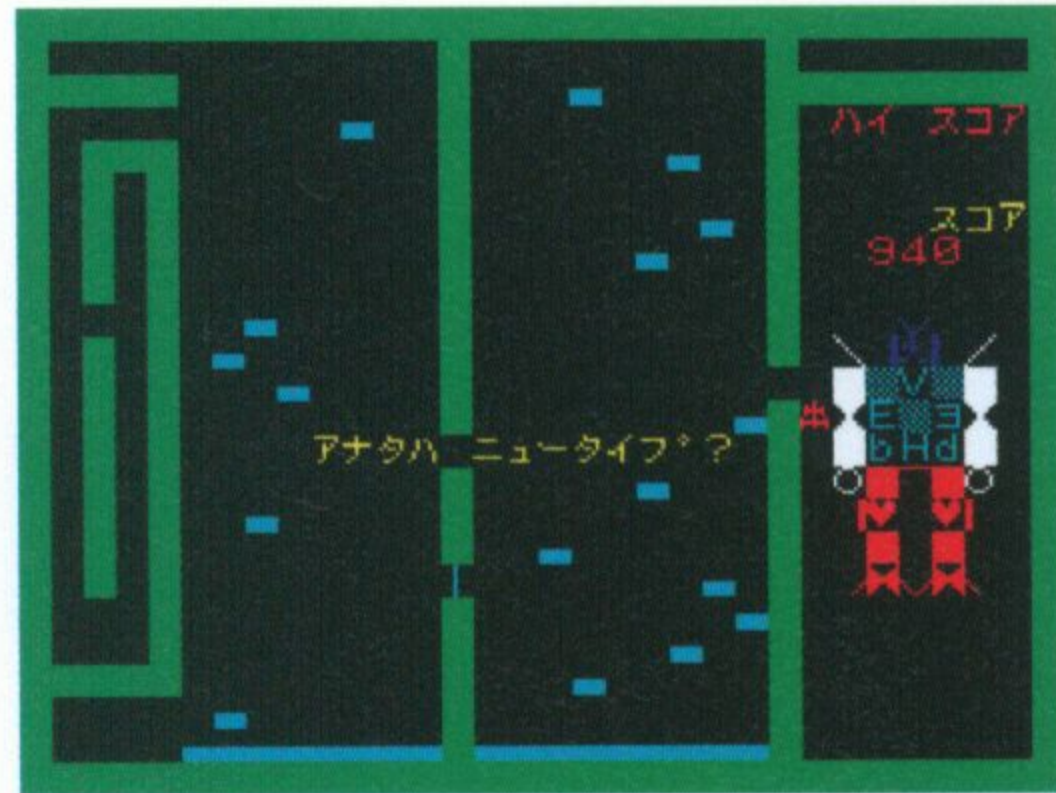
▲誤入力を避けるためにガードされたBREAK/RESETキー。この機構はレベル3以降の特徴となった。



▲ベーシックマスターJr. 専用の周辺機器、カラーアダプター。背面の拡張ポートに接続する。



■本体背面



▲日立から発売されたカラー対応ゲームソフト「ガムダム」。主人公のカムロを操作してガムダムに乗り込む内容だ。



■キーボード

カラーアダプターで パワーアップ!

ホビー用途アピールと「Jr.」という商品名のおかげで入門機のイメージが持たれる本機だが、プリンター端子や拡張ポートを標準で備えるなどレベル2Ⅱを上回る性能が与えられており、中でも

特徴的なのはJr. 専用の周辺機器、カラーアダプターの存在であった。

これを装着することでベーシックマスターが8色カラー表示対応マシンに変身

するという野心的な周辺機器であり、BASiCからは制御できないという弱点はあるものの、Jr. ユーザーにとって実質的にマストバイな製品となった。

CATALOGUE

新商品ニュース

HITACHI

日立パーソナルコンピューター
ベーシックマスターJr.

MB-6885 ¥89,800

HINT

〈上手に使う上手に遊ぶ〉

先進技術がシンプルで使いやすいパソコンを生んだ。

日立パーソナルコンピューター
ベーシックマスターJr.

MB-6885 ¥89,800

HITACHI

HINT

ゲーム、学習、家事...みんなの暮らしが新しく、日立のジュニアです。

親子でパソコン

「日立のパソコン」

日立パーソナルコンピューター
ベーシックマスターJr.

MB-6885 ¥89,800

HITACHI

HINT

パソコンは基本からはじめよう。能力多様・発展自在の「Jr.」新登場。

一気に進化を果たした、新世代ベーシックマスター

ベーシックマスターレベル3

日立製作所 1980年5月発売 本体価格 298,000 円

HITACHI



キーボード一体型 最大級のサイズ

ベーシックマスターレベル3は、従来機種同様「ベーシックマスター」の名を冠しているものの、根底から新規設計された全く新しいハードウェアである。CPUに米モトローラ社の6809を採用し、クロックが引き上げられたことから動作

速度も高速になった。初代ベーシックマスターおよびレベル2とはCPU自体が異なっているため一切互換性がないので注意が必要である。

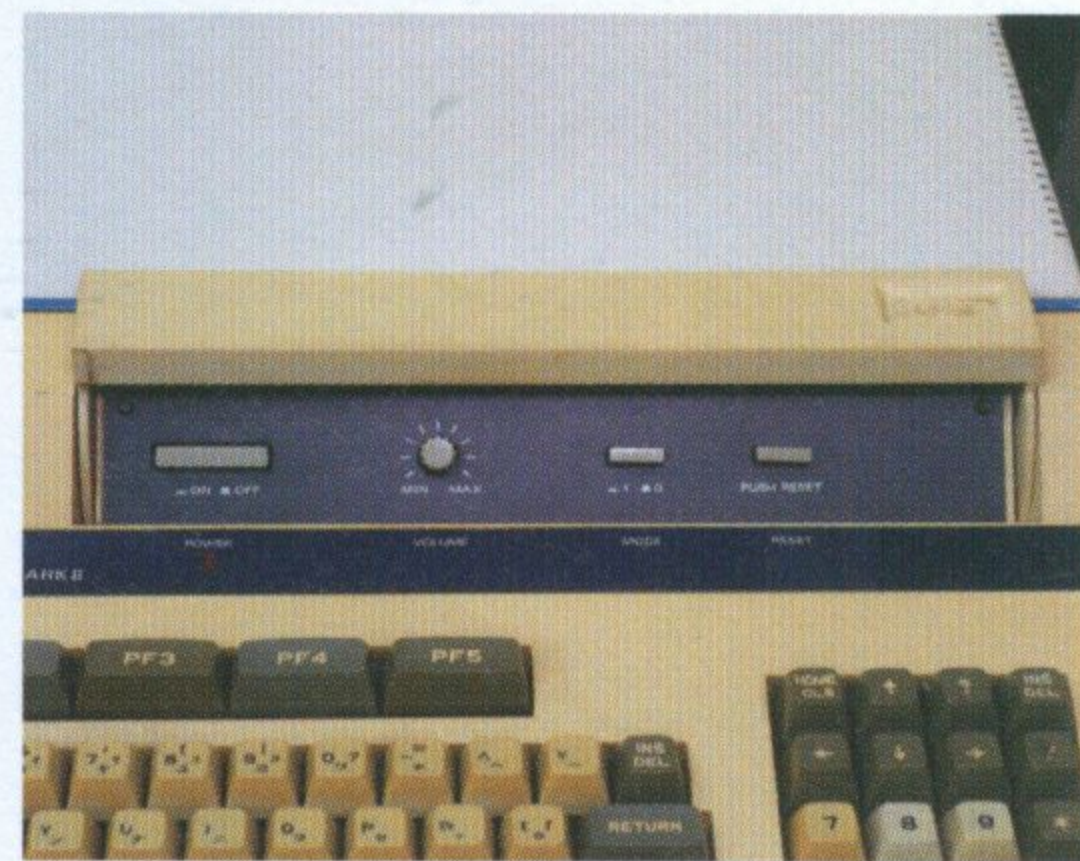
本体はモニターの下に敷くことができる形状のためかなり大きく、キーボード一体型では最大の大きさを誇る。このサイズを活かして拡張 I/O インターフェースは6スロット装備、拡張性の高

さも本機の大きな特徴である。

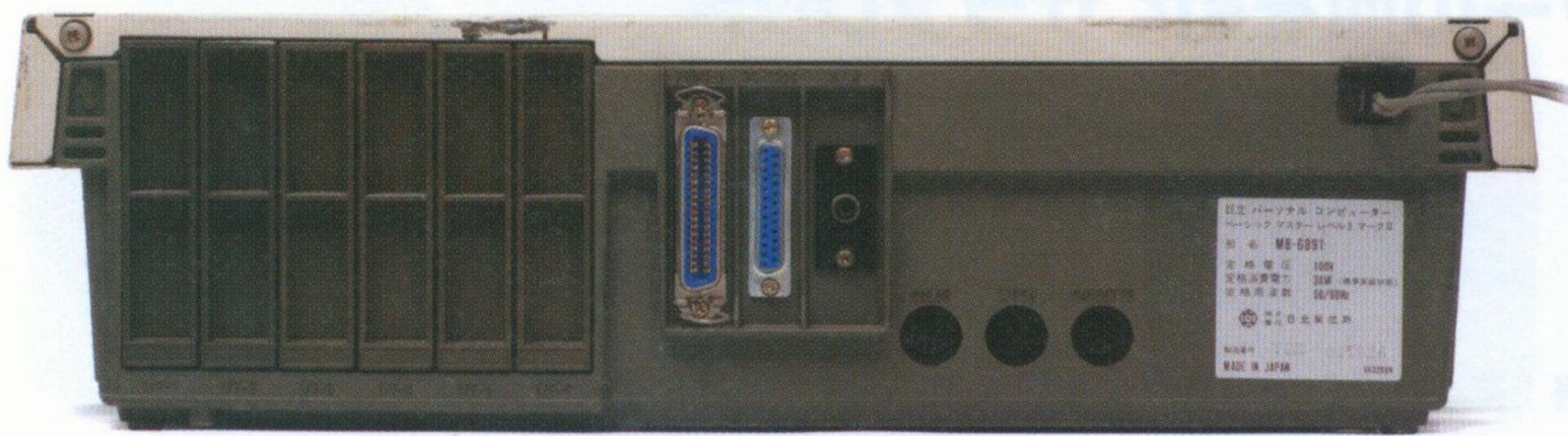
日本のパソコンで一般的な80字×25行、640×200ドットの解像度は本機が最初に導入したものであり、ベーシックマスターレベル3は実質的なスタンダードを確立した偉大な機種といえる。

ベーシックマスターレベル3仕様

CPU	MC6809 1MHz
ROM	24Kバイト
RAM	32Kバイト(最大60Kバイト)
グラフィック機能	テキスト表示:最大80字×25行・8色 グラフィック表示:最大640×200ドット・8色
サウンド出力	5ビットD/A変換信号のスピーカー再生
インターフェース	RF信号、コンポジットビデオ、カセットテープ、プリンター、RS-232C、拡張I/Oインターフェース×6



▲本体右上部のコントロールパネル。



■本体背面 (写真はベーシックマスターレベル3Mark2)



■キーボード (写真はベーシックマスターレベル3Mark2)

ベーシックマスターレベル3は「ビジネスからホビーまで」を高いレベルで実現する日本初のパソコンで、それを裏付けるように高度な実務用ソフトからゲームソフト、OS-9の発売などトピックも多い。

ただし、その代償として高額な価格設定となっていたのも事実であり、それが足かせとなって他社の後続機種が登場により次第にその座を追われていくことになった。

BASICMASTER MODEL VARIATION

ベーシックマスターレベル3Mark2

1982年4月発売 198,000円

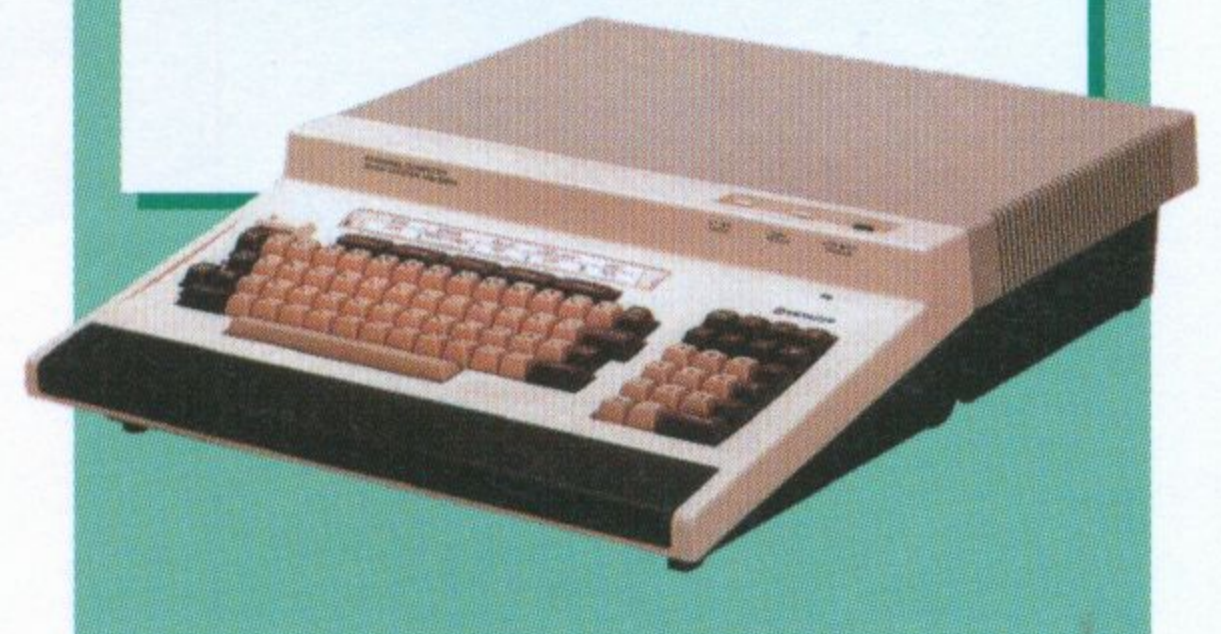
漢字ROMカードの標準搭載やカセットテープの読み込み速度を2倍に引き上げるなど、実用本位な後継モデル。



ベーシックマスターレベル3Mark5

1983年5月発売 118,000円

イメージジェネレータ (PCG) を搭載してテキストレベルでグラフィカルな表示が可能になった後継モデル。



CATALOGUE

HITACHI
日立パーソナルコンピューター
総合カタログ

HINT

上手に使う上手に遊ぶ

周辺機器も豊富にラインアップ——多機能ベーシックマスターレベル3。

日立
日立パーソナルコンピューター
ベーシックマスターレベル3 マークII-A

HITACHI

COMMUNICATION

HITACHI PERSONAL COMPUTER
ベーシックマスター-MARK5
MB-6892 ¥118,000

HITACHI

新グラフィック機能でレポート

COMMUNICATION

HINT '83-6

名門、ベーシックマスターの血を引くサラブレッド

S1

日立製作所 1984年5月発売 本体価格：モデル10：128,000円、モデル20：178,000円

HITACHI



サラブレッドが シンボルの高性能機

S1は同社ベーシックマスターレベル3の後継機種として発売されたパソコンである。互換性を維持するためにAモード(S1)、Bモード(レベル3)のモード切替が用意され、切り替えによってどちらのソフトも動作するようになっていた。

CPUに米モトローラ社のMC6809の高速版である68B09の互換品を採用し、また最大1Mバイトのメモリを搭載できるという高速・大容量というコンセプトは当時のライバル他社製品に比べて比類なきものであった。S1のイメージイラストはワイヤーフレームで描かれたサラブレッドが起用され、スペックの高さに対する自信が伺える。

また、ドット単位でカラー指定できる強力なイメージジェネレータ(PCG)を搭載することによって、高速なゲームにも対応できる高いポテンシャルも魅力的なマシンであった。

S1仕様

製品名	MB-S1/10	MB-S1/20
CPU	HD68B09E(MC68B09互換品)2MHz/1MHz	
ROM	L3BASIC 24Kバイト S1BASIC 64Kバイト CGROM 8Kバイト	L3BASIC 24Kバイト S1BASIC 64Kバイト CGROM 8Kバイト、JIS第一水準漢字ROM
RAM	メイン 48Kバイト、イメージジェネレータ6Kバイト テキストVRAMおよびグラフィックVRAM 52Kバイト	
グラフィック機能	グラフィック表示:最大640×400ドット・最大8色 テキスト表示:最大80字×25行・8色	
サウンド出力	PSG音源 8オクターブ3重和音(AI-3-8910相当)	
インターフェース	デジタルRGB出力、コンポジットビデオ、RS-232C、カセットテープ、プリンター、 キーボード、マウス	



▲本体サイズに対し小さめなS1のパッケージ。



■本体前面



■本体背面



■キーボード

BASICMASTER MODEL VARIATION

S1 モデル10AV

1985年発売 178,000円

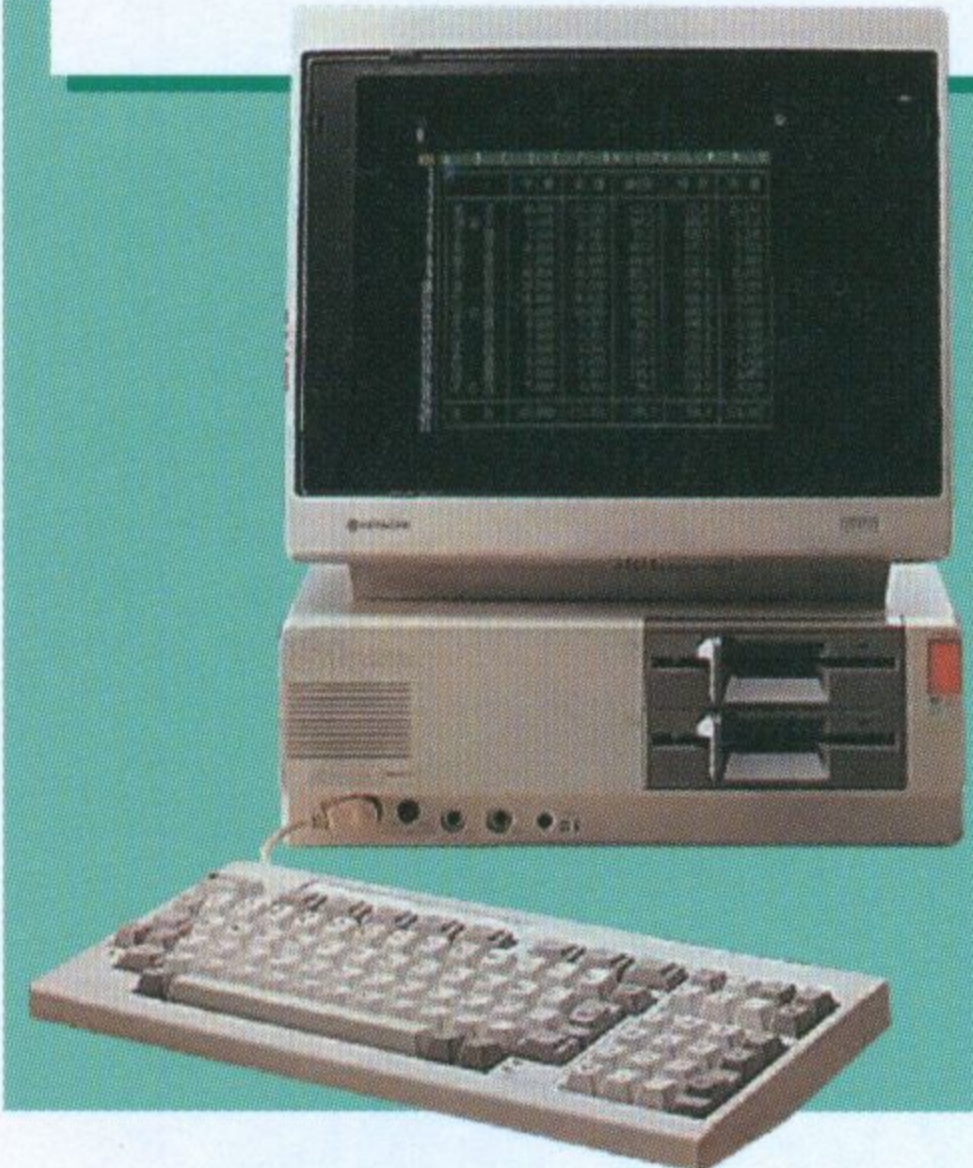
TV画面と合成できるスーパーインポーズ機能や6重和音サウンドを実装したAV重視機種。シリーズ唯一のブラックモデル。



S1 モデル40

1984年12月発売 298,000円

フロッピーディスクドライブ2基と漢字ROMを内蔵したビジネス用途向けモデル。



CATALOGUE

日立パーソナルコンピュータ S1

HITACHI

MB S1/10 ¥128,000
MB S1/20 ¥178,000

高速CPUで多彩なカラーグラフィック。

HUMANICOM HINT '84-8

HITACHI

日立パーソナルコンピュータ S1

ビジネスに、トップホビーに。1MB 2ソフトフロッピーディスク搭載

S1モデル30,モデル40新発売!

HITACHI

HUMANICOM HINT

日立パーソナルコンピュータ S1

HITACHI

日立パーソナルコンピュータ S1

天体観望家専用。高解像度カラーグラフィック。

HITACHI

HUMANICOM HINT

ホビーパソコンの歴史を振り返る四方山コラム

御三家メーカーはどのような経緯でパソコンを作るようになったのか

パソコン御三家 その定義は

第1章で扱ったのはいわゆるパソコン御三家メーカーの製品だが、ここで言う「御三家」とはNEC、シャープ、富士通を指す。実際にはこの3社の前に日立がベーシックマスターを発売しており、パソコン黎明期において日立の存在感が大きかったため、ごく初期においては日立、シャープ、NECを指して御三家と呼ぶ向きもあった。その定義については意見が分かれるため、本書ではNEC、シャープ、富士通、日立の4社を合わせて「御三家+1」と呼ぶことにした。

パソコン事業に 賭けざるを得なかった

この4社のうち、シャープ以外は電算機屋すなわち大型汎用機を手掛けていた生粋のコンピューターメーカーであった。これらのメーカーは海外からAppleやPETといった海外製パソコンが次々と上陸してくるさまを見ているだけに、日本でもいずれパソコンが必要になると考えるのは自然な流れであった。大型汎用機を売り込みつつ、オフィスでは小型端末を売るという来たるべきOA(オフィス・オートメーション)時代。そんなビジネスモデルを描いていたのである。

シャープ以外の3社でとりわけパソコンに対して力を入れていたのはNECであった。当時のNECは東芝、富士通、日立といった先行他社とのメインフレーム

受注戦争に破れ、かといってNECの家電部門は他社に比べて突出したものを持っていなかった。つまり、自社の将来を「パソコン事業に賭けざるを得なかった」のである。NECはパソコンでも複数の市場に向けて全方位に製品開発を同時に行い、悪い言い方をすれば「下手な鉄砲」戦略に出た。PC-8001、PC-6001、PC-8801、PC-9801といった同グループ内での熾烈な開発競争が起こったのはこれが理由であり、最終的にはPC-8801、PC-9801が8ビットおよび16ビット市場を制することとなったのである。

BMは好きで作った 熱意の塊だった

日本初のパソコンを生み出した日立はどのような経緯でパソコン市場に参入したのだろうか。実は、ベーシックマスターは日立は日立でも電算機部門ではなく、家電部門で開発されたものであった。

家電屋の中でもコンピュータ好きなひとかたまりの技術者が独自のBASICを作り上げ、それを入れる器としてハードを開発したのがきっかけであり、BASICをROMに焼いて直接ハードに搭載するというBASIC学習パソコン、ベーシックマスターが生まれたのである。電算機屋の打算が入らずに、良い意味でコンピュータらしくない特徴的なフォルム。何より「好きで作った熱意の塊」だっただけに、ベーシックマスターは受け入れられたといえる。

しかし好事魔多し、せっかくの独自

路線ハードの芽は上層部が頭越しにマイクロソフトとのBASIC供給契約を結ぶことで開発者のモチベーションを大きく削ぐ結果となり、せっかく黎明期に築いた市場をみすみす他社に明け渡してしまうことになった。

なお、富士通はメインフレームの世界においてトップランナーを走っており、他社に比べて無理にパソコン市場に割って入ろうとはしなかった。一歩出遅れた事情はこんなところにあったのである。

創業者の肝入り プロジェクトチーム

シャープは基本的に家電部門が主で、コンピューターに関しては電卓が当たったことでようやくオフィスルートへの商売の取っ掛かりができたレベルの会社であった。他の電算機屋に比べて強力な営業網を持たず、かといって家電部門で圧倒的なブランド力を持っていたわけではない。そこで同社がライバルの松下や東芝に勝つために採った戦略が「電卓のシャープからハイテクのシャープへ」だったのである。そのためにシャープの創業者であり当時会長であった早川徳次は、社内のコンピュータ好きな技術者を集めて直属チームを結成。MZ-80Kが生まれることとなった。

MZ-80Kはデータレコーダーの開発に手間取りわずか3ヶ月の差で国産パソコン第1号の座を日立のベーシックマスターに奪われたものの以後、同社のパソコンに対する力の入れようはこのような理由によるものだった。

第2章

家電メーカー系
ホビーパソコン編

HOBBY PERSONAL COMPUTER CATALOGUE CHAPTER 2

コンパクトで手軽なBASIC入門機

JR-100

松下通信工業 1981年11月21日発売 本体価格 54,800 円



手軽にキャラクター PCG機能

JR-100は松下通信工業がナショナルブランドで発売したホビーパソコンである。大衆製品を安価に提供するという松下らしい思想が反映されており、手軽な価格でBASICを学べる入門機として発売された。そのため拡張性や本格的なモ

ニター接続などは考慮されておらず、家庭用テレビに手軽に繋がるものとなっている。キーボードはゴム製のいわゆる「消しゴムキーボード」だが、BASIC命令がワンタッチ入力できる特徴があった。

モノクロでグラフィック機能も搭載されていないJR-100だが、PCG(プログラマブル・キャラクター・ジェネレーター)が搭載されており、ユーザーが独自の文字

キャラクターを32個まで登録できるようになっている。これにより、グラフィック機能が無いにもかかわらず、工夫次第では華やかなゲームを作ることも可能だった。

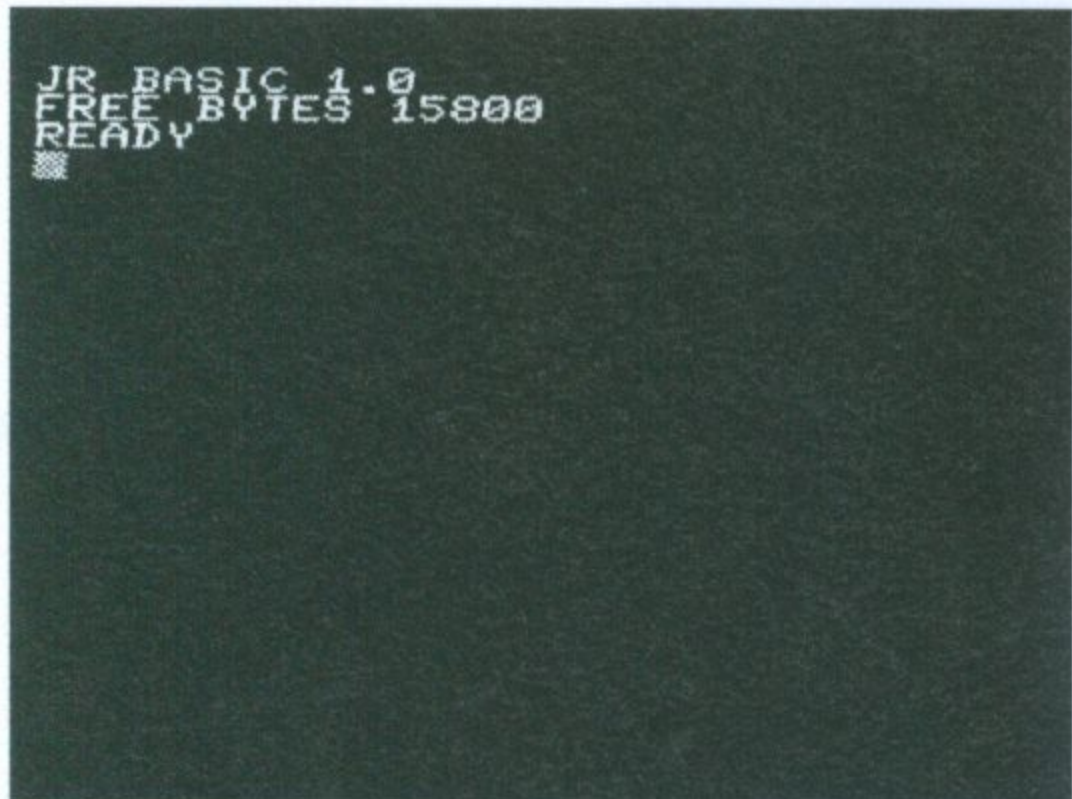
決して市販ソフトの数に恵まれたわけ

JR-100仕様

CPU	MN1800(MC6802互換) 890KHz
ROM	8Kバイト
RAM	16Kバイト(最大32Kバイト)、VRAM 1Kバイト
グラフィック機能	テキスト表示:32字×24行・モノクロ テキスト機能:反転表示、ユーザー定義文字(PCG)32個まで定義可能
サウンド出力	ピープ音による単音
インターフェース	コンポジットビデオ、カセットテープ



▲見た目も青で爽やかな JR-100 のパッケージ。



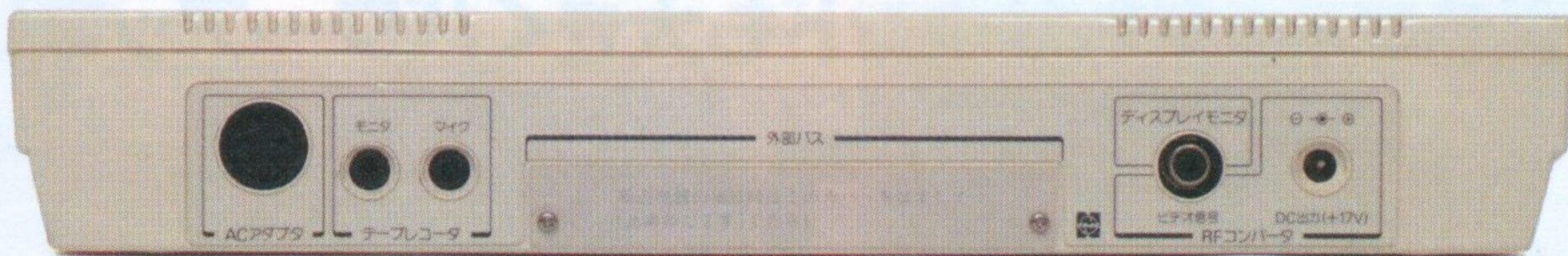
▲電源投入時の初期画面。整数演算のみに特化した独自のJR BASICが搭載されている。

ではなかったが、プログラムのしやすさから、ユーザーの自作プログラムがパソコン雑誌に投稿され、一定の人気を得ることに成功した。

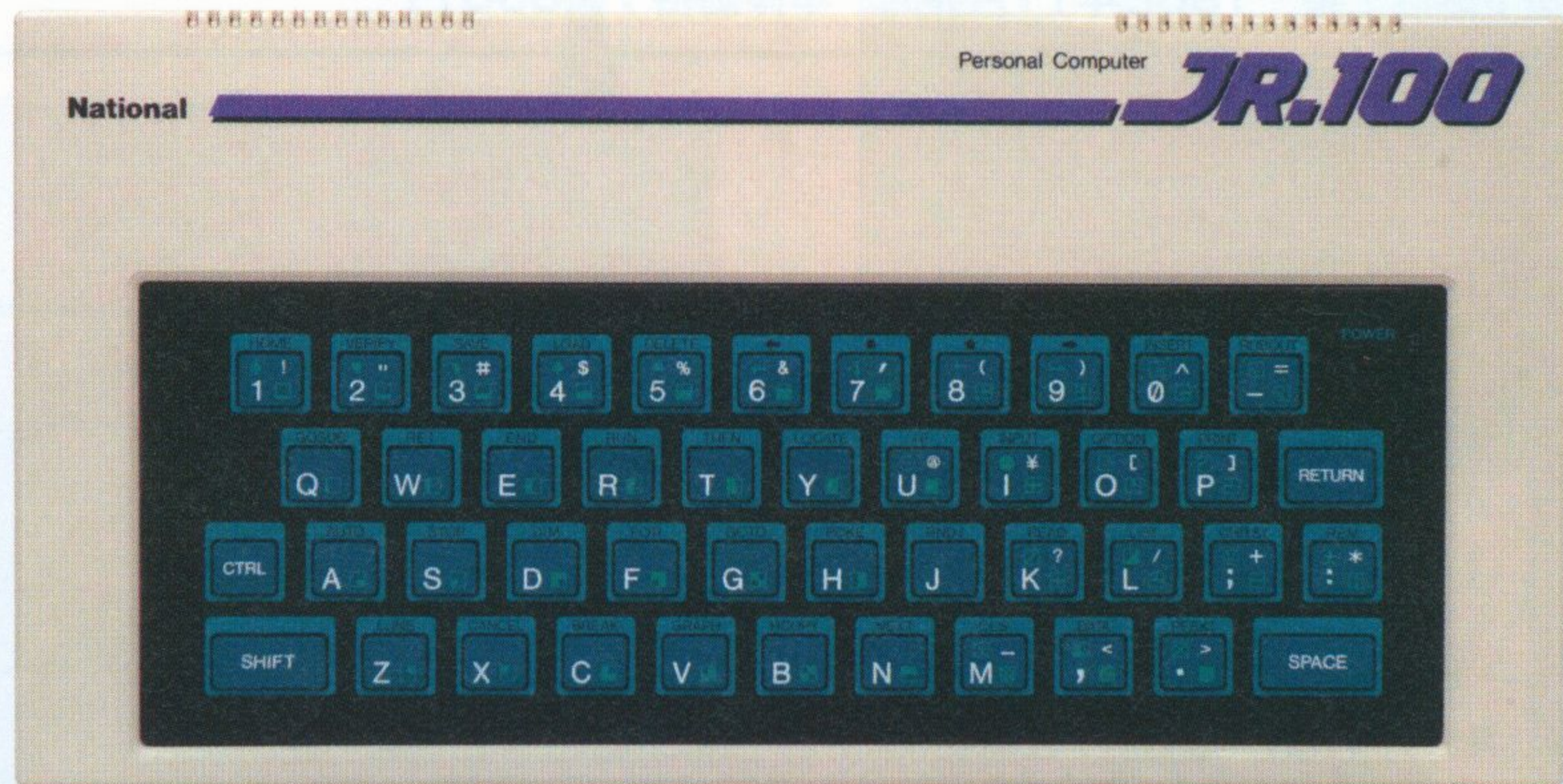
ナショナルからゲームも発売

正確なリリース本数は不明ながら、ナショナルブランドからゲームが多数リリースされていた。開発はハドソンによるものが多く、他機種からの移植も複数存在した。

供給媒体はカセットテープで、内容はいずれもオールBASIC。少ないメモリとキャラクターを活かすために素朴な味わいのゲームが多く、固定画面のアクションゲームが中心だった。



■本体背面



■キーボード



▲キーボードにはよく使用されるBASICコマンドが印刷されており、CTRLキーと同時押しでワンタッチ入力が可能。



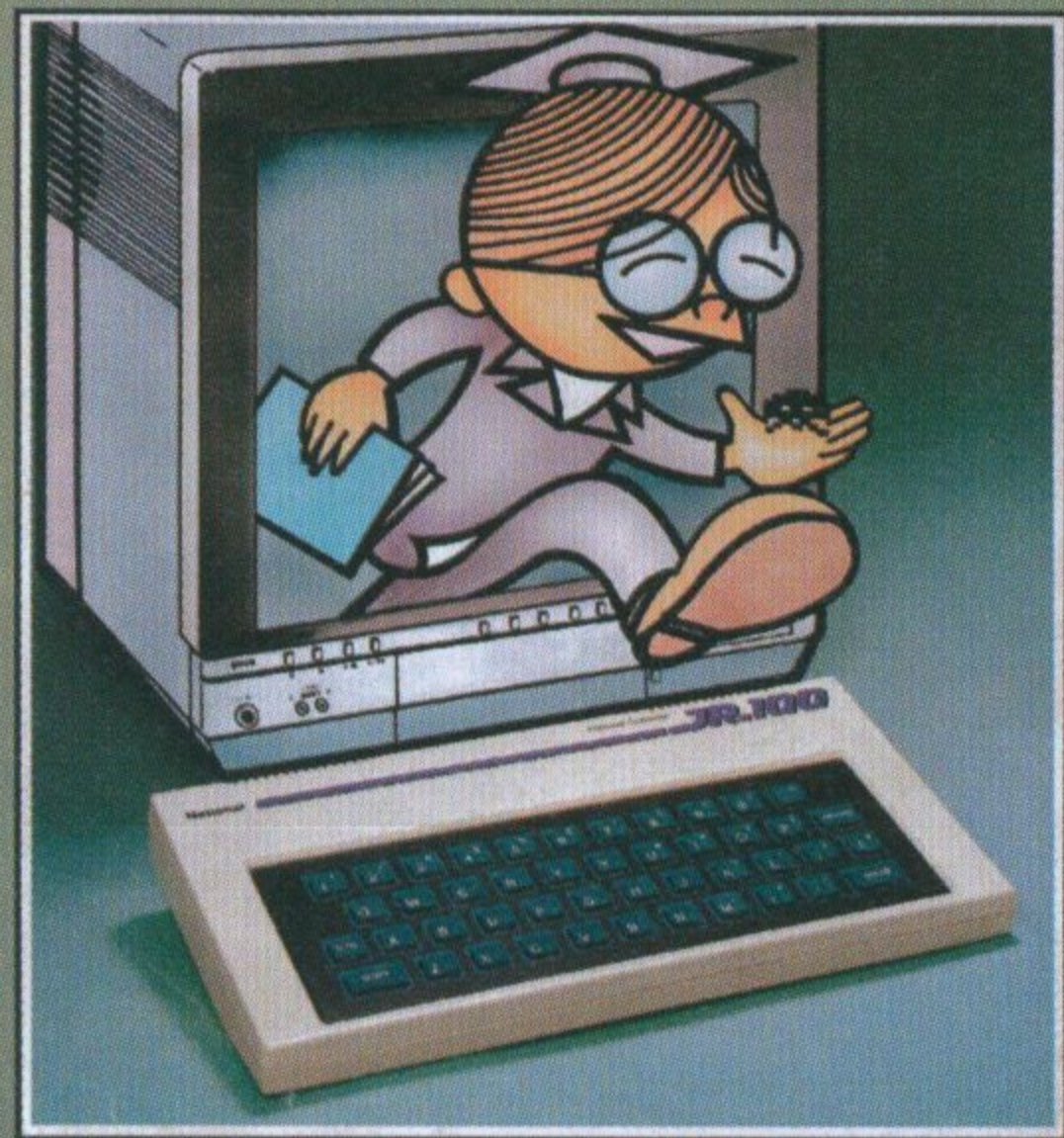
▲別売りの拡張ユニットを装着すると本体メモリの拡張がなされるほか、プリンターを接続することもできる。

CATALOGUE

National

ナショナルパーソナルコンピュータ

軽量コンパクトタイプ、電卓感覚のキーボードだからカールイ操作性です。



よく遊び、よく学び...
さあ、新しい世界へ。

楽
このコンピュータは、お家でいつでも使えます。お友達と共有して使えます。お友達と共有して使えます。お友達と共有して使えます。

学
お友達と共有して使えます。お友達と共有して使えます。お友達と共有して使えます。お友達と共有して使えます。

応
お友達と共有して使えます。お友達と共有して使えます。お友達と共有して使えます。お友達と共有して使えます。



何ごとも基礎が大切。
入門用パソコンJR-100で
BASIC言語を自由自在に!

グラフィックもサウンドも大きくパワーアップしたJR-100の後継機

JR-200

松下通信工業 1982年11月発売 本体価格 79,800 円



後継機もプログラム 学習に最適

JR-200は同社製パソコンJR-100の表現力を大幅に拡充した後継機である。前機種ではモノクロテキストのみの表現力が、8色の表示が可能となり、ドットは荒いもののグラフィックが使用できる

ようになった。また、ビープ音のみだったサウンド面においてもJR-200で初めてPSG音源が搭載、3重和音が発生可能となった。安価な価格設定はそのままに、同時期の競合機種にも負けない表現力を手に入れたといえる。

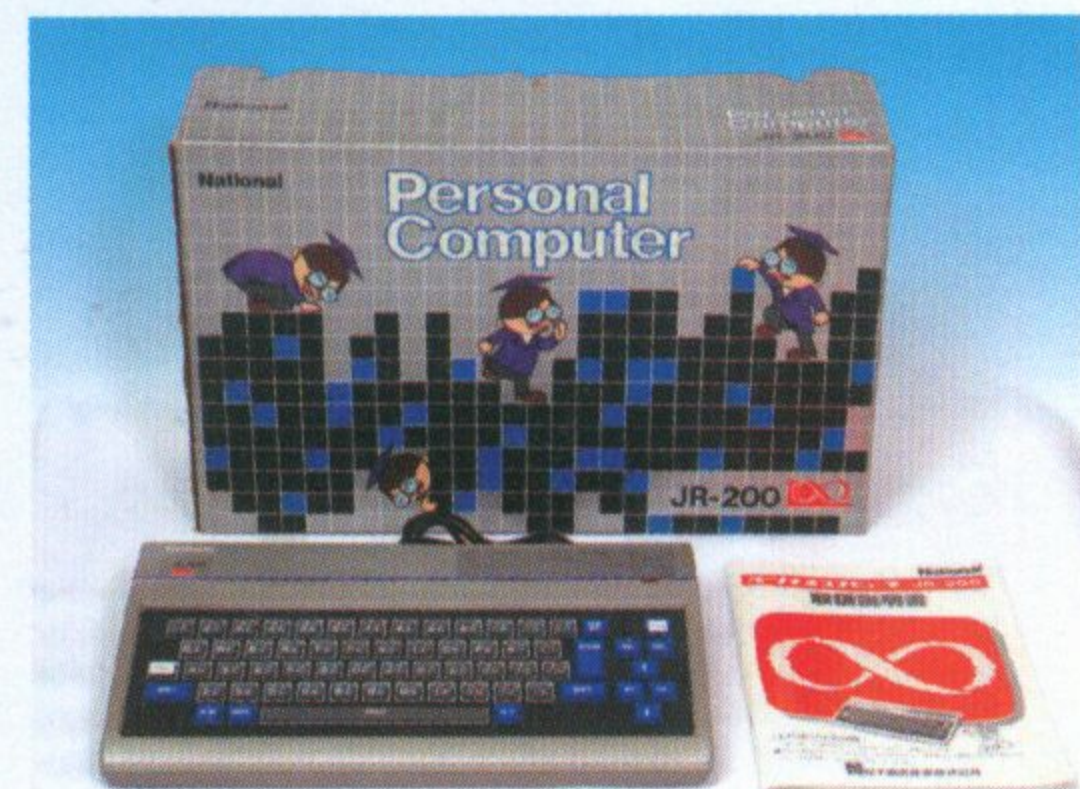
キー入力が不便だったという不満を解消するべくキーボードを5段配列に変

更、その分本体サイズはやや大きくなったがスペースキーやカーソルキーの配置に余裕が生まれ、結果的にバランスの良いキー配置になったといえる。

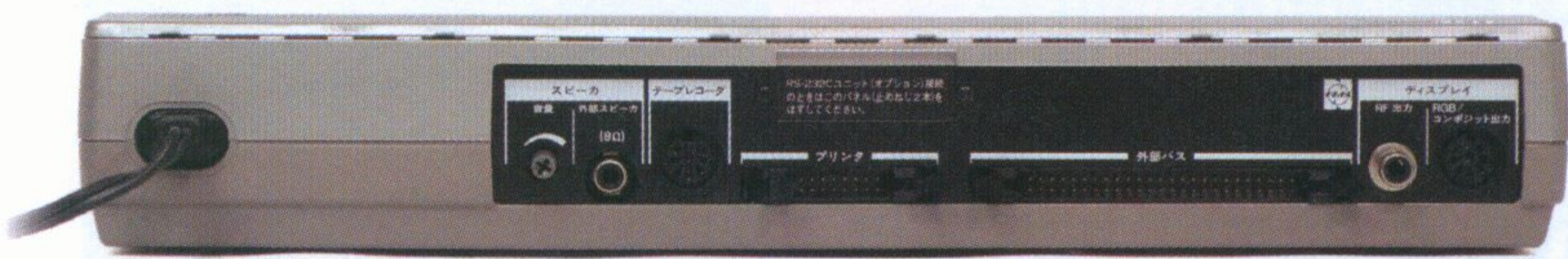
もちろん、JR-100の特徴だったPCGも引き続いて搭載（定義数は倍の64

JR-200仕様

CPU	MN1800A(MC6802互換)1.366MHz+MN1544
ROM	16Kバイト
RAM	32Kバイト、VRAM 2Kバイト、キャラクターRAM 2Kバイト
グラフィック機能	テキスト表示:32字×24行 グラフィック表示:64×48ドット・8色
サウンド出力	PSG音源 5オクターブ3重和音
インターフェース	RF信号、コンポジットビデオ、デジタルRGB、モノラル音声、カセットテープ、コントローラ×2、プリンター



▲JR-200のパッケージ。



■本体背面



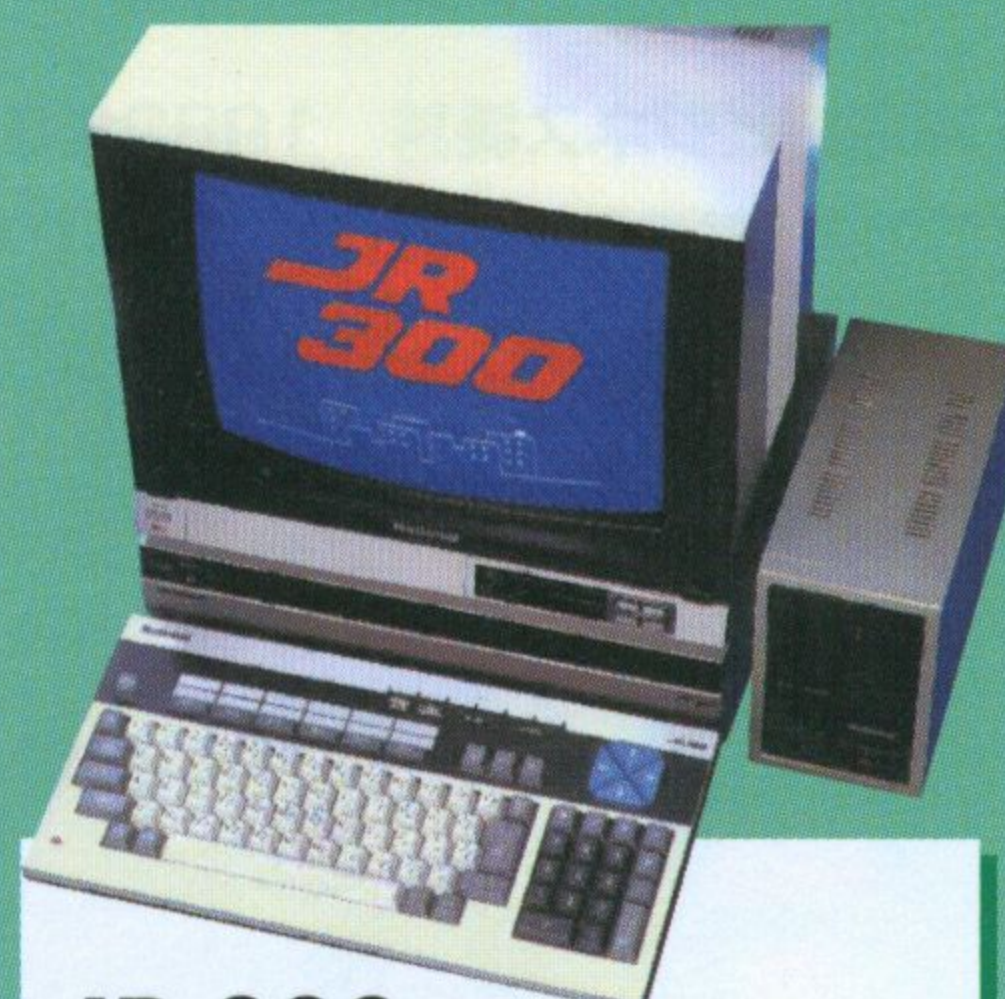
■キーボード

個になった)。BASICでもそこそこの速度で遊べるゲームを作ることができたのも強みだといえる。

惜しむらくはJRシリーズ相互に互換性がなかった点であり、同一タイトルをJR-

100用とJR-200用に分けて発売されるといったケースがいくつかあった。今からJR-100、JR-200ソフトの購入を検討している方がいれば、自分の所有機種と間違えないよう注意されたい。

JR-200 MODEL VARIATION



JR-300

1983年10月発売 159,000円

教育用途で主に学校に納入するために開発されたモデル、ごくわずかながら市販もされた。



JR-800

1983年7月発売 128,000円

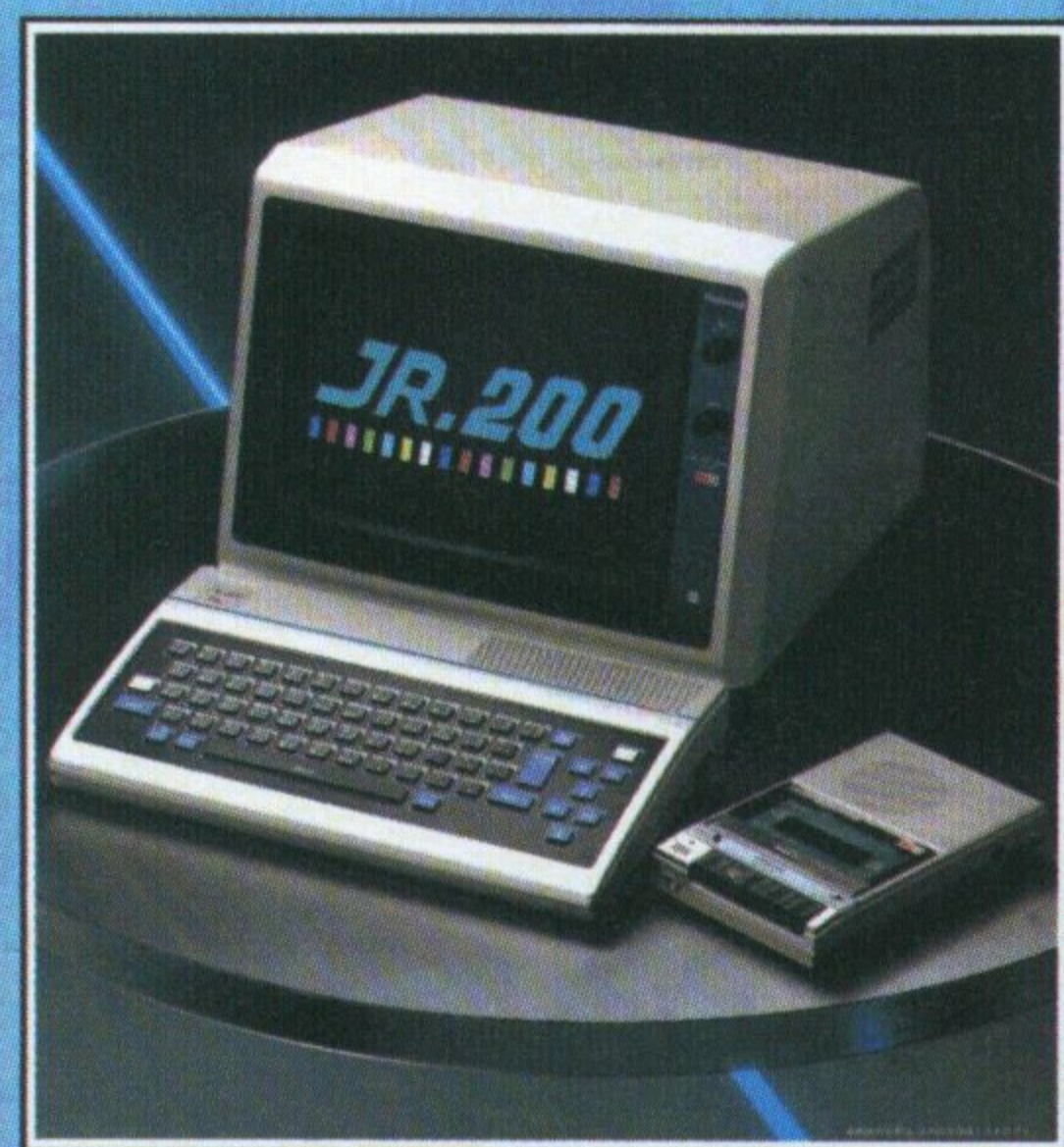
液晶画面を搭載した、いわゆるポケットコンピューター。

◆ CATALOGUE

National

パーソナルコンピュータ

鮮やかな8色の画像と三重音のメロディを使って、ゲームや学習用として楽しめる家庭用パソコン



【上手に保つて上手に遊ぶ】

'83-1

これからのパソコンです。

三重音のメロディに感動する55000円超のRAMメモリ256Kバイト搭載。多機能搭載のJR-200は未発表です。

1 親しむ 2 楽しむ 3 活かす

「パソコンはむずかしい」と思い込んでいた人へ——まず触れてください。豊富なプログラムソフトがあなたをパソコンの世界に案内。楽しいテレビゲームで遊んでいるうちに、いつの間にかパソコンマニアです。

ゲーム、学習用プログラムソフトを使ってご家庭で一緒に楽しむことができます。またプログラミング入門書(別売)のやさしい教科書で多しつプログラムをマスターしたら、自作の独創的なゲームをプログラム。

独自のロジックを作曲し、カラー画像に連動させる楽しいプログラム作成に挑戦。またプリンター、フロッピーディスクを使って、仕事のパートナーと繋がります。



小型で比較的low価格な入門機

PHC-25

三洋電機ビジネス機器 1982年8月発売 本体価格69,800円



実はパピコンの 互換機だった!?

三洋が独自開発したホビーパソコンはどれも小さいのが特徴だ。第1号機のPHC-10が液晶画面を備えたハンドヘルドコンピュータであることから、当初からその路線を狙っていたことを伺わせる。残念ながらハンドヘルドコンピュータは主流にならず、時代は次第にマ

イコンブームに移行する。そんな時期に発売されたのが、このPHC-25だ。

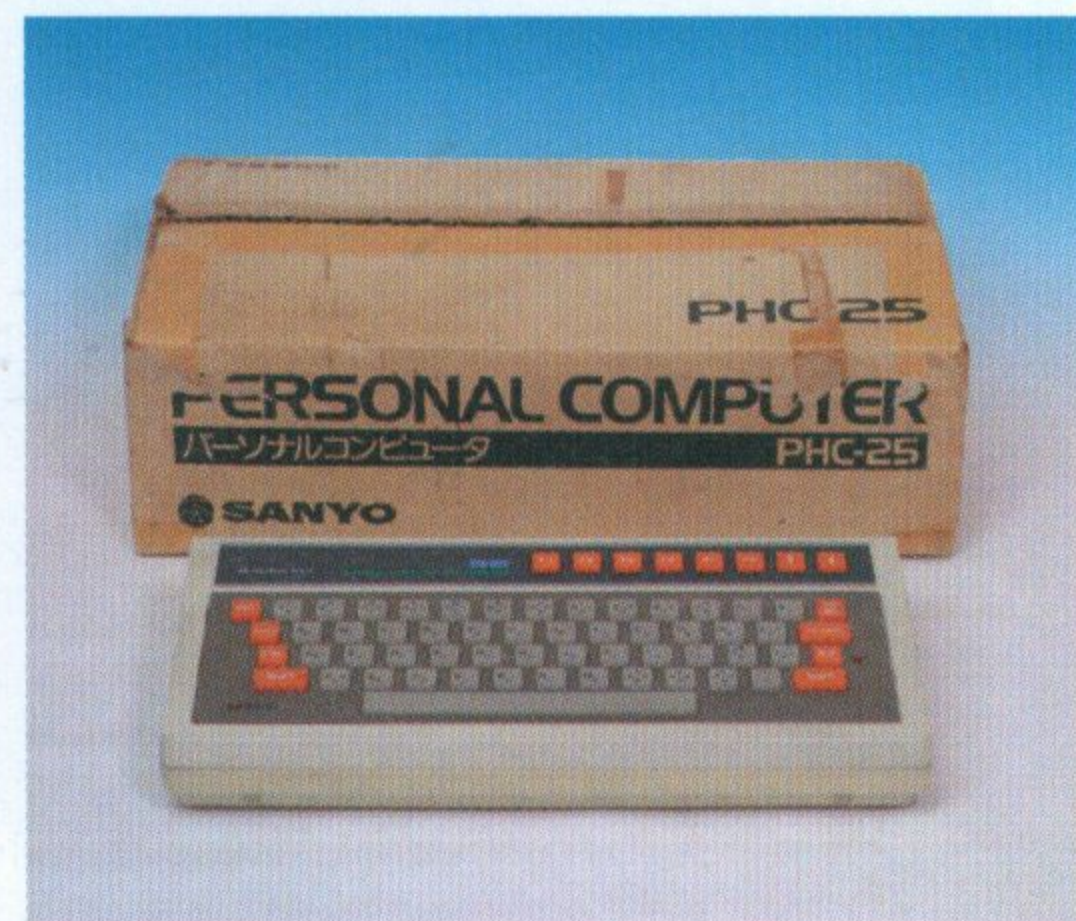
実はこのPHC-25、公に発表こそされてはいないが、新日本電気から発売されたPC-6001 (P.12) のクローン機である。サウンド機能がオプションであることと、ROMカートリッジスロットを備えていないことを除けばほぼ同一の仕様であり、BASICで作られたソフトならそのまま動作させることができる。

価格はPC-6001よりも2万円安く設定され、まさしく松下のJR-100 同様「BASICの入門機」という位置付けであった。

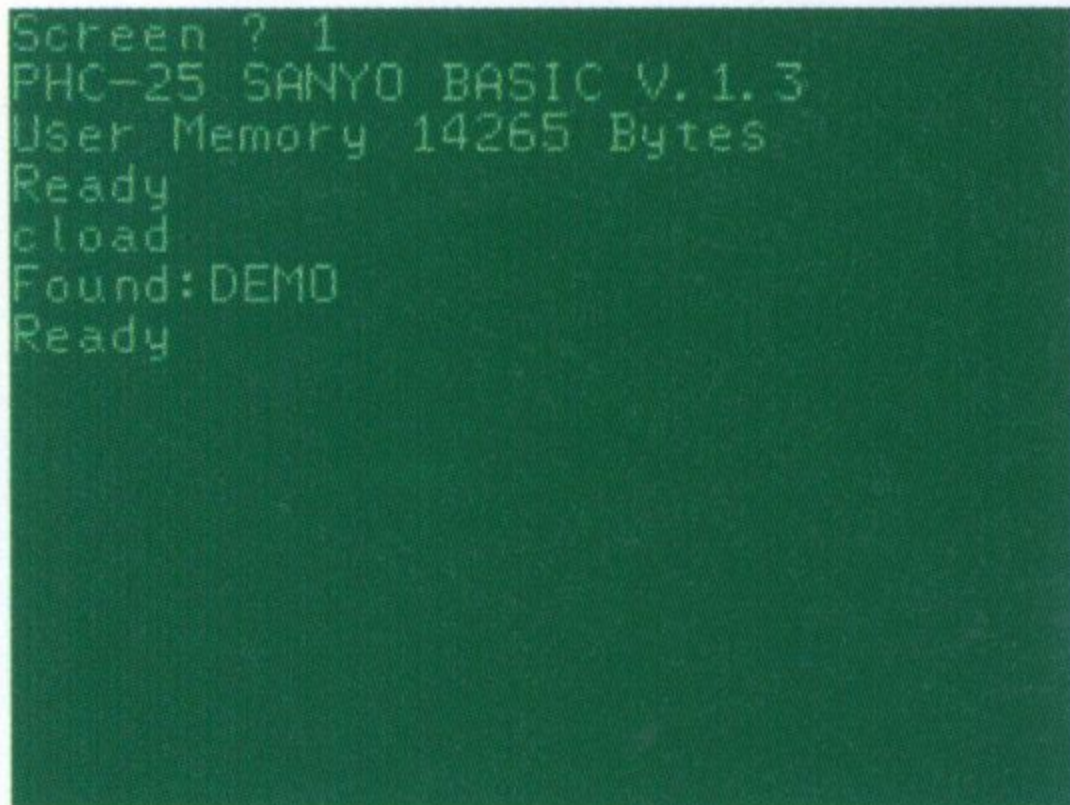
残念ながらPC-6001との互換性が公にできなかったことと、積極的にソフト供給をするための戦略がなかったことから、マイナー機種にとどまってしまう。

PHC-25仕様

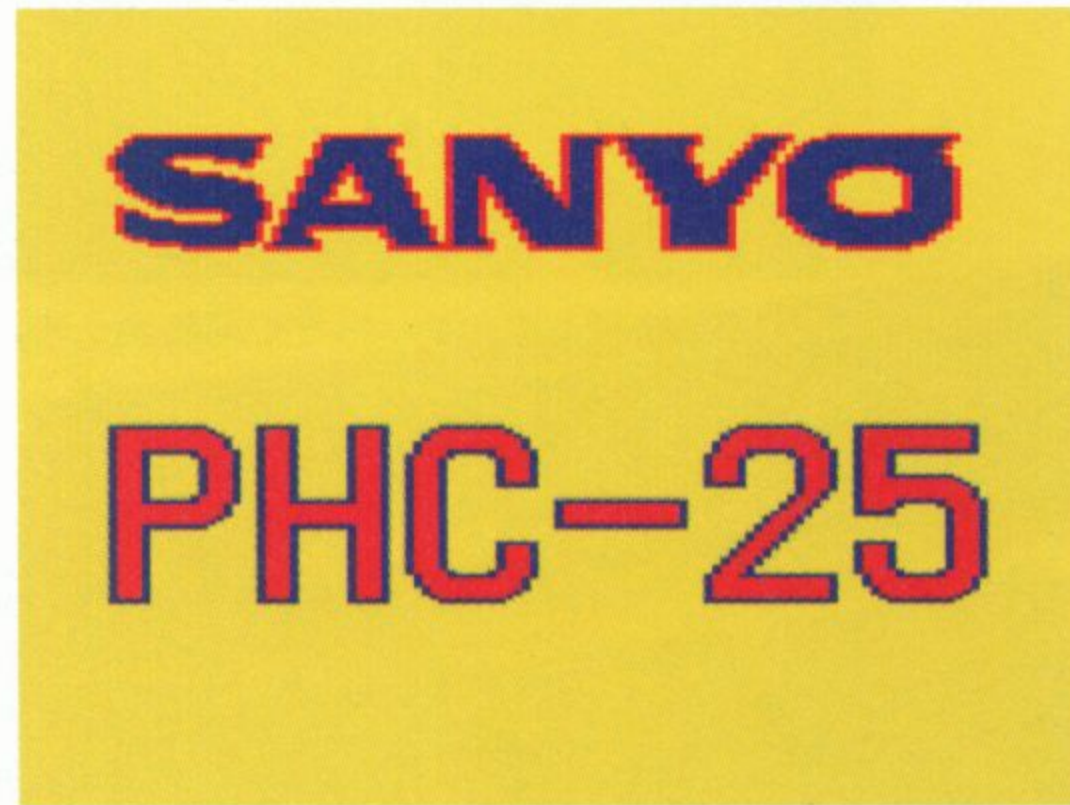
CPU	μPD780C-1 (Z80A互換) 4MHz
ROM	24Kバイト
RAM	16Kバイト、VRAM 6Kバイト
グラフィック機能	テキスト表示: 32文字×16行 グラフィック表示: 最大256×192ドット・最大9色セミグラフィック
サウンド出力	なし
インターフェース	RF信号、コンポジットビデオ、カセットテープ、プリンター



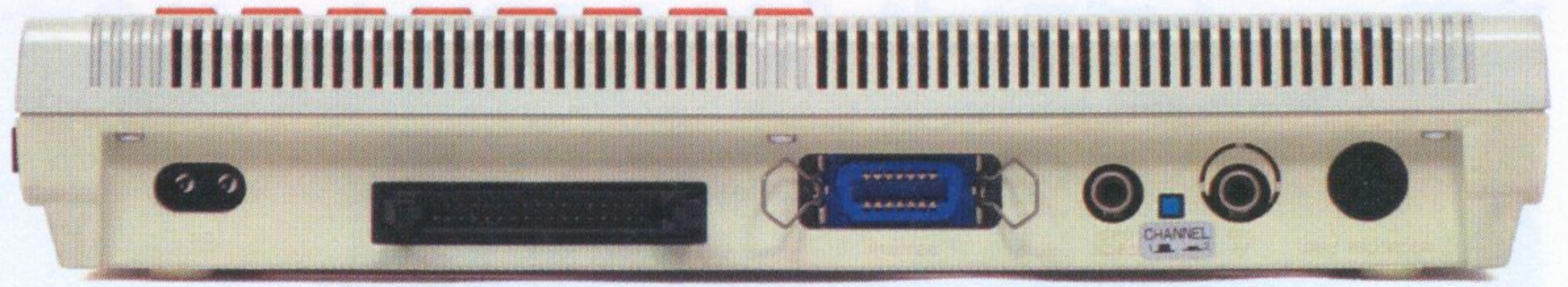
▲PHC-25のパッケージ。



▲SANYO BASICの起動画面。PC-6001のBASICと画面はもちろん、コマンドもほとんど同じ。



▲PHC-25の店頭用デモンストレーションソフト。様々な画像パターンを表示して本機の性能をアピールする。



■本体背面



■キーボード

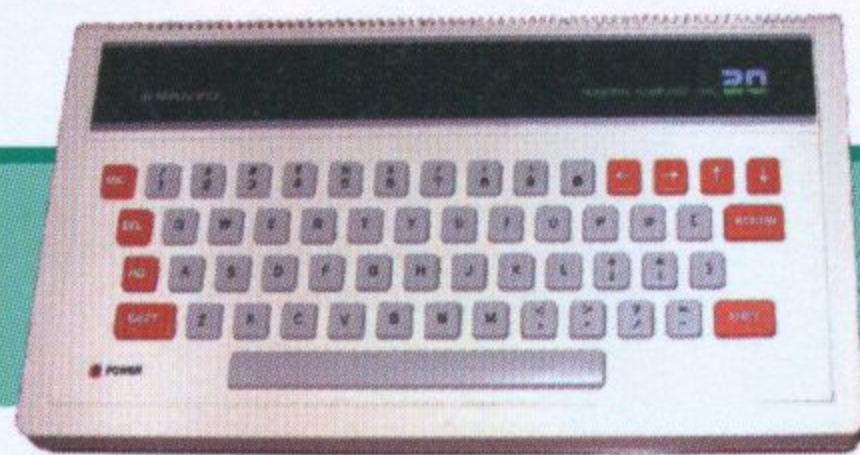
PHC-25 MODEL VARIATION



PHC-10 1982年4月発売 24,800円
三洋のホビーパソコン第1号。16桁の液晶画面を備えており、ハンドヘルド的ポジションの製品。

PHC-20 1982年8月発売 47,800円

液晶画面のほか家庭用テレビにも接続可能な後続機。PHC-10、25とは互換性はない。

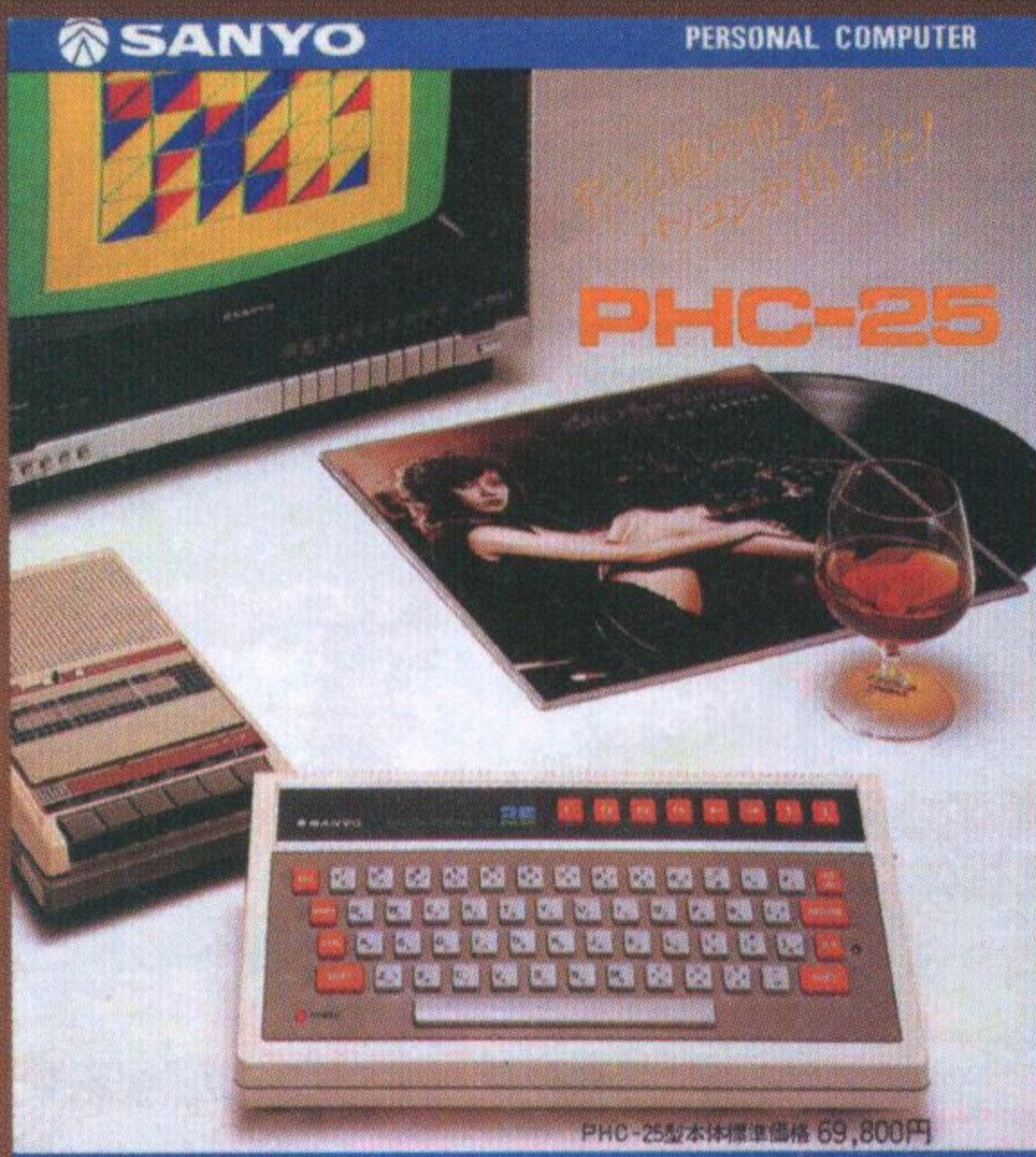


CEFUCOM-21 日野電子
発売日・価格不明

PHC-25がベースのコンピューター学習端末。カプセルアダプターやデータレコーダーを装備。



CATALOGUE



PHC-25型本体標準価格 69,800円

パソコンが一般的になってきた。しかし、その多くは、BASICを覚えるのが大変。PHC-25は、BASICを覚えるのが楽になるように設計されている。BASICを覚えるのが楽になるように設計されている。BASICを覚えるのが楽になるように設計されている。

PHC-25は、BASICをマスターしていただくためのサポートツールも用意しております。BASICをマスターしていただくためのサポートツールも用意しております。BASICをマスターしていただくためのサポートツールも用意しております。

サンヨー パーソナルコンピュータ



BASICを学びながら...
自分でプログラミングする、
楽しいパソコン

■楽しく見られる ■BASICの威力 ■小さいからでBASIC性能

今までパソコンに触れたことのない人でも、なんでもパソコンの世界に飛び込めるのがPHC-25です。コンピュータを操作するのは、コンピュータを操作するのと同じです。コンピュータを操作するのは、コンピュータを操作するのと同じです。コンピュータを操作するのは、コンピュータを操作するのと同じです。

PHC-25には、BASICをマスターしていただくためのサポートツールも用意しております。BASICをマスターしていただくためのサポートツールも用意しております。BASICをマスターしていただくためのサポートツールも用意しております。

PHC-25は、BASICをマスターしていただくためのサポートツールも用意しております。BASICをマスターしていただくためのサポートツールも用意しております。BASICをマスターしていただくためのサポートツールも用意しております。

PHC-25は、BASICをマスターしていただくためのサポートツールも用意しております。BASICをマスターしていただくためのサポートツールも用意しております。BASICをマスターしていただくためのサポートツールも用意しております。

東芝の一大ブランド「PASOPIA」の記念すべき第1号機

PASOPIA

東芝 1981年11月発売 本体価格 163,800円



パーソナル+ ユートピア

PASOPIAは東芝が初めて世に送り出したパソコンである。「パーソナル+ユートピア」が由来の造語であり、個人向けパソコンへの同社の期待の高さ

が現れている。同時期に発売された他社パソコンと比肩する性能を持っており、また本体右上にPACと呼ばれるカートリッジスロットを備えているなど、後のMSXを初めとしたホビーパソコンに繋がるアイデアを盛り込むなどの独自性も持っていた。

当初、東芝はPASOPIAをビジネス向けに販売したかったようで、OL風の女性の膝の上に本体を乗せるという、いささかフェティッシュな広告戦略からもそれが伺える。しかし、標準で漢字を使用できる環境が用意されていなかったことが弱点となり、ビジネスユースへのセールスも決して芳しいものではなかったようだ。

そこで、ホビー向け路線への8ビット機種として比較的低価格で手に届きやすいPASOPIA7、ビジネス向け高価付加価値型の16ビット機種PASOPIA16という、二つの路線へと系譜が分かれることとなった。

PASOPIA仕様

CPU	Z80A 4MHz
ROM	32Kバイト(最大64Kバイト)
RAM	64Kバイト(最大96Kバイト)、グラフィックVRAM16Kバイト
グラフィック機能	テキスト表示:最大80字×25行・8色 グラフィック表示:最大640×200ドット・8色
サウンド出力	ビーブ音による単音
インターフェース	デジタルRGB、液晶、プリンター、カセットテープ、RS-232C、PACカートリッジスロット×2



▲右上の透明プラパーツのある箇所はPAC装着用スロット。ここに2個のPACを装着できる。



▲PASOPIA用PACカートリッジ。これを使ってメモリの拡張などを行う。



■本体背面



■キーボード

PASOPIA独自のユニークな機構

PASOPIAはビジネス向け市場を志向しただけあって、本体下部に収納できるクイックリファレンスなど、それに特化したアイデアがいくつも盛り込まれていた。



▲クイックリファレンスシート。



▲専用液晶ディスプレイ。

PASOPIA MODEL VARIATION

PASOPIA5

1984年5月発売 99,800円

PASOPIA7などの開発技術をフィードバックして低コスト化を実現した、PASOPIAの廉価版。



PASOPIAmini

1984年発売 54,800円

これまでのPASOPIAシリーズとは互換性のない、ハンドヘルド型コンピューター。即座に計算できる電卓機能がある。



ポストFM-7を睨んだ27色・6重和音の戦略パソコン

PASOPIA7

東芝 1983年4月発売 本体価格 119,800円

PASOPIAの
リターンマッチ

PASOPIAで他社製パソコンのシェアを切り崩せなかった東芝の次なる戦略は、低コスト化と「家族で使えるパソコン」へのイメージ転換であった。

富士通のヒット商品、FM-7を上回るグ

ラフィックに加え、サウンド性能を持たせた上に、FM-7を下回る価格が設定された。また、富士通のタモリに対抗して横山やすし親子を起用するなど、マーケティング面でも強くFM-7を意識していたことが伺える。

グラフィックは27色表示を謳っていたが、実際はハードウェアタイリングといっ

て2色を格子状に並べることで擬似的に多色に見せる機能で実現していた。ゆえに実質的な発色数は8色である。

PASOPIA7は、東芝の目論見通り、多数のソフトに恵まれ、一定の人気を得ることができた機種といえる。

PASOPIA7仕様

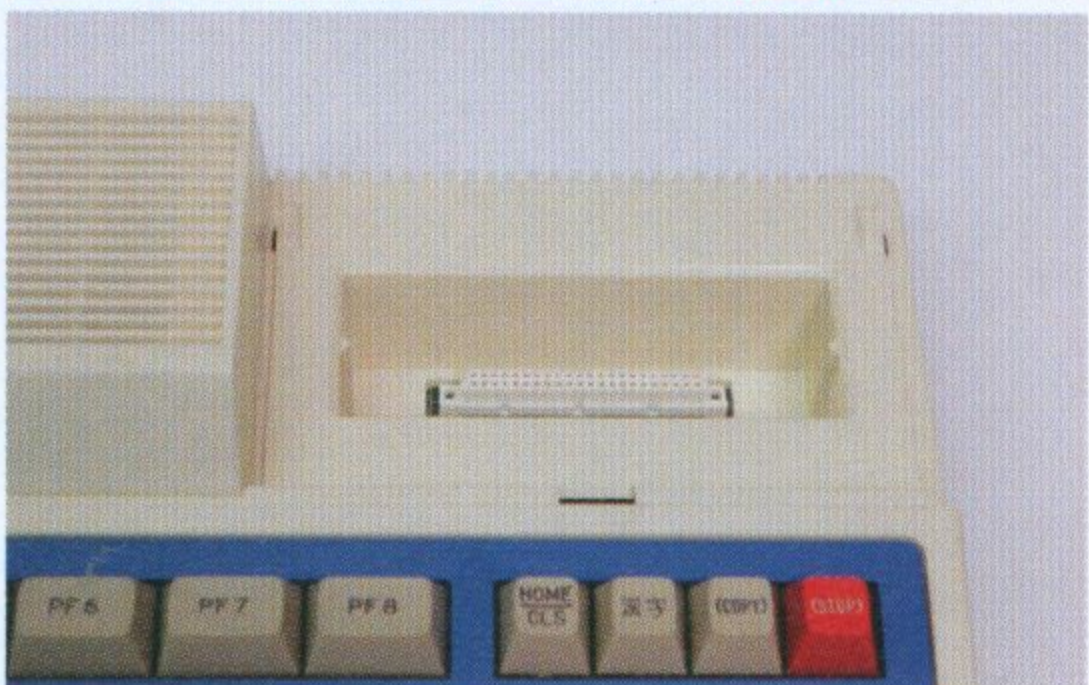
CPU	Z80A 4MHz
ROM	IPL-BIOS 16Kバイト、BASIC 32Kバイト
RAM	メイン64Kバイト、VRAM56Kバイト
グラフィック機能	グラフィック表示:最大640×200ドット・最大27色中8色 グラフィック機能:ハードウェアタイリングで8色を2ドット組み合わせで27色表示可能 テキスト表示:最大80文字×25行・8色
サウンド出力	DCSG音源 6オクターブ6重和音+ノイズ2音(SN76489AN×2)
インターフェース	デジタルRGB、液晶、モノラル音声、プリンター、カセットテープ、フロッピーディスクドライブ、PACカートリッジスロット×2



▲「SOUND&GRAPHICS」の文書が目立つ PASOPIA 7のパッケージ。



▲青・赤・茶3色のキーボードジャケットが付属していて、気分で着せ替えができる。ユニークな発想だ。



▲PASOPIA7にもPACスロットは存在している。ドア式ではなくカバーを取り外して装着する。



■本体背面



■キーボード

PASOPIAのソフト & ハードが利用可能

PASOPIA7はPASOPIAをベースに

開発しているため、基本的にソフトやハードはそのまま流用できる。PACカートリッジや液晶ディスプレイなどももちろん使用可能だ。

一方、PASOPIA7用に発売されたボイスユニットなどハード性能に特化しているものは逆にPASOPIAには対応していない。

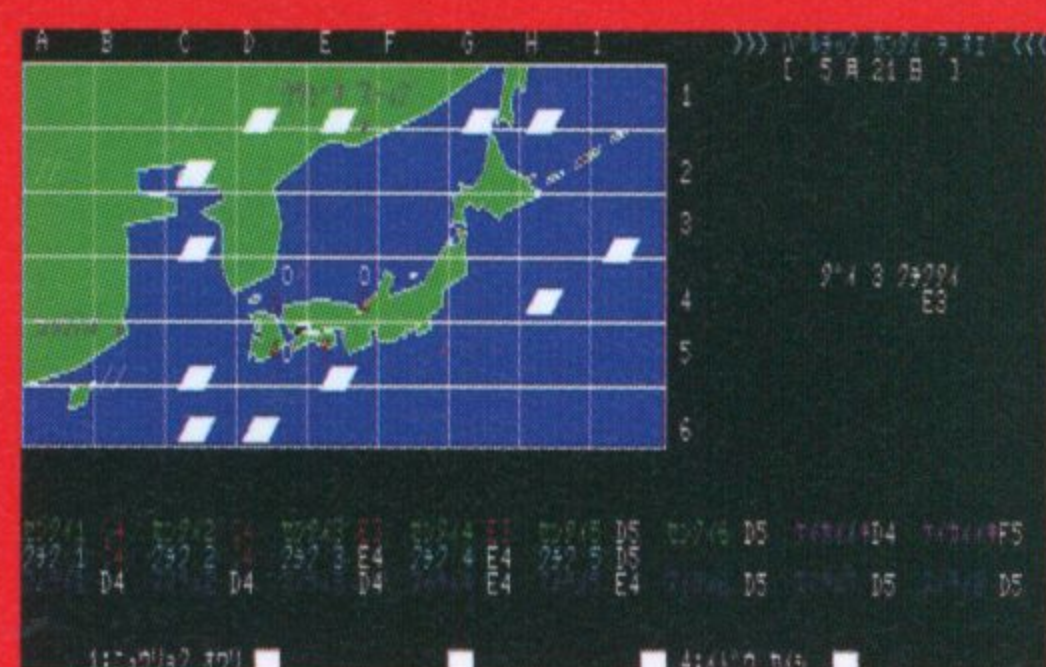
PASOPIA7で発売された名作ゲームたち



モウルパニック (立之システムリサーチ)



魔女モヘカの塔 (コムパック)



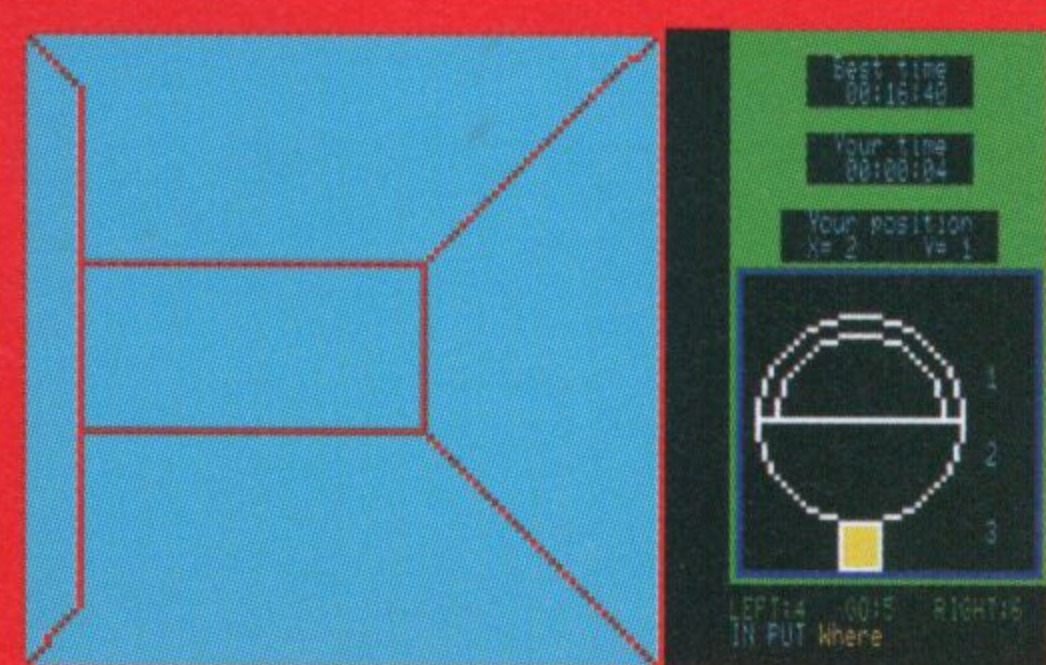
バルチック艦隊を追い (CSKソフトウェアプロダクツ)



バブルキング1999 (ハドソン)



バトルタンク (立之システムリサーチ)



TO TOILE (コムパック)

三菱が放ったN-BASIC互換パソコン

MULTI8

三菱電機 1983年9月発売 本体価格 123,000 円



PC-8001の N-BASICソフトが動く!

MULTI8は三菱電機より発売された独自規格のパソコンである。もともとビジネス向けの16ビットパソコン、MULTI16を先だって投入しており、ホビー向けはあまり重視してこなかった。そのため、M

ULTI8の発売は1983年と他の各電メーカーに比べ一歩遅れた参入だったこと、性能面でも価格面でも特筆すべき点なかったことが災いし、他社製品に対して優位に立つこともなく1世代限りで終焉を迎えた。

BASICは独自のM-BASIC80を搭載していたが、面白いことにPC-8001のN-

BASICと互換性がある。すべてのプログラムが動作するわけではないが、PC-8001のテープソフトをそのまま読み込むことができ、オールBASICで作られたプログラムであれば、そこそこの数のプログラムは動作したようだ。しかしこの機種が発売された頃はPC-8001の発売からす

MULTI8仕様

CPU	Z80A互換品 4MHz
ROM	BASIC32Kバイト、キャラクタージェネレータ2Kバイト
RAM	メイン64Kバイト、テキストVRAM4Kバイト、グラフィックVRAM48Kバイト
グラフィック機能	グラフィック表示:最大640×200ドット・8色 テキスト表示:最大80文字×25行・8色
サウンド出力	PSG音源 8オクターブ3重和音(A.Y-3-8910相当)
インターフェース	デジタルRGB、モノラル音声、プリンター、カセットテープ、RS-232C



▲右上の黒い部分はカートリッジが挿入できる。対応カートリッジに関する詳細は不明。



■本体背面



■キーボード

MULTI8 MODEL VARIATION



MULTI16

1982年1月発売 800,000円～
日本初の16ビットパソコン。OSにCP/M-86を採用する本格的なビジネスマシンだったが、後発のPC-9801に価格と利便性で勝てず敗退した。

で4年が過ぎており、「PC-8001のソフトが動作する」点も大きなセールスポイントにならなかった。

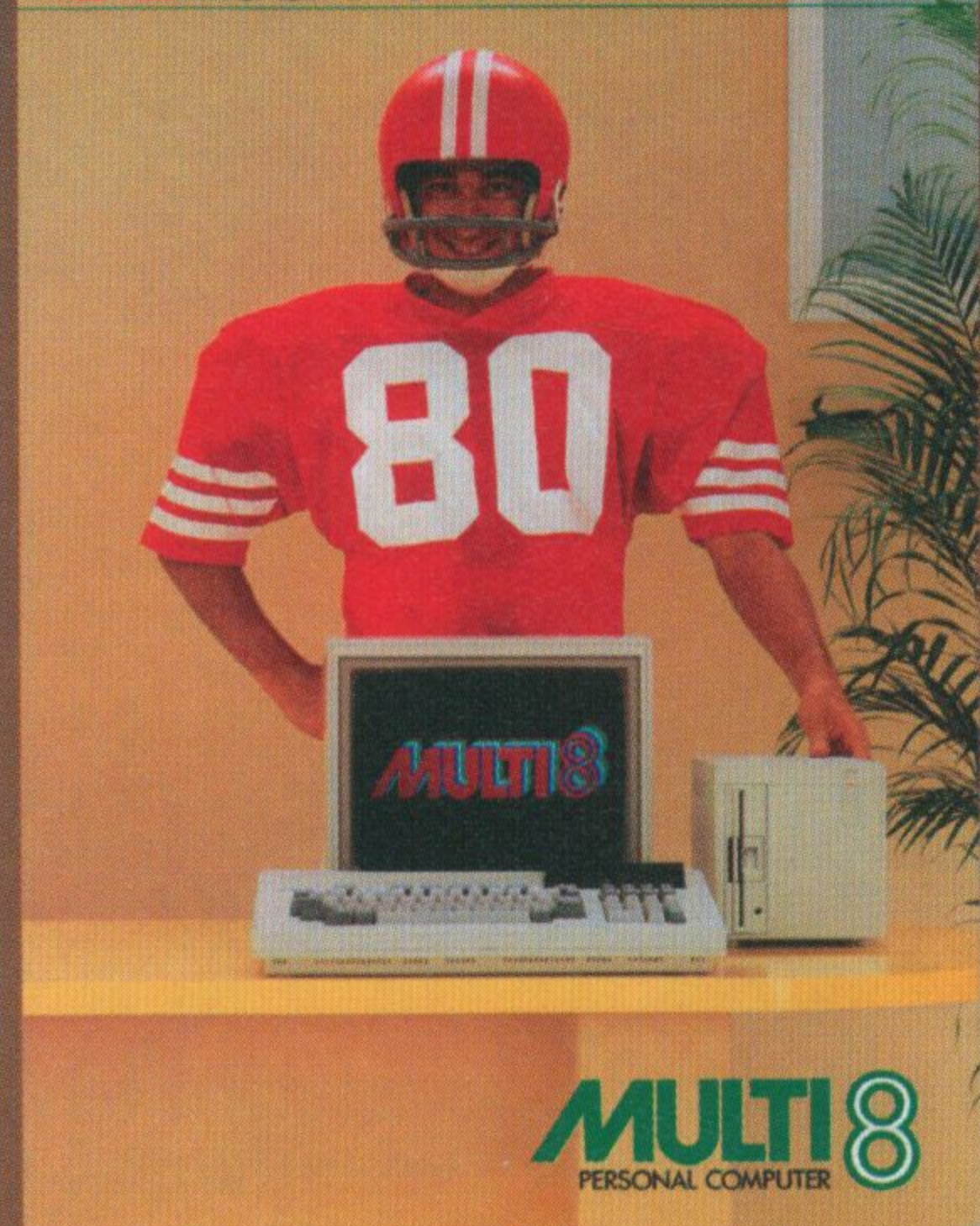
また、ソフトメーカーを取り込む計画もなかったようで、専用のゲームソフトもあ

まり発売されていない。パソコン雑誌でもほとんど投稿プログラムを見かけない状態であったことから、プログラムを目的に購入したユーザーも少なかったのではないだろうか。

決して性能面で他社製品に劣っているわけではないだけに、戦略次第ではもっと台数を伸ばすことができたのではと感じるマシンである。

◆ CATALOGUE

三菱パーソナルコンピュータ



10万円を切るキーボード分離型パソコン

FP-1000

カシオ計算機 1982年5月発売 本体価格 98,000円



CASIO

有効桁数24桁の 数字に強いパソコン

FP-1000はカシオが初めて開発した独自規格のパソコン。計算機メーカーのカシオらしく「計算」に特化した特徴を備えており、倍々精度という24桁までの計算（一般的な他機種では8桁～16桁）

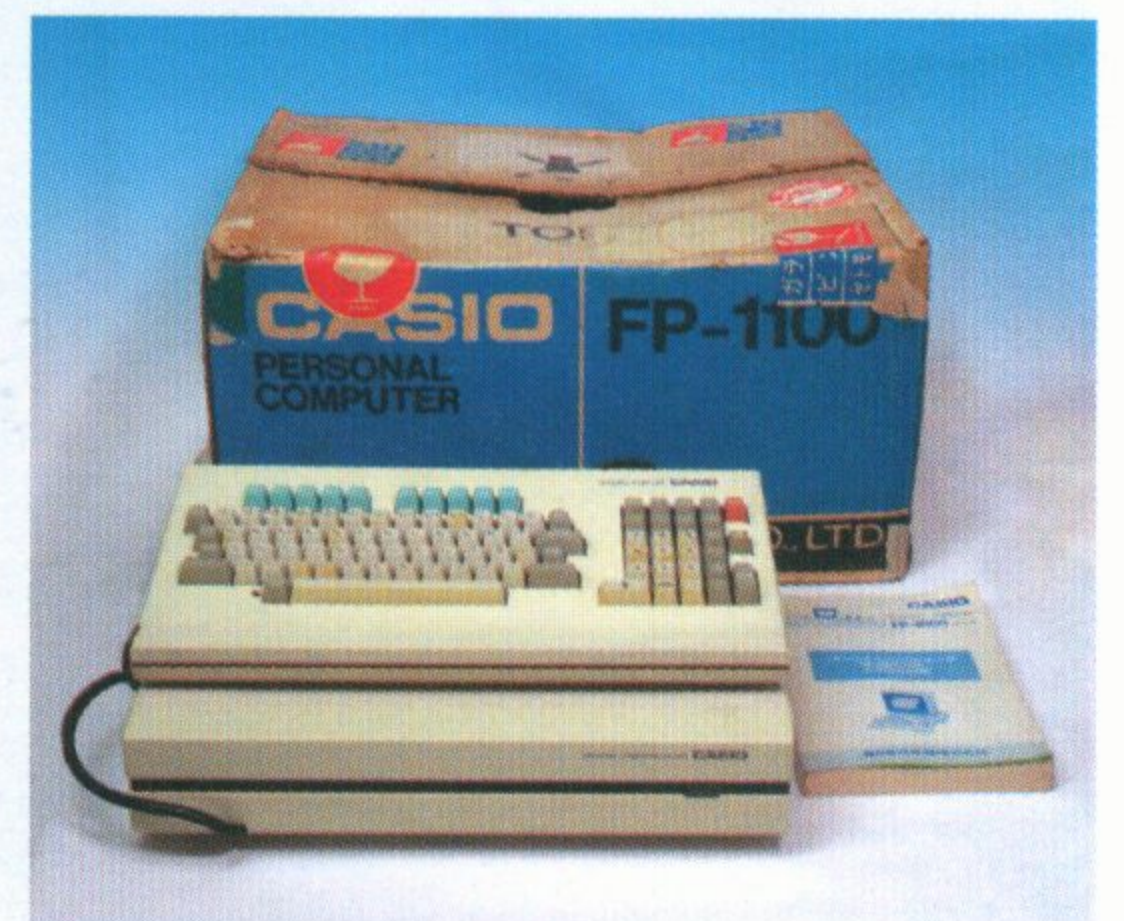
ができる独自のC82-BASICを搭載していた。また、10万円以下の価格帯パソコンでは珍しくテンキーを備えており、「0キーが大きい」「000キーがある」といった、これもまた計算処理に重きを置いた設計思想が透けて見えるつくりである。

最大10組までのプログラムを同時にメモリに置くことができ、各プログラム間で

ジャンプ（サブルーチンコール）することができるというユニークな機能があった。同社のポケコンには代々搭載されている仕様だが、現代のC言語でいう「関数」に通じるこの思想はかなり先進的だったといえるだろう。

FP-1000仕様

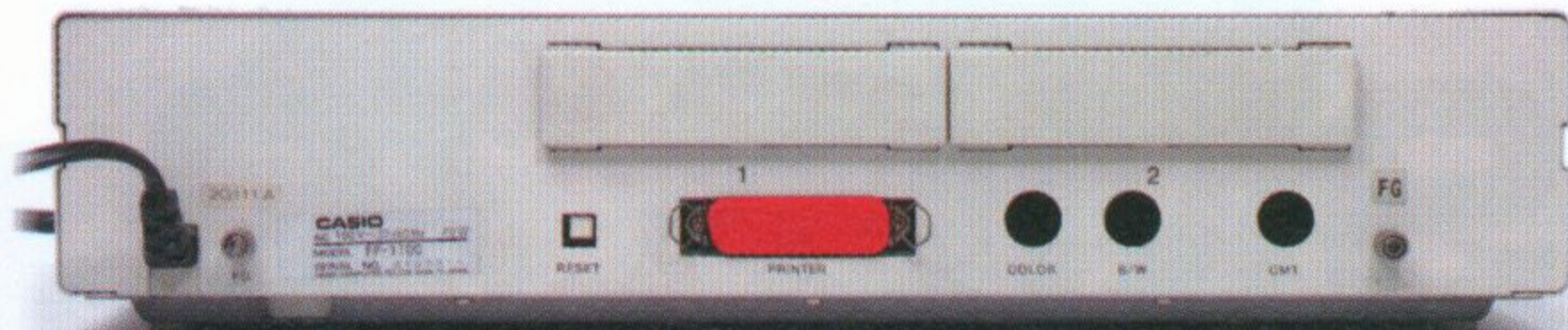
CPU	μPD780C (Z80A互換) 4MHz+μPD7801G
ROM	32Kバイト、サブ4Kバイト
RAM	メイン64Kバイト、VRAM 16Kバイト(最大48Kバイト)
グラフィック機能	グラフィック表示:最大640×200ドット・モノクロ テキスト表示:最大80文字×25行・モノクロ (VRAM増設により最大8色のカラー表示可能)
サウンド出力	ビーブ音による単音
インターフェース	コンポジットビデオ、モノラル音声、プリンター、カセットテープ



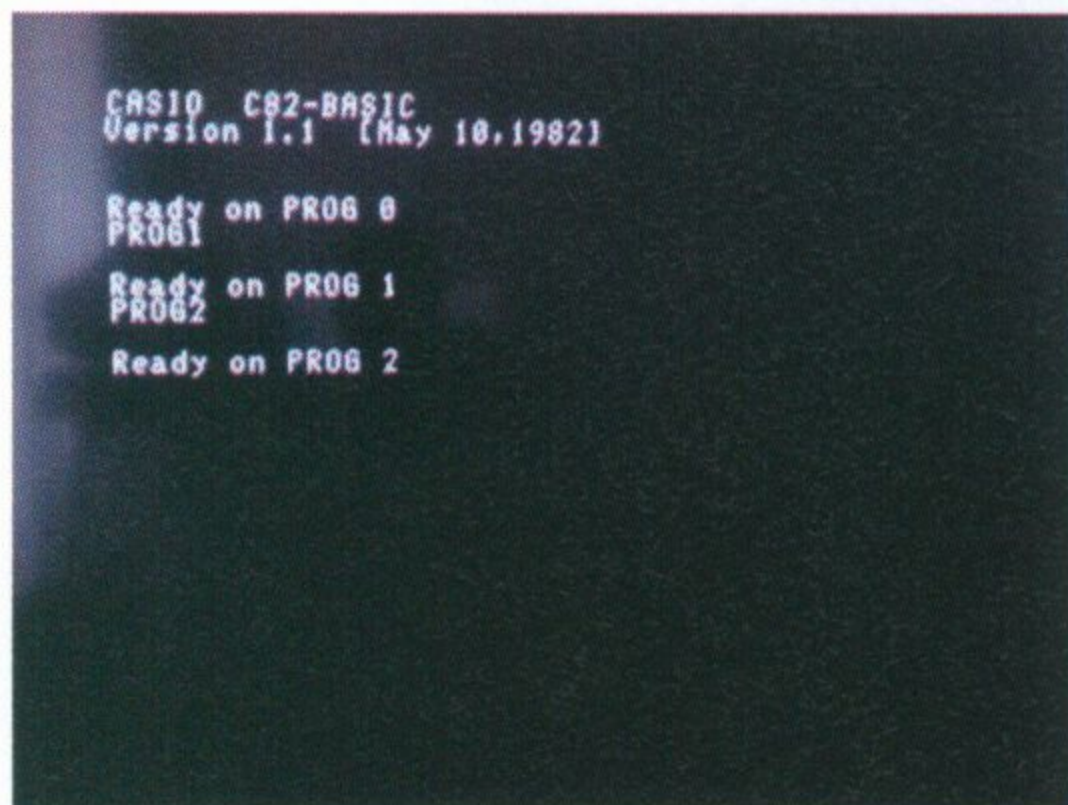
▲FP-1000のパッケージ。



■本体前面



■本体背面



▲「PROG0」～「PROG9」までの9つのプログラムがメインメモリ上に存在している。プログラム間で変数の値を受け渡してサブルーチンコールのような使い方ができる。



■キーボード

FP-1000 MODEL VARIATION



FP-1100
1982年5月発売 128,000円
FP-1000と同時に発売の上位モデル。カラー8色のグラフィック表現が可能になっている。



FP-200
1983年5月発売 69,800円
互換性のない独自仕様ハンドヘルド機。



FP-3000
1983年10月発売
148,000円～
CPUにi8086を搭載した16ビットパソコン。価格は安い、フロッピーディスクドライブなしは痛かった。

CATALOGUE

誰でも、どんな目的にも、選べるシステム構成で活用自在。

ザ・フリーランサー

大容量メモリ・高精度演算・標準的なハードウェア・拡張性の高いシステム構成



RAM: 128KBの大容量メモリ、4MBまで拡張可能。標準的なハードウェア構成で、拡張性の高いシステム構成が可能。

パーソナルコンピュータ	FP-1000	¥98,000
	FP-1000/1100	¥128,000
	FP-1100	¥128,000

1.41421356237309504880169 高精度演算

高精度演算機能により、πの値を高精度で計算できる。




高精度演算機能により、πの値を高精度で計算できる。

機種	CPU	メモリ	価格
FP-1000	8080	128KB	98,000円
FP-1100	8080	128KB	128,000円
FP-200	8080	128KB	69,800円
FP-3000	8086	128KB	148,000円～

640×200
640×400
高解像グラフィック

ソニーらしさが光る拡張自在な個性派コンピューター

SMC-70

ソニー 1982年12月発売 本体価格 228,000円



他に例がない 合体型拡張マシン

SMC-70はソニーが世に初めて送り出したパソコンである。パソコン事業への参入は1982年末と他の家電メーカーに比べて後発に位置するものの、他社の真似を良しとしないソニーらしく個性的な

ハードとなった。

拡張性の高さがセールスポイントではあるが、強烈なのがその接続方法。拡張ユニットはすべて同じ形状をしており、ベースコンポーネントのキーボードと後部電源ユニットとの間にサンドイッチしてはさむようにして接続する手法（つまり、拡張するほど奥行きが長くなっていく）が

取られている。また、フロッピーディスクドライブ部も上方向に拡張可能で、拡張するたびに上方向へと伸びていく。

ただしこの手法はシステムを組もうとすると際限なく高額になっていくという意味でもあり、本体価格こそ228,000円（この時点で他社のホビーパソコンに比べれば高額な部類）だが、フロッピーデイス

SMC-70仕様

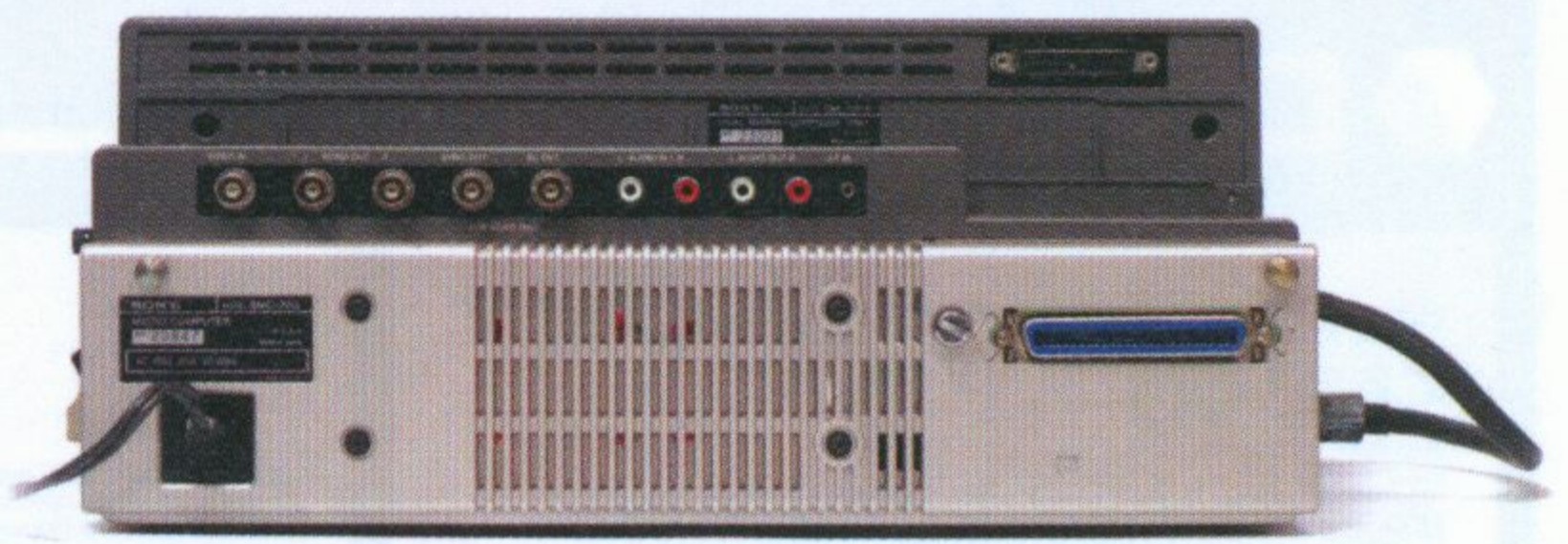
CPU	Z80A 4.028MHz
ROM	48Kバイト(SONY BASICおよびシステムモニタ用)
RAM	メインメモリ64Kバイト グラフィックVRAM 32Kバイト
グラフィック機能	テキスト表示:最大80字×25行×2画面 グラフィック表示:最大640×400ドット・最大16色
サウンド出力	ビーブ音による単音
インターフェース	アナログRGB、コンポジットビデオ、RS-232C、プリンター、カセットテープ



▲SMC-70の拡張前ベースコンポーネント。



■本体正面 (写真は SMC-70G)



■本体背面 (写真は SMC-70G)



▲SMC-70の拡張イメージ。



■キーボード

グドライブユニット148,000円、バッテリーバックアップユニット68,000円、トリニロンカラーモニター148,000円……と、軽く50万円~60万円コースとなってしまいます。つまり、SMC-70は民生品のホビーパソコンというよりは、業務用のシステム営業で企業向けに売りこむことを想定したパソコンだったといえる。

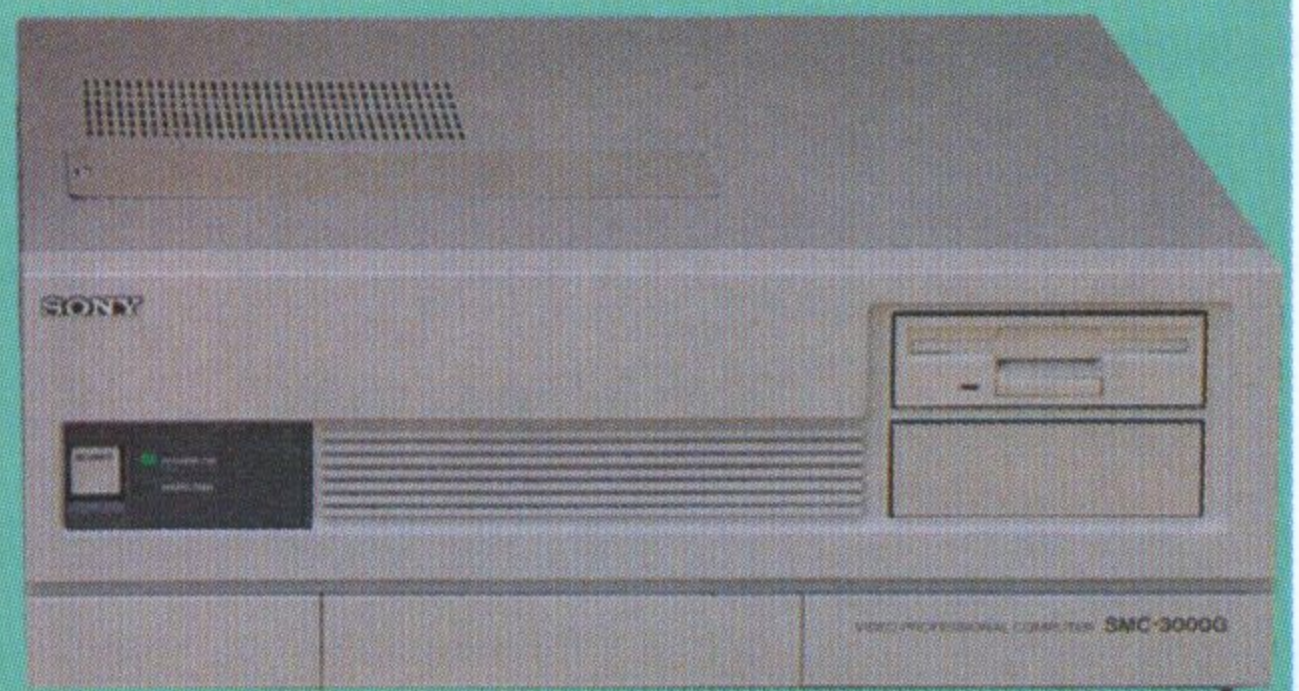
本体および拡張機器がいずれも高額な価格設定だったこと、肝心のソフトウェア（特にゲームソフトはSMC-777発売まではほとんど発売されなかった）が出揃わなかったこともあり、セールスは決

してよくなかったが、同種の拡張方法を採用したパソコンは前にも後にも例がなく、技術のソニーらしさを体現する製品のひとつとして深く記憶に残るパソコンといえよう。

SMC-70 MODEL VARIATION

SMC-70G 1983年5月発売 398,000円

放送局などで使われるゲンロック（映像同期信号発生装置）を搭載したモデル。90年代まで放送現場で実際に活躍していたという。



SMC-3000G

1987年発売 1,610,000円~

放送局向けの業務用コンピューターとして開発された、SMC-70Gの後継機種。CPUにインテル80286を搭載したIBM-PC/AT互換機で、同じくインテル80186を搭載したIBM-PC/AT互換機SMC-2000がベースになっている。

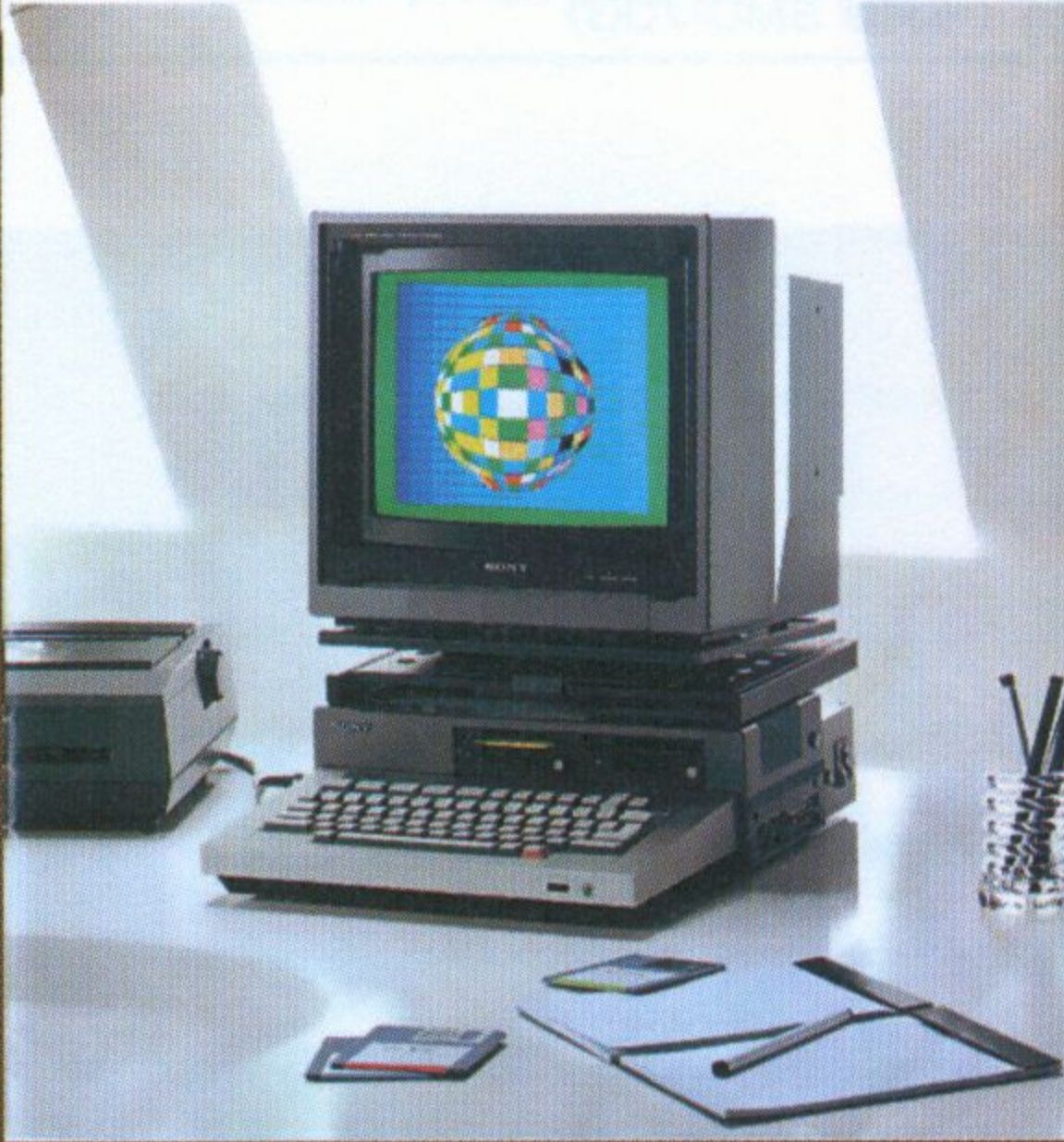


CATALOGUE

SONY MICRO COMPUTER
SMC-70
ビデオ指向型マイコン ¥228,000

SONY.

16色表示グラフィック重視設計、コマンド拡張機能付Sony BASIC搭載。高速CP/M対応、最大768KB、16ビットマシンへも拡張可能。



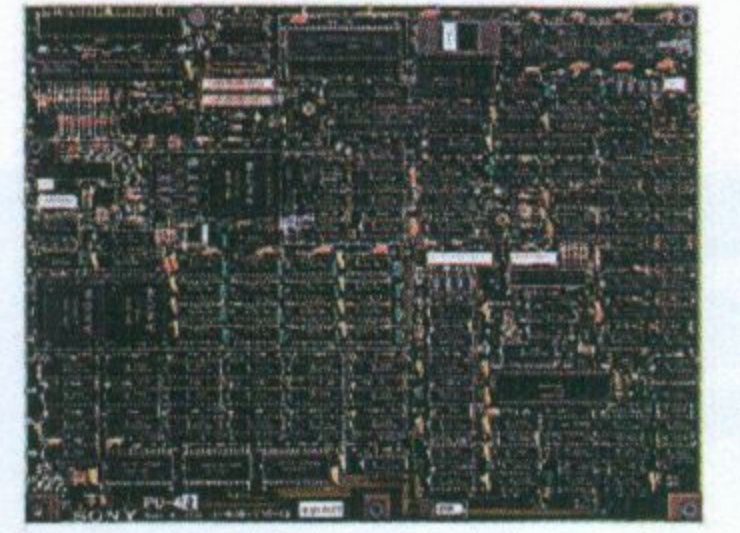
また、このマイコンには、48KBのRAMが標準装備されています。また、RAMの増設も容易で、最大768KBまで拡張可能。また、CP/M対応の拡張機能も付いています。

CPUには、Z-80を採用。拡張コマンドには、CPUの活用も容易で、最大768KBまで拡張可能。また、CP/M対応の拡張機能も付いています。

(使いこめば、進化していくコンピューター。これは、いかにもソニーらしい。)



RAMは、メインメモリーに64KB、VRAMは、大容量の32KBを装備。また、RAMの増設も容易で、最大768KBまで拡張可能。また、CP/M対応の拡張機能も付いています。



グラフィック重視設計、コマンド拡張機能付Sony BASIC搭載。拡張機能のあるCP/Mマシン。16色グラフィック重視設計、コマンド拡張機能付Sony BASIC搭載。拡張機能のあるCP/Mマシン。



SMC-70 ¥228,000

16色グラフィック重視設計、コマンド拡張機能付Sony BASIC搭載。拡張機能のあるCP/Mマシン。16色グラフィック重視設計、コマンド拡張機能付Sony BASIC搭載。拡張機能のあるCP/Mマシン。



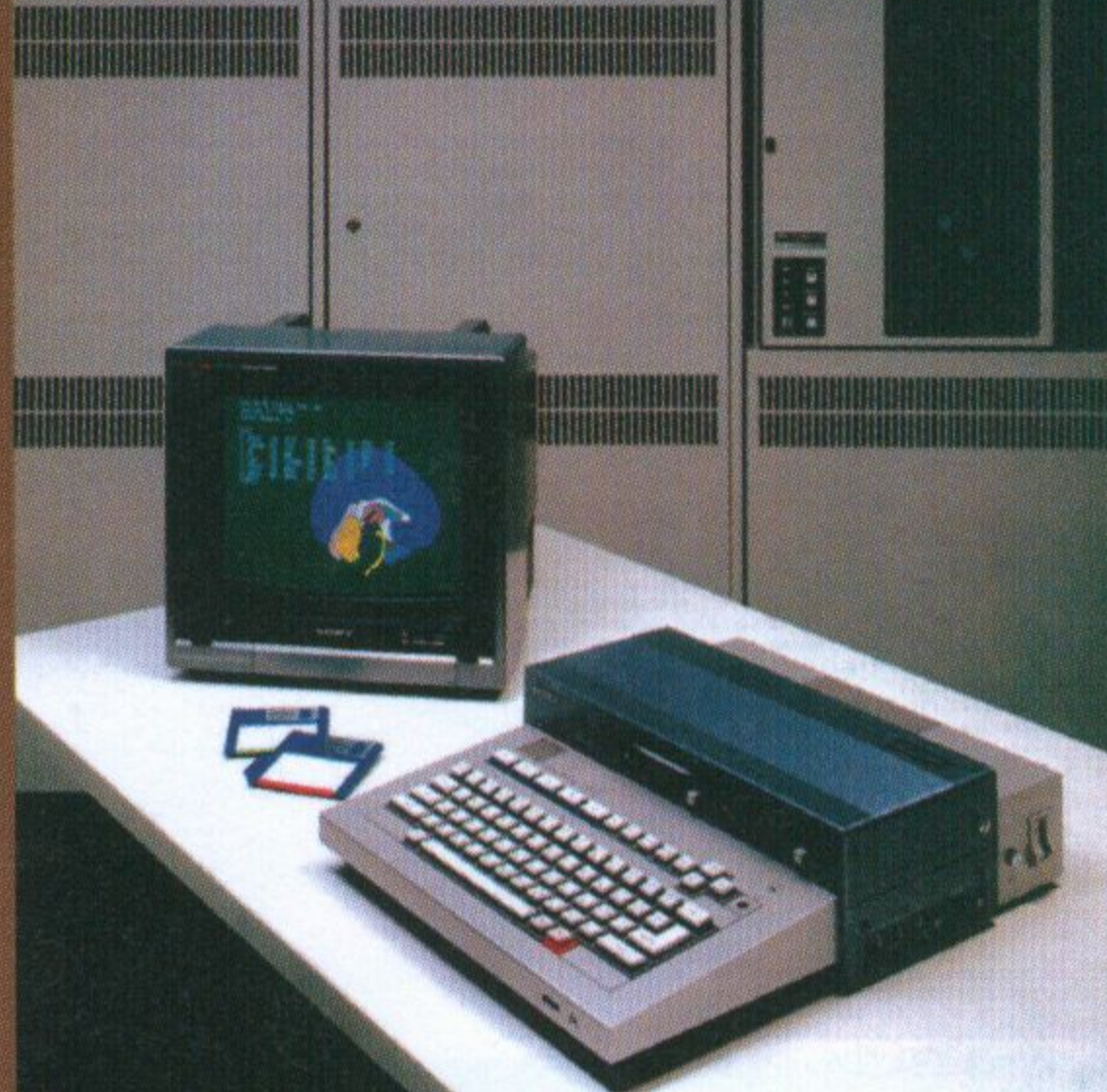
SMC-70G ¥398,000

ビデオ映像にコンピュータ画像を合成できるビデオ指向の外部同期型コンピュータ。ビデオ映像にコンピュータ画像を合成できるビデオ指向の外部同期型コンピュータ。

SONY MICRO COMPUTER
SMC-70
ビデオ指向型マイコン ¥228,000

SONY.

各種の高級言語を使って科学技術計算を処理、超小型CP/Mマシン。IEEE-488バスをSony BASICでコントロール、計測自動制御コンピュータ。



新発売
SONY.

ビデオ指向のマイコン
GENLOCKER ソニーから。



VTRなどのビデオ機器から外部同期型コンピュータが実現するビデオ映像のスーパー(NTSC)で、新しいマイコン時代を拓きます。

**SONY MICRO COMPUTER
SMC-70G**
¥398,000

SMC-3000Gはビデオの世界を
応援しつづけています。



SMC-3000Gの優れた機能が、ビデオの世界を応援しつづけています。SMC-3000Gの優れた機能が、ビデオの世界を応援しつづけています。

SMC-3000Gの優れた機能が、ビデオの世界を応援しつづけています。

SMC-3000Gの優れた機能が、ビデオの世界を応援しつづけています。SMC-3000Gの優れた機能が、ビデオの世界を応援しつづけています。

SONY

ソフトがたくさん付いて低価格。ソニーのホビーパソコン

SMC-777

ソニー 1983年11月発売 本体価格 148,000円



SMC-70の反省から 生まれたマシン

SMC-777は前機種SMC-70の商業的失敗による反省から生まれたパソコンである。拡張性をはじめとしたスタイルを優先するあまり高価となったSMC-70と比べ、ホビー路線へと大きく方針転換をしたのが特徴だ。またスペックと価格のバランスを見直し、3.5インチフロッピードラ

イブを標準装備したパソコンとしては当時の最安値の部類に入る。

ソフトラインナップの乏しさへの対策として、8種類のソフトウェアと10冊の詳細なマニュアルが同梱されている。中にはゲームソフト以外にアセンブラやデバッガといった開発ツール類まで用意され、開発者に対する厚い支援をしようという姿勢がうかがえる。

市販ソフトもソニー自身がオリジナルタ

イトルを積極的にリリースしたほか、『チョップリフター』『A.E.』『ロードランナー』など、海外有名タイトルのライセンス移植を行い、「海外の匂いを感じさせる一味違ったパソコン」という、他のメーカーにないソニー独自のカラーを確立した。

SMC-777仕様

CPU	Z80A 4.028MHz+M5L8041
ROM	16Kバイト(基本 I/Oルーチン内蔵)、JIS第一水準漢字ROM
RAM	メインメモリ64Kバイト グラフィックVRAM 38Kバイト
グラフィック機能	テキスト表示:最大80字×25行 グラフィック表示:最大640×200ドット・最大16色
サウンド出力	DCSG音源 6オクターブ3重和音+ノイズ1音(SN76489AN)
インターフェース	デジタルRGB、アナログRGB、コンポジットビデオ、ジョイスティック×2、RS-232C、プリンター、カセットテープ



▲付属品の多いSMC-777Cのパッケージ。



▲本体右側に設けられた3.5インチ1DDのディスクドライブ。SMC-777は初のディスクドライブ標準搭載となった。

HiTBiT ブランド展開

SMC-777のマーケティングにおいてホビークラス寄りに舵を切ったことは前述の通りだが、その象徴的な出来事として挙げられるのが「HiTBiT」ブランドの展開と、コマーシャルタレントに当時人気絶頂のアイドルだった松田聖子を起用した点だろう。

HiTBiTはソニーのホビー向けパソコンの統一ブランド名として制定されたもので、SMC-777のみに限らず、同社のMSXにもすべて付けられていた。松田聖子のテレビコマーシャルで流れる「ひとびとの、ヒットビット」、「かしこい、聖子のパソコン」というキャッチフレーズは



■本体背面（写真は SMC-777C）



■キーボード（写真は SMC-777C）

繰り返し放送され、当時を過ごしたユーザーであれば松田聖子のファンであるかはさておき、強く印象に残っているのではないだろうか。

余談だが、同時期にソニーグループ

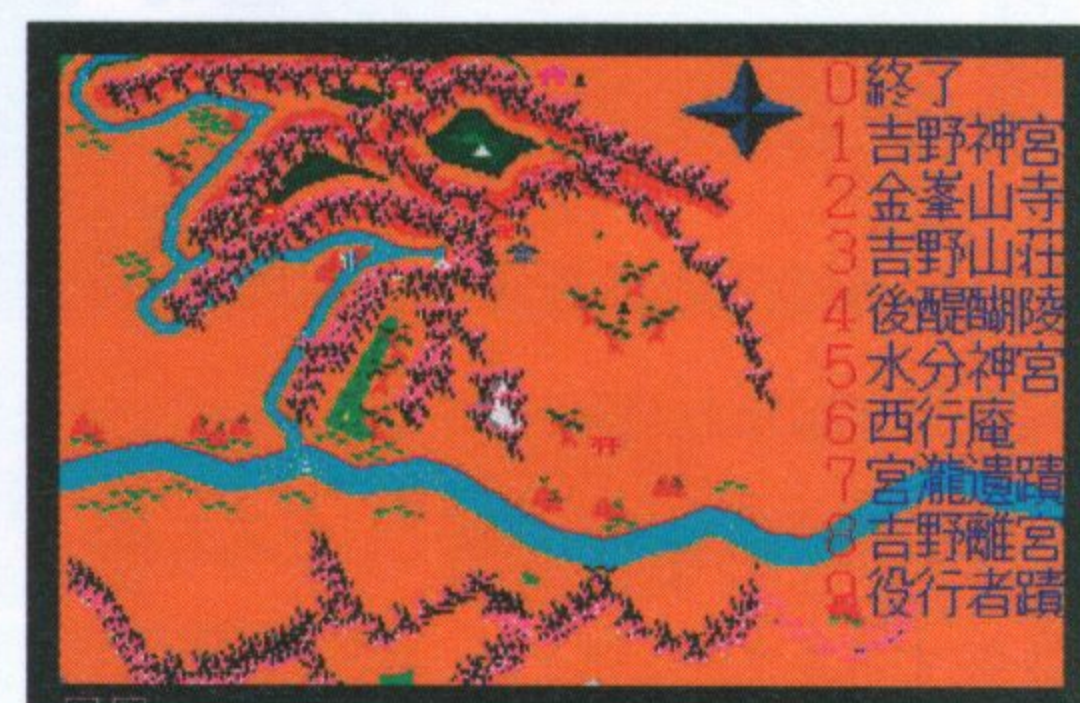
のコーポレートスローガン「It's a SONY」が導入されており、パッケージやカタログ等の印刷物はもちろんのこと、SMC-777本体にもロゴがシールで貼付けられていた。



▲SMC-777Cに標準添付されている「ストリッツバー」。グラフィックが美しいシューティングゲームだ。



▲ブローダーバンドの有名タイトル「チョップリフター」も SMC-777用に発売された。



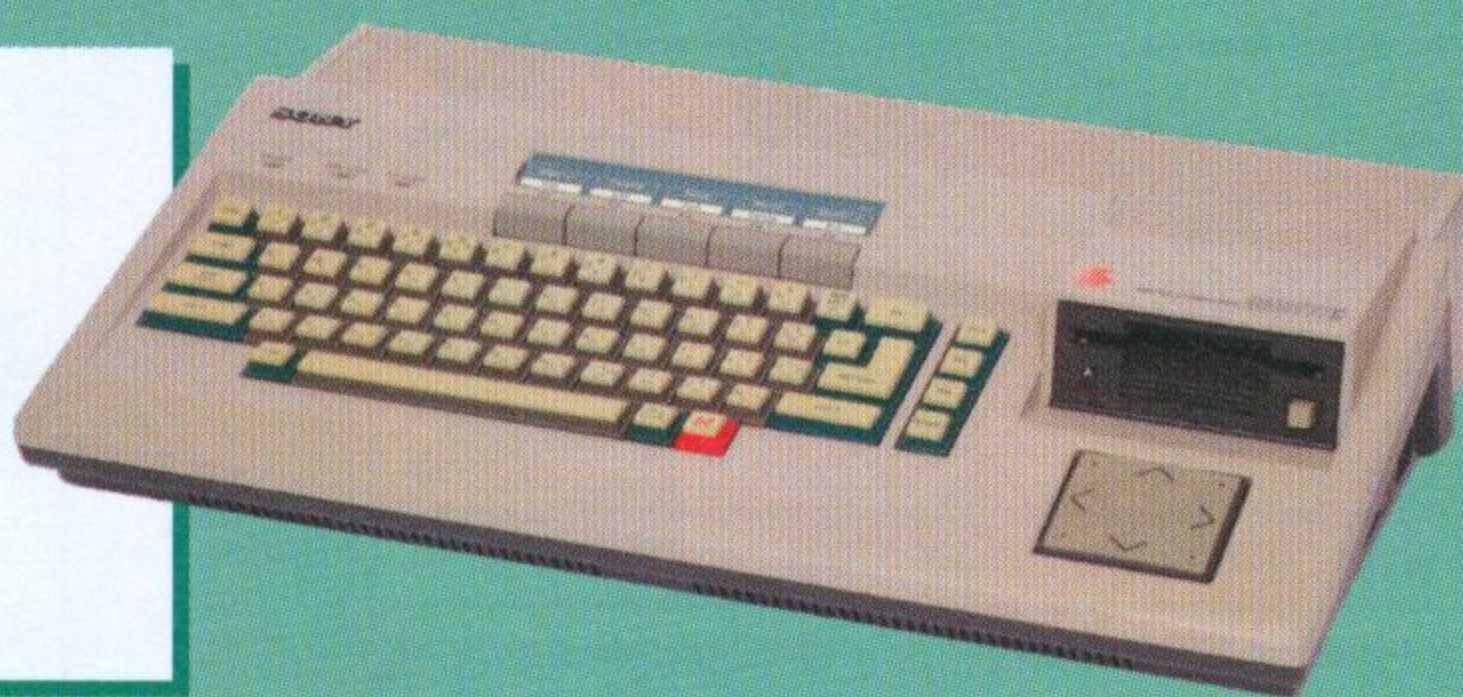
▲全3部作の本格アドベンチャー「幻の古代王朝」。SMC-70、777のどちらでも動作する両対応ソフト。

SMC-777 MODEL VARIATION

SMC-777C

1984年6月発売 168,000円

カラーパレット機能を標準搭載。他にもミュージックツール、グラフィックソフト、ゲームなど各種ソフトを同梱したモデル。



▲添付のミュージックツール「ラッサビアター」。

ホビーパソコンの歴史を振り返る四方山コラム

家電メーカーが揃って パソコンを作るようになった理由

マイコンブームに 乗り遅れるな

第2章を見るとおわりの通り、先行したパソコン御三家メーカーを除く家電メーカーは1981年から1984年あたりに向け、集中してパソコン事業に参入している。このころ小学生、中学生の間にいわゆるマイコンブームが起こっていたのは事実だが、各メーカーのパソコン市場参入はなぜこの時期に集中したのだろうか。

パソコンは家電メーカーが手掛けている他の製品と違って、作ろうと考えるだけですぐできる代物ではない。技術が成熟・確立されているわけではなく、そもそもハードだけ作ってもソフトの供給は誰がどのように行うのか。パソコンという商材を扱ったことがないメーカー自身がどのようにカスタマーサポートを行えばよいかかわからない。現在であれば容易に想像がつくこれらの疑問について、当時はなぜ考えが至らず簡単に参入してしまったのか、それには複数の理由があった。

新しい高額商品を 各社が求めていた

まず、当時の時代背景として各家電メーカーが次の売れ筋商品を探していた点にある。1970年代後半に入ると「三種の神器」はおろかメジャーな家電製品はだいたい各家庭に行き渡っており、しかも家電製品は総じてライフサイクルが長い（頻繁に買い換えが起こら

ない）。そんな市況において「新しい商材」を常に探しており、1970年代には家電メーカー各社がテレビテニスやブロック崩しの類似ゲーム機を発売していた時期があったほどである。

そんな中においてテレビに繋いで使うことができるパソコンの情報家電としての存在はどのメーカーにとっても大変興味深い商材であり、商品単価もそこそこ高く設定できる上に、その分野でシェアを握ることができれば周辺機器などの販売を通じて継続的な利益を生み出す可能性もあり、新たな事業の核へと育つかも说不定と考えたのである。

マイクロソフト系 BASIC営業

パソコンを開発する上で一番の難点はハードの上に載せるソフト、とりわけ基本ソフトウェアの存在である。この頃の各パソコンは基本ソフトウェアとしてROMにBASICを内蔵していて、これが実質的にOSの役割を果たしていた。このBASICが、社内にソフトウェアの専門家がいて独自開発できるレベルのメーカーでない限り、大半がマイクロソフト系のBASICを搭載していたのである。これを各家電メーカーに売り込み営業をかけていたのがアスキーの社長でありマイクロソフト極東担当副社長でもあった西和彦であった。出来合いのBASICが用意されていれば渡りに船な上、ハードの企画・開発に参加するケースもあったことから各メーカーにとって頼もしい存在であったことは想像に難くない。その

結果、日本国内の各社のホビーパソコンはマイクロソフト系BASICが溢れることになったのである。

雑誌を媒体にした ソフト供給の夢

パソコンの普及において重要なファクターとなるのが対応ソフトの問題。基本ソフトウェアの話ではなく、その上で動くアプリケーションの話である。

本来ならこういった対応ソフトの拡充はメーカー自身が開発をするか、ソフトメーカーへの根回しをして開発協力を取り付ける必要があるのだが、パソコンブームを迎えて出版各社から複数のパソコン雑誌が創刊しており、これに掲載されている投稿プログラムをユーザーが打ち込むことで、ある程度のソフト不足の状況は解消されるという目算があったのである。

現実にはそんなうまい話はあるはずもなく、普及していないハードは必然的に投稿プログラム自体が少ないわけで、ユーザーが雑誌を媒体にソフト需要を満たしてくれるなんて都合の良い話はありませんでした。

そもそも当時のパソコンは性能も低いう上にネットやメールといった通信インフラも未整備、ワープロとして使おうにも日本語入力すらおぼつかないレベルだったわけで、メーカーや販売員自身がろくに商品説明もできない状態では売れるはずもなかったのだ。結果、これら家電メーカーはいずれもほとんど後続製品を出さないまま撤退することになった。

第3章

玩具メーカー系
ホビーパソコン編

HOBBY PERSONAL COMPUTER CATALOGUE CHAPTER 3

16ビットの凄いヤツ! 玩具系ホビーパソコンの代名詞

ぴゅう太

トミー 1982年8月20日発売 本体価格：59,800円



すぐに楽しめる 手軽な入門機

ぴゅう太はトミー（現・タカラトミー）が独自に開発した16ビットホビーパソコンである。玩具メーカーらしい設計思想が随所に見られ、積極的な宣伝戦略と玩具

ルートでの販売力から、ホビーパソコンの代名詞として語られることが多い。

ぴゅう太の特徴として、日本語で記述する日本語G-BASICと、専用のグラフィックエディタが挙げられる。特別な知識がなくても、買ったその日から楽しめる配慮が嬉しい反面、マシン語を使用すること

ができないなど、せっかく16ビットCPUを搭載していながら性能を発揮しきれないという問題点もあった。

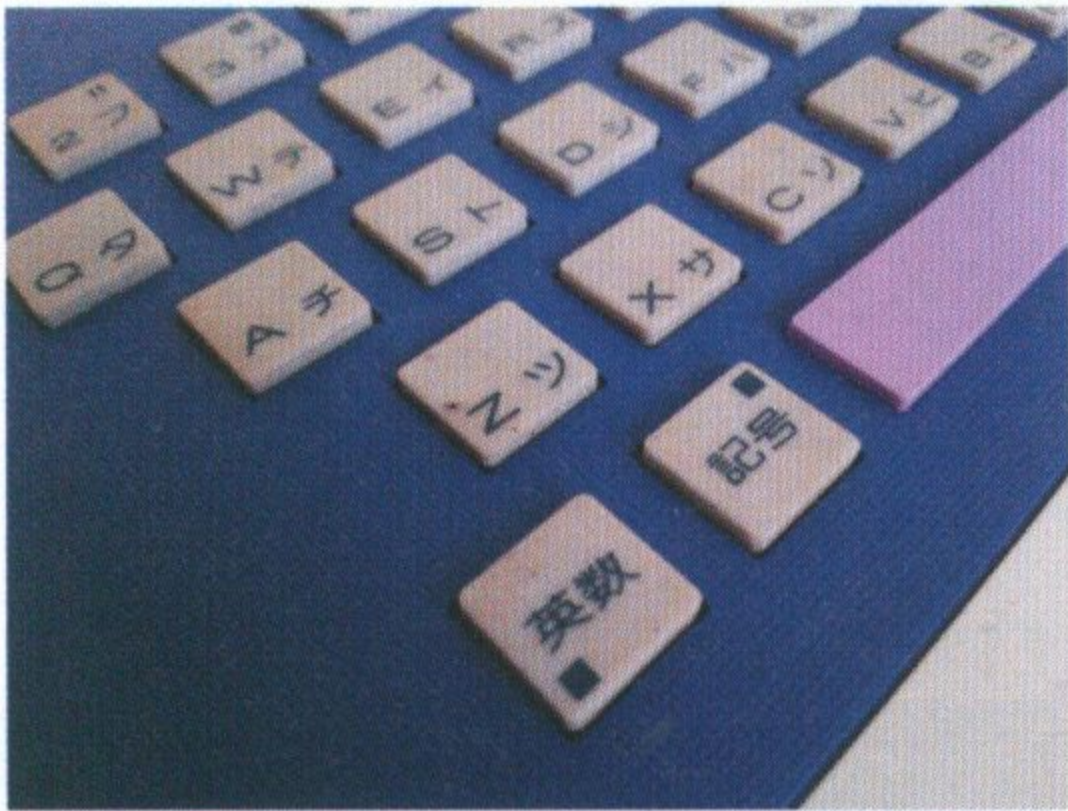
ソフトはROMカートリッジで供給され、『ブーヤン』や『スクランブル』などコナミ系のアーケードゲームからの移植も含め、多数のタイトルが発売された。

ぴゅう太仕様

CPU	TMS9995 10.738MHz
ROM	20Kバイト
RAM	16Kバイト
グラフィック機能	テキスト表示:最大40字×24行 グラフィック表示:最大256×192ドット・16色 スプライト表示:32スプライト/画面、4スプライト/ライン
サウンド出力	DCSG音源 擬音4種類3重和音(SN76489)
インターフェース	RF信号、コンポジットビデオ、モノラル音声、カセットテープ、コントローラ、プリンター、カートリッジスロット

180	モシ B>0ナラハ`410 ニイク
190	モシ X<>17ナラハ`220 ニイク
200	モシ A=1ナラハ`290 ニイク
210	モシ A=5ナラハ`300 ニイク
220	マフレ 240 YY=25カラ153カンカク32
230	モシ Y=YYナラハ`260 ニイク
240	トジール
250	400 ニイク
260	モシ A=3ナラハ`350 ニイク
270	モシ A=7ナラハ`340 ニイク
280	400 ニイク

▲ぴゅう太の特徴的な日本語G-BASIC。



▲キーのどの文字が入力されるかを直感的に印で知らせる「英数」「記号」キー。

扱いやすさと 本格派の両立

ぴゅう太は玩具系パソコンメーカーとしては珍しく、設計から開発までトミー社内で行われた。玩具メーカーゆえに対象とする購買層がコンピューターを初めて触る子供であることを想定し、入力キーの表示や、グラフィック機能をBASICとは分離してツール化するなど細やかな配慮が随所に見られた。日本語G-BASICも英語がわからない小さな子供が利用することに配慮した結果生まれたものだが、その独自性が災いして、市販のプログラム教本を参考にすることができないといっ



▲ぴゅう太の電源投入時の起動画面。



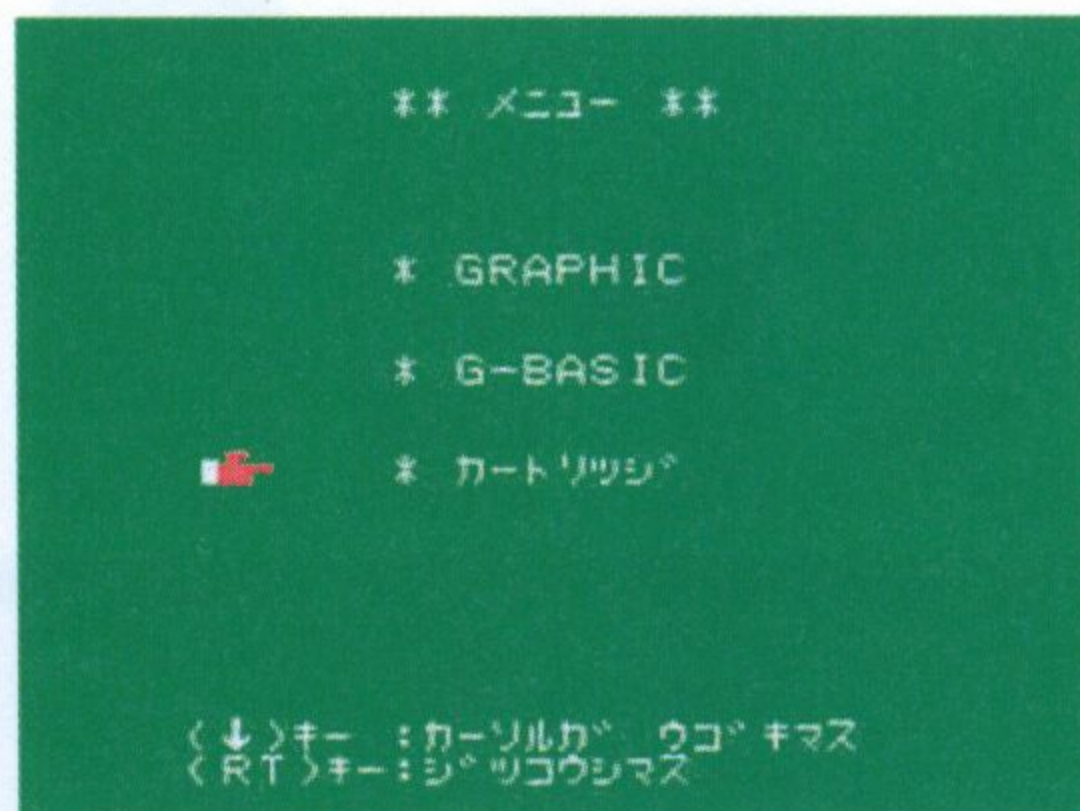
■本体背面



■キーボード

た弊害も起こっている。そこで、後続モデルのぴゅう太mkIIでは英語のG-BASICを搭載。さらにプリンターポートを搭載

した高度な上位言語「BASIC1」を発売するなど、コンピューターに慣れた子供の次のステップへの道も用意した。



▲メインメニュー画面。ここで起動するソフトを選択する。

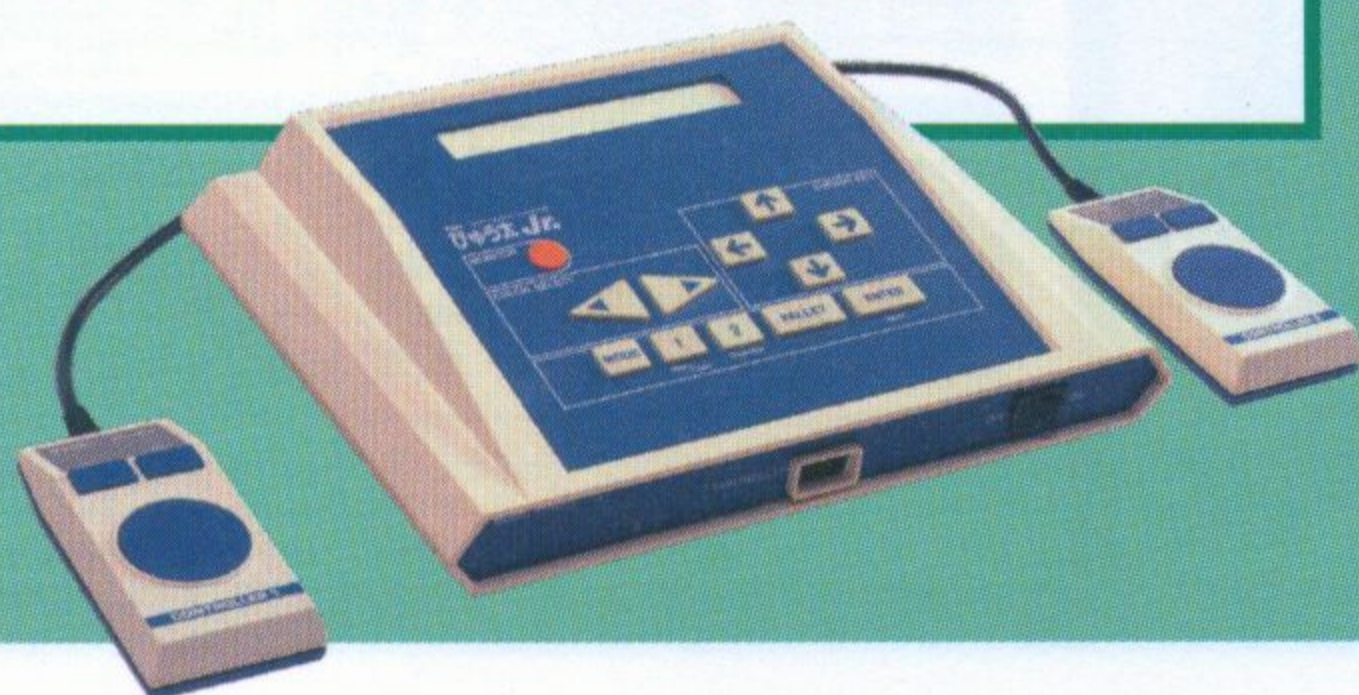


▲より高度なプログラムを組める「BASIC1」。

PYUUTA MODEL VARIATION

ぴゅう太Jr. 1983年7月発売 19,800円

キーボードを取り除き、大幅にゲームに特化したモデル。



ぴゅう太mkII 1984年発売 29,800円

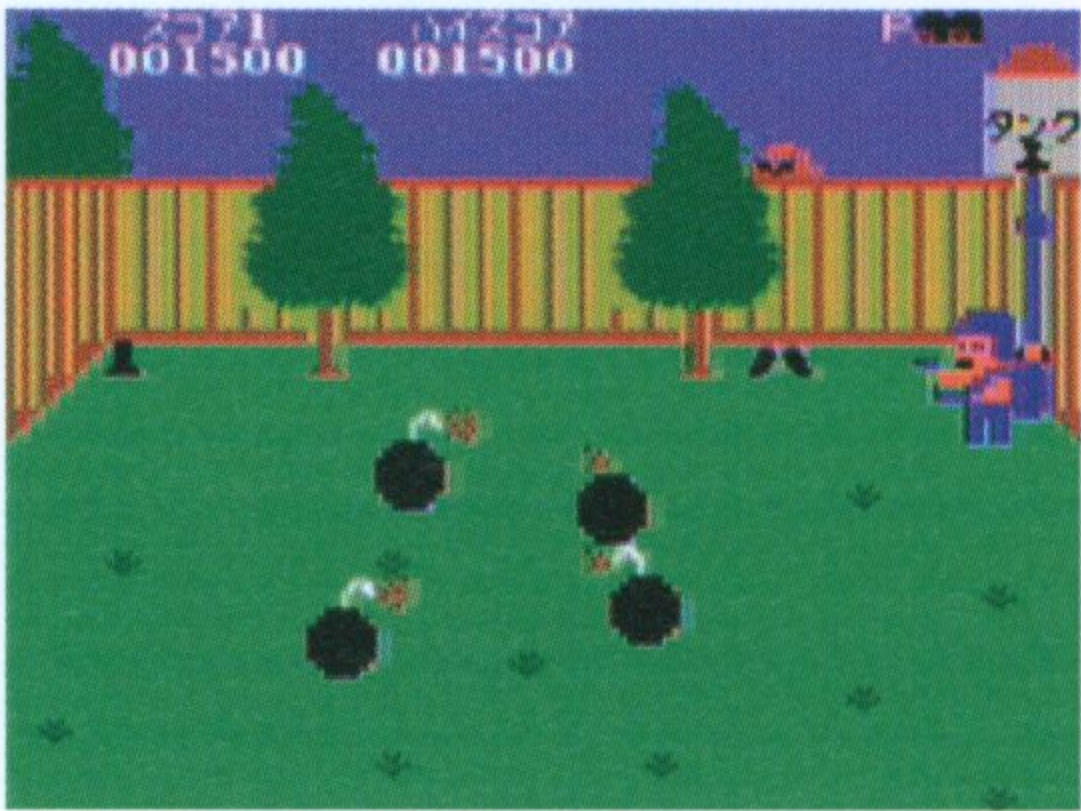
メモリを32Kバイトに増強、タイプライター式キーボードと英語G-BASICを搭載した上位モデル。



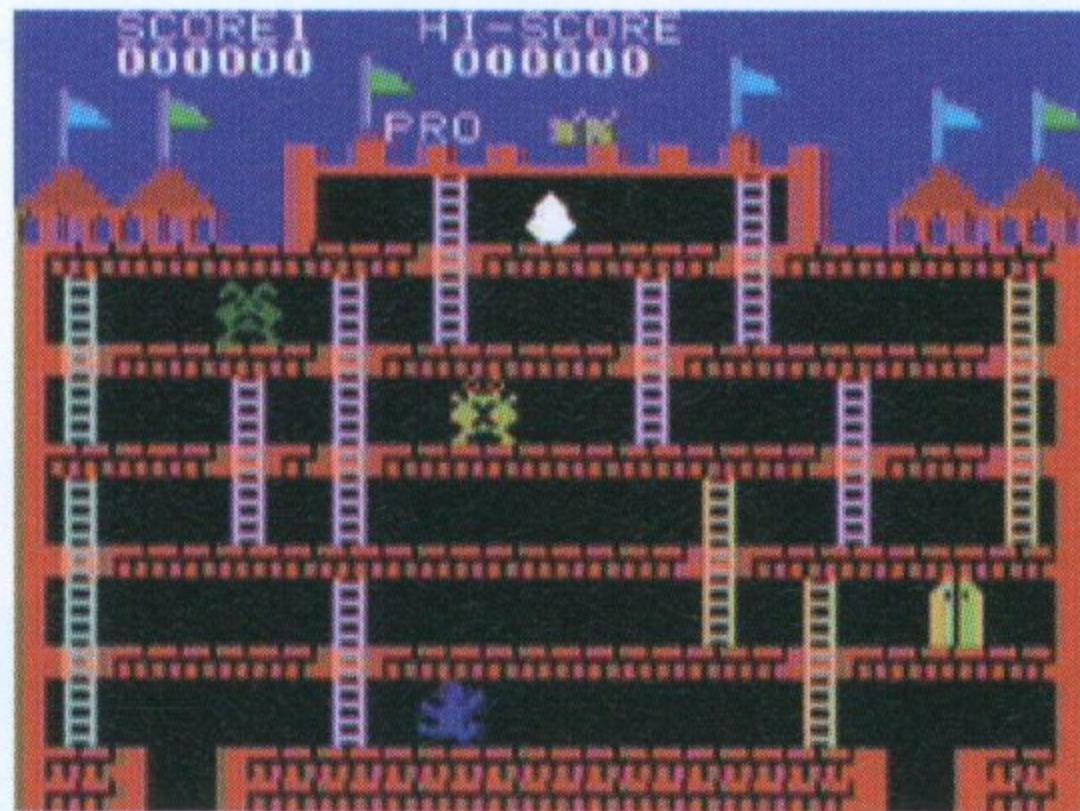
ぴゅう太用ソフトはすべてトミーから発売され、取り扱いの利便性を考慮して基本的にROMカートリッジで発売された（『黒ヒゲ危機一髪』など、カセットテープで供給されたものがあるが、これらの起動には別途データレコーダーが必要）。一部のアーケードゲーム移植を除いてぴゅう太用に新規で開発されたゲームが

ほとんどで、後期のタイトルには16ビットCPUならではの高度なタイトルも存在した。なお、『ナイトフライト』などMSXへ移植されたソフトも存在する。

ほとんどで、後期のタイトルには16ビットCPUならではの高度なタイトルも存在した。なお、『ナイトフライト』などMSXへ移植されたソフトも存在する。



▲庭に投げ込まれた爆弾を背中に背負った水で消火するアクションゲーム『ポンマン』。



▲穴を掘って敵を全滅させるサイドビューアクションゲーム『モンスターイン』。



▲坂や窪み、ジャンプ台とコースがバラエティに富んだスクロールバイクアクションゲーム『スーパーバイク』。

CATALOGUE

TOMY

パソコンで
過激なオモちゃじゃ。

だから、ハチャメチャ進化中。

ぴゅう太
59,800円

16-BIT GRAPHIC COMPUTER

TOMY

押しごらん。
コンピュータホビーは
キミのものだ。

遊ぶ楽しさ 描く楽しさ 創る楽しさ

ぴゅう太
59,800円

ビッピー、ピロンから始まる
ぴゅう太の世界。

ニューモアとスペース、ゲームカートリッジ。

アイデアとセンスの、16色カラーグラフィックスシステム。

インテリジェントとグラフィック、オリジナルソフト作り。

TOMY

TOMY

だから、楽しさ100%
ぴゅう太 Jr. は天のボイ

テレビ画面に
絵が描けるのは、
ぴゅう太 Jr. だけ。

ぴゅう太 Jr.
19,800円

16-BIT GRAPHIC COMPUTER

TOMY

だから、楽しさ100%
ぴゅう太 Jr. は天のボイ

テレビ画面に
絵が描けるのは、
ぴゅう太 Jr. だけ。

ぴゅう太 Jr.
19,800円

16-BIT GRAPHIC COMPUTER

まるでゲームの龍宮城だ。と、
父さんウツリ!

時間をおぼろげなオモロシ。 ぴゅう太シリーズゲームカートリッジ

ますます充実/びゅう太シリーズ

びゅう太 びゅう太 Jr. びゅう太 MKII

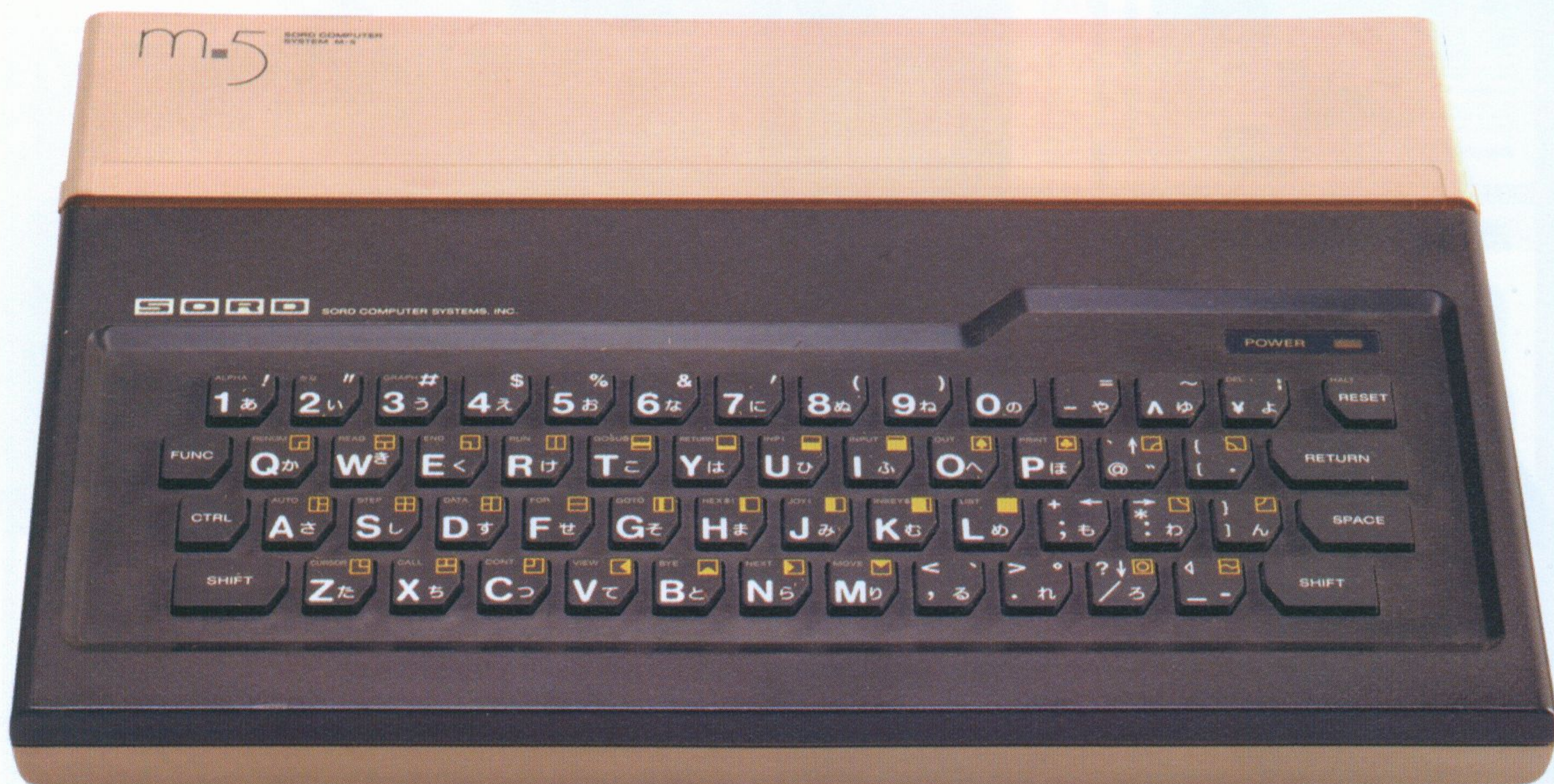
近日常売中

TOMY

小さなボディに本格派BASIC

M5

ソード電算機システム 1982年11月発売 本体価格：49,800円

ベンチャー魂から
生まれた名機

M5はオフィス用コンピューターを発売していたベンチャー企業、ソード電算機システム（現・ソード）が家庭用パソコンとして開発したホビーパソコンである。

ソードはソフト+ハードを組み合わせた造語に由来しており、組み込み向けを得意とする生粋のパソコンメーカー。そ

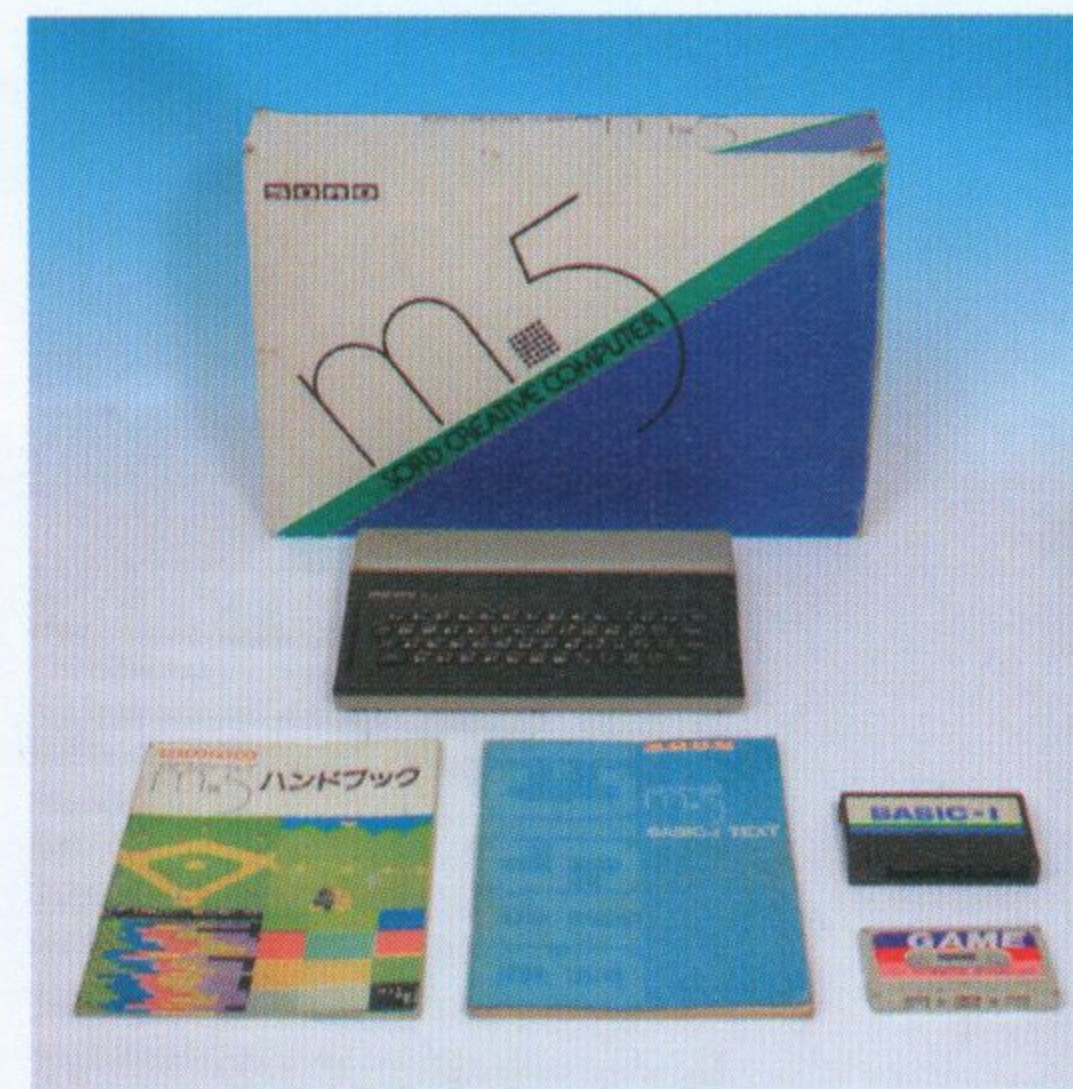
ういった経緯の会社が開発しただけに、小型で低価格ながらゲームが作りやすいBASICが付属しており、自分でゲームをプログラムをしたいというユーザーに支持された。

また、テープでもROMカートリッジでもゲームソフトの供給がなされ、MSXが登場するまでは同時期の多機種に比べて対応タイトル数が多かったことも、この機種が支持された要因である。

玩具メーカーのタカラ（現・タカラトミー）からも「ゲームパソコン」の名前で発売（詳細は後述）され、こちらはパソコンショップやデパート以外の玩具店ルートで販売された。対応ゲームソフトも流通経路の違いから同一タイトルでソード版とタカラ版の2種類が存在する。

M5仕様

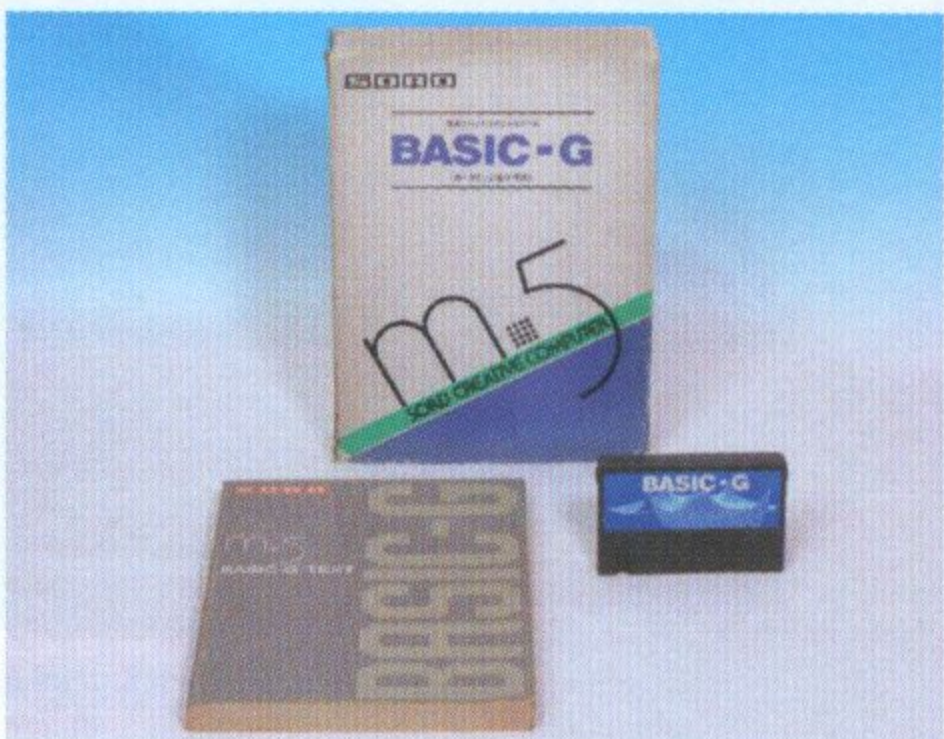
CPU	Z80A 3.58MHz
ROM	最大24Kバイト
RAM	4Kバイト(最大36Kバイト)、VRAM16Kバイト
グラフィック機能	テキスト表示:最大40字×24行 グラフィック表示:最大256×192ドット・16色 スプライト表示:32スプライト/画面、4スプライト/ライン
サウンド出力	DCSG音源 6オクターブ3重和音+ノイズ1音(SN76489A)
インターフェース	RF信号、コンポジットビデオ、モノラル音声、カセットテープ、コントローラ×2、プリンター、カートリッジスロット



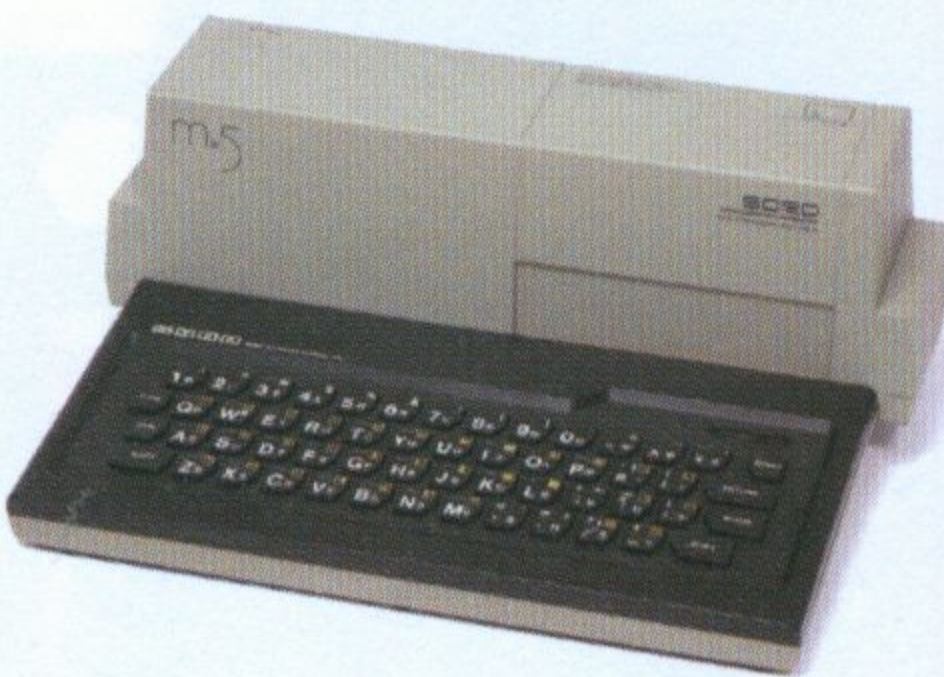
▲付属品の多いM5のパッケージ。



フタを開けるとROMカートリッジスロットがある。フタにはキー操作や注意書きも。



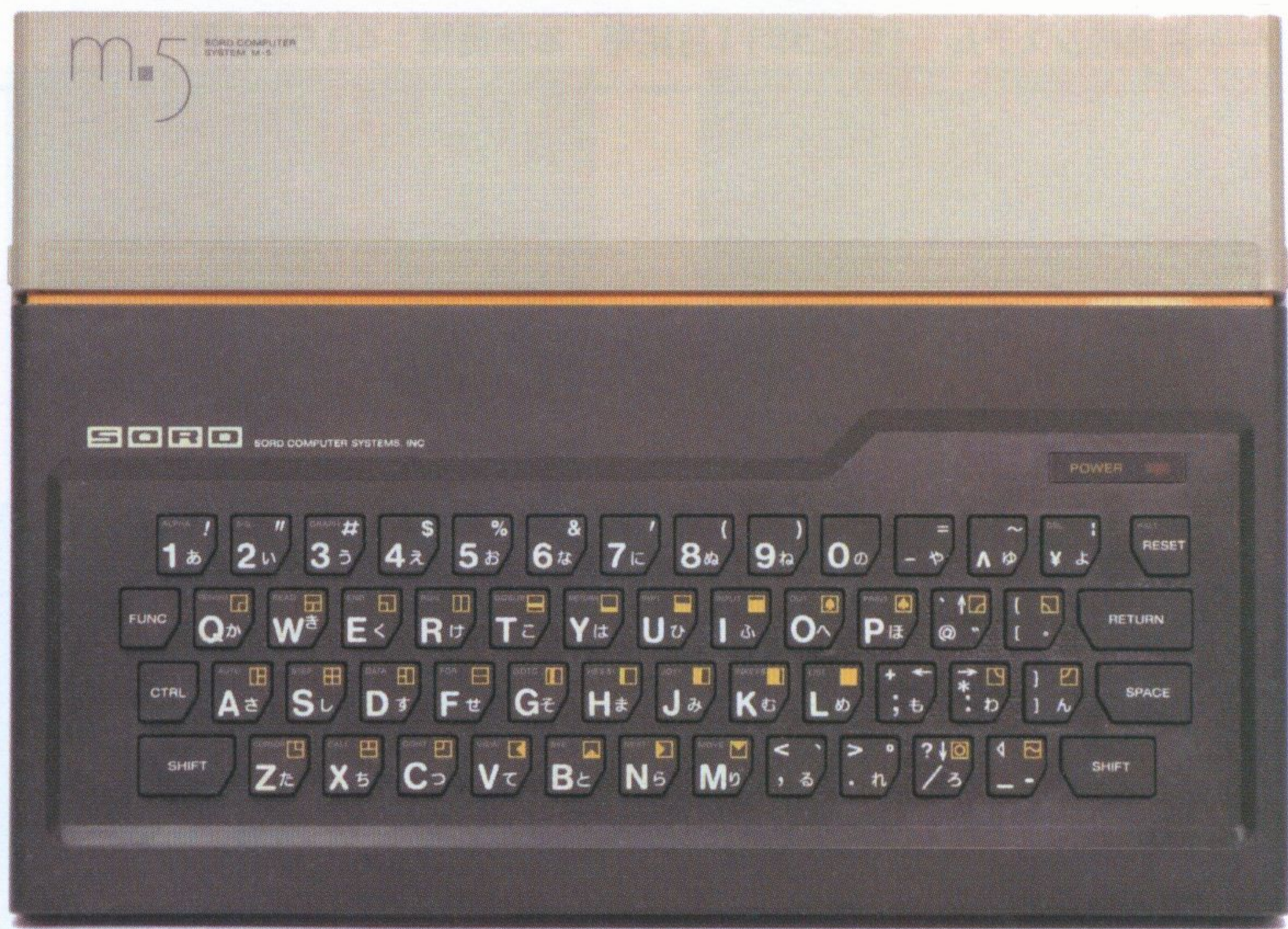
M5の能力を引き出し、高度なゲーム開発ができる別売りのBASIC-G。



スロットを3つに拡張できる周辺機器、拡張ボックス。



■本体背面



■キーボード

当初のターゲットは ビジネス用途

M5はそのコンパクトで一見オモチャに見えそうな見た目の割に本格派パソ

コンを志向して作られており、専用のフロッピーディスクドライブや増設メモリ、拡張ボックスなど多数の周辺機器が発売された。また、同社の代表的な表計算ソフト『PIPS』をM5向けに簡易バー

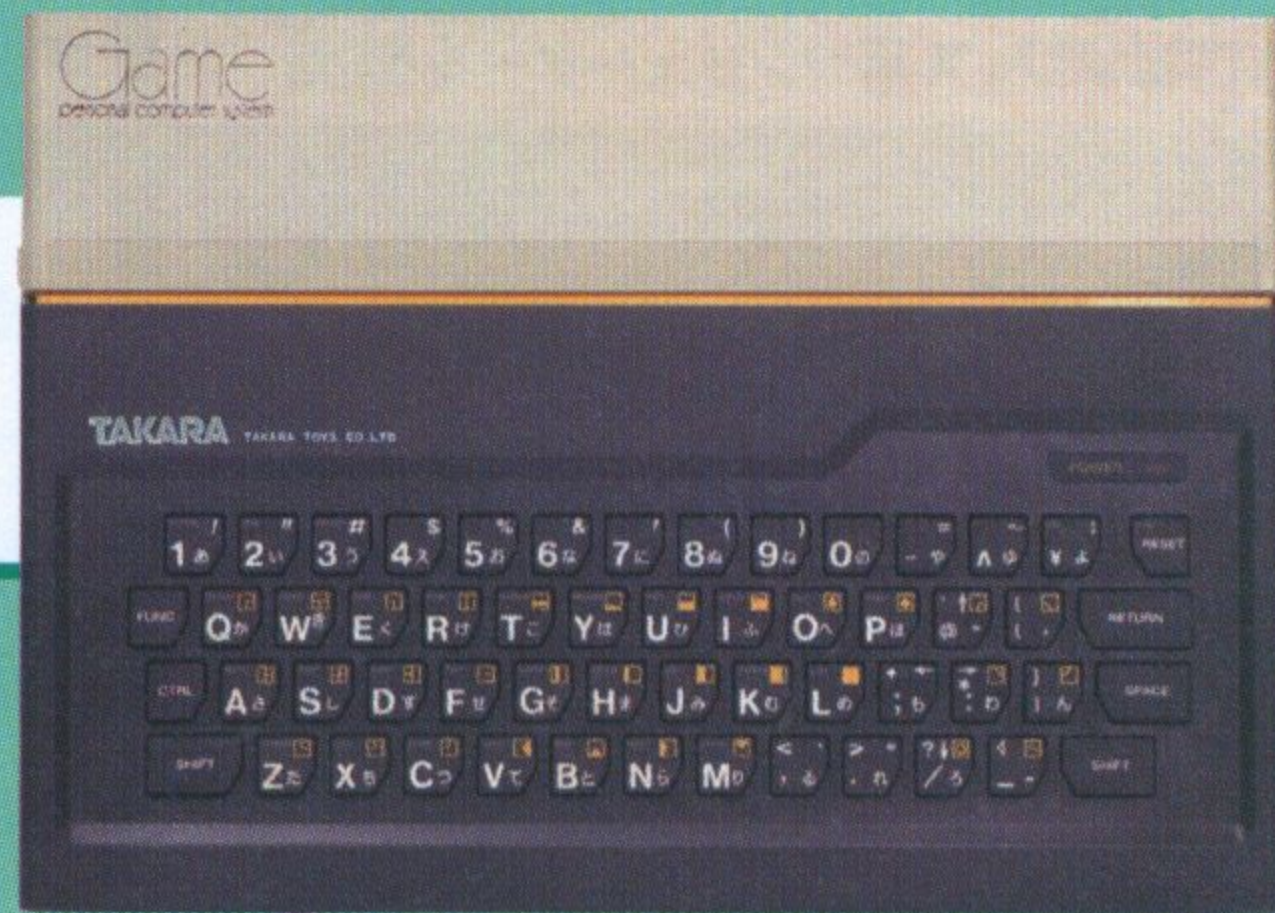
ジョンとして移植した『FALC』を発売するなど、同社の強みを活かした事業展開を行っていることから、ソードが本機で家庭用コンピューター市場を狙って発売したことがうかがえる。

M5 MODEL VARIATION

ゲームパソコン

タカラ 1982年11月発売 59,800円

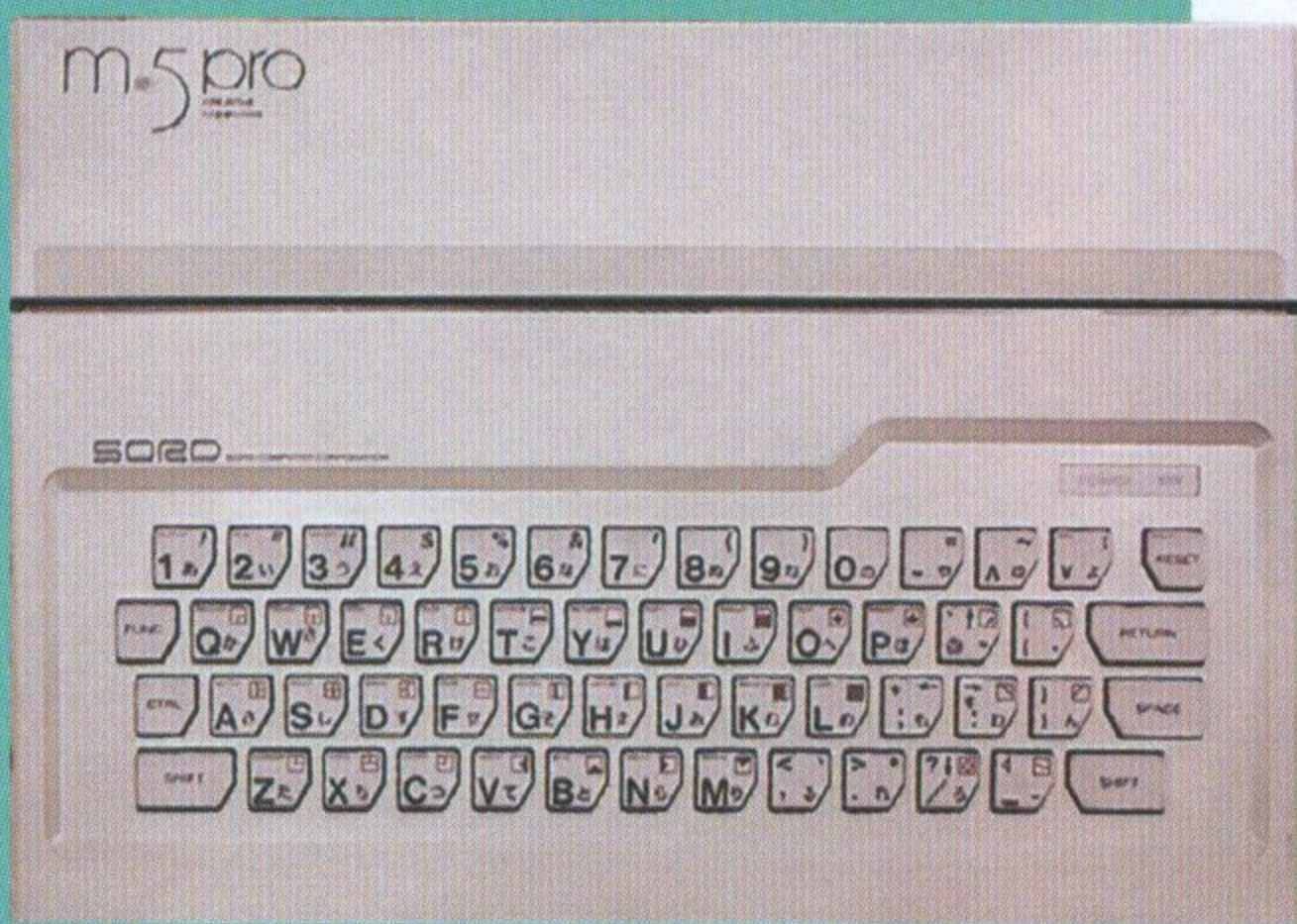
タカラから発売されたM5の同型機で、コントロールパッドが2個付属している。翌年にコントロールパッドを省き価格を49,800円に下げた「ゲームパソコンM5」が発売された。



M5pro

1983年11月発売 39,800円

初代機からBASIC-Iを除いた後継機。



M5Jr.

1983年11月発売 39,800円

各種端子を廃止してゲームに特化した廉価モデル。



CATALOGUE

オプションそろえて差をつけよう。

M5, MSJPRO専用オプション

- 高品質の電源ケーブル ¥1,200
- 高品質のキーボード ¥1,500
- 高品質のマウス ¥1,500
- 高品質のプリンター ¥1,500
- 高品質のディスプレイ ¥1,500
- 高品質のキーボード ¥1,500
- 高品質のマウス ¥1,500
- 高品質のプリンター ¥1,500
- 高品質のディスプレイ ¥1,500

PROのソフトをそのまま使ってこの価格。

m5 Jr. ¥29,800

PROのソフトをそのまま使ってこの価格。

m5 Jr. ¥29,800

PROのソフトをそのまま使ってこの価格。

m5 Jr. ¥29,800

SORD

m5 シリーズ 総合カタログ

身軽になった、手頃になった。 M5に新機種、登場。

SORD

目的に合わせ、用途に合わせ、君が手にするのはM5PROかM5Jr.か？

拡張性に富み、MSPROはホームオートマーションに最適。

システム構成ができればPROはまさにプロ。(構成例)

MSPRO, Jr.共通仕様

MSPRO, Jr.共通仕様

MSPRO, Jr.共通仕様

どのソフトをとっても満足度、充分。(このソフトはすべてMSPRO, Jr.)

BASIC-G ¥9,800

BASIC-F ¥9,800

GAME

ゲームカートリッジ ¥4,800

ゲームセットカートリッジ ¥1,800

ゲームカートリッジ ¥4,800

ゲームセットカートリッジ ¥1,800

FALCがあればなんでもできる。

ママにも簡単、多才なFALC

FALCは簡単ワンタッチでFALCの魔法を体験できる。

ママにも簡単、多才なFALC

FALCは簡単ワンタッチでFALCの魔法を体験できる。

FALCは簡単ワンタッチでFALCの魔法を体験できる。

ママにも簡単、多才なFALC

FALCは簡単ワンタッチでFALCの魔法を体験できる。

ママにも簡単、多才なFALC

FALC

m5

ママにも簡単、多才なFALC

FALC

m5

もう離せないFALCの魔力、家族みんなで頼っちゃおう。

ママにも簡単、多才なFALC

FALCは簡単ワンタッチでFALCの魔法を体験できる。

ママにも簡単、多才なFALC

B5サイズにおもしろさ満載

ゲームパソコン

ゲームはパソコンの時代、パソコンはファミリーの時代だ

TAKARA

ゲームはパソコンの時代、パソコンはファミリーの時代だ

TAKARA

TAKARA

32枚のグズライドが描くアニメーション、アニメ世代の心をひきつけます。

指の操作を簡単にした(50音順のキーボード配列) (プリンタなどを接続すれば) システムアップが可能です。

ゲームパソコンは、最新のオートマーションと最新のグラフィックを備えています。

ゲームパソコンは、最新のオートマーションと最新のグラフィックを備えています。

ゲームパソコンM5

Game personal computer

アツと驚く魅力の数々をご覧ください。

いろいろな魅力100%

パソコン時代の決定版!

TAKARA

ちよい目立つB5サイズ、わるノリ興奮万能選手

挨拶、わたくしゲーム人です。

ゲームパソコンM5は、最新のオートマーションと最新のグラフィックを備えています。

ゲームパソコンM5は、最新のオートマーションと最新のグラフィックを備えています。

¥49,800

ゲームも燃費の時代到来!!

ゲームパソコンM5は、最新のオートマーションと最新のグラフィックを備えています。

ゲームパソコンM5は、最新のオートマーションと最新のグラフィックを備えています。

ゲームパソコンM5は、最新のオートマーションと最新のグラフィックを備えています。

低価格ながら高性能。本格パーソナルコンピュータ

RX-78

バンダイ 1983年7月発売 本体価格 59,800 円



名前はガンダムでも 機能は本格派

この商品名を見て「おや?」と思われる方も多いと思う。同名の有名アニメの主人公機の型番を冠したこのパソコンは、シャープとの共同開発によって生まれた。商品名とは裏腹に設計そのものは本格的で、本機のためにカスタムL

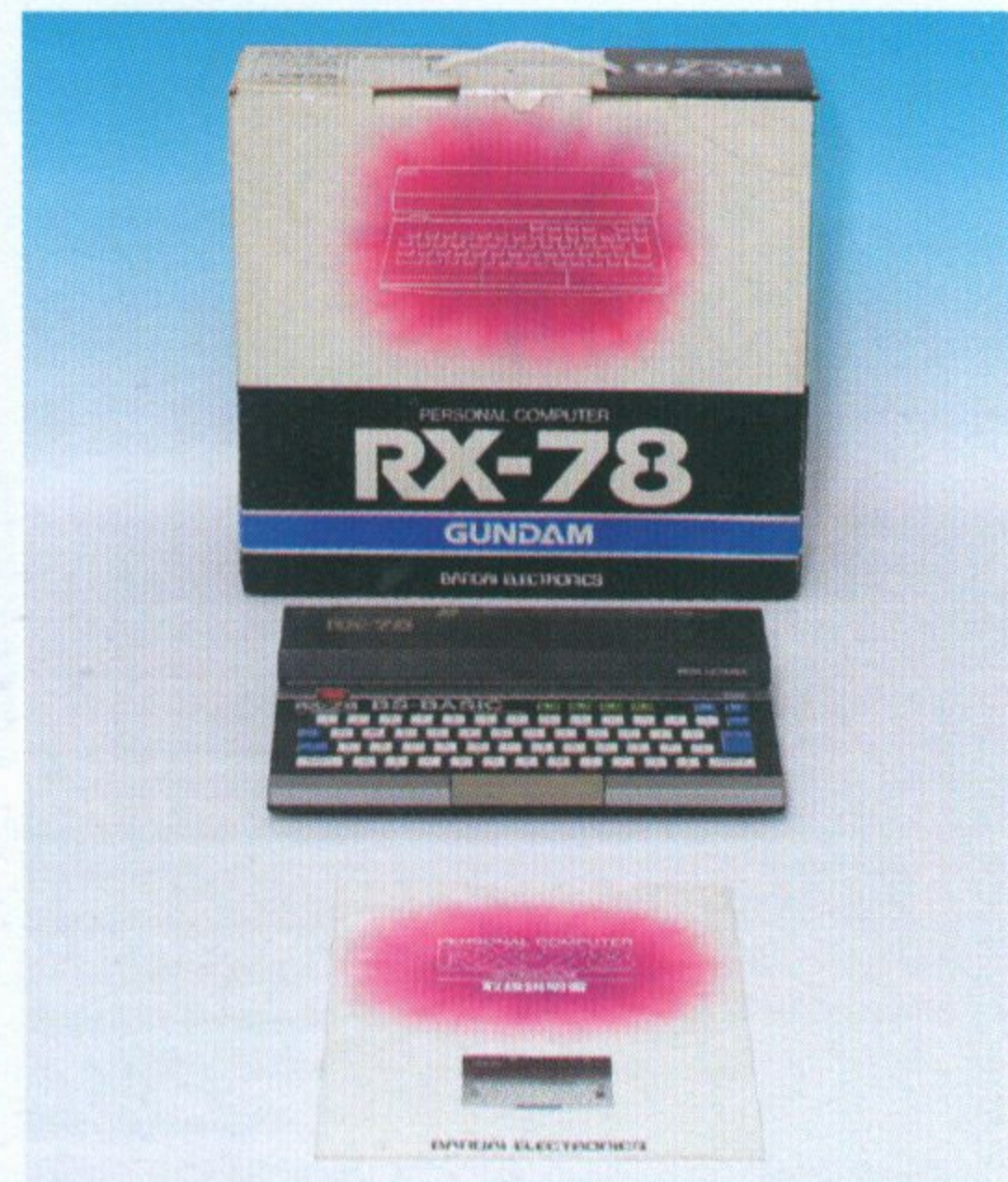
SIを新規開発してA4サイズに収まるコンパクトなボディを実現したり、高価なSRAMを採用したメインメモリなど、10万円クラスの製品に相当する性能をほぼ半額の価格帯で発売しており、他社玩具メーカー系ホビーパソコンとは明らかに一線を画した性能が特徴といえる。グラフィックもRGB各2面ずつ、合計6プレーンを重ね合わせして27色発色するなど、他

機種を凌駕する面もあった。

また、ダブルカートリッジ・システムと称して、2本のカートリッジを併用して使用するソフトも実際にリリース。ソフトに

RX-78仕様

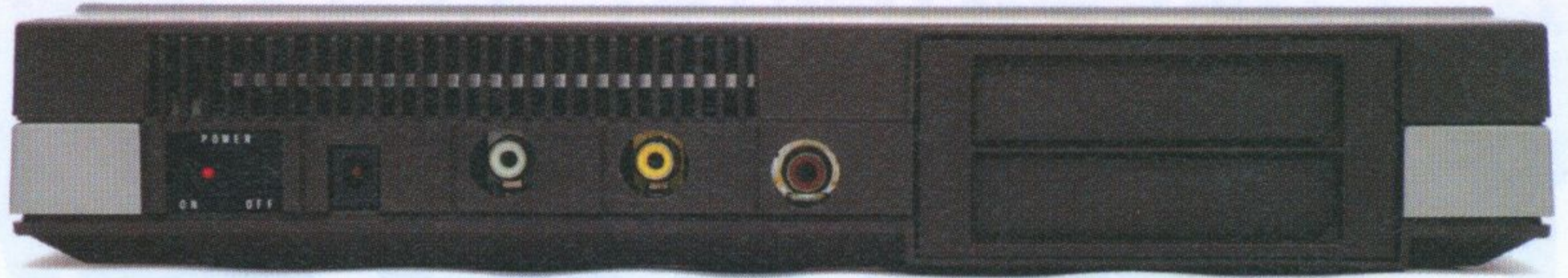
CPU	LH0080A (Z80A互換) 4.1MHz
ROM	8Kバイト
RAM	30Kバイト (VRAM含む)
グラフィック機能	グラフィック表示: 192×184ドット・27色、最大6画面+バックグラウンド
サウンド出力	DCSG音源 4オクターブ3重和音(SN76489AN)
インターフェース	RF信号、コンポジットビデオ、モノラル音声、ジョイスティック×2、プリンター、カセットテープ、カートリッジスロット×2



▲本体だけでなくパッケージもコンパクトなRX-78。



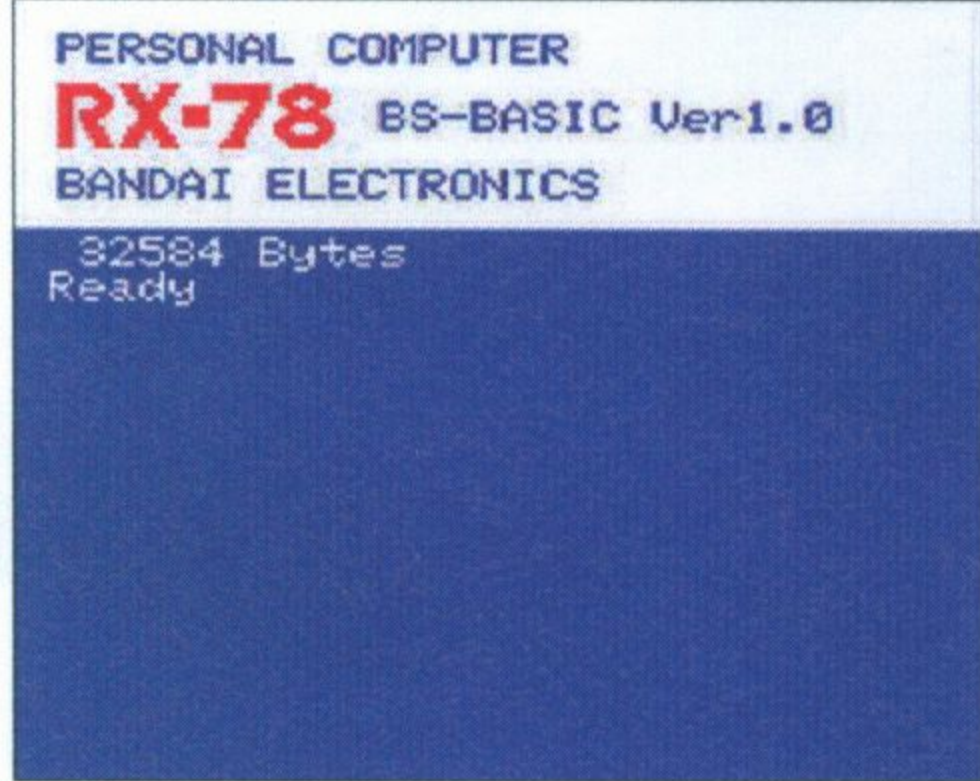
▲背面のカートリッジスロット。2つ備えており、ソフトの供給以外にも拡張端子として活用できる。



■本体背面



■キーボード



▲BS-BASICの起動画面。

よってキーボードのオーバーレイシートを交換できるといったユニークな思想が随所に盛り込まれていた。後続機種も存在せず、ポテンシャルの高さの割にいま

ひとつ知名度に欠ける点が残念でならないパソコンである。

▶キーボードにオーバーレイシートを被せた状態。趣向を凝らした絵柄のものが多かった。



◆ CATALOGUE

パーソナル・コンピュータ
RX-78

PERSONAL COMPUTER
RX-78

使えなければ意味がない。

"BASICはもう僕たちの共通語。できればラクにマスターしたいな"

"RAMもふやしたいし、ゆゆゆはワープロとしても役立てたい。"

"家計簿なんかもつくれますか?"

"高価なパソコンでないと十分な機能をはたせないのでないですか?"

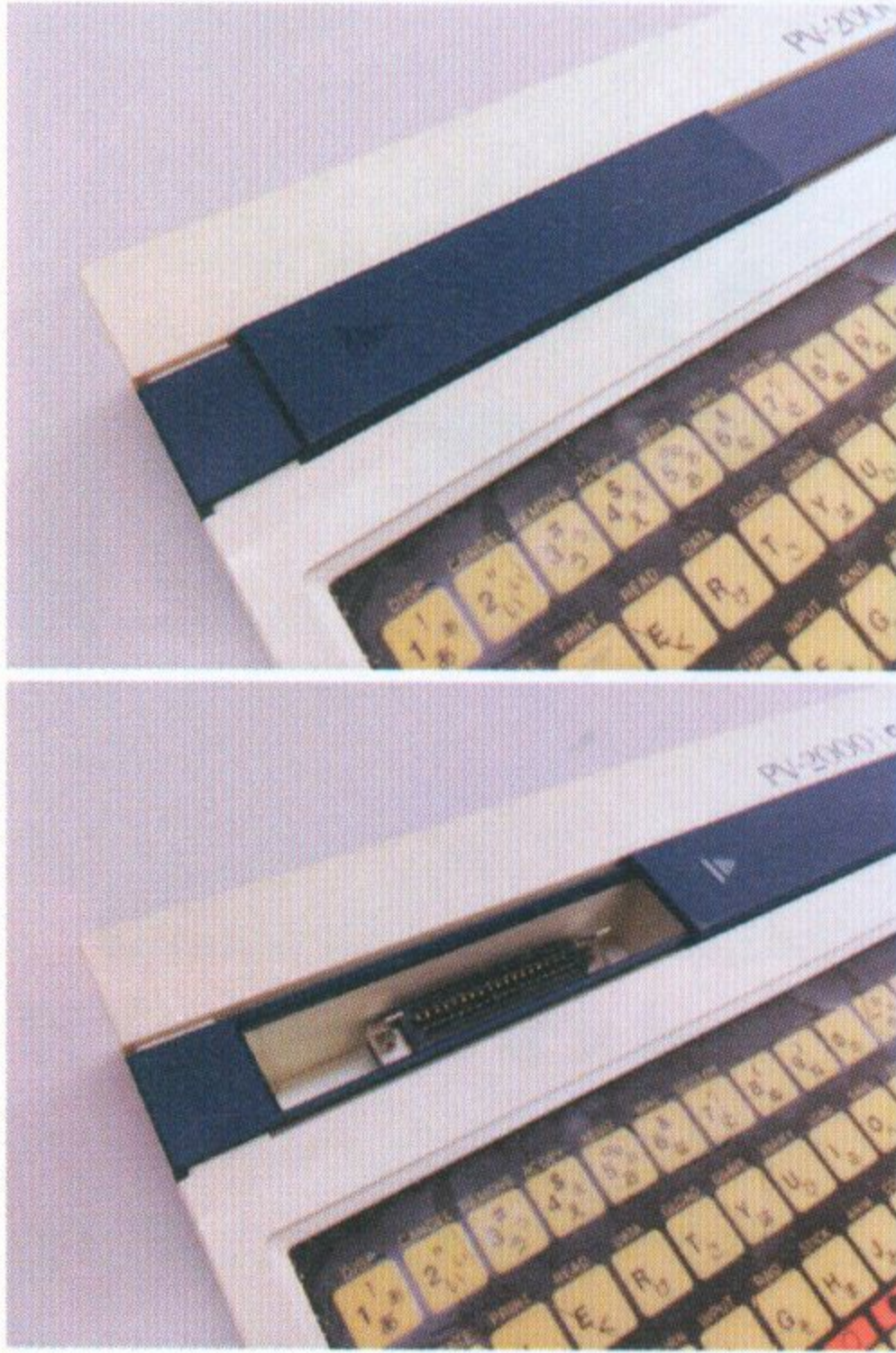
"子供たちの教育にも使えるかしら。"

"機械はあまり得意じゃないんですが!"

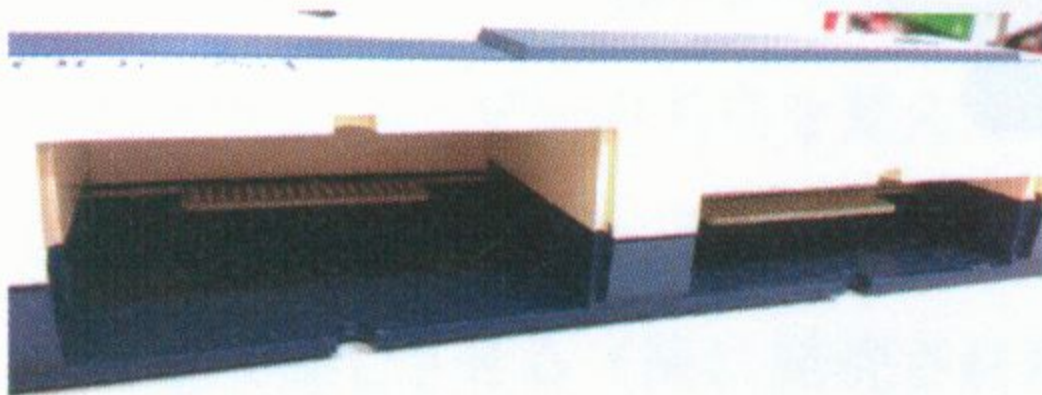
"自分で音楽をつつたり、シンセサイザーとしても楽しみたいわ。"

"パソコンといえばゲーム。ソフトの内容と数が大きなモンダイだね。"

使えるパソコン RX-78



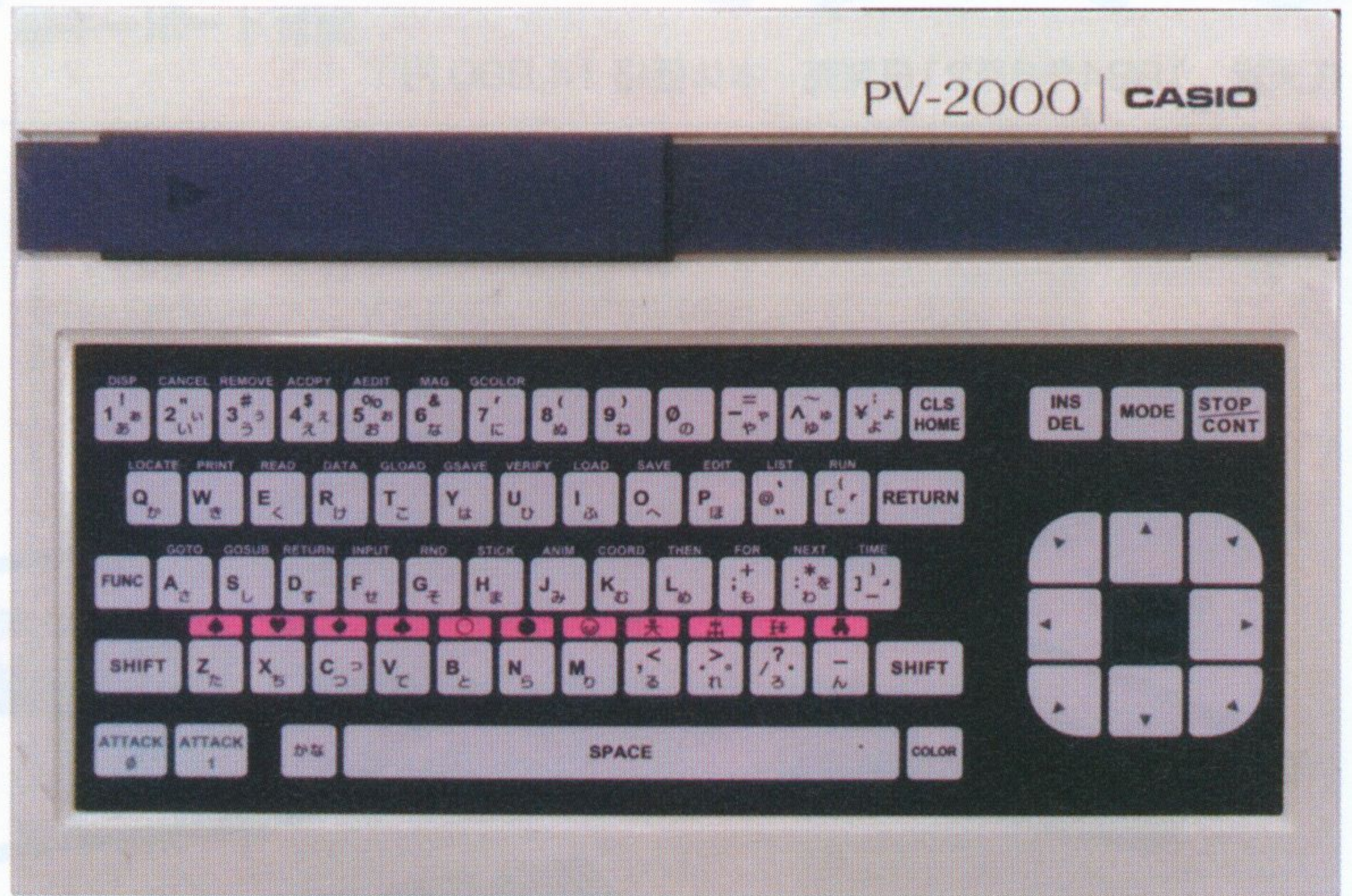
▲左上のカバーをスライドさせるとROMカートリッジ差し込み口が見える。



▲背面のカバーを外すと、メモリー拡張バック用ソケット (左) とプリンター端子 (右) が見える。



■本体背面



■キーボード

PV-2000 MODEL VARIATION

PV-1000

1983年10月発売 14,800円

こちらは完全にゲームのみに特化した機種。PV-2000とは互換性が無く、ソフトも別々に発売された。



◆ CATALOGUE

カシオパソコンゲーム CASIO

楽がき

自分でテレビに絵がかける。ゲームが創れる。

楽がき PV-2000 カシオパソコンゲーム ¥29,800

自分でもっと面白ければ、ゲームがわかる。大人気のゲームカートリッジはまだまだある。

新発売

楽がき PV-2000

¥29,800

作品大募集

かけた。

絵づくり部門 (Painting)

ゲーム部門 (Game)

つくれた。

もらった。

1.応募条件

2.締切

3.発表

4.作品の送り先

楽がき PV-2000

CASIO

パチンコ-UFOゲームがある。街で人気のベストヒットゲームがそろっている。もうコーファン度300%

楽がき PV-1000 コンピュータゲーム ¥14,800

あのファミコンが文字通りコンピューターになる？

ファミリーベーシック

任天堂 1984年6月21日発売 本体価格 14,800円



メモリの少なさが泣き所だが……

ファミリーベーシックは同社のゲーム機、ファミリーコンピュータに接続する周辺機器である。キーピッチが狭いながらも本格的なキーボードを備え、自分でオリジナルゲームを作ることが可能だ。

しかしながらファミコンは最初からパソ

コンとして開発されていたわけではないため、同世代のライバル機種に比べると決してパソコンとしての性能は高くない。特にメインメモリは2Kバイトしかなく、一番の泣き所となった。後にメモリを倍増、命令を追加した『ファミリーベーシックV3』が発売されている。

制限は多いものの、安価なプログラム入門機としては最適といえる。

子供向けに
対話型メニュー

ファミリーベーシックは、初めてパソコンを使う子供向けに「優しさ」を全面に

ファミリーベーシック仕様

CPU	RP2A03 (MOS6502互換) 1.79MHz
RAM	2Kバイト、VRAM2Kバイト
グラフィック機能	グラフィック表示:256×240ドット・52色 スプライト表示:64スプライト/画面、4スプライト/ライン
サウンド出力	矩形波2+三角波1+ノイズ1和音
インターフェース	カセットテープ



▲ファミリーベーシックのパッケージ。



■ベーシックカセット

押し出した対話型メニューを導入した。すぐにプログラムをしたいユーザーにとっては少々煩わしい面もあったが、コンピュータがユーザーの名前を覚えて呼びかけてくれる演出は、そこはかたない未来感を感じさせる（後に発売された「ファミリーベーシックV3」は最初からプログラミングを前提とする上級者を対象にしているため、この対話型メニューは廃止されている）。なお、これらの機能



■キーボード背面



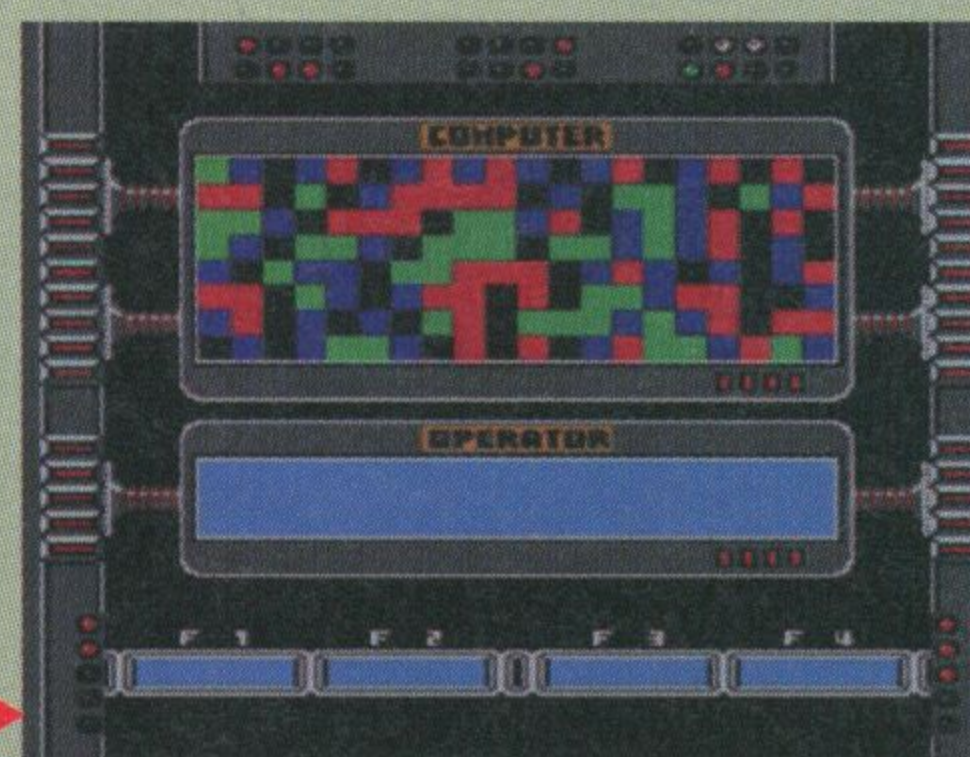
■キーボード

はESCキーを押すことでいつでも最初のコンピュータ画面に戻ることができ、こ

いったアクセス性の高さも実によく練られたインターフェースといえるだろう。

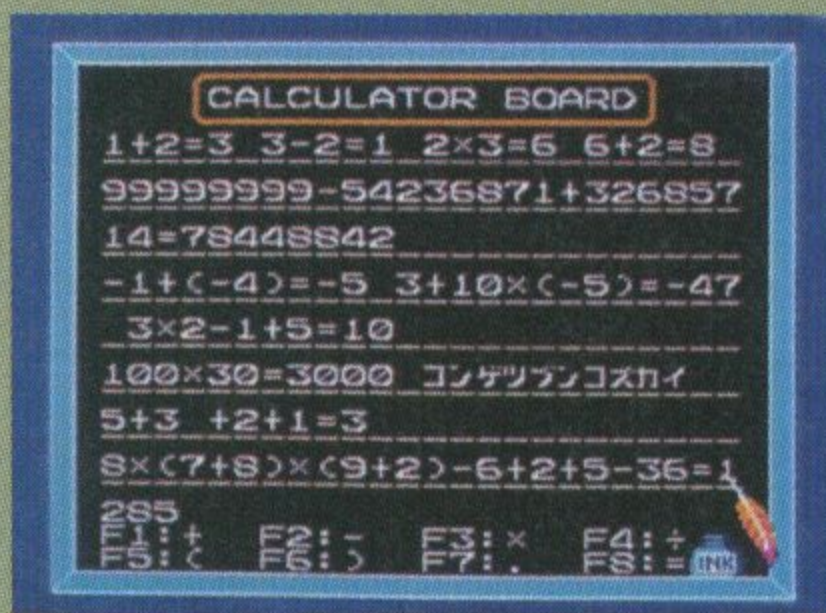
ファミリーベーシックの搭載モード

コンピュータはカタカナによる対話で各メニューに移動できるほか、「オハヨウ」などの挨拶にリアクションを返してくれる。なお、挨拶をすると、その後にコンピュータが占いをするか問いかけてくれる。



◀これが基本となるコンピュータ画面。コンピュータのメッセージに対してカタカナ入力で会話しよう。

カリキュレータボード



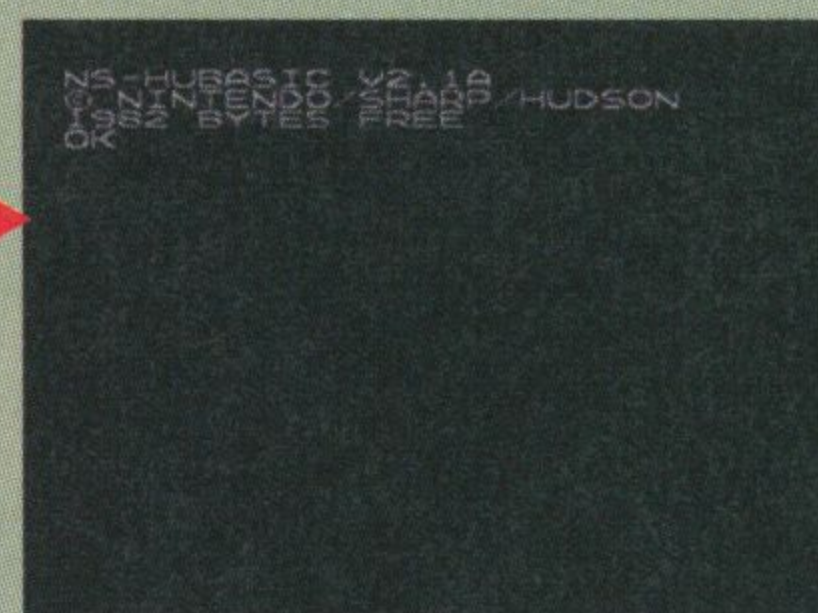
◀計算機として使えるモード。有効桁数は8桁までで、基本的な四則演算ができる。

ゲームベーシック



◀本機のメインモード。BASICとBGグラフィックをここから選択する。

NS-HuBASIC



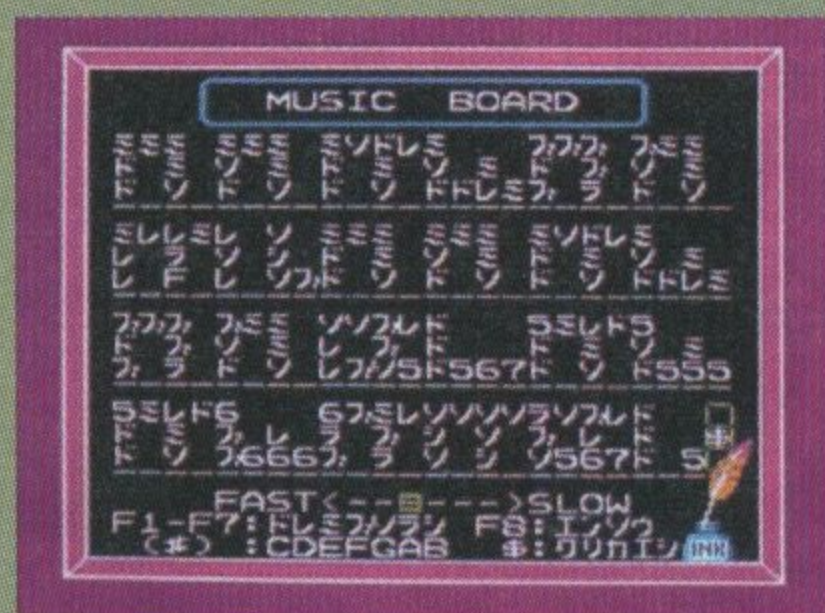
◀プログラムを入力する画面。名前の由来は任天堂・シャープ・ハドソンの共同開発によるもの。

メッセージボード



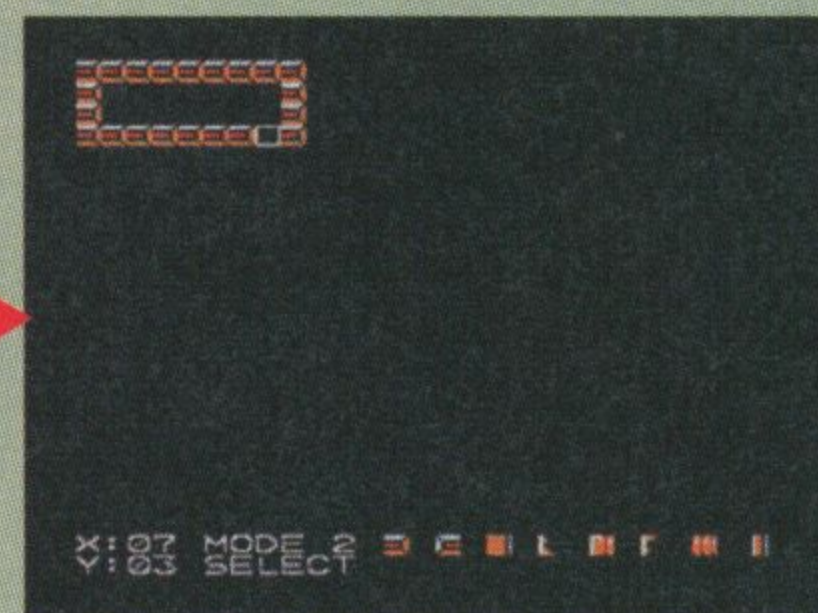
◀いわゆる簡易メモ帳で、書いた内容はカセットの電池でバックアップ可能。

ミュージックボード



◀キーボードを鍵盤にして直接演奏するほか、楽譜入力で自動演奏もできる。

BG グラフィック

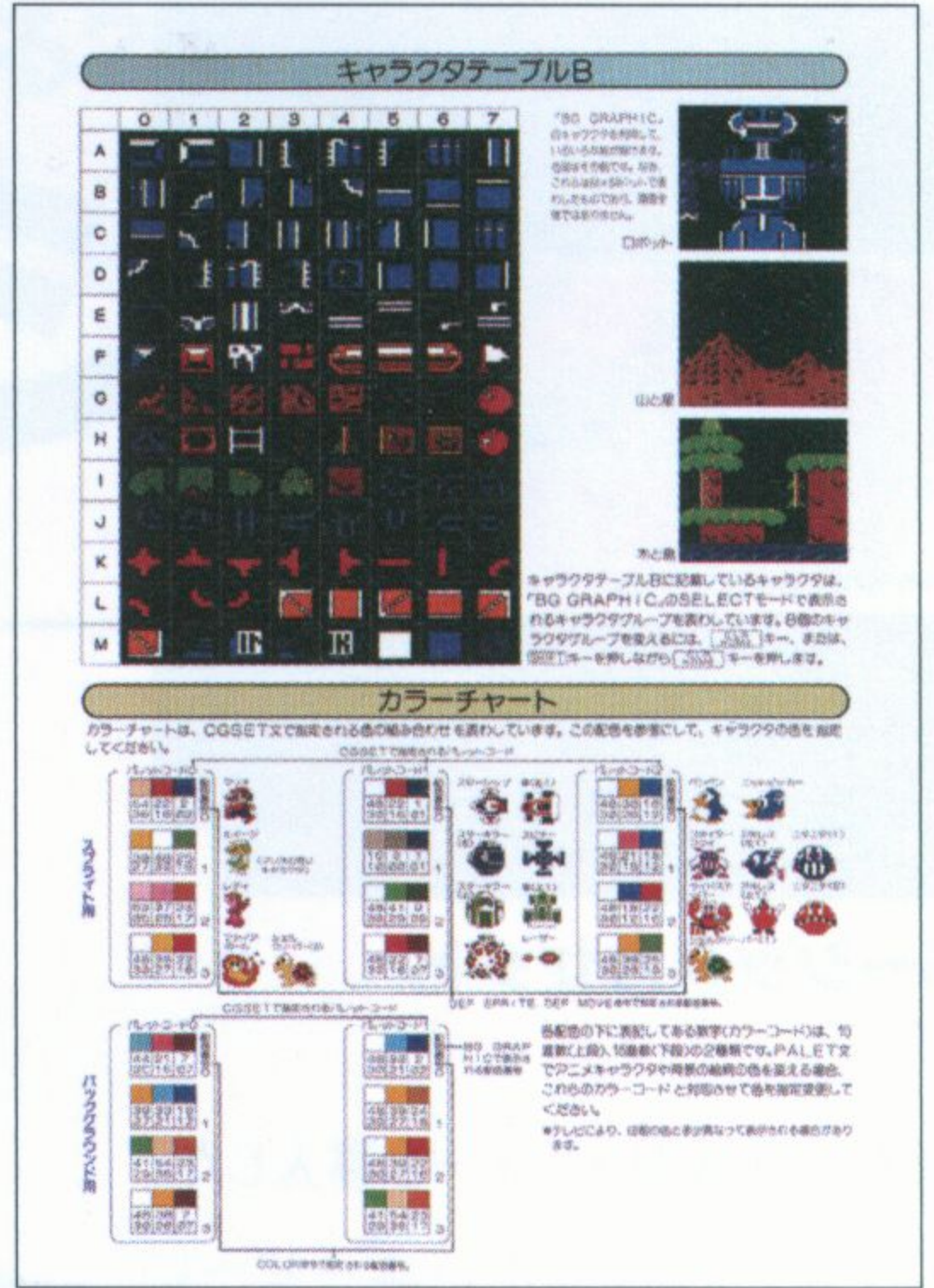


◀BGグラフィックに背景を描くためのモード。付録のキャラクターマップを見ながら入力しよう。

肝心のBASICの 実力は？

ファミリーベーシックに搭載されたNS-HuBASICはメモリ容量が2Kバイトしか搭載しておらず、またスプライトやBGはROM内にプリセットされているものしか使用できない上にスプライトの表示数は8個までと、ファミコン本来の表現力に比べてかなり制限がある。しかし、逆に機能が制限されている分、命令数や入力できるパラメータはかなり小規模に抑えられており、少ないステップ数のプログラムでそこそこキャラクターを動かせるプログラムが記述できるように工夫されている。

上級者になるとマシン語（BASICに



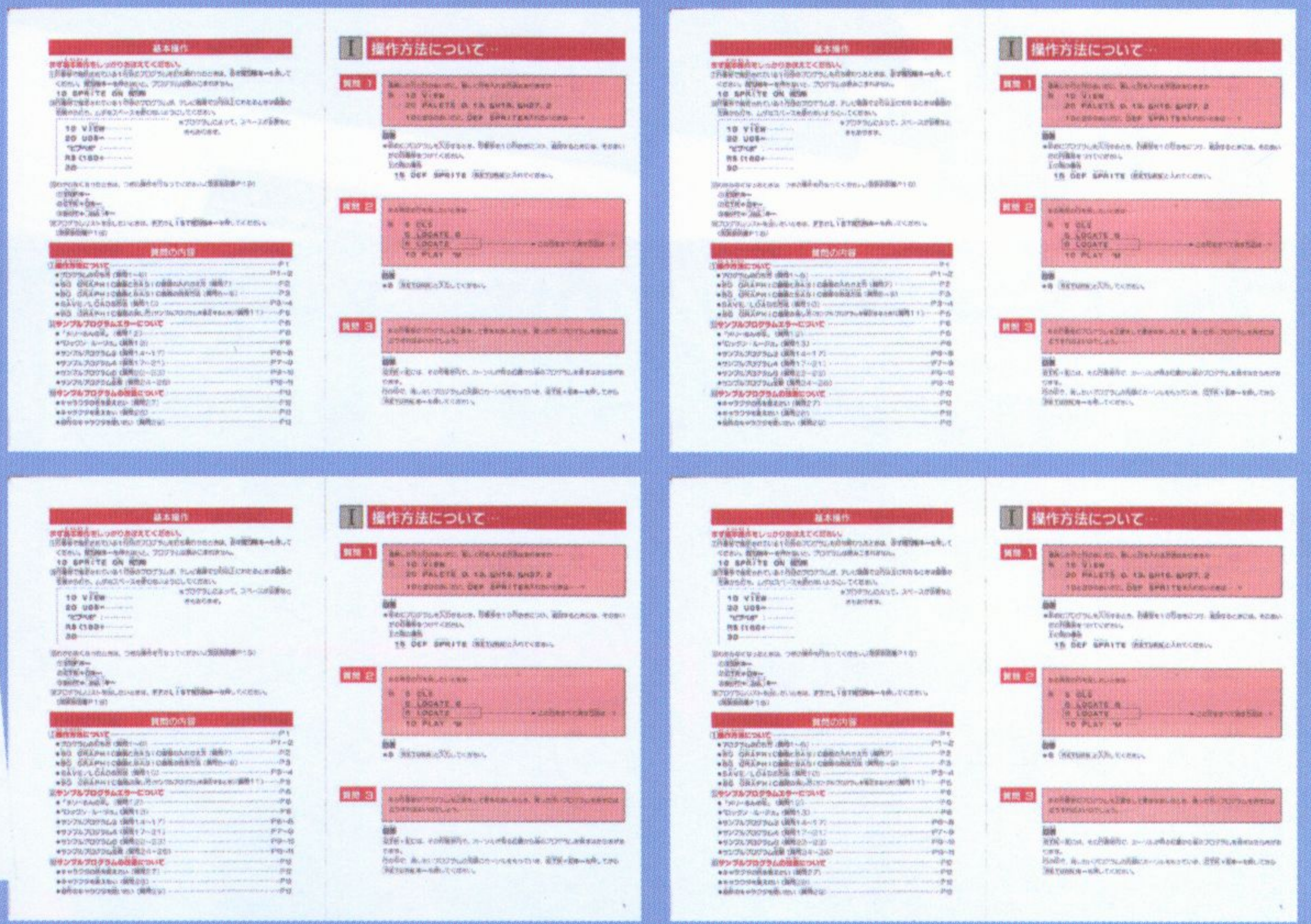
◀本体に付属しているキャラクタマップ。左ページがスプライト用で右ページがBG用ROM内に固定されており、これ以外のキャラクタを作ることはできない。

搭載されている命令ではなく、機械を直接制御する言語)を活用して高度なプログラムを作成するユーザーも現れ、

中には「本当にファミリーベーシックで動いているのか?」と思わせるプログラムを作成する猛者も存在した。

動かせない人のための問答集

▶どうしても疑問が解決できない、そんな人に向けてトラブル解決のための問答集を作成して配布していた。



FAMILY BASIC MODEL VARIATION

ファミリーベーシックV3

1985年2月21日発売 9,800円

BASIC以外のソフトを廃止してプログラムに特化した上位版。キーボードはなく、別途ファミリーベーシックが必要。



マイコンコンピュータキーボード

1984年6月発売 15,800円

シャープのファミコン互換機「マイコンコンピュータC1」の専用周辺機器。ファミリーベーシック同等品である。



CATALOGUE

ファミリーコンピュータ専用 FAMILY BASIC ファミリーベーシック

- ファミリーコンピュータと本格的な72キーのキーボードを使用し、コンピュータと対話を楽しむ能力セットが、ファミリーベーシックです。
- ゲームプログラムに実力発揮の高速16KゲームBASIC
- ゲームの背景画像が簡単につくれるBGグラフィック
- すべて楽しめるオート機能と、カリキネータード・スクロッキングボード・メッセージボード



希望小売価格 **14,800円** (セット内容: カセット1個、ハンドブック1冊、電源ケーブル、接続ケーブル、サンプルテープ)

Nintendo

キーボード各部の名称



アニメキャラクターテーブル(0~15)



仕様: 型番 HVC-007 (ファミリーベーシックV3専用キーボード) / 型番 HVC-008 (ファミリーベーシックV3専用キーボード)

ファミリーベーシックをご愛用の方に!!

バージョンアップで、ファミリーベーシックが一層楽しめます。

ファミリーベーシックV3 FAMILY BASIC V3



- すぐに遊べるゲームプログラム内蔵。
- 自分のゲームに変更可能。
- 新設コマンド26種。
- プログラムRAMエリア4Kバイトに拡張。

V3(カセット1個・ハンドブック1冊) 希望小売価格 **9,800円**

Nintendo

オリジナルゲームを作って楽しく遊ぼう!!

BG・GRAPHICの画面で背景を描き、BASICの画面でゲームのプログラムを作ろう。2つの画面を合わせて、オリジナルゲームが楽しめます。

ゲームの背景画

BG-GRAPHICの画面

ESDキーを押すと、ファンクションメニューが呼び出されます。

この画面で描いた背景画は、ゲームのプログラムと一緒にメモリに保存されます。

機能表示: DELキーを押すと、画面中のキャラクターを削除します。INS、DELキーを押すと、画面中のキャラクターを追加します。RETURNキーを押すと、キャラクターの位置を決定します。SPACEキーを押すと、キャラクターを画面に移動させます。

キャラクターテーブル: DELキーを押すと、この画面からキャラクターを選択します。INS、DELキーを押すと、画面中のキャラクターを追加します。RETURNキーを押すと、キャラクターの位置を決定します。SPACEキーを押すと、キャラクターを画面に移動させます。

ファンクションメニュー: SELECT (キャラクターを選択), COPY (複製), MOVE (移動), CLEAR (消去), FILE (保存/ロード), CHAR (キャラクターを選択)

ゲームプログラム

ゲームBASICの画面

スピード感のあるゲームエンディングプログラムは、ここへ簡単。

- キャラクターを動かすのも簡単なプログラムでできます。
- 簡単なアニメキャラクターの作成が可能です。
- BASIC命令TMOVE、DEF、SPRITEを使うと、一度に10種類のキャラクターが動き、面白い画面が楽しめます。
- アニメキャラクターを背景に動かすこともできます。
- アニメキャラクターに、表示する優先順位をつけるには、背景に動かす、かわらせます。
- コントロールでアニメキャラクターを操作できます。

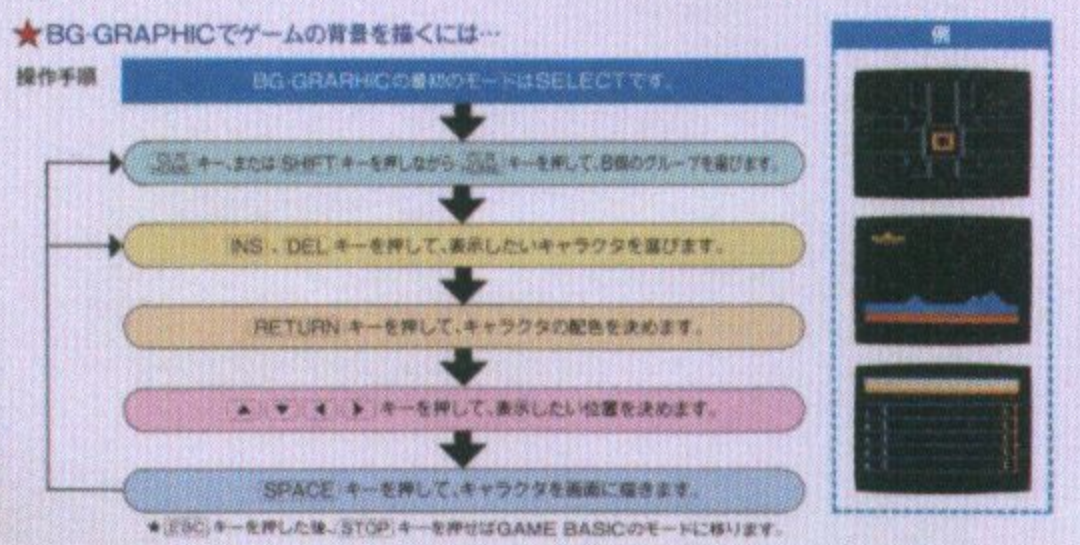
★マリオを8方向に動かすには...

```
10 SPRITE ON RETURN
20 CGSET 1.0 RETURN
30 FOR N=0 TO 7:DEF MOVE(N)=SPRITE(0,N+1.3,255,0.0):NEXT RETURN
40 MOVE 0,1,2,3,4,5,6,7 RETURN
RUN RETURN
```

★マリオを動かせるのも、わずか数行のプログラムでOK!

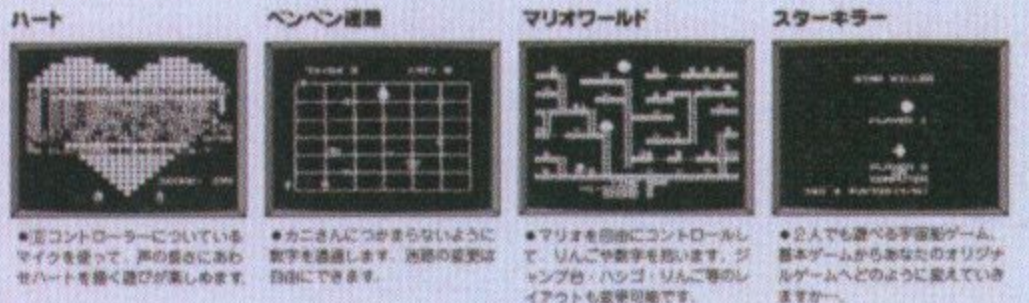
★アニメキャラクターと背景の動きを合成する方法は...

BASICで描いたアニメキャラクターに、VIEW命令を実行



V3の特徴

すぐに遊べるゲームプログラム内蔵。



BGグラフィックやベシック命令を使って自分がお好きな背景やゲーム内容に変えることができます。

ゲームプログラムの変更例を解説したハンドブック付き。

新設コマンド26種

1 AUTO	メニューリストの入力に際して自動で画面を消す。	14 BGTOOL	メニューリストのデフォルトメニューを設定する。
2 RENUM	メニューリストの順番を変更する。	15 SCREEN	BASICの画面とメニュー画面を同時に表示する。
3 DELETE	メニューリストの順番を設定しなおす。	16 CLS	BASICの画面をクリアする。
4 FIND	メニューリスト中の特定の文字列をサーチして該当するものを表示する。	17 VCT	DEF MOVEによるアニメの移動方向を指定する。
5 TRON	メニューリスト中の特定の文字列をサーチして該当するものを表示する。	18 CRASH	DEF MOVEによるアニメの動きを判定する。
6 TROFF	メニューリストのオン、オフを行う。	19 CAN	DEF MOVEによるアニメを中止する。
7 BIGGET	BASICのデータとメニューRAMを交換する。	20 ON ERROR GOTO	エラー発生時に実行されるプログラムを実行する。
8 BGPUP	BASICのデータとメニューRAMを交換する。	21 RESUME	エラー発生時に実行されるプログラムを実行する。
9 BACKUP	メニューRAMのバックアップを行う。	22 ERR	エラー発生時に実行されるプログラムを実行する。
10 SAVES	BASICのデータをセーブ/ロードする。	23 ERL	エラー発生時に実行されるプログラムを実行する。
11 LOADS	BASICのデータをセーブ/ロードする。	24 ERROR	エラー発生時に実行されるプログラムを実行する。
12 CLICK	メニューリストのオン、オフを行う。	25 INSTR	エラー発生時に実行されるプログラムを実行する。
13 GAME	BASICの画面とメニュー画面を同時に表示する。	26 FILTER	BASICの画面とメニュー画面を同時に表示する。

仕様: 型番 HVC-VT (ファミリーベーシックV3) / カセット寸法 110mmX110mmX7mm / カセット重量 95g(電池含まず) / ハンドブック A5サイズ 約150ページ

自分で作ったオリジナルゲームが記憶できます...

ファミリーベーシック専用 DATA RECORDER

セット内容: データレコーダー、接続ケーブル、サンプルテープ、取扱説明書

希望小売価格 **9,800円**

自分で作ったオリジナルゲームが記憶できます...

各部の名称

SAVEの方法: ①44/REVIEWキーを押してテープを巻戻す。②データレコーダーのSAVE(MIC)端子より接続ケーブルを抜いてください。③RECORDボタンを押して録音を開始し、内蔵マイクでプログラムを録音し、プロット機、録音リミッター等を入れてください。④PAUSEボタンを押してテープを一時停止させます。⑤接続ケーブルをデータレコーダーのSAVE(MIC)端子に接続してください。⑥PAUSEボタンを押して、一時停止が解除されテープが進行します。⑦キーボードよりSAVE命令を入力します。

LOADの方法: ①44/REVIEWキーを押してテープを巻き戻します。②PLAYボタンを押して録音を開始してください。③ボリュームを調整して適当な音量にしてください。④スピーカーの音を聞きながらデータ部の録音をしてください。⑤キーボードよりLOAD命令を入力します。⑥LOADが終わればSTOPボタンを押してテープを止めてください。

仕様: 型番 HVC-008 / 電源 DC5V 50mA(消費電流 UM-3) 4本 / ACアダプタ 専用 / 記録方式 2トラックモノラル方式 / 記録方式 記録: 磁気バイパス / 消去: 消去済

SHARP

わくわくテレビがまたおもしろくなった。

マイコンテレビC1:キーボード新登場

マイコンテレビキーボード-FAN-320 標準価格 15,800円

テレビの画面で計算ができる。メモ帳も...

今日の算数がひとりでわかる...

自分でつくったゲームがテレビから楽しめる...

つなだけでパソコン気分。つかつかもかんたんかんたん。

希望小売価格 15,800円

セガが送り出した家庭用製品第1号

SC-3000

セガ・エンタープライゼス 1983年7月15日発売 本体価格 29,800円

セガの野心が
詰まったパソコン

SC-3000はセガが発売したホビーパソコン。同日にゲームに特化した姉妹機、SG-1000が発売されており、相互にソフトの互換性がある。性能は同時期に発売

されたM5やPV-2000楽がきとはほぼ同等である。

セガ自身がゲームメーカーだったこともあり、対応ゲームソフトは多数用意され、セガの自社ラインナップだけで66タイトルものゲームが発売された。

その一方で本格的コンピューター市場

への進出も狙っていたようで、スーパーコントロールステーションSF-7000などの周辺機器もリリースしている。しかし、セールスはSG-1000のほうが圧倒的に売れ行きが良かったことから、以後はゲーム専用機の開発へとシフトしていった。

SC-3000仕様

CPU	μPD780C-1 (Z80A互換) 3.58MHz
ROM	8Kバイト(最大48Kバイト)
RAM	18Kバイト(最大32Kバイト)、VRAM 16Kバイト
グラフィック機能	テキスト表示:最大40字×24行 グラフィック表示:最大256×192ドット・16色 スプライト表示:32スプライト/画面、4スプライト/ライン
サウンド出力	DCSG音源 6オクターブ3重和音+ノイズ1音(SN76489A)
インターフェース	RF信号、コンポジットビデオ、モノラル音声、カセットテープ、プリンター、カートリッジスロット



▲SC-3000のパッケージ。

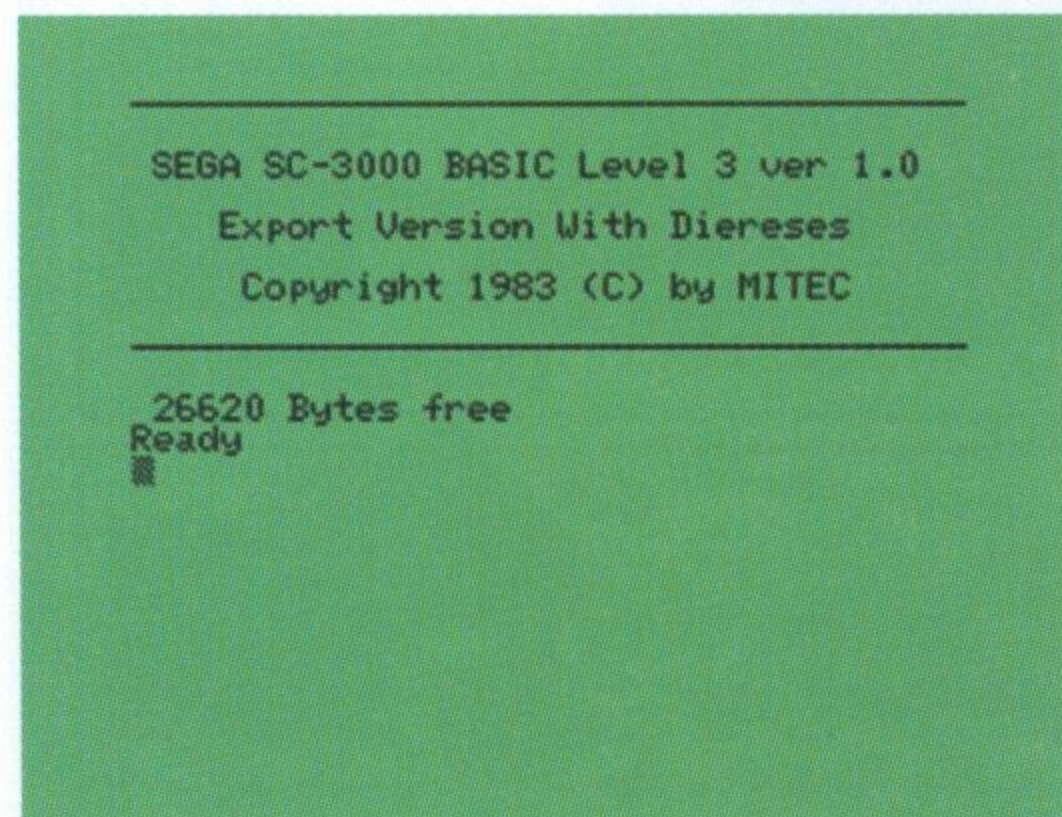
扱いやすさと 本格派の両立

SC-3000用のBASICは本体に内蔵されておらず、メモリ容量によって複数のROMカートリッジで発売。ユーザーの予算に応じて選択することができた。ちなみにBASIC LEVELⅢAは16Kバイトで12,000円、BASIC LEVELⅢBは32Kバイトで15,000円である。

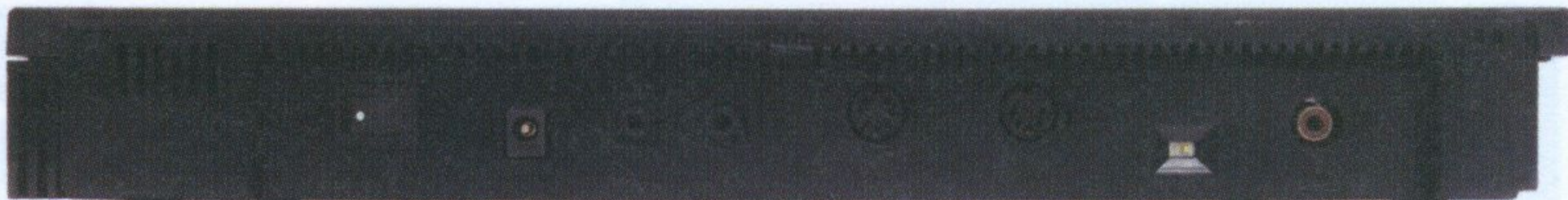
SG-1000+SK1100は微妙にハード設計が異なっており、BASIC SK-Ⅲなど、専用のBASICが発売されていた。



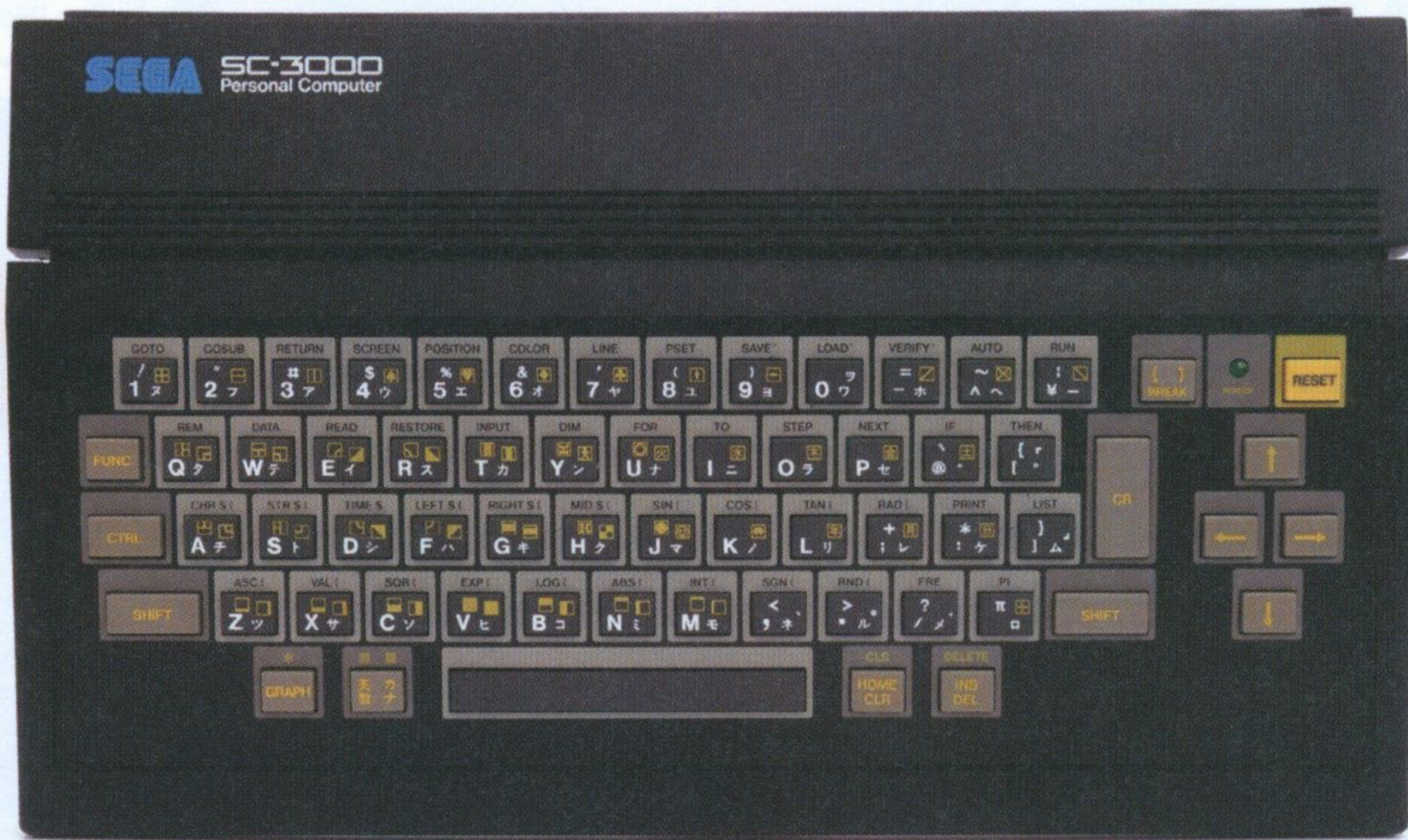
▲BASIC LEVELⅢA、B共通マニュアル。



▲BASIC LEVELⅢBの起動画面。



■本体背面



■キーボード

SC-3000を拡張するスーパーコントロールステーション

SC-3000には専用の周辺機器として3インチディスクドライブ、RS-232C、64Kバイトのメモリを搭載したスーパーコントロールステーションという製品が存在した。



SC-3000 MODEL VARIATION

SG-1000

1983年7月15日発売 15,000円

ゲームを遊ぶことだけに特化した専用機。キーボードを使用したソフト以外は共通して利用できる。



SC-3000H

1983年発売 29,800円

キーボードをプラスチック製のタイプライター型にした後継モデル。



SK-1100

1984年発売 13,800円

SG-1000に接続することでSC-3000相当にするキーボード。



君と生活するパソコン

Home Personal Computer
SEGA SC-3000 Series

SF-7000 SR-1000 SP-400
SJ-150 SJ-200 SJ-300 SH-400

パソコンは、創造の母である

エジソン、ダ・ヴィンチ、アインシュタイン……と、彼らは偉大な創造力を持つ天才だ。そして、彼らは、創造の可能性を大きく広げてくれたパソコン。セガSC-3000シリーズがある。

セガ ホームパソコン SC-3000
標準価格 ¥29,800

いっしょに暮らすならSC-3000シリーズ

セガSC-3000シリーズは、遊びはもちろん、ミュージック、グラフィック、勉強の天才。さらにベーシックを使えば、必要な情報を記憶したり、高度な計算やシミュレーションなど、知的なマシンなんだ。高性能でも操作がやさしいSC-3000は、バラエティ豊富なソフトウェア・ハードウェアを本体に

BASIC 夢がかなうプログラム

どんな夢もプログラミングしよう。能力・用途に合わせてプログラムが組める。ベーシック・カートリッジ（別売）を本体別に用意した。ビギナーからマニアまで活用可能。たとえば、TV画面もキャンパスコンピュータグラフィックスや自作アニメ、また自作ゲームもいじりやすい。カラー、黒白、黒色グラフィック、モニター

鮮明な4色プリント・アウト
カラープロッタSP-400 ¥39,800

創造のキャンパス セガワールド

豊富な周辺機器で、システムアップ自由自在

システムアップすると、楽しさもアップ/SC-3000は、豊富な外部機器との接続が可能。たとえば、専用のディスプレイをお持ちにならなくても、家庭用のテレビでOK。ビデオモニターテレビにも接続可能。また、プリンターなど、用途に応じて多彩にシステムアップすれば、楽しいパソコンライフが演出できます。

(お父さま、お母さまへ)
これからの時代、コンピュータは必須条件です。我が子に教えるうちに、パソコンを生活の一部として使いこなせるように、21世紀になろうお父さまのために今から考えてあげたいものです。

ロードランナー Road Runner プレゼント実施中!!

期間 12/31まで

君の頭脳は176の迷路を独創できるか?!

「セガ版」ロードランナー

期間中、SC-3000かSC-3000Hをお買い上げの方全員に、人気ゲームソフト「ロードランナー」をプレゼントがはじまります。このチャンス、見のがしてはなりません。

おもしろくなければ、パソコンじゃない。

セガのSC-3000・SC-3000Hシリーズ

ゲームはもちろん、学習、音楽、グラフィック、高度な計算、情報管理など、多種多彩にこなす高性能パソコンが、SC-3000・SC-3000Hだ。操作はカンタン。便利でスピーディ。買ったその日から、すばらしいパソコンライフがはじまる。感性のするどいキミたちに贈ろう。

STUDY 退屈しない勉強法

勉強が楽しくなるなんて言えないけど、でも、教材や参考書と違って、ゲーム感覚で勉強できる。だから集中力があがり、覚えるスピードも速い。セガの「STUDY」シリーズは、小学生から中学生まで幅広い年齢を対象に、文部省指導要領準拠の学習用ソフト（別売）も、科目別にいろいろ用意しています。

MUSIC 音楽的才能が開花する

家でパソコン、ミュージック・カートリッジ（別売）を使えば、楽譜を見ながら作曲ができる。パソコンでオリジナルの曲を聴くことも、もう最先端の作曲家だね。また、楽譜を見てインポートすれば、ペーパーの「楽譜」から電子データの「スイートメモリー」まで、パソコンが自動演奏してくれ。ダイナミックな音と、2.3オクターブのコンピュータサウンドが楽しめます。

TAPE SOFT 僕のデータ・バンク

必要な情報は、便りの大切な知識となる。用びかた情報も上手に整理し、かきこくべし。それにはデータバンクが欠かせない。アドレスデータファイルなどソフトが揃って、今後ゲームや実用ソフトを発売する予定です。そして、テープソフトを楽しむ場合はデータバンクが必要。信頼性の高いSR-1000をおすすめします。

データ入力は番号音で確認。カセットデータレコーダ SR-1000 ¥9,800

GAME 遊びの天才へ、贈る

最新ゲームがいっぱい

スポーツゲーム、シミュレーションゲーム、競馬を光輝で打ち破るリアルタイムゲーム、など解きが難しい知的なアドベンチャーゲーム、スリルとサスペンスが詰まったロールプレイングゲームなど、多種多彩なゲームソフト（別売）を発売中。ひとり知りに遊ぶゲームも、セガのゲームなら、きっと、みんなを夢中にさせてあげられる。

成長する機能 SF-7000

ディスクベーシックは、プログラムの保存、データファイルにたいへん便利。データ処理のスピードもさらにアップされました。さらに、早送り時間をかけていた磁気テープ方式に比べ、フロッピーディスクなら随分早くアクセスできます。

ディスクベーシックには、ディスクの特長を活かした命令文がさらに追加されています。3インチフロッピーディスクは、プラスチックに防湿され、扱い方もカンタンです。

成長する機能 SF-7000
標準価格 ¥79,800

DISK BASIC より機敏 さらに便利

オリジナルゲームを創っちゃう

ゲーム機、必須ジョイスティック

オリジナルゲームを創っちゃう。たとえば、セガ版「ロードランナー」なら、カンタンなキーボード操作でオリジナルゲームが創れる。もちろん、編集も自由自在。そんな大層な遊びが楽しめる。セガSC-3000だから可能なんだ。

オリジナルゲームを創っちゃう。スゴイ人

ゲーム機、必須ジョイスティック

オリジナルゲームを創っちゃう。たとえば、セガ版「ロードランナー」なら、カンタンなキーボード操作でオリジナルゲームが創れる。もちろん、編集も自由自在。そんな大層な遊びが楽しめる。セガSC-3000だから可能なんだ。

これがビデオゲーム? 世の中、日・進・月・歩なのです。

SC-3000シリーズ・SG-1000シリーズ共用

遊日発売 G-1032 **サファリ レース**
大草原。サファリレースが始まった。前方を駆け抜ける数々の野獣をかわし、ライバルを追い抜いて、疾走した疾走。制限時間、燃費、危険な急カーブに注意して、チェックポイント通過。ガソリン補給も忘れなさい。残り時間もあわず。エンジン全開、スピードアップ！（1人用）

遊日発売 G-1031 **ロードランナー**
タイム・ボーナスも考えないぞ

遊日発売 G-1030 **ホーム麻雀**
対戦相手は誰でも4人用。麻雀の天才がここに!

つながればパソコン

SG-1000シリーズ **キーボード SK-1100 ¥13,800**

ふたつでパソコン SK-1100とSG-1000

Basic パソコンとベーシックは友達!

Music パソコンでソングライター気分!

Study パソコンがマイ家庭教師!

SEGA 株式会社 セガ・エンタープライゼス

SEGA

世界のPC/AT用ゲームとメガドライブのゲームがどちらも遊べる

テラドライブ

セガ・エンタープライゼス 1991年5月29日発売 本体価格 モデル1：148,000円、モデル2：188,000円、モデル3：248,000円



DOS/Vの名を 知らしめたマシン

テラドライブは、セガと日本IBMの共同開発によって生まれた日本初のDOS

/V搭載パソコンである。ちなみにDOS/Vとはソフトウェアだけで日本語環境を実現するOSで、これにより、当時世界中で流通しているPC/AT互換機（IBM-PC）で日本語が使えるようになっ

たのである。

テラドライブは世界標準のPC/AT互換機向けのソフトが使えるのみならず、同時にセガの家庭用ゲーム機・メガドライブのソフトも遊べることも大きな特

テラドライブ仕様

製品名	テラドライブ MODEL 1	テラドライブ MODEL 2	テラドライブ MODEL 3
ディスクドライブ	FDD1基内蔵	FDD2基内蔵	FDD1基+30MバイトHDD内蔵
CPU	Intel80286 10MHz+MC68000 7.6MHz/10MHz+Z80A 3.58MHz		
ROM	BIOS ROM 128Kバイト、JIS第一第二水準漢字ROM		
RAM	メモリ 640Kバイト	メモリ 1Mバイト	メモリ 2.5Mバイト
	VGA用VRAM 256Kバイト、VDP用VRAM 128Kバイト、サウンド用RAM 32Kバイト		
グラフィック機能	<ul style="list-style-type: none"> ●DOS/V部 グラフィック表示:最大640×480ドット・262144色中16色 ●メガドライブ部 グラフィック表示:320×224ドット・512色中64色 スプライト表示:80スプライト/画面、8スプライト/ライン・512色中16色 		
サウンド出力	FM音源 ステレオ6音(YM2612)+PSG音源 3音+ノイズ1音 (チャンネルの一部をPCM音源1音に割り当て可能)		
インターフェース	コンポジットビデオ、アナログRGB、ステレオ音声、プリンター、シリアル、 キーボード・マウス、ジョイスティック×2、拡張スロット、メガドライブEXT		



▲テラドライブ MODEL3のパッケージ。



■本体正面



■本体背面

徴だった。

さらにはキーボードや各種部品、ソフトウェアなどはすべてIBMの純正部品で構成されており、本格的IBM-PCが手軽な値段で手に入るという点も魅力といえる。

対応ソフトは 7万タイトル以上

当時7万タイトル以上と謳われたPC/AT用ゲームソフトは、秋葉原を中心とした一部の輸入海外ソフト販売店で購入することができた。インターネット通販などがまだない時代だけに、残念ながらごく一部のマニア相手の商売にとどまっている。



■キーボード



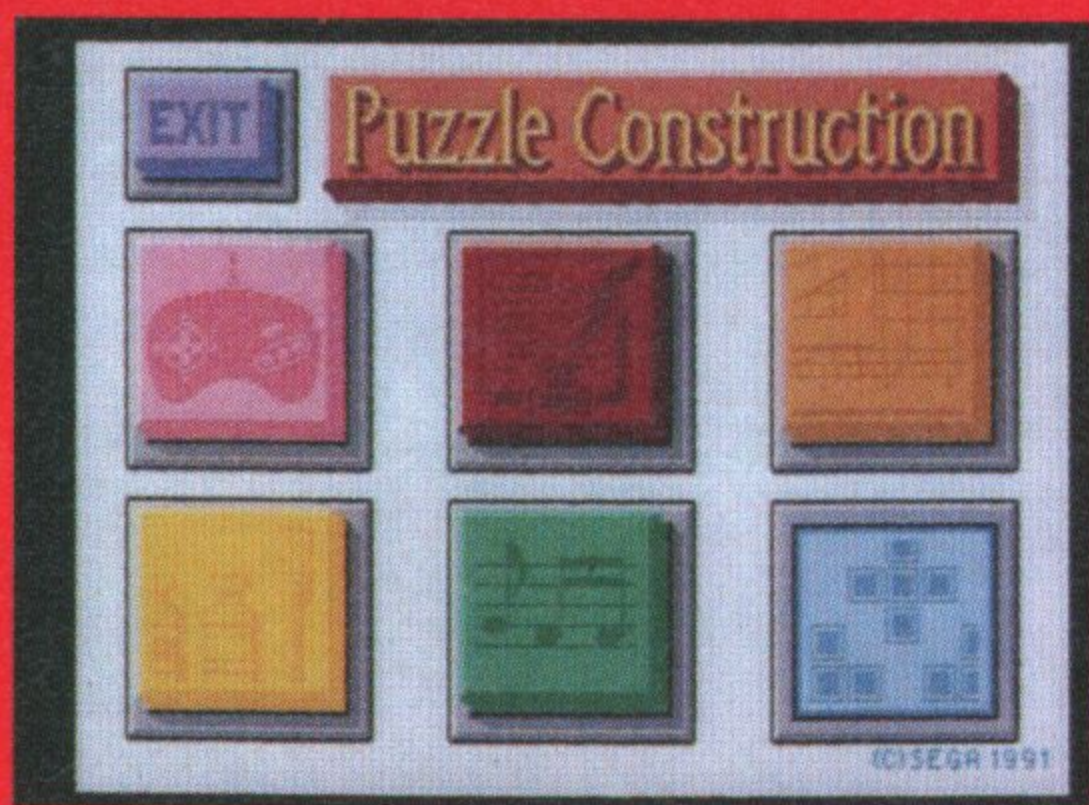
▲テラドライブ用DOS/Vのシステムディスクとマニュアル。すべてIBMの純正品。



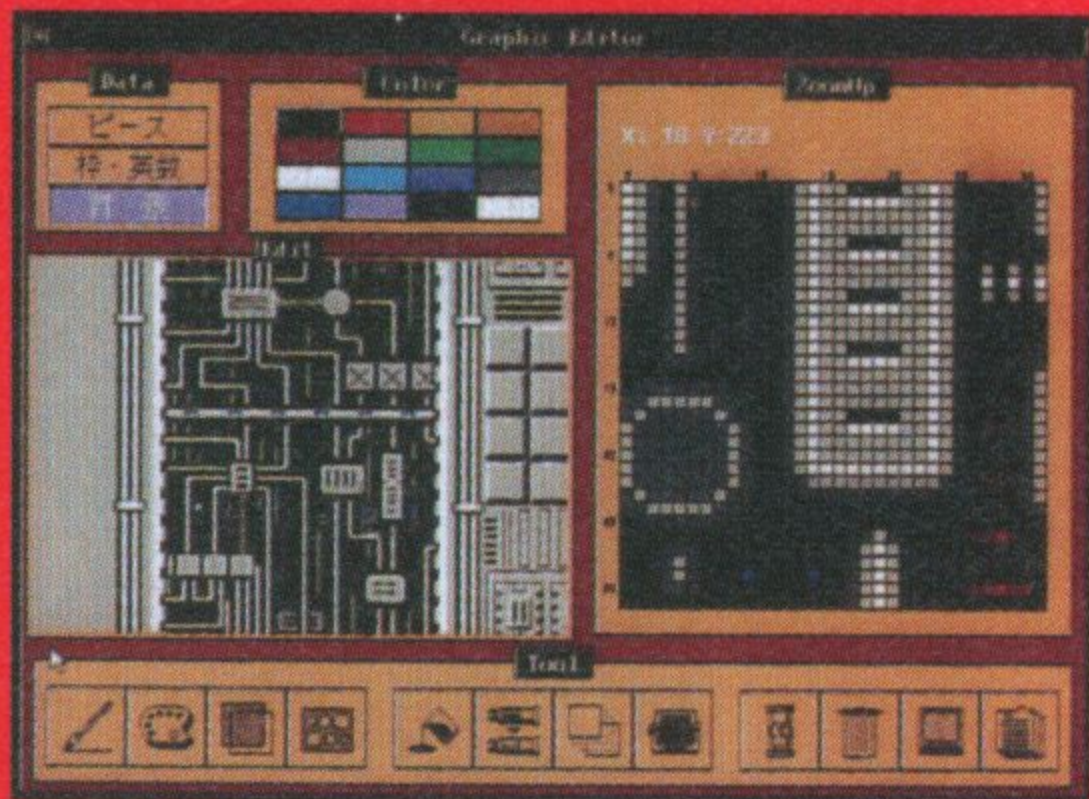
▲起動するとまず現れる「テラメニュー」。ファイル操作や、コントローラの設定などができる。

パズルコンストラクション

セガ・エンタープライゼス



▲起動時のメインメニュー。画面レイアウトから音楽作成までできる本格派。



▲グラフィックエディター。メガドライブのグラフィック機能を最大限に活用できる。

テラドライブ唯一の専用ソフトとして発売されたのは「落ち物パズル作成ツール」。テラドライブの特徴である、Intel80286側からメガドライブのFM音源やグラフィック機能を活用できるというスグレモノだ。



▲「パズルコンストラクション」のチラシ。専用ソフトの第1弾ということで気合が入っているデザイン。

CATALOGUE

Wonder 2CPU

ふたつの頭脳が同時に動く未来性能。2CPUパソコン、テラドライブ。

TERADRIVE

標準価格: MODEL 1 ¥148,000(税別) MODEL 2 ¥148,000(税別) MODEL 3 ¥148,000(税別)
 対応OS: IBM DOSバージョン3.3/5.0/6.0/7.0/8.0/9.0/10.0/11.0/12.0/13.0/14.0/15.0/16.0/17.0/18.0/19.0/20.0/21.0/22.0/23.0/24.0/25.0/26.0/27.0/28.0/29.0/30.0/31.0/32.0/33.0/34.0/35.0/36.0/37.0/38.0/39.0/40.0/41.0/42.0/43.0/44.0/45.0/46.0/47.0/48.0/49.0/50.0/51.0/52.0/53.0/54.0/55.0/56.0/57.0/58.0/59.0/60.0/61.0/62.0/63.0/64.0/65.0/66.0/67.0/68.0/69.0/70.0/71.0/72.0/73.0/74.0/75.0/76.0/77.0/78.0/79.0/80.0/81.0/82.0/83.0/84.0/85.0/86.0/87.0/88.0/89.0/90.0/91.0/92.0/93.0/94.0/95.0/96.0/97.0/98.0/99.0/100.0

80286と68000。ふたつのCPU搭載。日本アイ・エムと共同開発。純正IBM PCボード搭載。だから世界のソフトが動く。日本語DOS/V対応。日本語MS Windows V3.0対応。

TERADRIVE

テラドライブ 標準価格: MODEL 1 ¥148,000(税別) MODEL 2 ¥148,000(税別) MODEL 3 ¥148,000(税別)

AutoNet-S

DOS/Vで快適パソコン通信ライフ!

高機能通信ソフト

画面は、見やすいウィンドウライク。簡単、快速、ハイパワー。ネットワーク時代のエース登場!

TERADRIVE

DOS/V対応

¥14,800円

2CPU

ツインCPUパソコン、テラドライブ誕生。

テラドライブは、セガと日本アイ・エムとの共同開発によって誕生した、まったく新しいタイプのマシン。IBM-PCにメガドライブを融合させたパソコンです。CPUに80286と68000をダブル搭載。そしてOSにはこれからの標準IBM DOSバージョンJ4.0/Vを採用しています。いったんこれは、世界にたのしいIBMのノウハウと、遊びのセガのやわらかアタマを合体させたパソコンということ。IBM-PC用に開発された世界中のソフトウェア資産、そしてPC用・メガドライブ用ゲームソフトを豊富に利用することができます。また2つのCPUは、同時に実行することもでき、またりりりワープロを行ったり、もうひとつはゲームを楽しむといったこともできます。これらは、アミューズメントコンピュータ パソコンをもっと楽しく遊ばせる。テラドライブです。

もっと、たのしい。

アミューズメント&コンピュータ

2CPU

ビジネスからホビーまでさらに広がるパソコンの世界。

自費は、2つのCPU、80286と68000を採用しました。

TERADRIVE

日本標準OS、DOS/Vを(IBM DOSバージョン3.3/5.0/6.0/7.0/8.0/9.0/10.0/11.0/12.0/13.0/14.0/15.0/16.0/17.0/18.0/19.0/20.0/21.0/22.0/23.0/24.0/25.0/26.0/27.0/28.0/29.0/30.0/31.0/32.0/33.0/34.0/35.0/36.0/37.0/38.0/39.0/40.0/41.0/42.0/43.0/44.0/45.0/46.0/47.0/48.0/49.0/50.0/51.0/52.0/53.0/54.0/55.0/56.0/57.0/58.0/59.0/60.0/61.0/62.0/63.0/64.0/65.0/66.0/67.0/68.0/69.0/70.0/71.0/72.0/73.0/74.0/75.0/76.0/77.0/78.0/79.0/80.0/81.0/82.0/83.0/84.0/85.0/86.0/87.0/88.0/89.0/90.0/91.0/92.0/93.0/94.0/95.0/96.0/97.0/98.0/99.0/100.0)

純正IBM PCボード搭載。世界中、約7000本のソフト資産を利用できます。

使いやすいから新・主流、日本語Microsoft Windows V3.0に対応します。

グラフィック資産のアイコンで、使いやすく快適な操作環境を実現する。日本語Microsoft Windows V3.0にも対応。ファイルの呼び出しが簡単。印刷に便利です。

もっと、かっこいい。

AMUSEMENT & COMPUTER

DOS/V

実用、ワイド、80286と68000でリソースを共有できます。

操作性に優れた、しかもスペースをとらないミニコンサイズ。

TERADRIVEグラフィック

各種インターフェイスを標準装備しています。

標準ソフトそのまま実行できるTERAメニューを備えています。

このまま以上に、たくさんのゲームソフトが楽しめます。

テラドライブは、通常のゲームソフトのほか、約1000本のメガドライブ用ゲームソフト、さらに、世界中に広がるIBM PC用ゲームソフトや、IBM PC用ゲームソフトが豊富に揃っています。また、最新のメガドライブ用ゲームソフトも豊富に揃っています。これらは、アミューズメントコンピュータ パソコンをもっと楽しく遊ばせる。テラドライブです。

2CPUの連携プレイが面白い。

つくる + 遊ぶ = もっと楽しい

自分でもゲームをクリエイティブするゲームコンストラクション。テラドライブの2CPUをフルに活用し、これまでのパソコンにない面白さをプラスした専用ソフトがここから登場します。その第1弾は、パズルコンストラクション、ゲームのルールやグラフィックを自分でアイデアでつくるパズルゲームで、80000のグラフィック能力をうまく利用した、まさにテラドライブならではのソフトです。

ゲームを創造するにふさわしい、本格的なメニュー画面。世界に1本しかない自分だけのゲームがここから生まれる。

パズルコンストラクションは最初にメニュー画面を表示。ここでルール、グラフィック、サウンドなどを決め、それらのメニューに切り、オリジナルのルールを決めたり、キャラクターをいれたり、効果音をつくり出すことができます。かなりプロっぽいメニュー画面。つくった内容はディスクにセーブしておくことができ、ゲーム作家のようにゲームの内容を比較することができます。

ゲーム作家

VGA高解像グラフィックスを操る。

VGA 640x480 + VDP DOS/V対応

リアルで迫力あるシーンを可能にするグラフィックスモード。VGAは1600ドットの高解像グラフィックス、320x200ドットモードを6261,144色中128色を表示することが可能。フライシミュレーターやドベンチャーゲームの美しいシーンをリアルに再現します。さらに2つのスクロール機能と強力スプライトを備えたVDPにも対応し、迫力あるアクションシーンを演出します。グラフィックソフトで色彩豊かな画面を再現したり、イメージキャッチを使って写真やイラストを画面に取り込んで、その上に絵を描いたりすることができます。

日本標準VGA規格が広がるDOS/V(IBM DOSバージョンJ4.0/V)標準搭載。これからの主流コンピュータリング環境。日本語DOS/V標準。DOS/V用の「一本dash」や「Lotus1-1-1R1.1J」、「アストワード」、「The CARD 3+」などこれからの期待される有名ソフトを、そのままのグラフィックスで利用できます。しかもこの日本語DOS/Vにも各種ドライブを標準したドライブディスク(モジュールはハードディスクにも)を標準搭載しています。

操作性も、テラドライブの強み。テラドライブDOS/V対応のキーボードに、TERAメニューやゲームをだれても簡単に操作できるコントロールパッドを標準搭載。さらにオプションでアーケードゲーム機と同等の操作性を備えています。

AV機器と接続して、マルチメディアを楽しむ。

AV機器 TV AUDIO + TERA DRIVE = MULTI MEDIA

音モニターで2つのCPUを同時に動かす。テラドライブは2つのCPUを同時に動かすことができます。64色RGB出力とビデオ出力の2系統の映像出力が行えるため、CRTテレビの両方を接続して、ひとりりりワープロ、別の人がゲームを楽しむといったこともできます。

オーディオ・ビデオを接続して、楽しもう。アクションゲームなどの効果音。オーディオを接続して迫力あるサウンドで、メガドライブのFM音源でステレオサウンドを楽しめる。MIDIボードなどの音源ボードを利用してシンセサイザーコントロールも可能です。これらは、パソコンを趣味の世界へ誘います。

スペースをとらないミニコンサイズもオーディオ感覚のデザイン。従来のスペースをミニコンサイズに縮減。しかもブラックフェイスの洗練のデザインで、AV機器とのシステムアップにもフィットします。コストパフォーマンスの高さをテラドライブならでは、買って損をしないマルチメディアパソコンです。

ホビーパソコンの歴史を振り返る四方山コラム

玩具メーカーが目指した パソコンという製品

1980年代前半の 玩具パソコンラッシュ

第3章で紹介したパソコンはいずれも玩具メーカー（M5のみパソコンメーカーの製品だが、タカラのOEM品があるためこの章で取り扱った）から発売されたパソコンだが、玩具メーカーがパソコンを発売した時期は家電メーカー同様、1980年代前半の一定期間に集中している。基本的には家電メーカーと同じく小中学生の間で流行ったパソコンブームが大きな要因となっているが、玩具メーカーの参入にはやや異なる事情も含まれているので本項ではそれについて掘り下げる形で少々解説したい。

エレクトロニクス玩具が パソコンに繋がった

玩具の世界では1970年代中頃から後半にかけてテニスゲームやLSIゲームなど、電子回路を使用したエレクトロニクス玩具が登場。「眺めるオモチャ」「動かすオモチャ」に加えて「自分が参加できるオモチャ」という、玩具の世界に新しい波が押し寄せつつある時期だった。この時点でタカラやバンダイ、トミーなどエレクトロニクスの可能性に着目した玩具メーカーは本格的に研究を開始しており、いち早く着手したエポック社は1975年に日本初の国産家庭用テレビゲーム「テレビテニス」を発売している。このような玩具メーカーの中でも、パソコンの将来性・可能性に着目した会社が自社製パソコン開発の判断を下したのである。

玩具メーカーの開発するパソコンは家庭用ゲーム機の延長として捉えられるものが多く、プログラムやお絵かきなどの機能もそれぞれのものが商品としての訴求の役割を果たすものではなく、まず何より「対応しているゲーム」があること、その上でプラスアルファの購入動機として「プログラムができる」「絵が描ける」を設定することが多かった。中にはセガのSC-3000のように、プログラムに必要なBASICすらも別売りで、それ単体では本当に何もできないといった割り切った製品も存在した。

玩具系パソコンの スペックが似る訳

玩具メーカー系ホビーパソコンは「あまり高額過ぎる商品は玩具店の店頭においてもらえない」という理由から、おおむね3万円前後の価格設定にすることが多かった。そういった意味ではトミーのぴゅう太（54,800円）やタカラのゲームパソコン（49,800円）はそれらの予算を大幅に超過する高額商品であり、価格設定をするメーカー側も相当勇気が必要だったのではないだろうか。

少々話がそれたが、小売価格で3万円前後という数字を実現するためには使える部品やメモリ容量、CPUやVDPの選定といった部分が必然的に似通ってくる。しかも当然ゲームを作ることに向いているVDPという条件が加われば、なおさら選択の幅が限られるのも無理はない話である。そんなわけで、結果としてCPUにZ80を、VDPにTMS

9918という構成が多かったのはこういった理由によるものであった。

ぴゅう太は完全な 自社開発パソコン

玩具メーカー系パソコンといえど、パソコンである以上玩具メーカー自身が開発するには手に余る商品であることは想像に難くない（セガのようにアーケードゲームの開発、カシオのように電卓といったノウハウを持ち合わせていたところなら話は別だが）。そのため、大抵の玩具メーカー系パソコンはコンピューターメーカーのOEM、または共同開発をとっているケースが多く、M5（ゲームパソコン）であればタカラとソード電算機システム、RX-78であればバンダイとシャープ、ファミリーベーシックであれば任天堂とシャープ、テラドライブであればセガと日本IBMといった具合で、ノウハウを持っている会社との協業で開発をしていた。

唯一の例外がぴゅう太であり、これはトミーの完全な自社開発（製造委託先は不明）である。まったくノウハウのない会社が知見ゼロからスタートして、実際に商品を発売するところまで持っていくのは相当な情熱があったのではないかと予想する。逆にいえばそのおかげで、コンピューター技術者だと簡単に見落としがちな素人向けの気配りが行き届いたパソコンに仕上がっている。ぴゅう太はそんなトミーの会社風土が生み出した奇跡的なパソコンだったのかもしれない。

第4章

統一連合結成、 MSX編

HOBBY PERSONAL COMPUTER CATALOGUE CHAPTER 4

どのメーカーのパソコンでも共通のソフトが遊べる!

MSX



写真は、ソニー HITBIT HB-55 1983年10月発売 54,800円

家電メーカー14社 大連合軍結成!

MSXとはマイクロソフトとアスキーの2社が提唱したパソコンの共通規格の名称である。これまでのパソコンは開発したメーカーそれぞれに仕様が異なり、ソフトも専用のものをそれぞれ買う必要があった。MSXは各メーカー間バラバラだった仕様を統一して共通化しようという試みである。14の家電メーカーが賛同、1983年に華々しくデビューした。

どのメーカーでも開発しやすく、また価格を安価に抑える必要があるため基本性能は決して高いものではない。前出のPV-2000 楽がき、M5、SC-3000 と同等の性能だが、多数の大手家電メーカーが参画している安心感と、莫大な広告費投入の甲斐あって手頃な価格のホビーパソコンとして認知されることに成功。ソフトも積極的にリリースされ、ますますのスタートを切ることができた。画一的な性能ながらメーカーごとに特色を出そうと、

様々な趣向を凝らした製品が発売されたのも魅力といえる。

MSX基本仕様

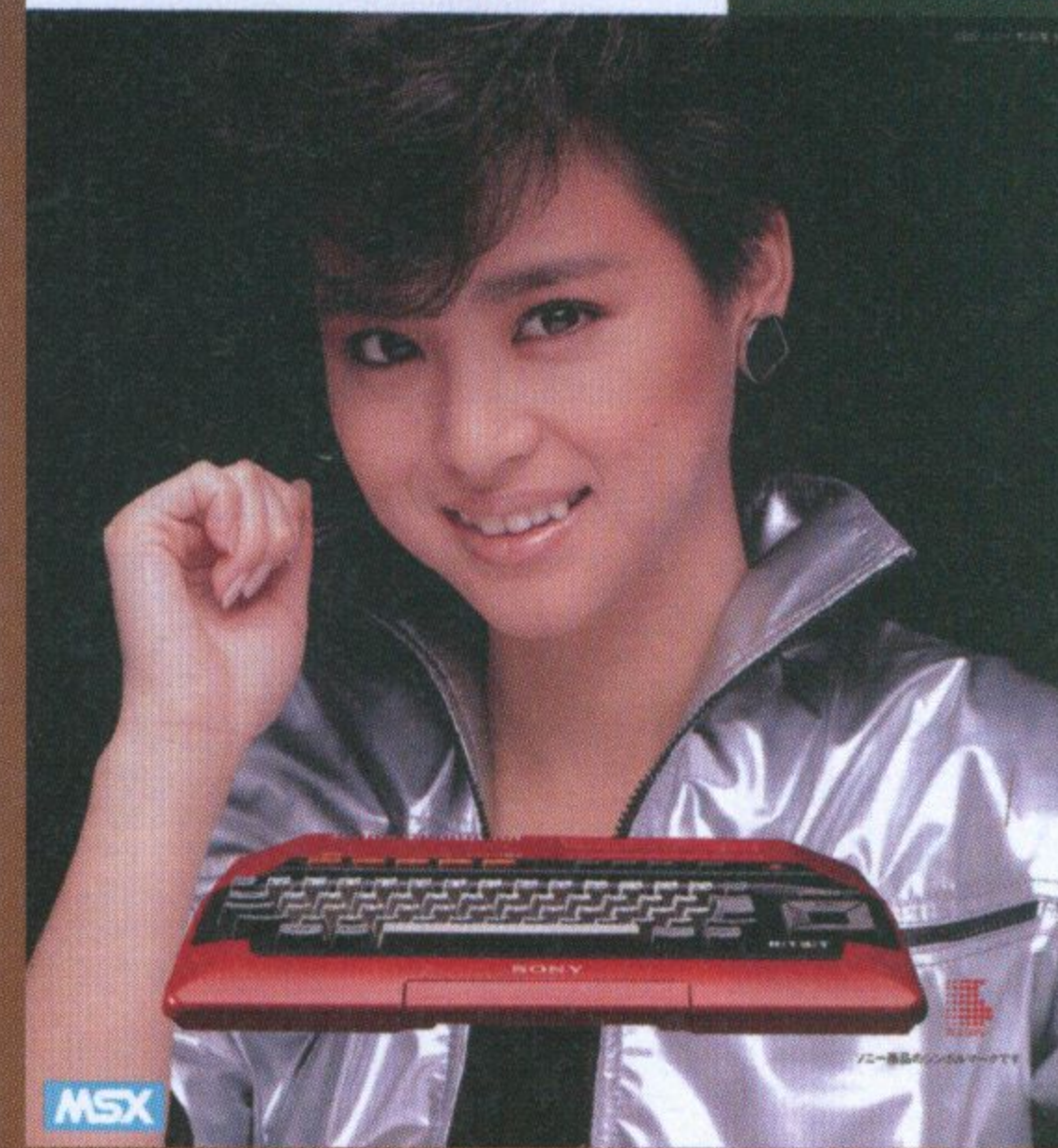
CPU	Z80A相当品 3.58MHz
ROM	32Kバイト BIOS、MSX-BASIC
RAM	8Kバイト(最大64Kバイト)
グラフィック機能	テキスト表示:最大40字×24行 グラフィック表示:最大256×192ドット・16色 スプライト表示:32スプライト/画面、4スプライト/ライン・16色中単色
サウンド出力	PSG音源 8オクターブ3重和音(AIY-3-8910相当)
インターフェース	RF信号、コンポジットビデオ、モノラル音声、ジョイスティック×2、プリンター、カセットテープ、カートリッジスロット

CATALOGUE

SONY.

パーソナルコンピュータ
MSX SONY PERSONAL COMPUTER
HITBIT
MEZZO
HB-101 ¥46,800

美しいフルカラーディスプレイ、ヒットビットメゾ。キャリングハンドルがついて、どこへでも持ち歩ける。2スロット搭載、ポーズボタン付、ヒットビット機能も充実。



MSX

ROMカートリッジで 手軽にゲーム

MSXの大きな特徴として挙げられる点のひとつに、ROMカートリッジスロットの存在がある。本体前面にカートリッジスロットを配置することでソフトの供給媒体としての役割を持たせたものである。

この種の発想はNECのPC-6001 (P. 12) などいくつか前例があり、ROMカートリッジを挿すだけで即起動できるという手軽さや取り扱いの容易さも相まって、ゲームの供給媒体として重宝された。さらに、家庭用ゲーム機の世界ではすでにROMカートリッジによるソフト供給が定着しており、それも手伝って「ゲーム機並に手軽に使えるパソコン」というイメージを演出できたといえる。

特にカシオのPV-7など、メモリがMSX規格に定められた最低容量である8Kバイトしか搭載されていない機種では、メモリ増設なしではカセットテープなど他の媒体を用いたソフトをほとんど動作させることはできず、実質的にROMカートリッジで供給されたゲームソフトを遊ぶ



■本体背面



■キーボード

だけのゲーム機として使われていた。

なお、このスロットはメモリ増設やフロッピーディスクドライブの接続など周辺機器の拡張用としても使われ、各メーカー個別の独自機能などは基本的にこれを使って実装している。



▲本体に設けられたカートリッジスロット。大抵複数スロット存在した。

友達みたいなパソコン MSX

FM-X

新発売

エックス

富士通

V-10 MSX HOME COMPUTER

Canon

新しい暮らしに、スイッチオン。パソコン新時代がやってきた。みんなが使えるホームコンピュータ キヤノンV-10。MSX仕様で新登場。

上手に選んで上手に選ぶ No.T-148

GENERAL PAXON MSXテレビ

MSXテレビ PAXON

テレビ PCT-50型 標準価格 128,000円
ジョイスティック PCJ-50型 標準価格 3,500円(112)
キーボード PCK-50型 標準価格 18,500円

《MSX・BASIC》を内蔵した新分野の高性能テレビ、登場!

MSX MODEL VARIATION



PALCOM PX-7
 パイオニア 1984年6月発売 89,800円
 レーザーディスクと接続して、専用レーザービデオゲームが遊べる高級機。上位機にPX-V60がある。



ML-8000
 三菱電機 1983年10月21日発売 59,800円
 MSX記念すべき第1号機。最初期のモデルなので際立った特色は与えられてはならず、無難な製品といえる。

FM-X MB25150

富士通
 1983年12月発売
 49,800円
 富士通が発売した唯一のMSX。同社のFM-7と組み合わせると使用メモリが増えるなど、独自の仕様があった。



H50 MB-H50

日立家電 1986年10月発売 24,800円
 キーボードが分離している。本体部分は家庭用ゲーム機のようなデザイン。サウンド出力によって左側のパネルがイルミネーションする。



PHC-33 三洋電機特機 1986年10月発売 59,800円
 倍速データレコーダーを内蔵したユニークな機構。データレコーダーを搭載しない兄弟機、PHC-27も存在する。

CATALOGUE

三菱ホームコンピュータ

強力な簡易言語(C-BOL)内蔵、高性能と多機能、そして豊富な周辺機器。いま三菱からホームコンピュータが!

MSX

ML-F120D, ML-F120, ML-F110

すべて、ここから発展する。

MSXの発展は、ここから始まる。

MSXの発展は、ここから始まる。

MSXの発展は、ここから始まる。

CX-5F

ヤマハ
1984年発売 64,800円

楽器メーカーの製品らしく、MIDIによる楽器制御や、音色加工ができる専用ソフトなどが付属している点が特徴。汎用スロット以外に独自規格スロット有り。



V-10

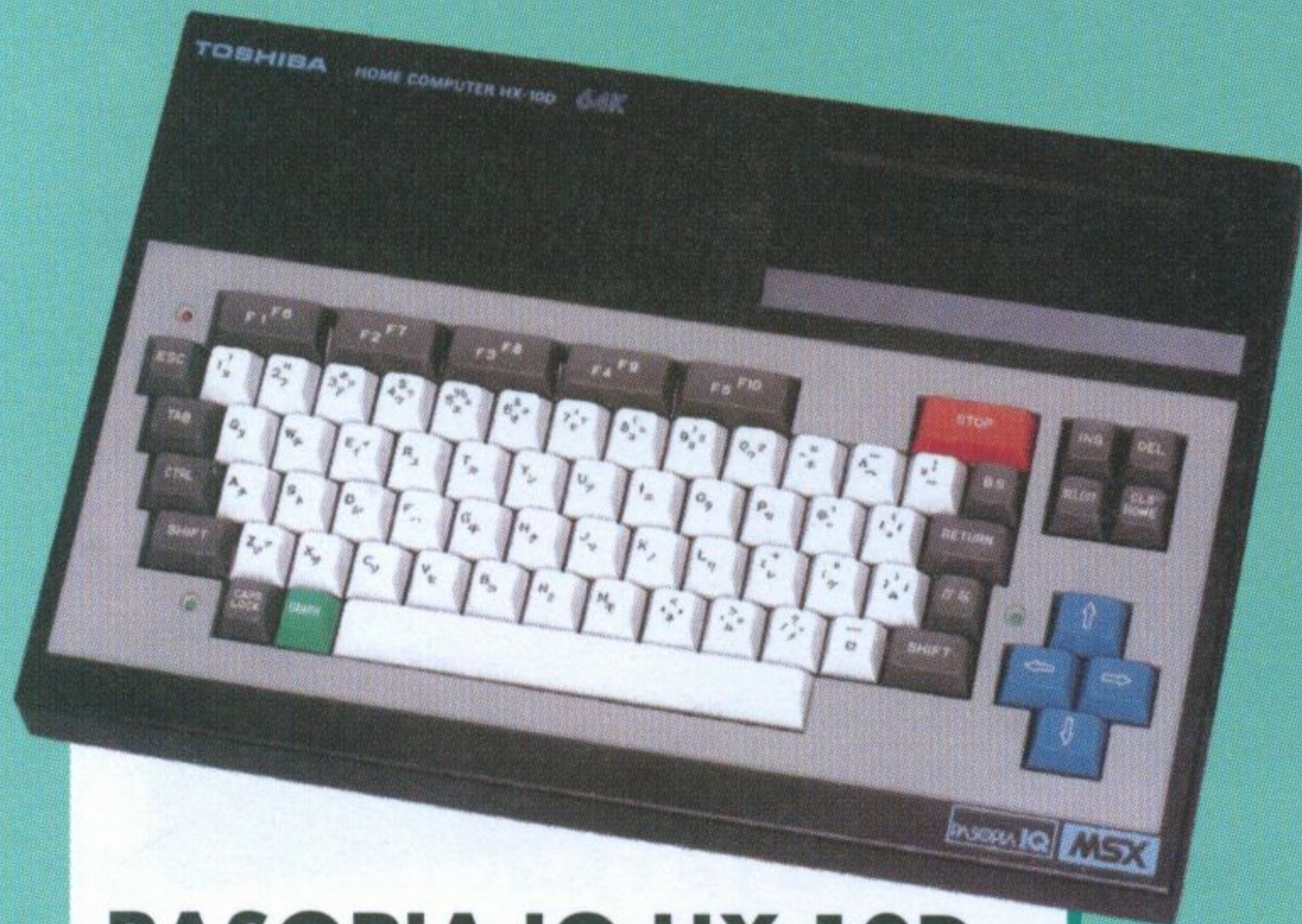
キヤノン 1984年発売 54,800円
初期に発売された製品のため、突出した特徴はないが無難に使える。メモリを倍の64Kバイトに増強したV-20もある。



PV-7

カシオ計算機
1984年9月発売
29,800円

メモリが8Kバイトと少ない分、同世代の機種に比べて最安値を実現した。メモリは増設RAMで拡張できる。



PASOPIA IQ HX-10D

東芝 1983年発売 65,800円

自社ブランド「PASOPIA」の名を冠したMSX。広告戦略も功を奏してロングセラー商品となった。

PAXON PCT-50

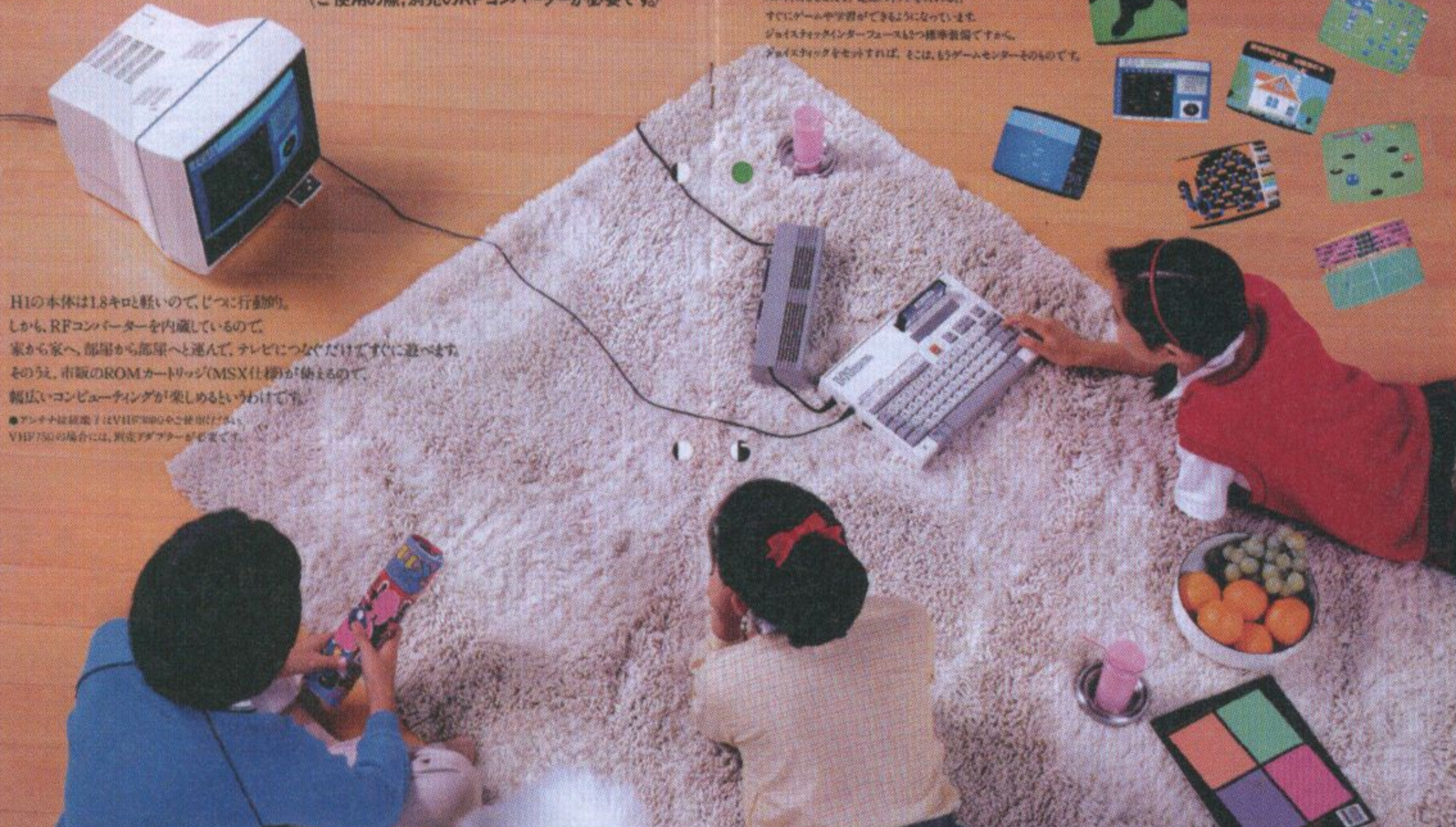
ゼネラル
1984年2月発売
128,000円

数多くのMSXの中でも、モニターを内蔵した製品はこの1機種のみ。存在自体が貴重な一品といえる。



家庭用テレビがあれば どこでも手軽にコンピューティング。

(MB-HIEは、ビデオ端子のついていないテレビもご使用の際、別売のRFコンバーターが必要です)



H1の本体は18キロ軽いので、どこへも持ち運びが簡単。しかも、RFコンバーターを内蔵しているため、家から家へ、部屋から部屋へと運んで、テレビにつなぐだけで使えます。そのうえ、市販のROMカートリッジ(MSX仕様)が挿入可能で、幅広いコンピューティングが楽しめるというわけです。

●本体は縦向きにVHSビデオの収納が可能です。VHSビデオの場合は、別売のVCRが必要となります。

RFコンバーター標準装備 (MB-HIEは別売)

100V電源から120V電源に変換します。

付属のROMカートリッジは、MSX仕様のROMカートリッジです。

MSX仕様のROMカートリッジ(MSX仕様)をセットするだけで、そこは、ゲームセンター。

H1は、市販のROMカートリッジ(MSX仕様)が挿入可能で、その中に挿入して、電源スイッチを入れるだけで、ゲームがスタートします。そのうえ、市販のROMカートリッジ(MSX仕様)が挿入可能で、幅広いコンピューティングが楽しめるというわけです。

●本体は縦向きにVHSビデオの収納が可能です。VHSビデオの場合は、別売のVCRが必要となります。

●本体は縦向きにVHSビデオの収納が可能です。VHSビデオの場合は、別売のVCRが必要となります。

●本体は縦向きにVHSビデオの収納が可能です。VHSビデオの場合は、別売のVCRが必要となります。

●本体は縦向きにVHSビデオの収納が可能です。VHSビデオの場合は、別売のVCRが必要となります。

●本体は縦向きにVHSビデオの収納が可能です。VHSビデオの場合は、別売のVCRが必要となります。

●本体は縦向きにVHSビデオの収納が可能です。VHSビデオの場合は、別売のVCRが必要となります。

●本体は縦向きにVHSビデオの収納が可能です。VHSビデオの場合は、別売のVCRが必要となります。

●本体は縦向きにVHSビデオの収納が可能です。VHSビデオの場合は、別売のVCRが必要となります。

●本体は縦向きにVHSビデオの収納が可能です。VHSビデオの場合は、別売のVCRが必要となります。

●本体は縦向きにVHSビデオの収納が可能です。VHSビデオの場合は、別売のVCRが必要となります。

●本体は縦向きにVHSビデオの収納が可能です。VHSビデオの場合は、別売のVCRが必要となります。

●本体は縦向きにVHSビデオの収納が可能です。VHSビデオの場合は、別売のVCRが必要となります。

●本体は縦向きにVHSビデオの収納が可能です。VHSビデオの場合は、別売のVCRが必要となります。

●本体は縦向きにVHSビデオの収納が可能です。VHSビデオの場合は、別売のVCRが必要となります。

●本体は縦向きにVHSビデオの収納が可能です。VHSビデオの場合は、別売のVCRが必要となります。

●本体は縦向きにVHSビデオの収納が可能です。VHSビデオの場合は、別売のVCRが必要となります。

●本体は縦向きにVHSビデオの収納が可能です。VHSビデオの場合は、別売のVCRが必要となります。

●本体は縦向きにVHSビデオの収納が可能です。VHSビデオの場合は、別売のVCRが必要となります。

●本体は縦向きにVHSビデオの収納が可能です。VHSビデオの場合は、別売のVCRが必要となります。

●本体は縦向きにVHSビデオの収納が可能です。VHSビデオの場合は、別売のVCRが必要となります。

●本体は縦向きにVHSビデオの収納が可能です。VHSビデオの場合は、別売のVCRが必要となります。

●本体は縦向きにVHSビデオの収納が可能です。VHSビデオの場合は、別売のVCRが必要となります。

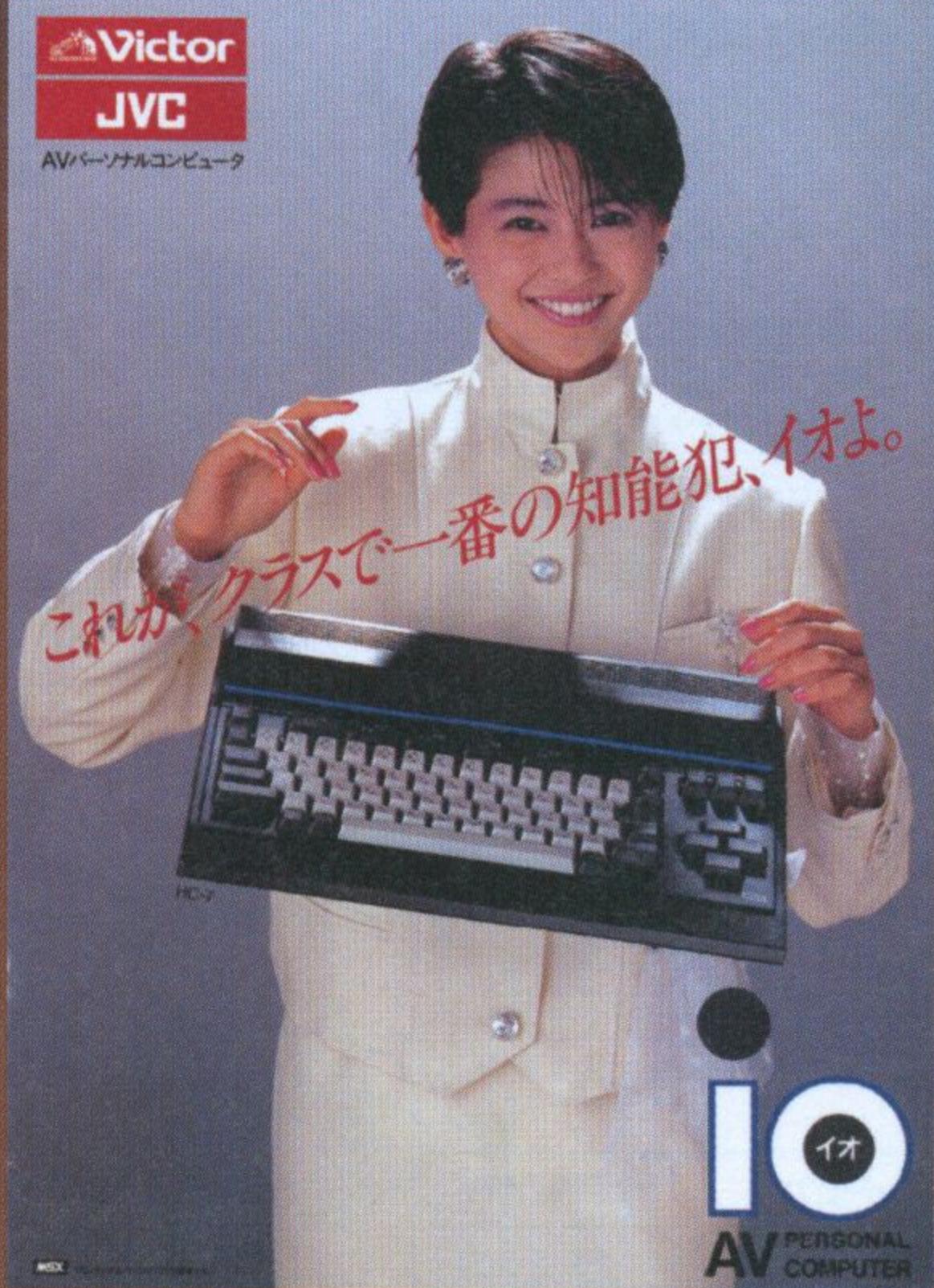
●本体は縦向きにVHSビデオの収納が可能です。VHSビデオの場合は、別売のVCRが必要となります。

●本体は縦向きにVHSビデオの収納が可能です。VHSビデオの場合は、別売のVCRが必要となります。

●本体は縦向きにVHSビデオの収納が可能です。VHSビデオの場合は、別売のVCRが必要となります。

●本体は縦向きにVHSビデオの収納が可能です。VHSビデオの場合は、別売のVCRが必要となります。

●本体は縦向きにVHSビデオの収納が可能です。VHSビデオの場合は、別売のVCRが必要となります。



Victor
JVC
AVパーソナルコンピュータ

これが、クラスで一番の智能犯、イオよ。

io
AV PERSONAL COMPUTER

価格と表現力のバランスに優れたホビーパソコンの花形

MSX2



写真は、松下電器産業 FS-A1 1986年発売 29,800円

当初はハイエンド機
だったMSX2

MSX2は、MSXとの完全な上位互換を維持しつつ、グラフィック性能を大幅にパワーアップした規格で1985年に制定された。80字×24行表示できる高解像度、512色中16色または256色同時表示によるビットマップグラフィックで映像表現力が一気に拡充された。

当初MSX2を発売した各メーカーは、

入門向けのMSX、マニア&ビジネス向けのMSX2という位置付けを企図していた。MSX2の機能拡張はいずれも低価格ホビーパソコンからの脱却を狙ったものであり、パソコン御三家が発売する10万円以上の製品に直接ぶつけることを意図していた。そのため、初期のMSX2はいずれも本体とキーボードが分離されたセパレート型であり、フロッピーディスクドライブや漢字ROMを装備して、価

格も10万円から20万円と高価な製品ばかりがラインナップされていた。

MSX2基本仕様

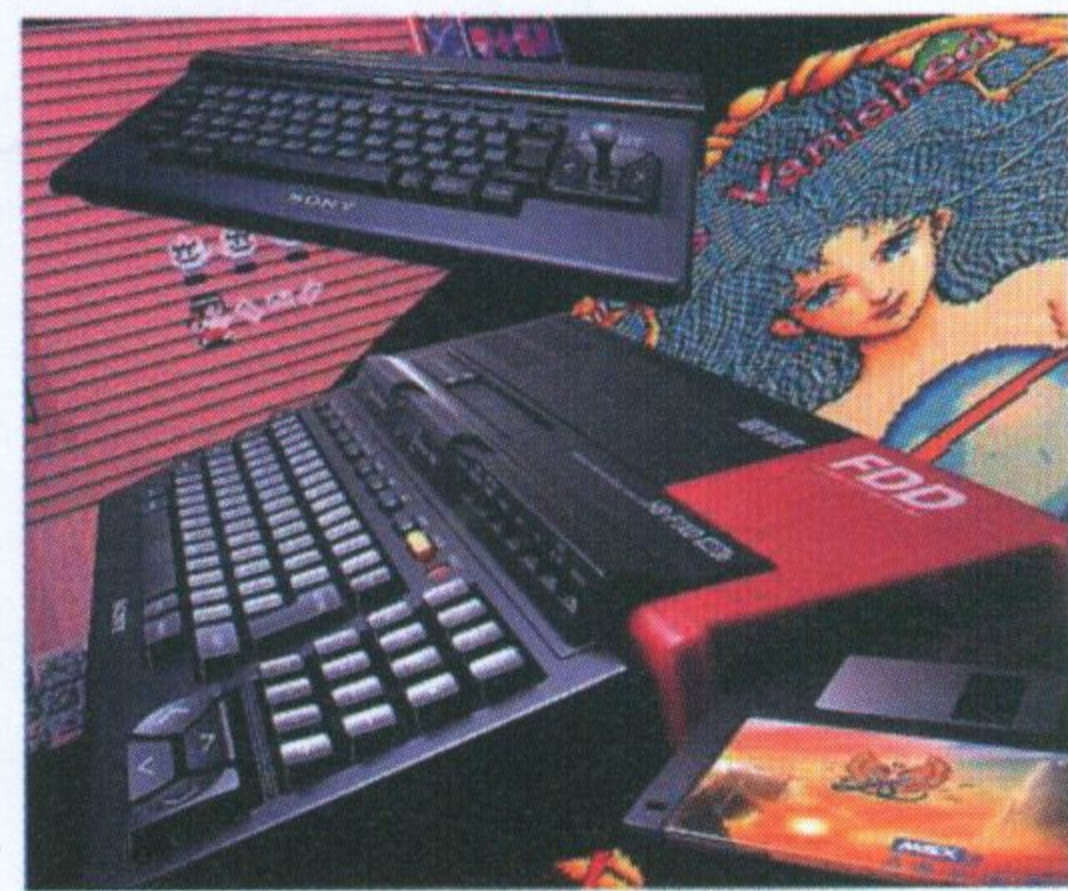
CPU	Z80A相当品 3.58MHz
ROM	MSX-BASIC ver2.0 48Kバイト、MAIN-ROM 32Kバイト SUB-ROM 16Kバイト
RAM	メインメモリ 64Kバイト以上、VRAM 64Kバイト以上
グラフィック機能	テキスト表示:80字×24行 グラフィック表示:最大512×212ドット・最大512色中256色 スプライト表示:32スプライト/画面、8スプライト/ライン・最大512色中16色表示 グラフィック機能:縦方向ハードウェアスクロール、パレット
サウンド出力	PSG音源 8オクターブ3重和音(AY-3-8910相当)
インターフェース	RF出力、コンポジットビデオ、アナログRGB、モノラル音声、 ジョイスティック×2、カセットテープ、プリンター、カートリッジスロット

CATALOGUE

SONY

HIT BIT

ヒットビット
F1シリーズ MSX2
HB-F1XD ¥54,800
HB-F1 II ¥29,800



スピロン、連射ターボ、ホーズボタンとゲームの楽しさを広げる機能を豊富に搭載したソニーMSX2パソコン、HB-F1シリーズ、大容量720キロバイトのフロッピーディスクドライブを内蔵した待望の機種HB-F1XD、そして、カーソルジョイスティックが備った強力ゲームマシンHB-F1II、2機種を揃えて堂々の新登場です。



▲パナソニックのアシュギーネを使ったキャンペーン広告。完全にゲームを主眼に置いた内容だ。

低価格MSX2の登場で一気に普及

MSX1 とMSX2で市場を分けるという考え方に大きな変化が現れたのは、東芝が開発した統合チップ「MSX ENGINE」の存在である。詳細は次ページに譲るが、本チップによってハードの製造原価を大きく引き下げることができるようになり、松下はパナソニックブランドでFS-A1を1986年に発売、同年にソニーもHB-F1を発売した。この2機種は当初のMSX1の値段すら下回る3万円前後に価格設定され、MSX2を一気に子供にも手が届く範囲の価格まで押し下げたのである。



■本体背面



■キーボード

この一連の流れによって、それまでグラフィックが貧弱でファミコンにすら劣ると言われていたMSXのイメージは払拭され、MSX2が実質的に規格の標準となった。以後、停滞気味であったそれまでの状況が嘘であったかのように頻繁

に新機種の発表、機能の追加といったモデルチェンジが繰り返される。その結果、パナソニック、ソニー、三洋電機の3社を除くほとんどのメーカーが厳しいコスト合戦を強いられるMSXから撤退する事態を引き起こしたのである。



MSX2 MODEL VARIATION



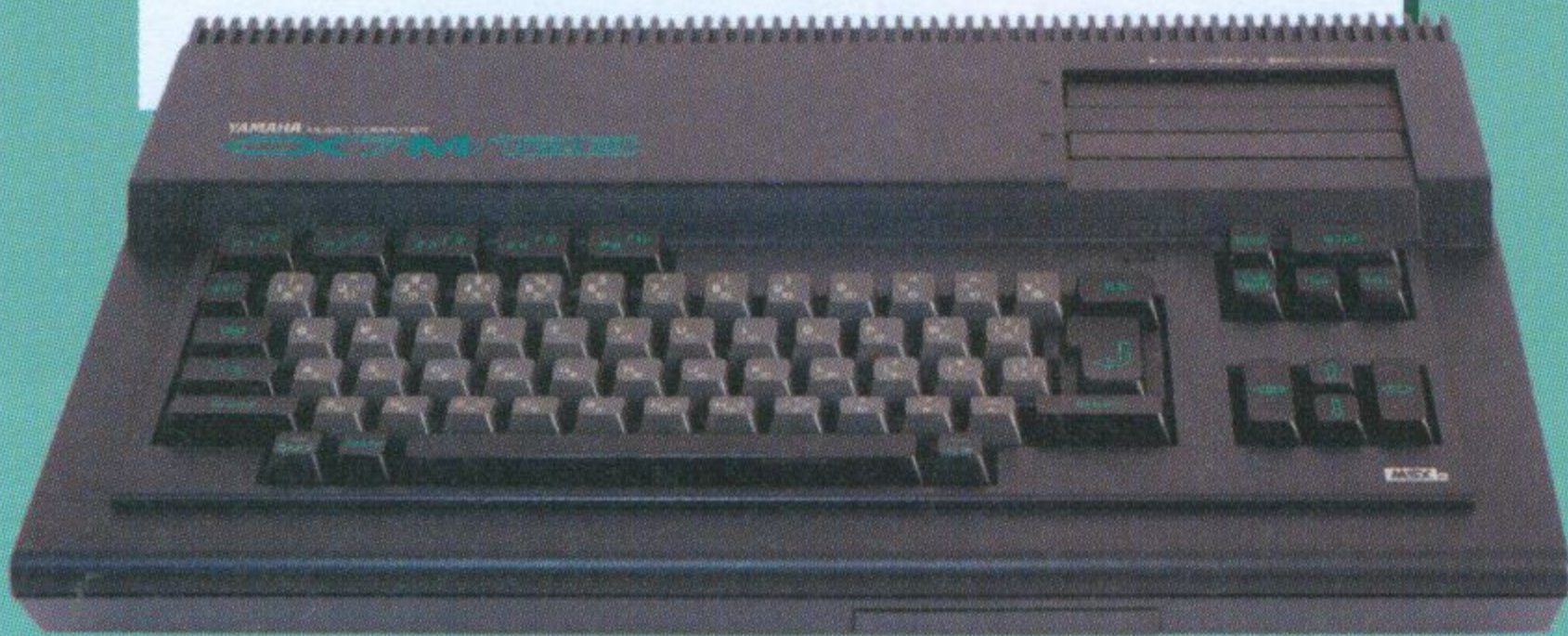
PASOPIA IQ HX-34

東芝 1985年10月発売 148,000円
PASOPIA IQの後継機。キーボードセパレート型でハイエンドという位置付けで発売された。



YAMAHA CX7M/128

ヤマハ 1985年発売 128,000円
同社のシンセサイザー、DX7のデザインやカラーをイメージしたMSX2。MIDI楽器との親和性が高かった。



HiTBiT HB-F900

ソニー 1987年発売 148,000円
プロ用映像編集用途に特化した、最強と名高いMSX2。オプションのAVクリエイター (HBI-F900) と組み合わせると多彩なビデオ編集ができる。



Melbrain's ML-G10

三菱電機 1985年9月発売 99,800円
キーボード一体型ながら独立したテンキーを装備したハイスpekMSX2。独自のグラフィックツールが付属している。



V-25

キヤノン 1985年発売 69,800円
初期MSX2では珍しいキーボード一体型の低価格モデル。ただしVRAMが少なく、動作しないゲームも多かった。



HITACHI NATIONAL PANASONIC TOSHIBA MITSUBISHI

SONY SANYO CANON

CATALOGUE

Panasonic

天下無敵のゲームキング
連射JP
つぎの強いヤツ!



あのAは強力アームを身に着けてパワーアップ、パソコンを伝へ簡単に伝へた!
A1MKII FS-A1MK2 29,800円

独立10キー装備

グラフィック

アイコン、マウス(別売)サポートで
威力を発揮。
グラフィック機能は、MSX2最高レベルのグラフィックキー、256色(256×256ピクセル)の色指定による高精細なグラフィックを実現。4096色、256色、16色、8色のモードで動作可能。4096色、256色、16色、8色のモードでグラフィック機能から選択して、BASiCや機種毎に使うことができます。高精度グラフィックを簡単に使うことができます。



通信

文字データ通信の
送受信可能。
文字データ通信は、データ通信専用ケーブルを接続して行うことができます。文字データの送受信が可能です。文字データの送受信が可能です。文字データの送受信が可能です。



高度なビジュアル操作まで可能なグラフィック機能。 データ通信を幅広くサポートする通信機能。



FS-A1F

松下電器産業 1987年11月10日発売 54,800円

3.5インチフロッピーディスクドライブ付きで5万円台という低価格を実現した名機。MSX2本格普及の足がかりとなったが、ディスクドライブの位置が不評であった。



Melbrain's ML-G30

三菱電機 1986年2月発売
model1:168,000円、model2:208,000円

ワープロから表計算、グラフィック、通信を一つに集約した「メルブレインズ・ノート」が付属しているハイエンド機。フロッピーディスクドライブの搭載数で2種類のモデルが選べる。

WAVY 25FK MPC-25FK

三洋電機
1986年12月発売
125,000円

キーボードセパレート型のハイエンドモデル。3.5インチフロッピーディスクドライブを1基搭載。



ワープロ・パソコン FS-4600F

松下電器産業 1986年発売 158,000円

ワープロソフトが付属したMSX2だが、外観は完全にワープロそのもの。同社のワープロ事業部からいくつかのバリエーションが発売されていた。



テレコム ステーション ML-TS2H

三菱電機
1987年発売
75,000円

モデムと電話を内蔵したMSX2でもユニークな機種。通常の電話はもちろん、アドレス帳機能まで備えている地味に優れた使い勝手だ。



ちょっとナニすると、意外なコトができるんだね。



MSX2は、大容量、高解像、多彩なカラーワンランクアップの高性能を、使いこなせ。

MSX2の大容量は、大容量のRAMと大容量のディスクドライブによる。高解像度は、高解像度のディスプレイと高解像度のグラフィックカードによる。多彩なカラーは、多彩なカラーのディスプレイと多彩なカラーのグラフィックカードによる。

WAVY 23

PHC-23 標準価格 125,000円

おもしろい、すごい、楽しい、パソコン通信。
パソコン通信の楽しさを伝えるために、MSX2の通信機能を紹介する。MSX2の通信機能は、モデムと電話を内蔵したML-TS2Hや、ネットワークを接続できるML-G30など、様々な機種が用意されている。

MSX2の多彩なCGは、グラフィックカードを使ってディスプレイに映し出される。MSX2のグラフィックカードは、高解像度のグラフィックカードと多彩なカラーのグラフィックカードがあり、高解像度のグラフィックカードと多彩なカラーのグラフィックカードを同時に搭載している機種もある。

SANYO
MSX PERSONAL COMPUTER
PHC-77

得意課目は漢字です。

ワープロ・パソコン
MSX PERSONAL COMPUTER
WAVY 77
PHC-77 標準価格 158,000円

MSX2に横スクロールと自然画モードを追加

MSX2+



写真は、ソニー HB-F1XDJ 1988年10月21日発売 69,800円

「3」ではなく
「2+」?

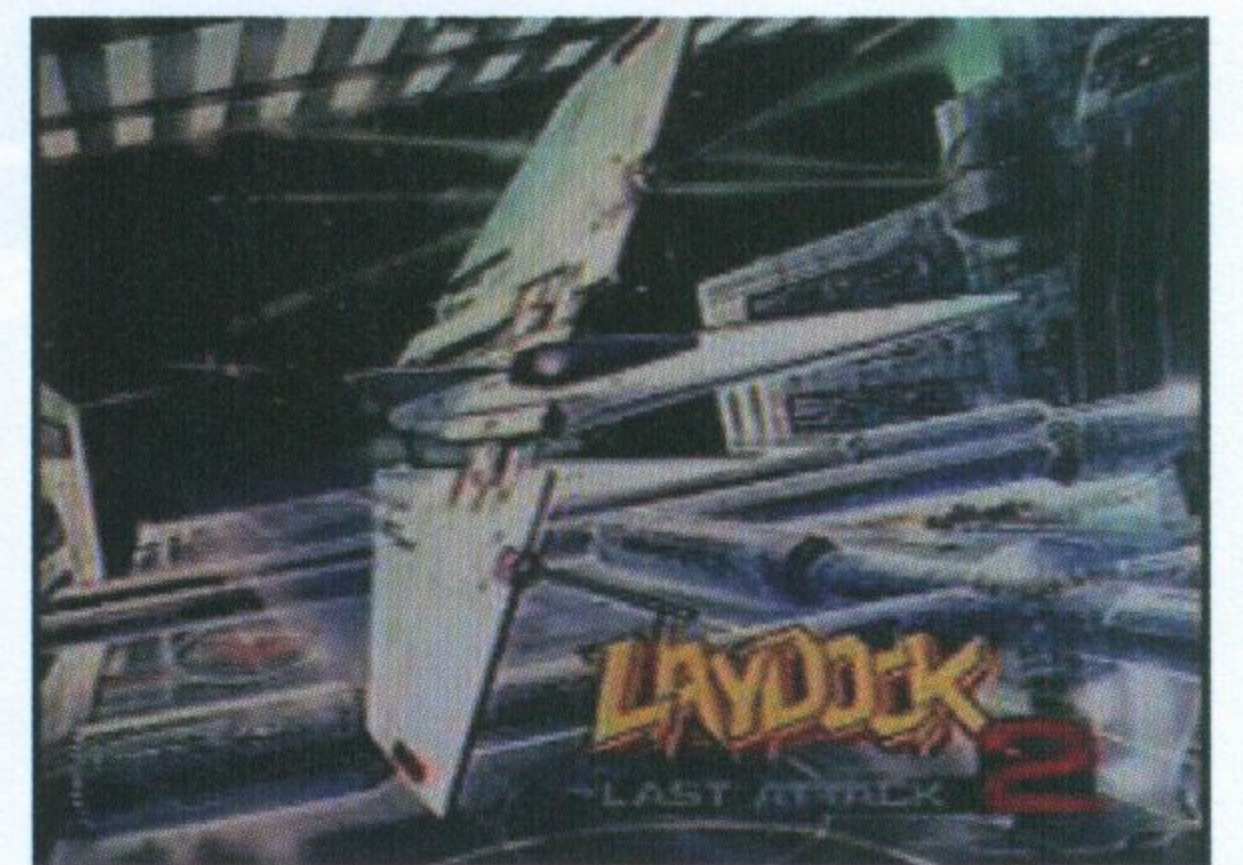
MSX2+はMSX2 からさらにグラフィック面を強化した拡張規格である。縦スクロールだけでなく横方向へのスクロールも可能となり、また自然画モードの追加により19268色同時発色が可能になった。しかし、あえてMSX3とせず「2+」と表記している点からも劇的な進化ではない中途半端な感じが

否めない。

この頃になるとハードメーカーも目ぼしい機能は搭載しつくした感があり、ハードウェアで差別化というより付属ソフトで特徴を出すメーカーが多くなっていった。お絵描きソフトやワープロ、BASICコンパイラなど、無料で付けるには過ぎたソフトウェアを添付するケースも多く、結果、「コストパフォーマンスの良いホビーパソコン」という位置付けでユーザーのニーズ

をつかむことに成功した。

ソフトウェア面でもこの時期、各ソ



▲MSX2+のキラータイトルとして投入された『レイドック2』(T&Eソフト)。自然画や横スクロール機能を使用している。

MSX2+基本仕様

CPU	MSX-ENGINE2 (Z80A互換) 3.58MHz
ROM	48Kバイト (MSX-BASIC ver2.0)、MAIN-ROM 32Kバイト SUB-ROM 16Kバイト、第一水準漢字ROM
RAM	64Kバイト、VRAM128Kバイト
グラフィック機能	テキスト表示: 80字×24行 グラフィック表示: 最大512×212ドット・最大12,499同時発色 スプライト表示: 32スプライト/画面、8スプライト/ライン・最大512色中16色表示 グラフィック機能: ハードウェアスクロール、パレット
サウンド出力	PSG音源 8オクターブ3重和音 (AY-3-8910相当)
インターフェース	RF出力、コンポジットビデオ、アナログRGB、モノラル音声、 ジョイスティック×2、カセットテープ、プリンター、カートリッジスロット



■本体背面



■キーボード

フトメーカーのテクニック面は十分に成熟しており、MSX2+専用のもので多くなかったものの、技術面でこなれた名作タイトルが数多く発売された。

MSX2+ MODEL VARIATION

FS-A1WSX

松下電器産業
1989年10月発売 69,800円
この頃のパンソニックは円熟の域に達しており、デザインにも安定感があった。



WAVY PHC-70FD

三洋電機
1988年11月4日発売 64,800円
BASICをマシン語に変換するコンパイラが付属。入門プログラム用途に最適。



HB-F1XV ソニー
1989年発売 69,800円
HB-F1XDJの後継モデル。シンセサイザーやグラフィックツール、ワープロなど付属ソフトが充実。



CATALOGUE

Panasonic
Human Electronics

MSX2+ パソコン
A1カタログ'88-10

賢く遊ぶ、トロン遊ぶ、面白さ倍増のニューA1、登場。



縦横スクロールに、臨場感いっぱいの絵、そして音。MSX2+なら、ゲームの迫力にブツブツ!

FM音源搭載/本格ワープロ機能も充実

FS-A1WX 標準価格69,800円
速射、ゲームポーズ機能搭載!

FX FS-A1FX 標準価格57,800円

この動きに、ついていけない! 縦横スクロールの高速スクロールや、多彩な色調による多彩なグラフィックが、あらゆるゲームに可能になった。A1搭載のニューA1の登場に、期待を!

MSX2+対応(自然画表示)ソフトも、続々登場!

機種名	標準価格	特徴
FS-A1WX	69,800円	FM音源搭載、本格ワープロ機能、速射機能、ゲームポーズ機能
FX FS-A1FX	57,800円	FM音源搭載、ワープロ機能

MSX2+対応(自然画表示)ソフトも、続々登場!

買ったその日から楽しめる付属ソフトがうれしい!

COなんて聞かない! ダラダラゲーム

買って楽しい、新しい! スムーズキーボード(サンプル)

●ワコーズ「ワコーズ」の管理(知能化、教育、防災)に関するソフトウェアも、A1搭載のニューA1で、ぜひお試しください。

MSXが16ビットに進化! シリーズの最終進化形

MSXturboR



写真は、松下電器産業 FS-A1ST 1990年10月発売 87,800円

念願だった 16ビットCPU搭載

MSXturboR(ターボアール)は1990年に制定された最後のMSX規格である。turboR規格の機種は松下電器産業1社から2機種発売されるだけにとどまった。

大きな特徴は、アスキーが開発したZ80の上位互換16ビットCPU、R800を

搭載した点で、これにより16ビットパソコンへと進化を遂げた。その結果、それまでMSXの泣き所だった処理速度面が一気に改善され、A1GTに添付されている『MSX View』ではそのパワーを実感することができた。

一方、MSX1からMSX2+までのソフトとの互換性を維持するためにZ80A相当品も併せて搭載されている。この2つのCPUは起動時にソフト切り替えを行っ

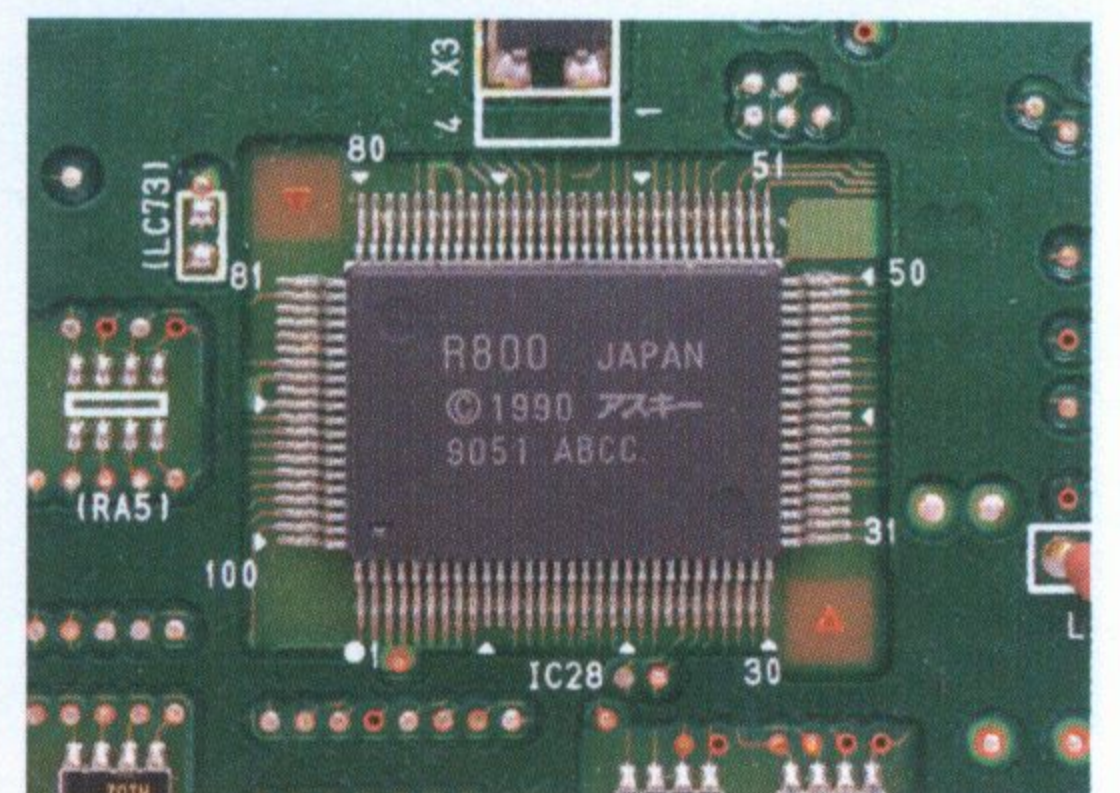
ているため、同時に利用することはできない(turboR専用以外の旧ソフトを起動した場合はZ80Aで動作する)。なお、グラフィック性能はMSX2+のものがそのまま引き続き採用されている。

8ビットPCMが 搭載された

サウンド機能はMSX2+から引き続いて搭載されたMSX-MUSICに加えて8

MSXturboR基本仕様

CPU	MSX-ENGINE2(Z80A互換)3.58MHz+R800 7.6MHz
ROM	160Kバイト
RAM	256Kバイト以上
グラフィック機能	テキスト表示:80字×24行 グラフィック表示:最大512×424ドット・最大12499同時発色 スプライト表示:32スプライト/画面、8スプライト/ライン・最大512色中16色表示 グラフィック機能:ハードウェアスクロール、パレット
サウンド出力	PSG音源 8オクターブ3重和音(AY-3-8910相当) FM音源 9重和音、もしくは6重和音 + ドラムセット5音(YM2413) PCM音源 8ビット(モノラル)
インターフェース	コンポジットビデオ、アナログRGB、モノラル音声、ジョイスティック×2、プリンター、カートリッジスロット



▲MSXturboRの基板上に鎮座しているR800。



■本体背面



■キーボード

ビットPCM音源が搭載され、デジタル録音が可能になった。しかし再生時にCPUの機能を占有するため、他の処理と並列には扱えず、マイクロキャビン

の『プリンセスメーカー』でゲーム中の肉声を再生するなど、ごくわずかな使用例がある程度にとどまった。

MSXの最終モデルで帝王然とした

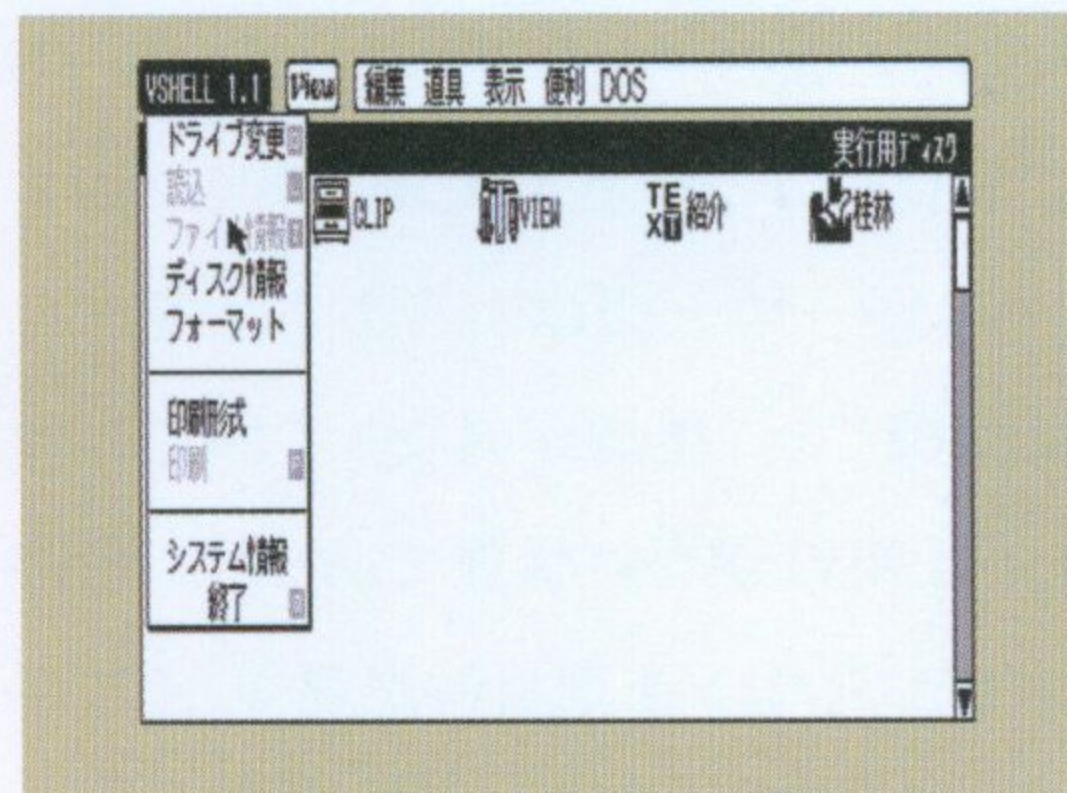
MSXturboR
MODEL VARIATION

FS-A1GT

松下電器産業

1991年11月1日発売 99,800円

専用シェル『MSX-VIEW』を搭載してマウスでファイル操作ができるほか、MS-DI端子まで備えている。歴代のMSXの中で頂点と言える。



▲FS-A1GTに内蔵されている「MSX View」。ついにMSXにも、マウスオペレーションのGUI環境が搭載された!

風格があるためか、現在でもオークションでは高値で取引されている。

◆ CATALOGUE

Panasonic
MSX パソコン
カタログ'91-2

Human Electronics

MSX turbo R

スーパーターボ
A1ST

パワーが炸裂する

新開発
ハイパワーエンジン
16ビットCPU R800搭載
A1スーパーターボ登場

話題のGUIをMSXで体験できる

MSX View
マウスとマイコンを使って、難しい操作もラクラク

今、パソコンの世界で大変なGUI(グラフィカル・ユーザーインターフェイス)革命が起きている。MSX Viewは、その最先端の技術を集めて、MSXに搭載された。MSX Viewは、従来のMSXのGUIと比べて、マウスでファイル操作ができる。MSX Viewは、従来のMSXのGUIと比べて、マウスでファイル操作ができる。MSX Viewは、従来のMSXのGUIと比べて、マウスでファイル操作ができる。

16ビットの
技がそろう

MSX turbo R パソコン
FS-A1GT #99,800円

View TED
View DRAW
View PAINT

Page BOOK

ホビーパソコンの歴史を振り返る四方山コラム

MSX14社連合による 空前のリターンマッチの結末は？

共通規格 実現への野望

MSXとはWindowsが誕生するはるか前に、パソコン市場の統一を図ろうと企画された共通企画である。現在でも複数のOSが存在しており相互にアプリの互換性がない状態だが、昔のパソコンではメーカー間はおろか下手をすれば機種ごとに仕様が異なり、ソフトの互換性がない状態であった。当時はまだパソコン市況自体が混沌としており、誰が覇権を握るでもなく群雄割拠していた時代だったのである。

そのような状況はメーカー自身もハード開発のみならずソフトのラインナップ拡充というリスクを抱えることになる上、ユーザーにとっても自分が所有している機種のソフト供給がメーカーの都合で簡単に打ち切れかねない不安がつきまとう。ソフトハウスもソフト供給先ハードを見誤ればせっかく開発したソフトがまったく売れないという事態を引き起こしかねなかったのである。

そのような状況を憂いた西和彦率いるアスキーが乗り出したパソコンの規格統一という大きな野望、それがMSXというわけだ。

安くて手軽に 使えるパソコン

前項でも述べた通り、共通規格の存在はパソコンに関わる全ての人間にとってメリットが大きい。MSXの規格を各社に打診をしたところ、あっという間に多

数のメーカーから興味ありの回答を得ることができた。なお、アスキーが掲げたMSX規格を策定するにあたり必要な要件は以下の通りである。

- ①価格は求めやすいように5万円前後にすること。
- ②開発技術やコストに左右されないように、安価な市販VDPを使用すること。
- ③家庭用のテレビに接続できること。
- ④基本的なソフトや拡張ハードの供給媒体としてカートリッジスロットを使用すること。

これらを満たす形で設計が煮詰められていき、MSXの最初の規格が完成したのである。

14社による MSX規格発足

1983年10月に世界最初のMSX規格、三菱電機のML-8000が発売された。この時点での参加メーカー数は14社。NEC、シャープ、富士通のパソコン御三家も参加した実に華々しいスタートであった。なお、それ以外のメーカーは第2章で紹介した面々で、一度自社規格パソコンから撤退したものの、もう一度再参入というリターンマッチの様相を見せていた。

しかし、MSX規格立ち上がり直後に突然パソコン御三家の3社はMSX陣営から降りてしまう。自社商品と競合するためというのが理由だが、富士通は1機種のみ発売、NECとシャープに至っては1機種も発売していない状態での撤退だったためあっけにとられるばかりで

あった。結果、御三家を失ったMSX陣営は御三家メーカーに対する弱者連合の様相を呈してしまった。

次第に先細り 次々と脱落へ

それでも、大手家電メーカーが多数参入している安心感と、共通企画ゆえに簡単にソフト供給が途絶える心配はないというユーザー側の心理が働き、一定の支持を得ることに成功した。ソフトメーカーからの積極的なソフト供給も相まって立ち上げから2年強で100万台出荷を達成し、まずまずの成功を収める。しかし、西和彦の中で誤算だったのは、MSXがゲームを中心とした玩具色の強いパソコンというイメージが付いてしまったことであった。

本来の思惑は家庭で共通で使える「家庭内端末としてのコンピューター」であり、ゲームはむしろ子供を呼び込むための方便に過ぎなかった。結局、MSX立ち上げからわずか2年でMSX2規格を立ち上げることになったのである。

このように足並みが揃わぬ右往左往を見せながらもMSXはホビーパソコン市場の一角で存在感を見せ続けたが、NECのPC-8801、PC-9801が市場を席卷していくにつれ旗色は悪くなっていく。パソコン事業にメリットを見いだせなくなったメーカーが次第に脱落してゆき、最終的に残ったのは松下1社のみとなり、松下もMSXturboR規格を2機種発売して1995年に撤退。12年に渡ったMSXの歴史は幕を閉じたのである。

付録

ホビーパソコン スペック比較表

HOBBY PERSONAL COMPUTER CATALOGUE CHAPTER EX

ホビーパソコンスペック比較表

ページ	機種名	メーカー	CPU	動作周波数	メインメモリ
6	TK-80	日本電気	8080A	不明	512バイト
8	PC-8001	日本電気	Z80A	4MHz	16Kバイト
10	PC-8801	日本電気	Z80A	4MHz	64Kバイト
12	PC-6001	新日本電気	Z80A	4MHz	16Kバイト
14	PC-6001mkII	新日本電気	Z80A	4MHz	64Kバイト
16	PC-6601	新日本電気	Z80A	4MHz	64Kバイト
18	PC-8801mkII	日本電気	Z80A	4MHz	64Kバイト
20	PC-8801mkIIISR	日本電気	Z80A	4MHz	64Kバイト
24	PC-88VA	日本電気	V30	8MHz	512Kバイト
26	PC-9801VM	日本電気	V30	8MHz	384Kバイト
30	PC-98DO+	日本電気	V33A	16MHz	640Kバイト
32	MZ-40K	シャープ	MB8843	1.7897725MHz	32バイト
34	MZ-80K	シャープ	Z80A	2MHz	48Kバイト
36	MZ-700	シャープ	Z80A	3.58MHz	64Kバイト
38	MZ-1500	シャープ	Z80A	3.58MHz	64Kバイト
40	MZ-2000	シャープ	Z80A	4MHz	64Kバイト
42	スーパーMZ	シャープ	Z80B	6MHz	128Kバイト
44	パソコンテレビ X1	シャープ	Z80A	4MHz	64Kバイト
48	X1turbo	シャープ	Z80A	4MHz	64Kバイト
50	X1turboZ	シャープ	Z80A	4MHz	64Kバイト
52	X68000	シャープ	68000	10MHz	1Mバイト
56	X68030	シャープ	68EC030	25MHz	4Mバイト
58	FM-8	富士通	6809	1.2MHz	64Kバイト
60	FM-7	富士通	6809	8MHz	64Kバイト
62	FM-77	富士通	6809	2MHz	64Kバイト
64	FM77AV	富士通	6809	2MHz	128Kバイト
68	FM TOWNS	富士通	80386	16MHz	1Mバイト
72	ベーシックマスター	日立製作所	6800	750KHz	8Kバイト
74	ベーシックマスター Jr.	日立製作所	6885	750KHz	16Kバイト
76	ベーシックマスターレベル3	日立製作所	6809	1MHz	32Kバイト
78	S1	日立製作所	68B09	2MHz	48Kバイト
82	JR-100	松下通信工業	6802	890KHz	16Kバイト
84	JR-200	松下通信工業	6802	1.366MHz	32Kバイト
86	PHC-25	三洋電機ビジネス機器	Z80A	4MHz	16Kバイト
88	PASOPIA	東芝	Z80A	4MHz	64Kバイト
91	PASOPIA7	東芝	Z80A	4MHz	64Kバイト
94	MULTI8	東芝	Z80A	4MHz	64Kバイト
96	FP-1000	カシオ計算機	Z80A	4MHz	32Kバイト
98	SMC-70	ソニー	Z80A	4.028MHz	48Kバイト
101	SMC-777	ソニー	Z80A	4.028MHz	64Kバイト
106	ぴゅう太	トミー	TMS9995	10.738MHz	16Kバイト
109	M5	ソード	Z80A	3.58MHz	4Kバイト
112	RX-78	バンダイ	Z80A	4.1MHz	30Kバイト
114	PV-2000	カシオ計算機	Z80A	3.58MHz	4Kバイト
116	ファミリーベーシック	任天堂	6502	1.79MHz	2Kバイト
120	SC-3000	セガ・エンタープライゼス	Z80A	3.58MHz	18Kバイト
123	テラドライブ	セガ・エンタープライゼス	80286+68000+Z80A	10MHz	640Kバイト
128	MSX	アスキー	Z80A	3.58MHz	8Kバイト
132	MSX2	アスキー	Z80A	3.58MHz	64Kバイト
136	MSX2+	アスキー	Z80A	3.58MHz	64Kバイト
138	MSXturboR	アスキー	Z80A	3.58MHz	256Kバイト

このページでは本書で紹介したホビーパソコンのスペックを簡単な表にまとめたものである。オプションや後続機種で対応しているスペックは記述せず、「初代機のスペック」であることに注意されたい。

表示文字数	画面解像度	表示色数	サウンド機能	カセット	フロッピー	ROM	カナ	漢字
7セグメントLED8桁	—	—	—					
80文字×25行	160×100ドット	8色	BEEP	●	●		●	
80文字×25行	640×400ドット	8色	BEEP	●	●		●	
32文字×16行	256×192ドット	9色	PSG3音	●		●	●	
40文字×20行	320×200ドット	15色	PSG3音	●	●	●	●	●
40文字×24行	320×200ドット	15色	FM3音+SSG3音		●		●	●
80文字×25行	640×200ドット	8色	—	●	●		●	●
80文字×25行	640×400ドット	512色中8色	FM3音+SSG3音		●		●	●
80文字×25行	640×400ドット	65,536色	FM3音+SSG3音		●		●	●
80文字×25行	640×400ドット	4,096色中16色	BEEP		●		●	●
80文字×25行	640×400ドット	4,096色中16色	FM6音+SSG3音+リズム8音+ADPCM1音		●		●	●
7セグメントLED4桁	—	—	BEEP	●				
40文字×25行	—	グリーン	BEEP	●			●	
40文字×25行	—	8色	BEEP	●			●	
40文字×25行	320×240ドット	8色	DCSG6音+ノイズ2音	●	QD		●	
80文字×25行	640×200ドット	8色	BEEP	●	●		●	
80文字×25行	640×400ドット	16色	FM3音+SSG3音		●		●	●
80文字×25行	640×200ドット	8色	PSG3音	●	●		●	
80文字×25行	640×400ドット	8色	PSG3音	●	●		●	●
80文字×25行	640×400ドット	4,096色	PSG3音+FM8音		●		●	●
768×512ドット	768×512ドット	65,536色	FM8音+ADPCM1音		●		●	●
768×512ドット	768×512ドット	65,536色	FM8音+ADPCM1音		●		●	●
80文字×25行	640×200ドット	8色	PSG3音	●	●		●	
80文字×25行	640×200ドット	8色	PSG3音	●	●		●	
80文字×25行	640×200ドット	8色	PSG3音		●		●	●
80文字×25行	640×200ドット	4,096色	FM3音+SSG3音		●		●	●
640×480ドット	640×480ドット	32,768色	PSG8音+FM6音		●	CD-ROM	●	●
32文字×24行	—	モノクロ	5ビットD/A	●			●	
32文字×24行	256×192ドット	モノクロ	5ビットD/A	●			●	
80文字×25行	640×200ドット	8色	5ビットD/A	●	●		●	
80文字×25行	640×400ドット	8色	PSG3音	●	●		●	
32文字×24行	—	モノクロ	BEEP	●				
32文字×24行	64×48ドット	8色	PSG3音	●			●	
32文字×16行	256×192ドット	9色	—	●			●	
80文字×25行	640×200ドット	8色	BEEP	●	●		●	
80文字×25行	640×200ドット	8色	DCSG6音+ノイズ2音	●	●		●	
80文字×25行	640×200ドット	8色	PSG3音	●			●	
80文字×25行	640×200ドット	モノクロ	BEEP	●			●	
80文字×25行	640×400ドット	16色	BEEP		●		●	
80文字×25行	640×200ドット	16色	DCSG3音+ノイズ1音		●		●	●
40文字×24行	256×192ドット	16色	DCSG3音	●		●	●	
40文字×24行	256×192ドット	16色	DCSG3音+ノイズ1音	●		●	●	
24文字×23行	192×184ドット	27色	DCSG3音	●		●	●	
32文字×24行	256×192ドット	16色	PSG3音+ノイズ1音	●		●	●	
32文字×30行	256×240ドット	52色	矩形波2音+三角波1音+ノイズ1音	●			●	
40文字×24行	256×192ドット	16色	DCSG3音+ノイズ1音	●	●	●	●	
640×480ドット	640×480ドット	16色	FM6音+PSG3音+ノイズ1音		●	●	●	●
40文字×24行	256×192ドット	16色	PSG3音	●	●	●	●	
80文字×24行	512×212ドット	256色	PSG3音	●	●	●	●	●
80文字×24行	512×212ドット	12,499色	PSG3音		●	●	●	●
80文字×24行	512×424ドット	12,499色	PSG3音+FM9音+ドラム5音+PCM1音		●	●	●	●

あとがき

もう7年の前の話になるが、「ホビーパソコン興亡史」と「懐かしのホビーパソコンガイドブック」という2冊の本を立て続けに書いたことがある。出版の世界ではパソコン関係の本というと技術書や専門書のことを指し、読み物やムックという形ではまず売れないという先入観があった。

そんなわけでパソコン本を企画するのはかなり難儀ではあるのだが、苦勞して企画が通ってくれた甲斐あって、大方の予想に反して概ね好評で迎えられた。これはひとえに本を買ってくださった皆様のお力によるものであり、あらためて深くお礼を申し上げたいと思う。

こういった前例ができる人間は実に現金なもので、以後はそれほど苦勞せ

ずにいくつかのパソコン本を書かせていただいている。今回の本もそんな流れで実現したものであり、ちょっと前までは考えられなかったほどである。

本書の内容はすでにお気づきのことと思うが、私が過去に作った「懐かしのホビーパソコンガイドブック」のリメイクである。以前は幕の内的な楽しみ方をしてもらうために企画記事を多めに扱う方針で作ったのだが、今回は判型をパーフェクトカタログシリーズと同じくB5にしたため、それを活かすために写真を細部まで見てもらうことに重きを置いた。特に前回はできなかったキーボードレイアウトや背面端子周りをすべて掲載したため、ほとんどの機種は新たに写真を撮り直している。

コンセプトとしては「当時に各社の主だったパソコンを比較検討できるカタログがあれば参考になったのになあ」という理由から来ており、本書のタイトルも「あの頃欲しかったホビーパソコンカタログ」とした。また今回は過去の出版物に比べて各機種のカタログ画像を幾分大きめに掲載してみた。その分、ページ数の都合でトータルの掲載カタログ点数を減らさざるを得なかったが、なんとか目を凝らせばある程度読めると思うので当時の雰囲気を楽しんで欲しい。

さて、これで本書の作業は一段落したわけで、次はどんなパソコン本を作ろうかな？

2021年6月 前田尋之

G-MOOK200

あの頃欲しかったホビーパソコンカタログ

監修・前田 尋之

2021年7月29日 第一刷発行

- 発行人 日下部 一成
- 編集人 田村 耕士
- 監修 前田 尋之
- 編集スタッフ 稲波 寛和、松田 有加、渡辺 充好
- 編集協力 xbee、柏木るざりん、けんたろ、紅 皐月、佐々木 憲、Fu-
- 発売元 株式会社ジーウォーク
〒153-0051 東京都目黒区上目黒 1-16-8 Yファームビル6F
電話：03-6452-3118（営業部） 03-5287-5623（編集部）
- 編集 株式会社チアソル
- 印刷 三共グラフィック株式会社
- 製本 株式会社セイコーバインダリー

Printed in Japan

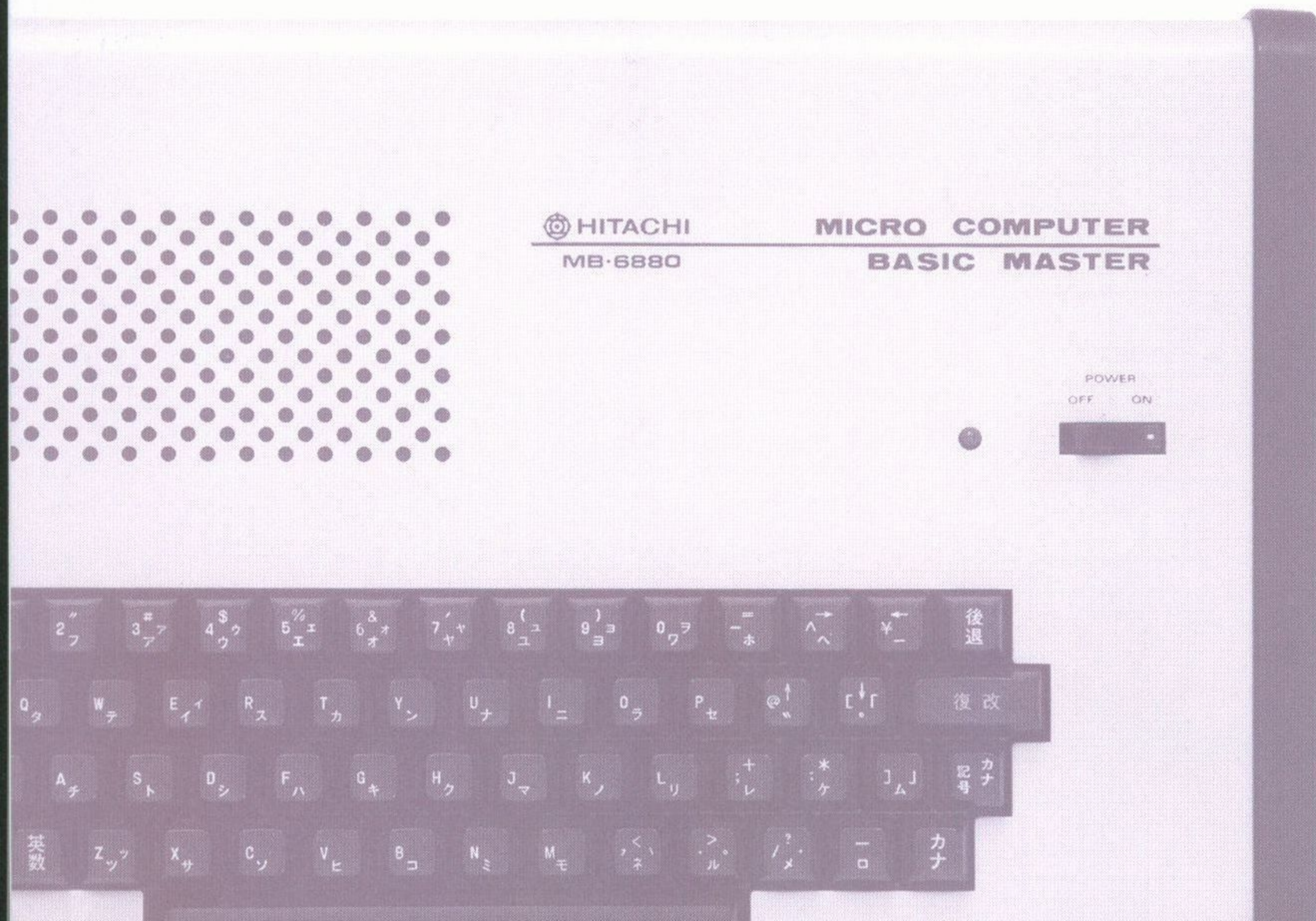
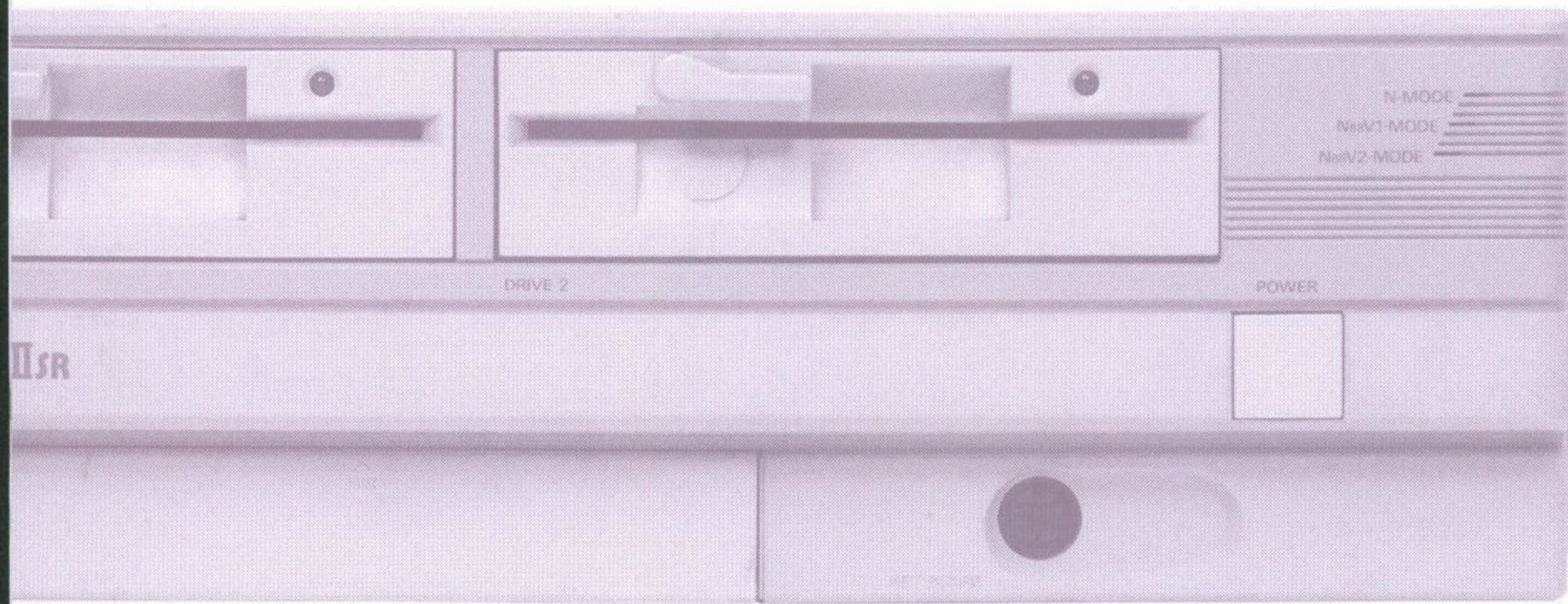
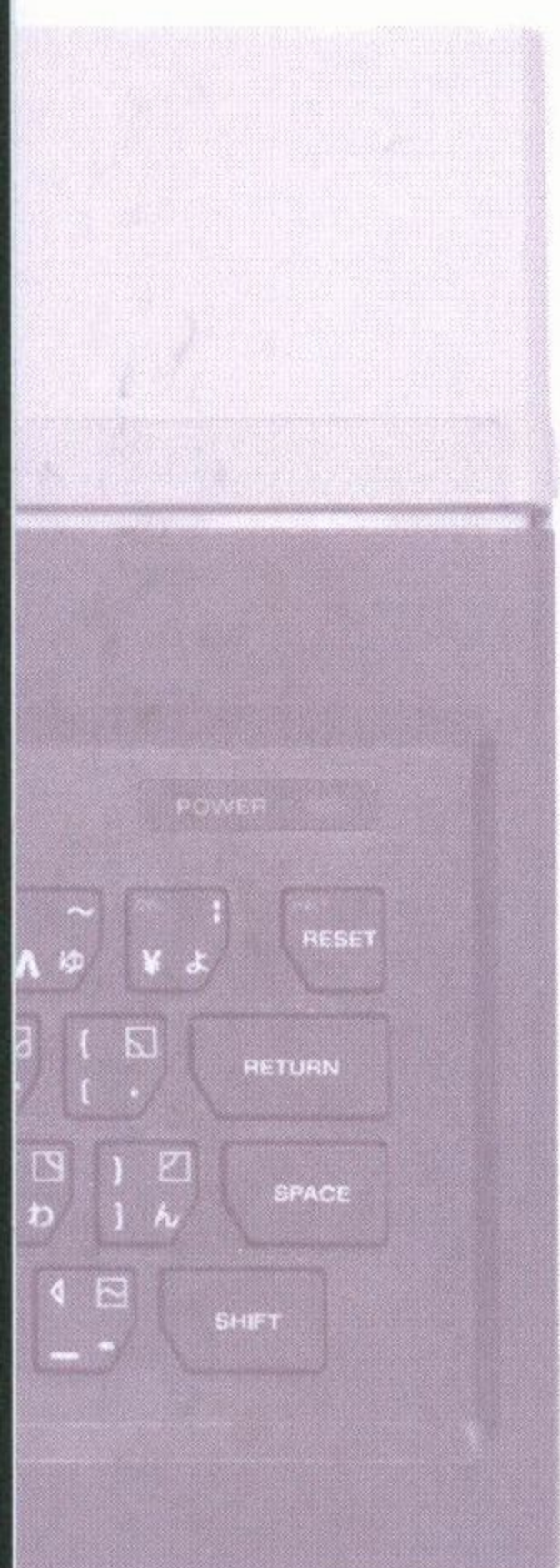
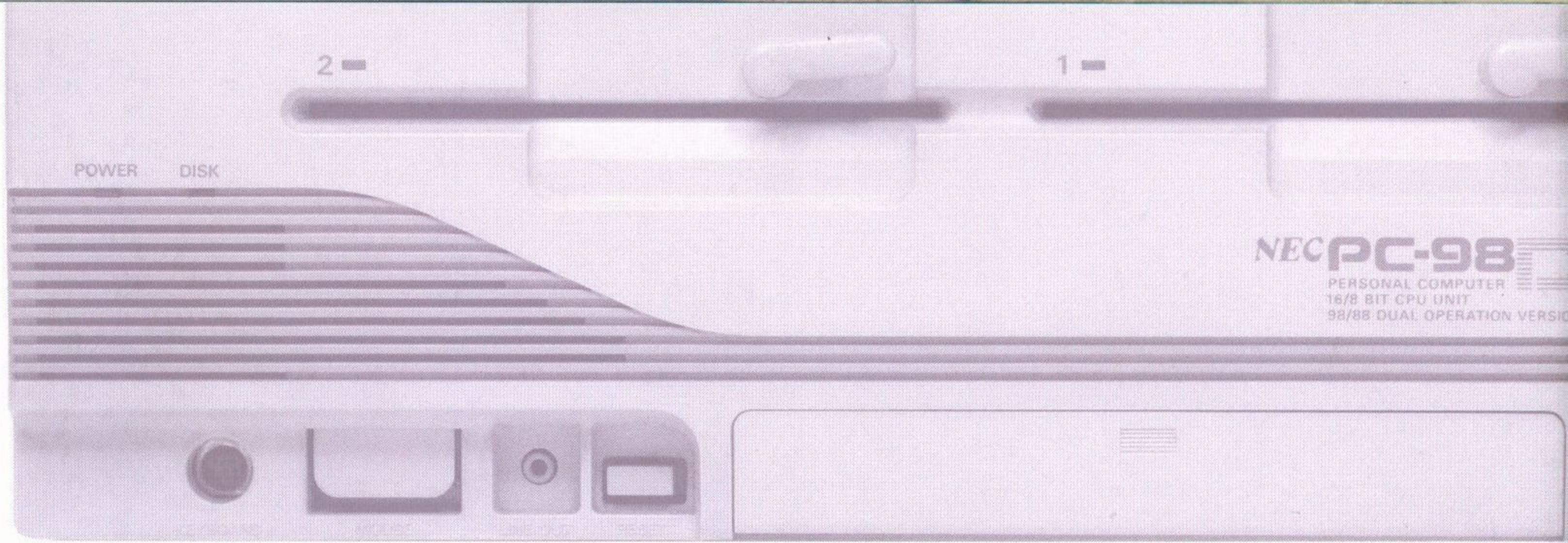
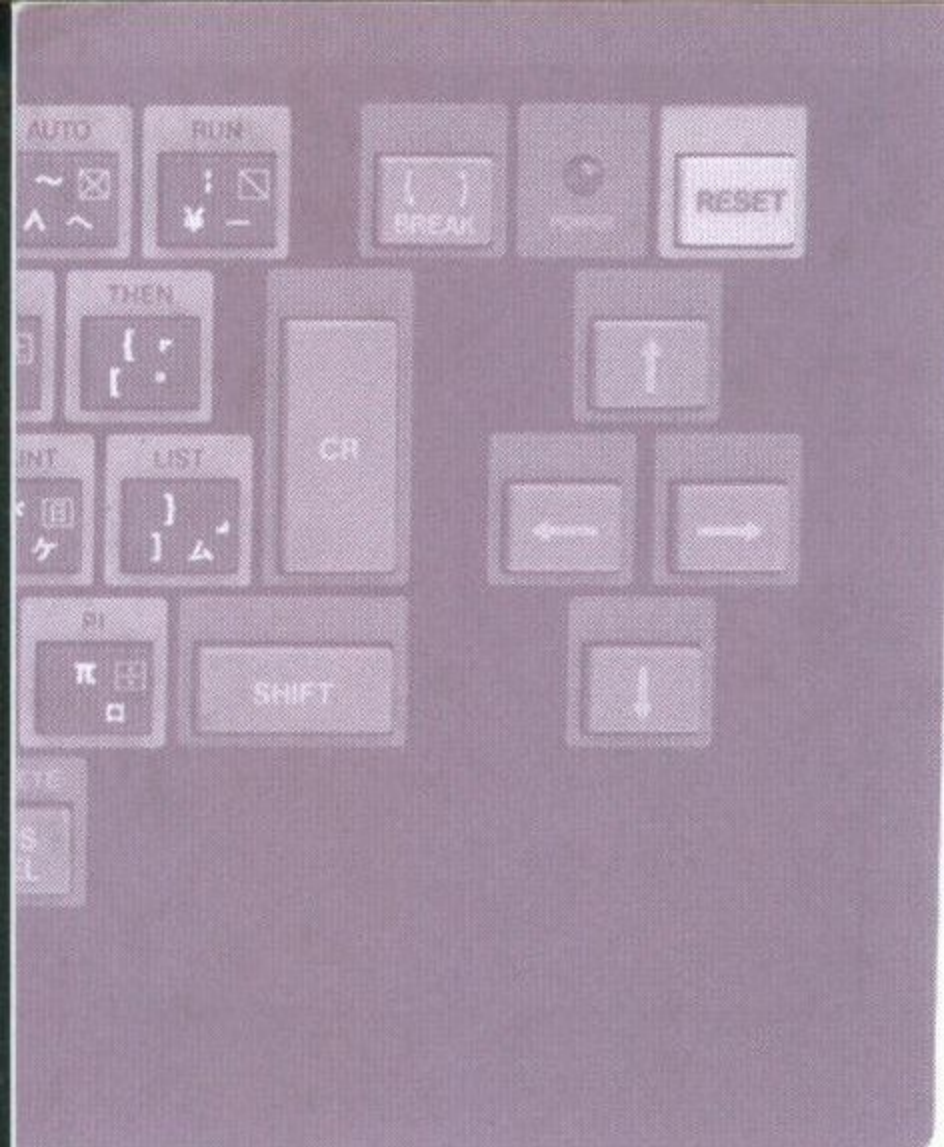
©G-WALK PUBLISHING.co.,ltd.

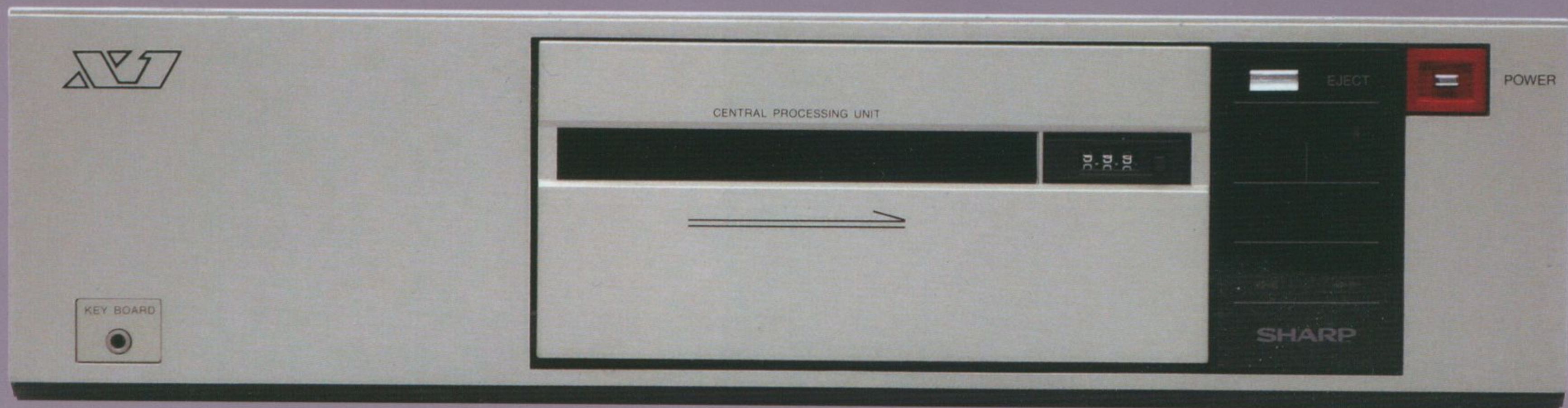
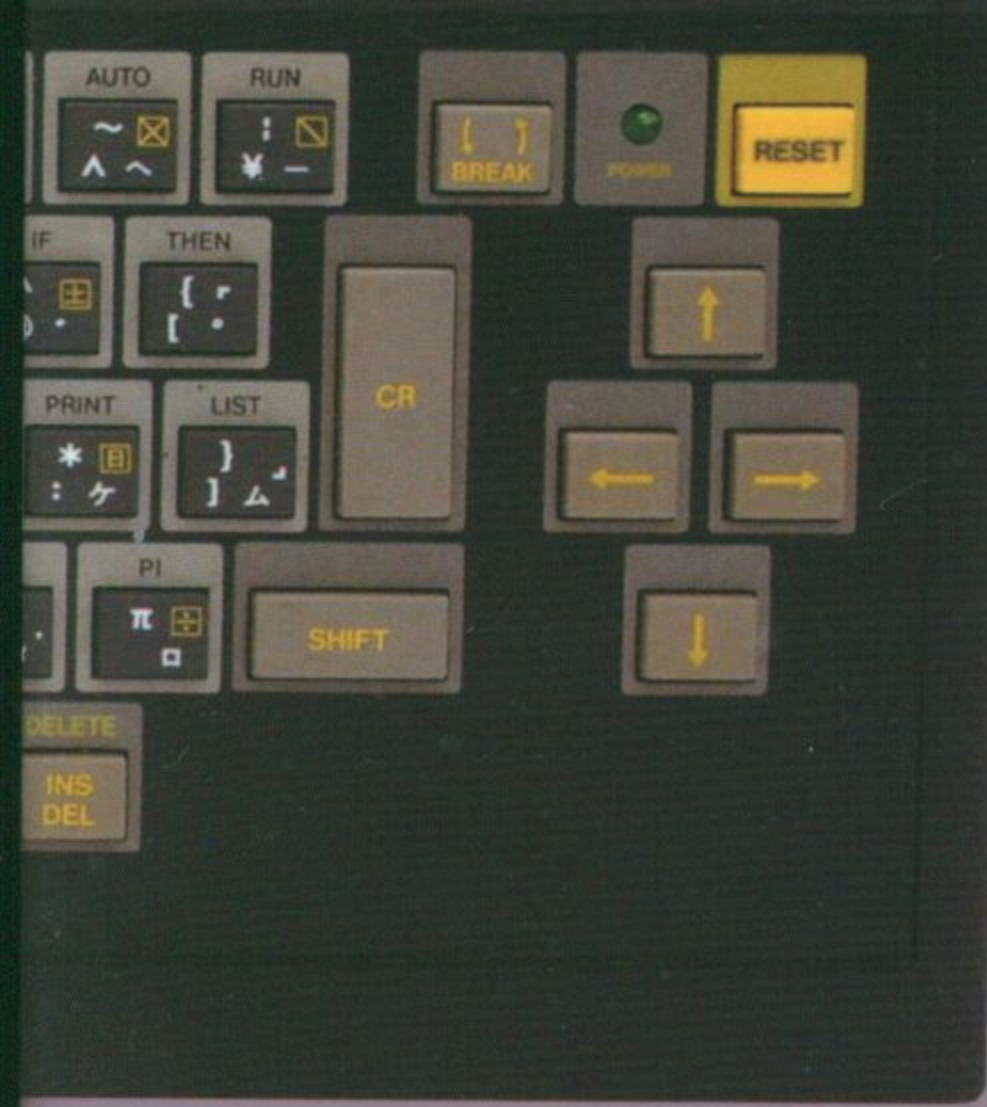
©2021 CHEERSOL Inc.

ISBN978-4-86717-041-0

◎乱丁本、落丁本はお取り替え致します。

◎著作権上の引用の例外を除き、本誌掲載記事・イラスト・写真等の無断転載・複製を禁じます。





1970年代後半から1990年にわたって発売された個性的な機種の数々。
 シリーズ、派生モデルも含めて総勢100機種以上のホビーパソコンを紹介!


 9784867170410


 1929476016003

ISBN978-4-86717-041-0
 C9476 ¥1600E

定価◎ 本体 1,600円 +税
 雑誌 62913-02

発行日 / 2021年7月29日
 発売元 / (株) ジーウォーク

あの頃欲しかった
ホビーパソコンカタログ

HOBBY PERSONAL COMPUTER
CATALOGUE

前田尋之・監修
ジーウォーク

あの頃欲しかった

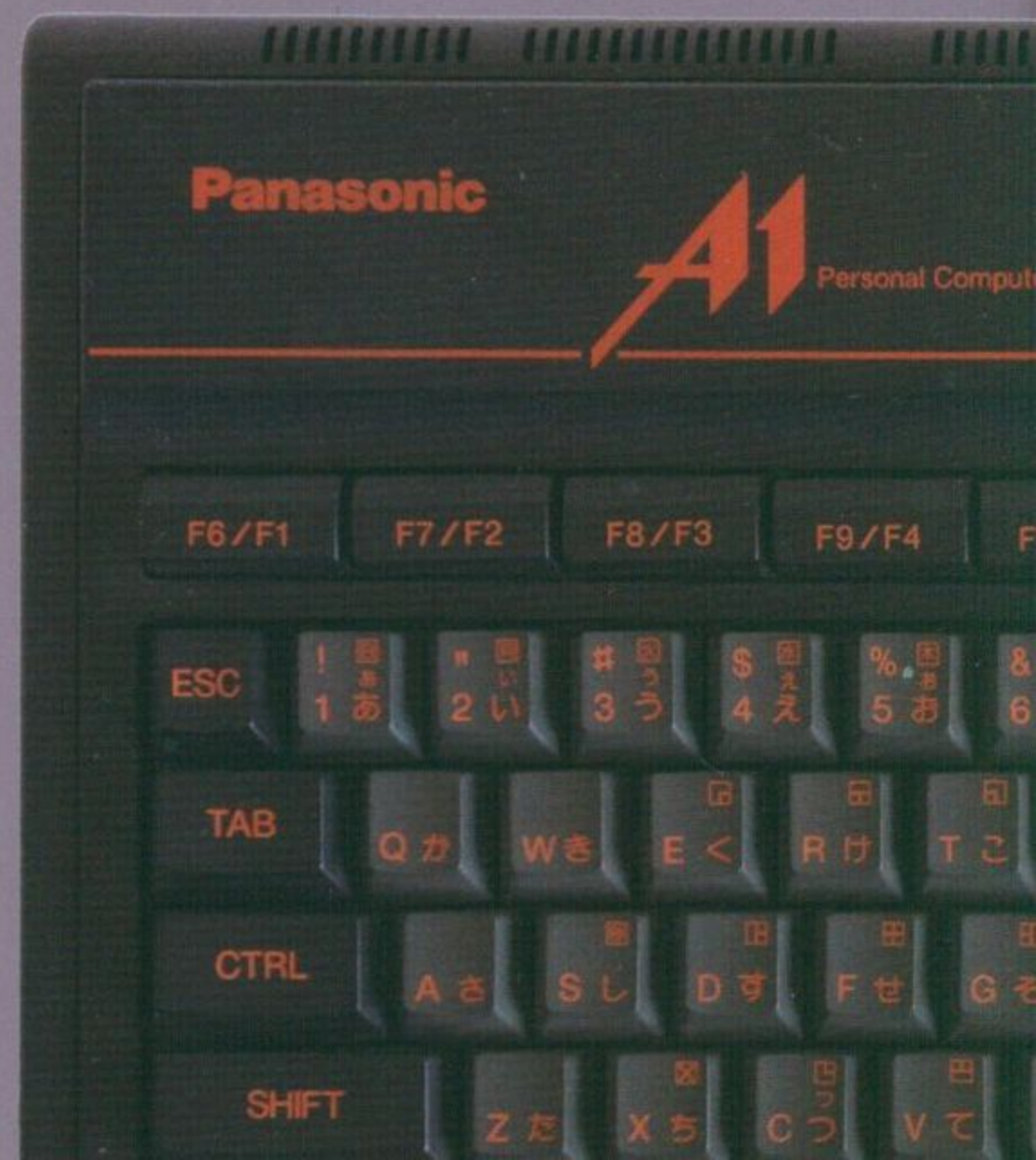
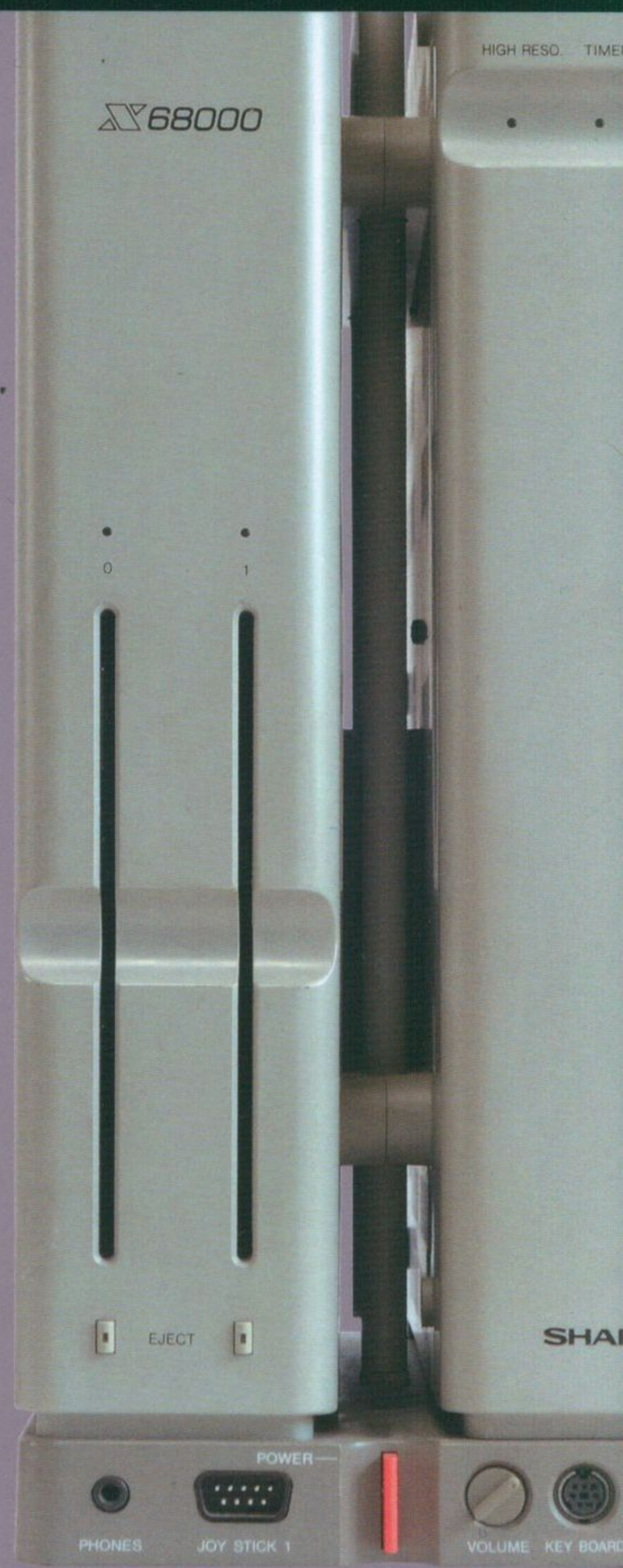
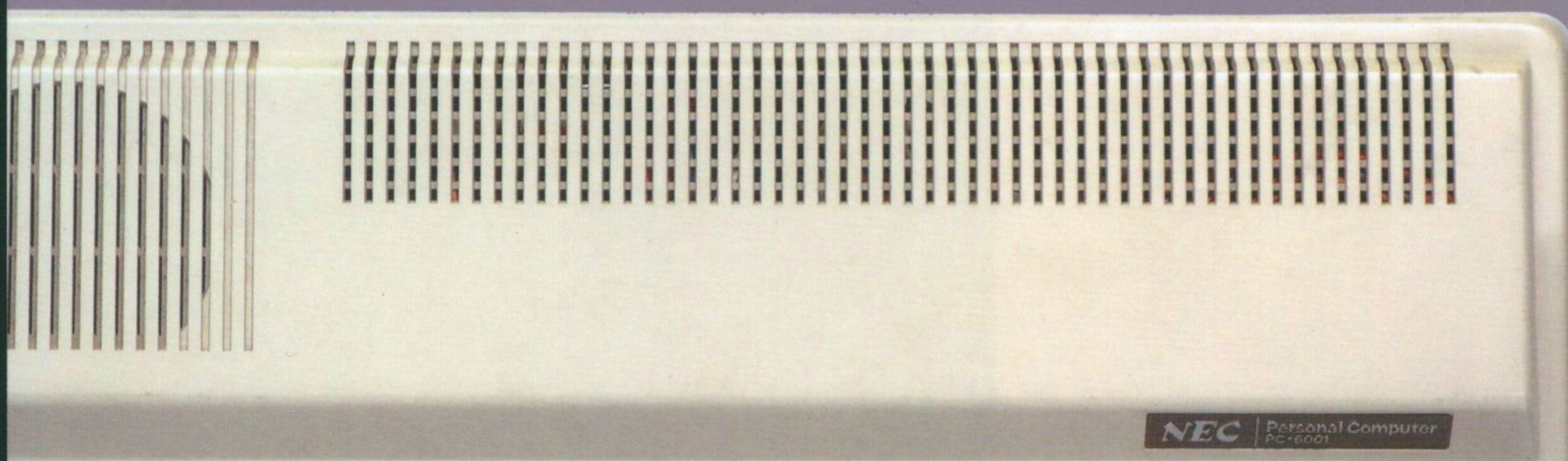
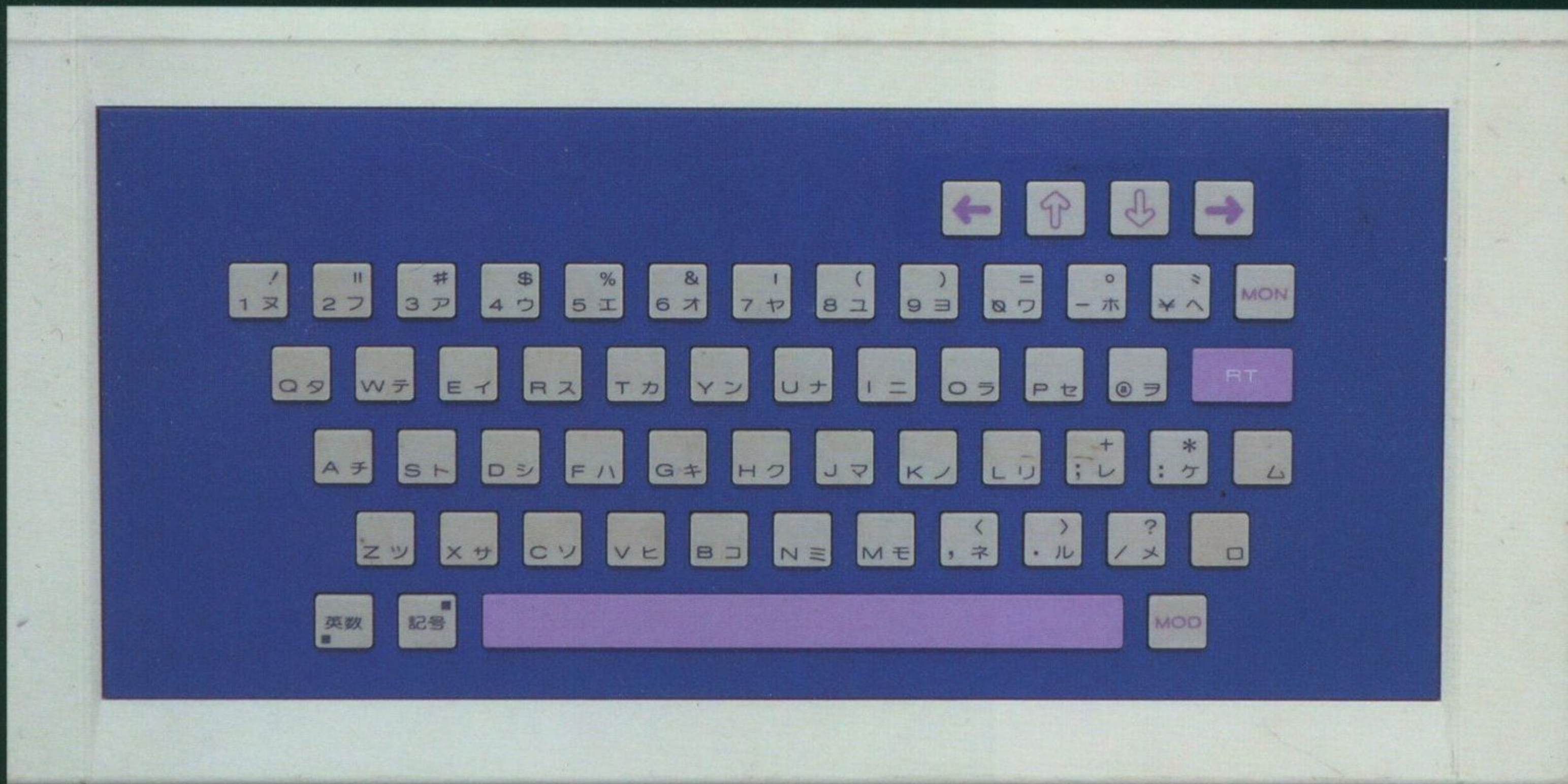
ホビーパソコン カタログ

G-MOOK 200

前田尋之・監修

Supervised by Hiroyuki Maeda

HOBBY
PERSONAL COMPUTER
CATALOGUE



PERSONAL COMPUTER FP-1100 CASIO

監修者プロフィール

前田 尋之 (まえだ ひろゆき)

1972年愛媛県松山市生まれ。1990年徳間書店インターメディアにてパソコンゲーム誌の編集に携わったことがきっかけで多数の出版物の編集・執筆に関わる。その後、1996年にコナミに入社。以後同社退職後も家庭用ゲームソフトをはじめパソコンゲームの開発へと活躍の場を広げている。著書に『家庭用ゲーム機興亡史 ゲーム機シェア争奪30年の歴史』『ホビーパソコン興亡史 国産パソコンシェア争奪30年の歴史』(オークラ出版)、監修に『メガドライブパーフェクトカタログ』(ジーウォーク) など多数。

ツイッターアカウント

@hiropapa00

オフィシャルWebサイト「**電腦世界のひみつ機地**」

新刊情報のほか多数の読み物を逐次掲載!

<https://maedahiroyuki.com>



好評発売中! 前田尋之監修のパーフェクトカタログシリーズ

バンダイゲーム機 パーフェクトカタログ



G-MOOK 224

本体2,400円+税

プレイステーション・ポータブル パーフェクトカタログ



G-MOOK 217

本体2,400円+税

メガドライブパーフェクトカタログ

本体2,315円+税

ゲーム&ウォッチパーフェクトカタログ

本体2,000円+税

ゲームボーイパーフェクトカタログ

本体2,315円+税

アーリーセガパーフェクトカタログ

本体2,315円+税

PCエンジン&PC-FXパーフェクトカタログ

本体2,315円+税

NINTENDO64パーフェクトカタログ

本体2,315円+税

ゲームボーイアドバンスパーフェクトカタログ

本体2,315円+税

スーパーファミコンパーフェクトカタログ

本体2,500円+税

セガサターンパーフェクトカタログ

本体2,381円+税

ファミリーコンピュータパーフェクトカタログ

本体2,500円+税

ゲームキューブパーフェクトカタログ

本体2,315円+税

MSXパーフェクトカタログ

本体2,315円+税

X68000パーフェクトカタログ

本体2,315円+税

プレイステーションパーフェクトカタログ 上巻

本体2,400円+税

プレイステーションパーフェクトカタログ 下巻

本体2,400円+税

1929476016003



9784867170410



C9476 ¥1600E

ISBN978-4-86717-041-0

発行日 / 2021年7月29日
発売元 / (株) ジーエーエフ
雑誌 62913-02
定価 本体 1,600円 + 税

